

2026年度 全学オープン科目 履修ガイド

科目登録の手引き
全学副専攻
実践型教育プログラム
データ科学認定制度

2026年度 全学オープン科目履修ガイド

— 一本ガイドの構成 —

このガイドは、グローバル・エデュケーション・センター、留学センター等が提供する全学オープン科目を履修するうえで、必要不可欠な事項を網羅する履修ガイドです。なお、このガイドは学部生を対象とした内容で構成されています。

はじめに

1. 科目登録の手引き

第1章 全学オープン科目登録概要・注意事項

- I. 全学オープン科目とは
- II. 全学オープン等科目登録概要
- III. 2026年度授業カレンダー
- IV. 全学オープン科目春学期登録スケジュール
- V. 全学オープン科目秋学期登録スケジュール
- VI. 科目登録における注意事項
- VII. 聴講料・実験実習料納入について
- VIII. 他大学提供科目の科目登録・注意事項

第2章 各センター科目概要

- I. グローバル・エデュケーション・センター科目概要・注意事項
- II. 留学センター科目概要・注意事項
- III. The Center for International Education Courses/Precautions

2. 授業について

- I. 各センター授業について

3. 全学オープン科目一覧

- I. グローバル・エデュケーション・センター提供科目
- II. 留学センター提供科目
- III. 学部提供全学オープン科目
- IV. 他大学提供科目

4. 全学副専攻・実践型教育プログラム・データ科学認定制度

第1章 全学副専攻を知る

第2章 全学副専攻 各副専攻 紹介

第3章 実践型教育プログラムを知る

第4章 実践型教育プログラム 各コース 紹介

第5章 データ科学認定制度

※本ガイドの情報は2026年2月時点の情報です。

最新のお知らせや変更点などは、**当ガイドおよび各学部・センターのWebページ**等に掲載しますので、必ず以下のページから確認してください。

- ◆グローバル・エデュケーション・センターWebページ (<https://www.waseda.jp/inst/gec/>)
- ◆留学センターWebページ (<https://www.waseda.jp/inst/cie/>)
- ◆各学部Webページ
- ◆データ科学センターWebページ (<https://www.waseda.jp/inst/cds/>)

もくじ

1. 科目登録の手引き

第1章 全学オープン科目登録概要・注意事項

I. 全学オープン科目とは	2
II. 全学オープン等科目登録概要	3
III. 2026年度授業カレンダー	4
IV. 全学オープン科目春学期登録スケジュール	5
V. 全学オープン科目秋学期登録スケジュール	6
VI. 科目登録における注意事項	7
1. 科目登録における注意事項について ～正確に登録を行うために～	7
2. 科目登録における登録エラー ～登録の際に気を付けるポイントは？～	9
3. 科目登録に関する質問・相談について ～わからないことを相談したい～	10
4. 留学する学生を対象とした制度（履修保留／継続履修、帰国後登録）	11
VII. 聴講料・実験実習料納入について	14
1. 聴講料・実験実習料の納入が必要な科目について	14
2. 納入期間について	14
3. 納入方法について	14
4. 納入についての注意	15
5. 納入のイメージ（参考）	15
VIII. 他大学提供科目の科目登録・注意事項	16
1. 他大学提供科目の科目登録について	16
2. 他大学提供科目の履修について	17

第2章 各センター科目概要

I. グローバル・エデュケーション・センター科目概要・注意事項	20
1. アカデミック・ライティング科目	20
2. 数学科目	21
3. データ科学科目	22
4. 情報科目	25
5. 英語科目	28
6. 言語科目	38
7. 保健体育科目	45
8. 自然科学科目	49
9. 人文・社会科学科目	51
10. 日本語教育科目	51
11. 人間的力量科目	51
II. 留学センター科目概要・注意事項	53
1. グローバル科目	53
2. 海外研修科目	53
III. The Center for International Education Courses/Precautions	54
1. Global Courses	54
2. Short Study Abroad Courses	54

2. 授業について

I. 各センター授業について	59
1. 教室	59
2. 休講	59
3. 補講	59
4. 授業に関する連絡事項	59
5. 授業の出欠について	59
6. 教員への問い合わせについて	60
7. 授業時の負傷事故等について（保健体育科目）	60
8. 科目の開講が取りやめとなった場合について	60
9. レポート課題について	60
10. 試験	60
11. 成績	60
12. 不正行為等の取扱いについて（GEC 提供科目）	61
13. Waseda Moodle について	62

3. 全学オープン科目一覧

I. グローバル・エデュケーション・センター提供科目一覧	65
II. 留学センター提供科目一覧	65
III. 学部提供全学オープン科目一覧	65
IV. 他大学提供科目一覧	65

4. 全学副専攻・実践型教育プログラム・データ科学認定制度

第1章 全学副専攻を知る	71
第2章 全学副専攻 各副専攻 紹介	75
第3章 実践型教育プログラムを知る	142
第4章 実践型教育プログラム 各コース 紹介	143
第5章 データ科学認定制度	147

本ガイドの見方



←注意事項や重要な連絡事項



←参照すべき項目やページ、ガイド、Web ページなど



←全学オープン科目をより一層活用するための情報

1. 科目登録の手引き

第1章

全学オープン科目登録概要・注意事項

I. 全学オープン科目とは

原則、全学部生が履修できる科目を総称して「全学オープン科目」といいます。グローバル・エデュケーション・センターから提供する科目のほかに、各学部や留学センター、他大学から多彩な科目が提供されています。

(1) グローバル・エデュケーション・センター提供科目

グローバル・エデュケーション・センター（GEC）では、全学部の学生が、専門分野に限らず全く異なる分野も学習できる多種多様な科目を展開しています。

すべての学問の基礎となる大学生の必須スキルとして、アカデミック・ライティング科目（「学術的文章の作成」）、数学科目（「数学基礎プラス α （金利編）」ほか）、データ科学科目（「統計リテラシー α 」「データ科学入門 α 」ほか）、情報科目（「情報科学の基礎」「プログラミング入門」ほか）、英語科目（「Tutorial English」「Academic Writing and Discussion in English」ほか）、日本語教育科目（「日本語教育学入門」ほか）を提供します。また、早稲田大学以外では学ぶ機会の少ない言語科目や、多数の特色あるスポーツ実習科目（「ラグビー」「弓道」ほか）等も設置しています。

人間的力量科目と呼ばれる科目群には、学外実習やワークショップといった体験型・問題解決型の実践的な学びを多く取り入れています。

科目の提供に加えて、GECでは「全学副専攻制度」を設けています。所属している学部で重点的に学ぶ「主専攻」のほかに、その他の学問分野を「副専攻」として体系的に学び、主専攻の補強、第二の強みの獲得、主専攻の応用領域の獲得などを目指します。全学副専攻修了者には証明書が発行されるため、対外的・社会的にも自分の取り組みを証明することができます。

(2) 留学センター提供科目

国際教育プログラムの実施拠点として海外からの留学生の受入や早大生の海外留学を実施するとともに、学部生を対象に国内、海外での授業を実施しています。

(3) 学部提供全学オープン科目

各学部が他学部生に向けて提供している科目です。科目の種類や科目数は学部によって異なりますが、現在全学部が「全学オープン科目」として他学部生に科目を提供しています。対象科目は科目一覧（65ページ）で確認できます。



全学オープン科目の単位の取扱いは所属学部で配布されている学部要項等を参照してください。単位の取扱いに関するルール、科目登録日程等は学部によって異なりますので、必ず確認のうえ登録してください。



人間的力量を育むキャリア教育指針

以下は本学の掲げる「人間的力量を育むキャリア教育指針」です。本指針は、学びを通して、生涯にわたる生き方や社会との関わり方を主体的に考える視点を示しています。全学オープン科目や所属学部での履修においても、大学における学修を見渡す1つの視点として、自身の関心や将来像と照らし合わせながら、科目選択や履修計画を立ててください。

「キャリア教育」とは、学生一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基礎となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促すもの、と定義され[※]、職業教育や就職活動支援のみならずライフキャリア（社会人としての生き方）全体を捉えた考え方となっている。また、「キャリア教育」においてとりわけ重視すべき育成対象の能力は、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」からなる「基礎的・汎用的能力」であり、特に、これらの能力の育成を大学教育全体で取り組むべきものであることも重要な視点である。一方、人間的力量は早稲田大学における研究・教育・貢献に通底する能力であり、これは早稲田大学におけるディプロマ・ポリシーで掲げられている内容とも連動する。したがって、本学ならではのキャリア教育を「人間的力量を育むキャリア教育」ととらえ、ここに人間的力量の育成を目標とすることを特徴とする「人間的力量を育むキャリア教育指針」を示す。具体的には下記のような項目で構成する。

- 1) 人間的力量を基盤として、意思の自律に則り、社会規範や倫理を尊重しながら社会に貢献しつつ、幸福な社会の実現を目指し、生涯にわたって自身にとってふさわしいキャリアをデザインできる能力を涵養する。
- 2) キャリアデザインを「自身の生涯にわたる人生設計を考えること」と捉えそのための能力を涵養する。
- 3) ライフキャリアにおける「働く」ことの本質的意味を「貢献（誰かのために）を通しての自己成長」と捉え、キャリアデザインとの関係性を意識できるように導く。
- 4) 「働く」ことのバリエーションとそれぞれの意義を理解し、それらを実現するためには多様なアプローチ（教育体系）があることを意識させ、主体的に自身にとってのカリキュラムをデザインできるよう導く。

※2011年1月中教審「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方」（答申）による。

「早稲田大学における人間的力量の定義」

地球上のどの地域に行っても、人々の幸福の実現を目指す強い意志を持ち、そこに溶け込みサバイブし、その地域社会の多様な価値観を学び、その結果、自分の行った先の地域社会や国、そして故郷を愛し、世界人類に貢献し他の為に尽くそうとする精神と行動力

II. 全学オープン等科目登録概要

- ・春学期科目登録の対象となるのは、以下の期間に開講する科目です。
「通年」「春学期」「春クォーター」「夏クォーター」「夏季集中」「集中講義（春学期）」「集中講義（春・秋学期）」「夏秋期」「夏シーズン」「春夏期」
- ・秋学期科目登録の対象となるのは、以下の期間に開講する科目です。
「秋学期」「秋クォーター」「冬クォーター」「冬季集中」「春季集中」「集中講義（秋学期）」「冬シーズン」

分類	科目	参照先要項・手引き等	科目登録時期						取消可否 (※2)
			春学期登録			秋学期登録			
			1次	2次	3次	1次	2次	3次	
全学オープン科目 Web科目登録	グローバル・エデュケーション・センター提供科目		○	○	○	○	○	○	○ (※3)
	アカデミック・ライティング科目	・全学オープン科目履修ガイド ・GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/)	「春クォーター」「秋クォーター」科目のうち 週2コマ（週に2時限実施する）科目は、 3次登録の開放は行いません。 2次登録までに科目登録をするようにしてください。 <例：週2コマ科目> 火2時限・金2時限（週2回授業がある科目） 水4～5時限（2時限連続の科目） 水2時限+オンデマンド（ハイブリッド科目） 2次・3次登録で登録可能な科目については、 GEC Web ページに掲載する「余裕定員表」を参照 してください。						
	数学科目								
	データ科学科目								
	情報科目								
	英語科目（※1）								
	言語科目								
	保健体育科目								
	自然科学科目								
	人文・社会科学科目								
日本語教育科目									
人間の力量科目									
他大学提供科目	・他大学マニュアル ・GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/) →学部学生の方へ →→他大学提供科目	各大学の登録スケジュールや申請方法については、左記 Web ページを参照してください。						×	
留学センター提供科目	・全学オープン科目履修ガイド ・留学センター Web ページ	○	○	○	○	○	○	○	
学部提供全学オープン科目	・全学オープン科目履修ガイド ・各学部 Web ページ	○	—	—	○	—	—	○ (※4)	
他学部提供科目	各学部 Web ページ	—	—	○	—	—	○	—	
教職等資格関連科目	『教職課程履修の手引き』（教職支援センター発行）	○	○	○	○	○	○	○ (※5)	

- ※1 グローバル・エデュケーション・センター提供の以下の英語科目は、グループ編成の都合上、登録機会が以下の通りとなります。
・Tutorial English（春クォーター、秋クォーター開講）：1次登録のみ
- ※2 1～2次登録期間に Web 科目登録で申請し、履修決定となった科目を3次登録期間中に取消可能か示しています。
一部授業運営に支障が出るため、取消不可の科目があります。※3～※5も確認してください。
- ※3 グローバル・エデュケーション・センター提供の科目のうち、1～2次登録で決定した以下の科目は取り消しできません。
・聴講料・実験実習料支払対象科目
・「学術的文章の作成」
- ※4 若干数の科目は取消不可となっています。取消不可の科目は全学オープン科目履修ガイド 科目一覧の備考欄に記載されています。
- ※5 教職等資格関連科目のうち「教育実習演習」「教職実践演習」「介護体験実習講義」は取消不可

「学部提供全学オープン科目」と「他学部提供科目」の違い



「学部提供全学オープン科目」は他学部生であっても、1次登録で申請ができるよう開放される科目です。一方「他学部提供科目」は2次登録終了時点で、**定員に余裕のある場合のみ、3次登録で他学部生に開放される科目**です。そのため「他学部提供科目」は科目登録の状況次第で登録対象科目が変わります。「他学部提供科目」の登録日程および対象科目の確認方法等は科目を提供している学部の Web ページ等で確認してください。

Ⅲ. 2026年度 授業カレンダー

2026年

4月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
			入学式	入学式		
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

※Q月間	3	3	3	3	2	3
※Q合計	6	6	6	6	7	7

【4/2昭和の日（授業実施）】

7月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

※Q月間	3	3	4	3	3	3
※Q合計	7	7	7	7	7	7

【7/20海の日（授業実施）】

10月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

※Q月間	4	4	4	5	5	5
※Q合計	4	4	4	5	5	5

【10/12スポーツの日（授業実施）、10/21創立記念日（授業実施）】

2027年

1月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

※Q月間	2	3	3	3	3	3
※Q合計	7	7	7	7	7	7

【1/1元旦、1/11成人の日】

※休日の授業実施日と臨時の休業日の対応
4月29日⇔8月6日
7月20日⇔8月7日
10月12日⇔11月5日
10月21日⇔11月6日
11月3日⇔12月25日
11月23日⇔12月28日

5月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

※Q月間	3	3	3	4	5	4
※Q合計	6	6	6	7	7	7

【5/3憲法記念日、5/4みどりの日、5/5こどもの日、5/6振替休日】

8月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

※Q月間	0	0	0	0	0	0
※Q合計	7	7	7	7	7	7

【8/11山の日】

11月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

※Q月間	3	3	3	2	2	2
※Q合計	7	7	7	7	7	7

【11/3文化の日（授業実施）、11/23勤労感謝の日（授業実施）】

6月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

※Q月間	1	1	1	0	0	0
※Q合計	7	7	7	7	7	7

【6/3憲法記念日、6/4みどりの日、6/5こどもの日、6/6振替休日】

9月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

※Q月間	0	0	0	0	0	0
※Q合計	7	7	7	7	7	7

【9/11敬老の日、9/22国民の休日、9/23秋分の日】

12月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30	31		

※Q月間	3	3	3	3	3	3
※Q合計	5	4	4	4	4	4

【3/21春分の日、3/22振替休日】

授業期間		
春学期	春クォーター	4月11日～6月3日
	夏クォーター	6月4日～7月22日
	春学期 授業予備期間	7月23日～7月29日
秋学期	秋クォーター	10月1日～11月21日
	冬クォーター	11月23日～1月26日
	秋学期 授業予備期間	1月27日～2月2日

夏季休業期間	7月30日～9月20日
冬季休業期間	12月22日～1月5日
春季休業期間	2月3日～3月31日

	春Q	夏Q	秋Q	冬Q	計
月	7	7	7	7	28
火	7	7	7	7	28
水	7	7	7	7	28
木	7	7	7	7	28
金	7	7	7	7	28
土	7	7	7	7	28
計	42	42	42	42	168

「授業予備期間」は、定期試験や補講など各箇所の実態に合わせて柔軟に活用できるものとする。

- 凡例
- ：春クォーター授業実施日
 - ：夏クォーター授業実施日
 - ：秋クォーター授業実施日
 - ：冬クォーター授業実施日
 - ：休日における授業実施日
 - ：臨時の休業日
 - ：夏季・冬季・春季休業
 - OC：オープンキャンパス(予定)

※科目によっては、設置学部が別に指定する休講日に従い、休講となる場合があります。
 ※所属学部・研究科によって授業日程・補講期間・試験期間が異なる場合があります。GEC 提供科目に関しては上記カレンダーにて授業日を確認してください。ただし、科目によっては別途日程を定めているものがありますので、必ず Web シラバス等で確認してください。

Tutorial English 授業カレンダー：36 ページ

※ガイダンスはすべて初回授業で実施します。ただし、別途ガイダンスを設けている科目もありますので、必ず Web シラバス等を確認してください。

V. 全学オープン科目秋学期登録スケジュール

		10月																																					
		14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
		月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水
秋学期	科目登録期間	9:00~ 1次登録 ~16:00	9:00~ 2次登録 ~16:00	9:00~ 3次登録 ~16:00	★授業開始																																		
	科目登録結果発表日		●1次結果発表	●2次結果発表	●3次結果発表																																		
Waseda Moodle での表示	申請中科目の Waseda Moodle 連携期間	3次 申請科目 連携期間																																					
	1次登録申請科目	決定 ・選外 ・不可	「履修者」 連携されません																																				
	2次登録申請科目	決定 ・選外 ・不可	「履修者」 連携されません																																				
聴講料納入期間	3次登録申請科目	決定 ・選外 ・不可	「履修者」 「エクスターナル ユーザー」 順次削除されます																																				
	聴講料納入期間	聴講料納入期間① 対象：1次登録で決定となった Tutorial English (秋・冬クォーター開講)																																					
		聴講料納入期間② 対象：①以外の0次~3次登録 決定科目																																					

※自動登録結果発表日や追加の科目登録期間など、学部ごとのスケジュールについては、所属学部の発行する「科目登録の手引き」で確認してください。

※人間科学部（通信）は、上記の登録期間とは異なりますので、所属学部の案内を確認してください。

※2026年度から科目登録期間最終日の終了時刻が16時に変更になります。

VI. 科目登録における注意事項

1. 科目登録における注意事項について ～正確に登録を行うために～

【基本注意事項】（要確認）

（1）科目取消に関して(2024年度からルールが変更になりました)

1～2次登録期間に Web 科目登録で申請し、履修決定となった全学オープン科目等の他箇所提供科目を3次登録期間中に取り消すことができます。ただし、授業運営に支障が出るため、一部取消不可の科目があります。詳細は以下をご確認ください。

【取消不可科目】

- ① グローバル・エデュケーション・センター提供科目のうち、「学術的文章の作成」、および、保健体育実技科目などの聴講料・実験実習料の納入が必要な科目
- ② 教職等資格関連科目のうち、「教育実習演習」「教職実践演習」「介護体験実習講義」
- ③ 他大学提供科目
- ④ ①～③に記載の科目以外にも、若干数の科目は取消不可となっています。取消不可の科目は全学オープン科目履修ガイド科目一覧の備考欄や科目設置箇所の Web ページ等に記載されています。

（2）登録期間外の申請不可

所定の期間以外での登録・取消申請は一切受け付けません。日程をよく確認し、余裕を持って申請してください。

（3）選考方法

履修希望者が定員を超えた場合は、抽選（一部科目は志望理由書）によって履修者を決定します。選考方法は科目一覧（65 ページ）で確認してください。登録が決定とならなかった場合は、登録結果通知に「不可」、「選外」または「不合格」として表示されます。なお、登録が決定となっていない科目の聴講は原則として認められておりません。

（4）1次登録での登録に関して

以下の科目は、1次登録期間のみ開放されますので、登録を希望する際は十分注意してください。

- ・ Tutorial English（春クォーター、秋クォーター開講）
- ・ 学部提供全学オープン科目（学部生のみ）

（5）2次登録、3次登録での登録に関して

- ・ 2次登録、3次登録に開放される科目は、科目を提供している学部・センターの Web ページに掲載される「余裕定員表」で確認してください。
- ・ 3次登録では授業開始後に登録結果が発表されます。登録申請中の授業には、登録決定前から出席するようにしてください。なお、Waseda Moodle 等を通してオンラインで実施される授業は、Waseda Moodle への連携（※）以降に受講が可能となりますので、初回授業に出席できない場合があることに十分留意した上で、科目登録を行ってください。

※Waseda Moodle への連携に関して

3次登録で申請した科目は、登録結果発表を待たずに Waseda Moodle に連携されます。連携スケジュールについては、5 ページ・6 ページで確認してください。なお、登録決定となった科目以外の科目は、所定の日時を過ぎると連携が削除され、ページを参照することができなくなります。



「春クォーター」「秋クォーター」科目のうち週2時限実施する科目については、3次登録での開放は行いません。2次登録までに科目登録を行うようにしてください。

〈例〉週2回 火2時限・金2時限 実施
週1回 水4～5時限 実施
週1回 水2時限・オンデマンド 実施（ハイブリッド科目）

3次登録での登録不可



単位の算入・非算入の取り扱いや科目登録の基本的なルールは、所属学部の「学部要項」や「科目登録の手引き」で確認し、不明な点は所属学部事務所で相談してください。

【科目ごとに発生する注意事項】

(1) 科目名末尾の数字やアルファベットの表記のちがい

① 「(科目名称) 1」、「(科目名称) 2」: 登録条件アリ

内容が連動している科目のため、「(科目名称) 2」を登録するには以下の条件があります。

<条件>

・「1」、「2」を同時に登録する

あるいは

・「1」の単位を修得済みである

※科目名に「(科目名称) 1」「(科目名称) 2」となくても、指定された科目の単位を修得していることが条件となっている科目があります。科目登録の前に Web シラバスで必ず確認してください。

② 「(科目名称) α」、「(科目名称) β」: 登録条件ナシ

内容が関連する科目ですが、登録上の条件はありません。

③ 「(科目名称) 01」、「(科目名称) 02」: 授業内容が同一

授業内容が同じ科目が、複数あることを示しています。登録可能なクラスは1つのみです。いずれかのクラスの単位を修得すると、別のクラスを登録することはできません（既得エラーとなります）。

(2) 情報科目「プログラミング入門」「Introduction to Programming」について

GEC が提供する情報科目のうち、これまでプログラミングを学習したことのない学生を対象としている「プログラミング入門」およびその英語版科目「Introduction to Programming」は、その科目の難易度に鑑みて、GEC が提供するプログラミング科目のうち、初級・中級レベルの科目の単位をすでに修得している学生は履修申請することができません。

具体的には、以下の科目の単位を修得済みの学生は、「プログラミング入門」および「Introduction to Programming」を過去に受講したことがない場合でも、それらの科目を履修申請し、受講することはできません。

- ・プログラミング初級 ※言語を問わず対象
- ・プログラミング中級 ※言語を問わず対象
- ・サーバサイド Web プログラミング初級
- ・サーバサイド Web プログラミング中級
- ・クライアントサイド Web プログラミング初級
- ・クライアントサイド Web プログラミング中級
- ・ミュージック・プログラミング
- ・AI プログラミング基礎

なお、「プログラミング入門」または「Introduction to Programming」の単位を修得したのちに、これらの初級・中級レベルの科目を履修申請し、受講することは可能です。

(3) 学外実習科目

学外で実習を行う科目があります。科目ごとに費用や参加条件が指定されているので、必ず科目登録の前に Web シラバスで確認してください。また、多くの科目が事前にオリエンテーションを実施します。**欠席すると実習等への参加が認められない場合があります**ので必ず出席してください。



社会情勢の変動等により、授業実施が危険と判断される場合は授業やプログラムを中止することがあります。また、学習活動における危険を回避するために担当教員やセンターから履修者に情報を求めたり、学習中の行動を指示することがあります。そのため、担当教員等の指示にしたがうことが履修条件となります。

2. 科目登録における登録エラー ～登録の際に気を付けるポイントは？～

科目登録で以下のような登録をした場合、その科目はエラーとなり登録が認められません。登録エラーの種類と内容は次のとおりです。エラーとならないように十分注意して科目登録を行ってください。

エラー名称	エラー内容	結果
曜日時限重複エラー	同一の曜日時限に複数の科目を登録した。	Web 科目登録時にエラーとして表示されます。重複している科目のいずれかを取消してください。
既得・既登録エラー	既に単位を修得済みの科目（既得科目）あるいは、既に登録が決定した科目（既登録科目）を再度登録した。	Web 科目登録時にエラーとして表示されます。登録できません。
並行履修エラー	同一科目の複数のクラスを登録した。	1 クラスのみ無作為に登録されます。
前提条件エラー	指定された前提科目の単位を修得していない。あるいは登録していない。	Web 科目登録時にエラーとして表示されます。登録できません。
配当年次エラー	自身の学年では履修できない科目を登録した。	登録できません。
遠距離エラー※	休み時間内で移動できない遠隔地キャンパスの科目を登録した。	Web 科目登録時にエラーとして表示されます。登録できません。
登録制限単位数オーバーエラー	制限単位数を超えて登録した。	超過単位数が無作為に登録不可となります。

※遠距離エラーについて

- 下表のキャンパス間で授業を登録する場合、一定の移動時間を確保していないと「遠距離エラー」となります。キャンパス間の移動時間を事前によく確認してください。なお、**早稲田・戸山・西早稲田・喜久井町各キャンパス間の移動は、遠距離エラーのチェック対象とはなりません。**移動可否についてはご自身でよくご確認ください。

キャンパス移動パターン		エラーチェック設定時間
早稲田・戸山・西早稲田・喜久井町 キャンパス	⇔ 所沢キャンパス	90 分
早稲田・戸山・西早稲田・喜久井町 キャンパス	⇔ 上石神井・東伏見・上井草 キャンパス	50 分
所沢キャンパス	⇔ 上石神井・東伏見・上井草 キャンパス	90 分

- 授業方法区分が「リアルタイム配信」の授業は、キャンパス移動のチェック対象となりません。このため、前後の科目が異なるキャンパスで対面で開催される場合であっても科目登録上エラーとして検出されず、「リアルタイム配信」の科目を受講できない場合が生じます。十分に注意して登録してください。なお、各授業方法区分によるチェック対象項目については、シラバス検索 Web ページ「授業方法区分について」を確認してください。

(例)	授業方法	キャンパス
3 限	「対面」	早稲田キャンパス
4 限	「リアルタイム配信」	-
5 限	「ハイブリッド」	所沢キャンパス

←科目登録時にエラーにはなりませんが、早稲田キャンパスから所沢キャンパスへの移動中に実施される4限の授業を受講できないこととなります。

- 他大学提供科目は、大学交流システムでの登録申請時にはエラーとならず、のちにエラーとなるケースがあります。その場合には、早稲田大学の科目が取り消されますので、各自で移動時間を十分に注意の上、登録を行ってください。

3. 科目登録に関する質問・相談について ~わからないことを相談したい~

(1) Support Anywhere で調べる場合

科目登録の手順やよくある質問等、学生生活におけるお役立ち情報をまとめています。わからないことや知りたいことがあれば、Support Anywhere をご利用ください。チャットボットも用意しています。

Web ページ : <https://www.wnpspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>



なお、GEC の以下のページによくある質問等をまとめています。こちらも確認してください。

Web ページ : <https://www.waseda.jp/inst/gec/undergraduate/faq/>

(2) MyWaseda から質問・相談する場合

成績照会・科目登録専用メニュー「問い合わせフォーム」からお問い合わせください。

成績照会・科目登録専用メニュー

《成績照会・科目登録専用メニュー》

- ▶ 科目登録
- ▶ 成績照会
- ▶ アドレス取得/ID継続

※学部等によって締め切り日時が異なります。科目登録関連情報にてご確認ください。

※Webシラバスから講義動画を参照することが可能です。
講義動画とは、授業の概要を紹介した動画、または1回分の授業をそのまま動画として収録したものです。
ただし、全ての授業で公開されているわけではありません。
下の「講義動画掲載科目一覧」から、講義動画を公開している授業の一覧を参照できます。

■ ガイド	科目登録日程(締め切り日時)や利用方法を確認したい	科目登録関連情報
	よくある質問を確認したい	FAQ
	その他、Web科目登録について質問したい	お問い合わせフォーム
	講義動画	講義動画 掲載科目一覧
■ 利用時間		
	・成績照会: 7:00AM~翌5:00AM	
	・科目登録: 8:00AM~翌2:00AM	
	・Wasedaメール: 24時間利用可能	



回答は Waseda メールアドレスに返信しますので、回答が届くまでの間は定期的にメールを確認してください。

(3) 窓口で質問・相談する場合

GEC 設置科目に関する履修相談は、早稲田ポータルオフィス（7号館1階）で受け付けています。

※以下 Web ページでの来訪予約が必要です。

早稲田ポータルオフィス HP> 在学生の方へ> 履修相談・科目登録支援

Web ページ : <https://www.waseda.jp/inst/wpo/students/consultation>

4. 留学する学生を対象とした制度（履修保留／継続履修、帰国後登録）

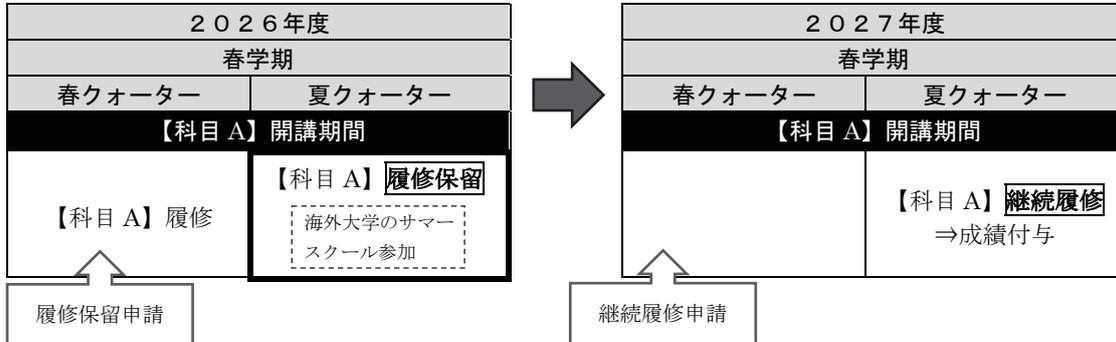
■ 履修保留／継続履修

(1) 履修保留／継続履修とは

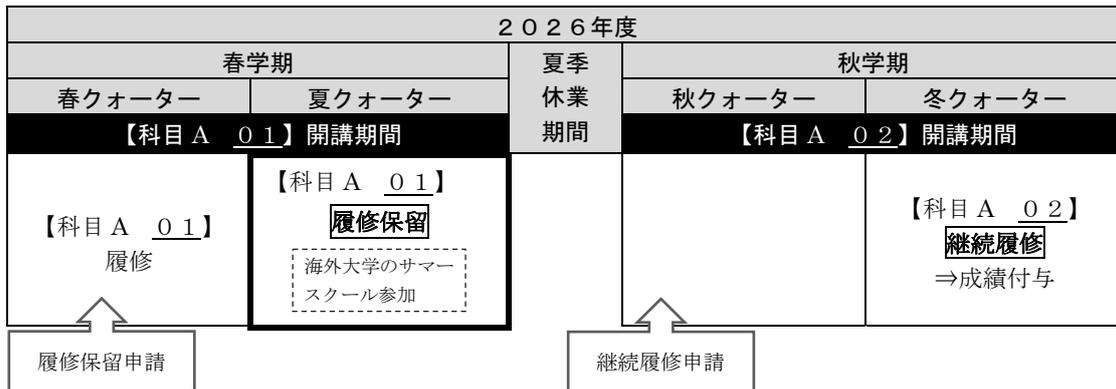
「履修保留／継続履修」とは、登録決定となった春学期・秋学期科目および通年科目について、海外大学のサマースクールへの参加や留学のために授業期間の途中で履修を保留し、翌学期または翌年度に開講される同一科目を継続して履修することができる制度です。

履修保留／継続履修を希望する場合は、それぞれ所定の期間に手続きを行う必要があります。

【例1】 2026年度春学期開講の【科目A】を履修保留し、2027年度春学期に【科目A】を継続履修する場合



【例2】 2026年度春学期開講の【科目A (01クラス)】を履修保留し、2026年度秋学期開講の【科目A (02クラス)】を継続履修する場合



(2) 必要な手続き

1. 履修保留

	手続き	説明	手続き期間	
			春学期科目	秋学期／通年科目
1	履修保留／継続履修 <対象外> 科目の確認	科目登録前に、本制度の対象外となる科目を確認します。	3/5 (木) ～3/13 (金)	9/3 (木) ～9/16 (水)
2	履修保留申請	所属学部事務所に申請します。詳細は、所属学部事務所にご確認ください。	4/13 (月) ～4/30 (木)	10/2 (金) ～10/30 (金)
3	履修保留「不可」 科目の確認	科目の事情により履修保留が認められない場合のみ、所属学部事務所から通知があります。	7/31 (金) まで	2027年 1/29 (金) まで

2. 継続履修

	手続き	説明	手続き期間	
			春学期科目	秋学期／通年科目
1	継続履修申請	MyWasedaの申請フォームから必要事項を入力し、申請します。詳細は、所属学部事務所から通知があります。	2027年 2/25 (木) ～3/1 (月)	2026年 8/27 (木) ～8/31 (月)
2	登録結果確認	登録結果通知メールもしくはWeb科目登録画面で、登録結果を確認します。 ※科目によっては、登録結果発表後に取消となる可能性があります。	所属学部事務所に確認してください。	所属学部事務所に確認してください。

(3) 注意事項（手続き前に必ず確認してください）

- ・本制度は、海外大学のサマースクールへの参加など、「留学」を事由とする場合のみを対象とします。ただし、通年科目の履修者については、「休学」を事由とする場合も対象となります。
- ・クォーター科目（春／夏／秋／冬クォーター）および夏季／春季集中科目は本制度の適用対象外です。
- ・科目によっては、本制度の適用対象外となる場合があります。履修保留申請を行う前に、所属学部にて対象外の科目を必ず確認してください。
- ・履修保留申請が所属学部事務所で受理された後であっても、担当教員の判断により、履修保留が認められなくなることがあります（その場合は、所属学部事務所から通知します）。
- ・履修保留が認められた場合でも、以下の理由などにより、継続履修が認められないケースがあります。
 - ①継続履修申請の入力内容に誤りがあった場合
 - ②継続履修を行う学期・年度に、当該科目が「休講」、「廃止」、「開講学期変更」となった場合
 - ③担当教員・授業計画の変更などにより年度間の相違が大きく、継続履修をしても単位修得要件を満たさないと判断される場合
- ・継続履修を行った年度・学期に成績付与、単位修得となります（2026年度に履修保留、2027年度に継続履修を行い、「合格」となった場合、2027年度に修得した単位として取り扱われます）。

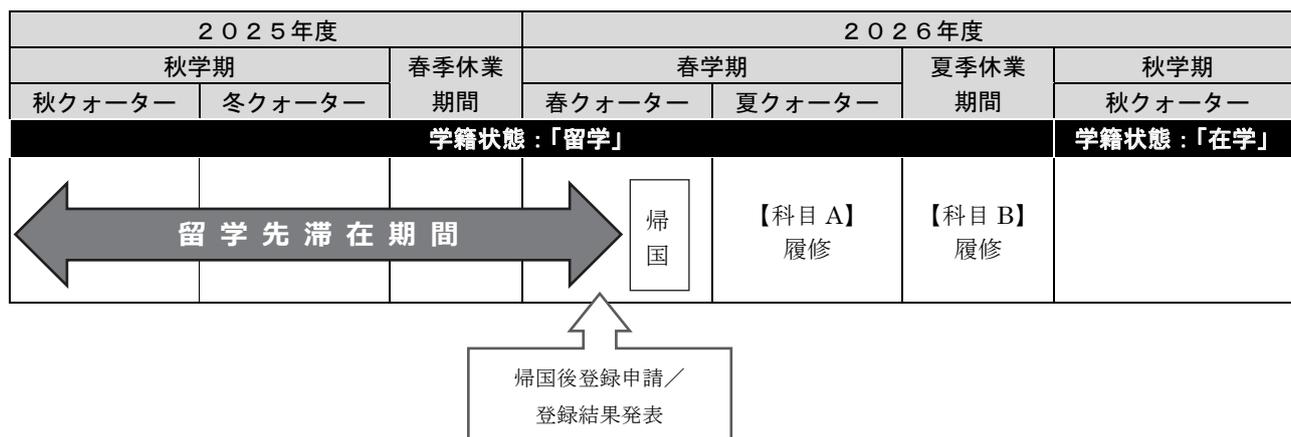
■ 帰国後登録

(1) 帰国後登録とは

「帰国後登録」とは、留学（主として長期留学）から帰国した学期に、夏クォーター／冬クォーターに開講する科目や夏季／春季休業期間中の集中科目を新たに履修することができる制度です。

帰国後登録を希望する場合は、それぞれ所定の期間に手続きを行う必要があります。

【例】 2025年度秋学期～2026年度春学期に留学し、帰国後登録により2026年度夏クォーター科目（【科目 A】）および夏季集中科目（【科目 B】）を履修する場合



(2) 必要な手続き

	手続き	説明	手続き期間	
			夏クォーター/夏季集中/夏シーズン科目	冬クォーター/春季集中/冬シーズン科目
1	帰国後登録開放科目の確認	「帰国後登録開放科目一覧」（所属学部のWebページなどに掲載）から、登録を受け付ける科目を確認します。	4/30（木）までに公開	10/21（水）までに公開
2	帰国後登録申請	所属学部の指定する方法で、帰国後登録を希望する科目を申請します。	所属学部事務所に確認してください	
3	登録結果確認	登録結果通知メールもしくはWeb科目登録画面で、登録結果を確認します。	5/21（木）～	11/12（木）～
4	聴講料・実験実習料納入 ※対象者： 対象科目決定者および私費留学生	登録決定となった科目の聴講料・実験実習料を所定の期間中に納入します。 納入期間初日にWasedaメールアドレス宛に送信される納入案内メールにしたがって、納入を完了させてください。	5/22（金）～5/29（金）	11/13（金）～11/20（金）

Ⅶ. 聴講料・実験実習料納入について

1. 聴講料・実験実習料の納入が必要な科目について

履修にあたり、聴講料・実験実習料が必要な科目については、所定の期間内に納入をする必要があります。聴講料・実験実習料の有無および金額については、科目一覧（65 ページ）を参照してください。

2. 納入期間について

登録学期	納入対象科目	納入期間
春学期	1次登録で決定したTutorial English (春クォーター・夏クォーター)	4月8日(水)～4月14日(火) 23:59
	・上記以外の登録決定科目(保健体育科目など) ・法学部の外国語B 英語選択者(1年生自動登録)	4月23日(木)～4月27日(月) 23:59
秋学期	1次登録で決定したTutorial English (秋クォーター・冬クォーター)	9月25日(金)～10月1日(木) 23:59
	上記以外の登録決定科目(保健体育科目など)	10月14日(水)～10月19日(月) 23:59

※上記期間外の納入は一切受け付けられません。納入期限に関わらず、早めに納入手続を行ってください。

※1次登録で決定となった「Tutorial English」については、グループ編成の都合上、その他の登録決定科目とは異なる期間に実験実習料を納入します。

※必修登録者(1年生自動登録のみ)は、上記の期間に納入する必要はありません。(法学部の外国語B 英語選択者を除く。)

※法学部の外国語B 英語選択者(1年生自動登録科目のみ)は、法学部発行の履修ガイドにて Tutorial English の実験実習料の納入期間を確認してください。

※国際教養学部生のうち、英語I・IIが免除となった学生が英語I・IIの履修を希望する場合は、入学後最初の2学期間に限り、以下の科目を自身で申請する場合は、聴講料・実験実習料の支払いが免除となります。

- ・英語I Listening and Reading 科目(Intermediate レベルまたは Advanced レベル)
- ・英語II Tutorial English 科目(Upper Intermediate または Advanced レベル)

3. 納入方法について

科目の登録が決定したら、以下①～③の方法で納入を完了させてください。

① 納入案内メールの確認

納入期間の初日に、Waseda メールアドレス宛に**納入案内メール**が届きます。

メールには、納入にあたり必要な情報が記載されていますので、必ず確認をしてください。

《納入案内メール》

差出人：fee-payment@list.waseda.jp
件名：【重要】2026年度●学期登録 聴講料・実験実習料の納入について
本文：【納入金額・納入期限・納入方法選択画面のURL・注意事項】などが記載

納入案内メールや納入手順案内メール(納入方法選択後に送信)が、[迷惑メール]フォルダに入ってしまうことがあるため、メールが見つからない場合は、検索ボックスに【検索キーワード：[fee-payment]】を入力し、[迷惑メール]や[ゴミ箱]も含めて検索してみてください。
上記の方法でもメールが見つからない場合は、以下の窓口にお問い合わせください。



【納入方法に関するお問い合わせ】

fee-payment@list.waseda.jp (早稲田大学教務部教育企画課)

※お問い合わせの際は、必ず Waseda メールアドレスを使用し、学籍番号・氏名・所属学部・携帯電話番号を明記してください。

※お問い合わせ対応時間：月曜～金曜 9:00～17:00 (土日除く)

※科目登録・授業の履修等に関する内容については、所属学部事務所、または科目設置箇所までお問い合わせください。

② 納入方法の選択・確定

納入方法は以下の3つから選択できます。

メール本文中の URL をクリックし、納入方法選択画面から納入方法を1つ選択してください。

一度確定した納入方法を変更することはできませんので納入期限までに確実に納入できる方法を選択してください。

納入方法	説明	備考・注意
コンビニエンスストア (受付番号) 決済	納入方法選択画面より支払用番号を発行し、コンビニ店舗で納入する方法 【詳細ページ】 https://waseda.box.com/v/waseda-feepayment	<ul style="list-style-type: none"> Web上で納入先のコンビニを選択する必要あり(番号発行後のコンビニ変更不可)。 基本的にクレジットカードでの納入不可。 30万円を超える納入不可。
ペイジー決済	納入方法選択画面で支払用番号を発行し、各金融機関のインターネットバンキングまたはATMを利用して納入する方法 【利用可能な金融機関】 https://www.econtext.jp/bank_list/list.html 【詳細ページ(利用可能な金融機関以外)】 http://www.pay-easy.jp/howto/index.html	<ul style="list-style-type: none"> 納入金額が10万円を超える場合、金融機関のATMは利用不可(インターネットバンキングは可)。 コンビニ設置のATMは利用不可。
クレジットカード決済	納入方法選択画面でクレジットカード情報を入力して納入する方法	<ul style="list-style-type: none"> VISA・MasterCard・JCB・American Express・Dinersのみ対応。 分割・リボ払い不可。 決済不可の場合は、納入方法選択画面に戻る。

③ 納入手順の確認・納入完了

納入方法の確定後、Waseda メールアドレス宛に**納入手順案内メール**が届きます。

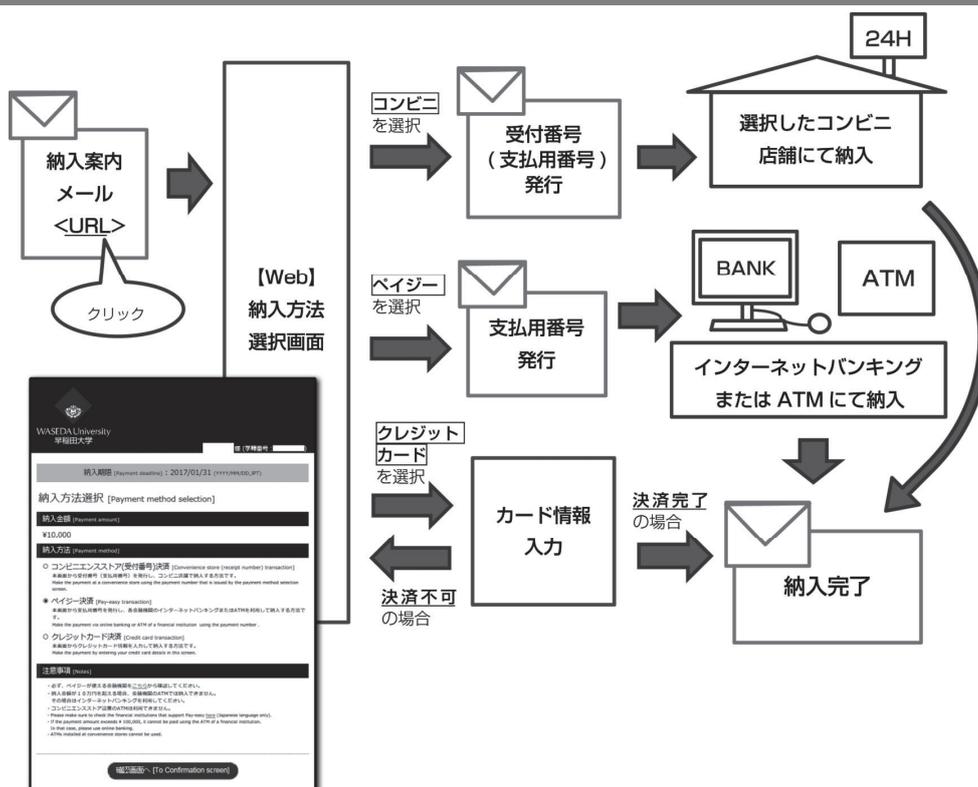
その手順にしたがって、期限までに納入が完了すると、**納入完了通知メール**が届きます。確認できない場合は、必ず各納入期間内にお問い合わせください。

※クレジットカード決済選択者は、②で**納入方法が確定した時点で決済完了**となり、納入完了通知メールが届きます(納入手順案内メールは届きません)。

4. 納入についての注意

- 期間外の納入はいかなる理由があっても認められません(期間間際に納入を試みたが、完了しなかった場合も含む)。未納の場合、決定科目の履修が認められないばかりか、その後の科目登録において抽選の順位が下がることがあります。なお、未納により決定科目の履修が認められなくなった場合でも、追加登録の機会はありません。
- 聴講料・実験実習料は納入案内メールに記載された合計金額をすべて納入してください。一部の科目の聴講料・実験実習料のみの納入や分納はできません。また、納入後の返金もできません。
- 納入方法の確定後は、別の方法に変更できません。納入方法選択画面の注意事項をよく読んでうえで、確定してください。
- クレジットカード決済を利用する際は、カードの利用限度額や有効期限に注意してください。

5. 納入のイメージ(参考)



Ⅷ. 他大学提供科目の科目登録・注意事項

1. 他大学提供科目の科目登録について

GEC では、早稲田大学が協定を締結している他大学の科目を履修することができます。
以下のページにある「他大学提供科目履修マニュアル」をダウンロードし、内容を確認した上で登録を行ってください。



GEC Web ページ (<https://www.waseda.jp/inst/gec/>)
→学部学生の方へ
→→他大学提供科目



他大学提供科目は2年生以上が対象です。1年生は登録できません。(※九州大学は除く)



他大学提供科目には登録制限単位数があります。一覧を確認し、制限を超えない範囲で登録をしてください。



他大学提供科目は、科目登録後の履修取消は一切できません。
早稲田大学科目と他大学提供科目の曜日・時限が重複したり、移動が不可能な時限に登録を行った場合は、例外なく他大学の科目が優先されます。必修科目等であっても、早稲田大学の科目が取消となります。各大学の授業時間や移動時間に注意して登録してください。

(1) 他大学提供科目の種類

協定大学		科目登録方法	登録制限単位数 (年間)	成績発表
f-Campus ※	学習院大学	他大学交流システム 詳細は、GEC Webページに掲載する「他大学提供科目履修マニュアル」を確認してください。	12単位	春学期末 および 年度末
	日本女子大学			
	立教大学			
武蔵野美術大学			8単位	
東京女子医科大学		他の早稲田大学の科目同様、MyWasedaの科目登録画面より、以下の条件で検索し登録してください。 科目開講学部：「グローバル」 科目群：「他大学提供科目」	2単位	
広島大学			12単位	
日本医科大学			1単位	春学期末のみ
九州大学		詳細は、GEC Webページに掲載する「他大学提供科目履修マニュアル」を確認してください。	4単位	年度末のみ

※f-Campus について

早稲田大学と、学習院大学、日本女子大学、立教大学の4大学間で単位互換交流を行うコンソーシアムです。各大学間の距離が近いという利便性を生かして様々な科目を履修することができます。

(2) 科目登録時の注意事項

①移動時間について

早稲田大学から他大学までの移動時間を自身で確認し、移動可能な範囲で科目登録を行ってください。移動が不可能な時限に登録を行った場合には、「遠距離エラー」となり、登録不可となります(例：1限に早稲田大学の対面授業実施科目、2限に武蔵野美術大学の対面授業実施科目を登録)。

※他大学交流システムでの登録申請時にはエラーとならず、のちにエラーとなるケースがあります。その場合には早稲田大学の科目が取消となりますので、注意して登録してください。

②早稲田大学科目との曜日時限重複について

早稲田大学科目と他大学提供科目の曜日時限が重複した場合は、例外なく他大学の科目が優先されます。必修科目等であっても、早稲田大学の科目が取消となりますので、重複がないように注意して登録してください。なお、他大学は早稲田大学と授業時間が異なりますので、GEC Web ページで確認するようにしてください。

③9月卒業予定学生で、他大学提供科目を登録する場合

9月卒業予定者は、他大学の科目を卒業必要単位とするような科目登録は行わないでください。大学によっては成績通知時期が遅いため、卒業判定の対象とならないことがあります。

④ 留学予定学生で、他大学提供科目を登録する場合

他大学提供科目は年度をまたがって継続履修することができません。留学予定者はその点を理解した上で登録してください。

2. 他大学提供科目の履修について**(1) 各大学の授業日程について**

通年、春学期科目の中には科目登録結果発表後すぐに授業が開始となる場合もあります。他大学交流システム等で発表される自身の登録結果を確認し、決定であれば授業に出席してください。

(2) f-Campus 証・特別聴講証について

他大学提供科目を履修したり、試験を受験する際には、「f-Campus 証（学習院大学、日本女子大学、立教大学）」もしくは「特別聴講証（武蔵野美術大学、九州大学）」が必要になります。

（配布日時は別途案内します。）

(3) 授業の運営について

授業の出欠席を含め、授業の運営に関わる部分については、科目提供大学のルールに基づいて行われます。

(4) 成績発表の時期について

f-Campus、武蔵野美術大学、東京女子医科大学、広島大学提供科目は年2回（春学期末・学年末）、成績が発表されます。日本医科大学提供科目の成績は、春学期末に発表されます。九州大学提供科目の成績は、春学期科目を含め学年末に発表されますので注意してください。

(5) 他大学への個人情報の提供について

生命に関わるような緊急処置を要し、かつ本人からの情報収集が不可能であるなどの特別な事情がある場合には、他大学に個人情報を通知する場合があります。

第2章

各センター科目概要

I. グローバル・エデュケーション・センター科目概要・注意事項

グローバル・エデュケーション・センター（GEC）提供科目は、大きく分けて以下の科目区分に集約されます。

1. アカデミック・ライティング科目
2. 数学科目
3. データ科学科目
4. 情報科目
5. 英語科目
6. 言語科目
7. 保健体育科目
8. 自然科学科目
9. 人文・社会科学科目
10. 日本語教育科目
11. 人間的力量科目

ここでは、各科目区分の概要と注意事項を紹介します。科目登録の前によく確認し、自分の興味ある科目を選ぶようにしましょう。科目の内容など詳細は、Web シラバスで確認できます。

1. アカデミック・ライティング科目

オンデマンド科目「学術的文章の作成」では、学術的文章の慣習、語句の適切な使い方、分かりやすい構成の方法、引用と出典の明記の仕方など、論文やレポート提出に求められる技能を学びます。文章作成力の向上と同時に思考そのものも鍛えることができます。あわせて、早稲田キャンパス 3 号館 2 階の「ライティング・センター」での対面もしくはオンラインで、アカデミック・ライティングについてのセッションを受けることが可能です。

アカデミック・ライティング・プログラム 二つの柱

ライティング・センター

個別相談支援



全学部生・
大学院生・教員



多様な文章支援



複数言語対応



授業期間中に
開室



「学術的文章の作成」授業

フルオンデマンド
授業



主に大学1年生を
対象



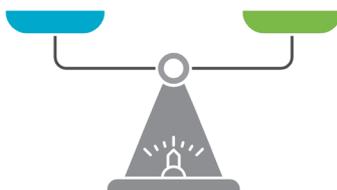
指導員による
課題添削



使用言語：
日本語



正規授業として
単位付与



2. 数学科目

身近なテーマを通して数学の基礎知識を身につけ、同時に数学的な論理的思考力を養います。金利などのテーマを、初級レベルからステップアップして学ぶことができます。オンデマンドの授業で不明点があれば、メールやオンライン指導のほか早稲田キャンパス3号館2階にある「Math and Stat Center (MSC)」でラーニングアシスタントによる個別指導を受けることも可能です。積極的に活用してください。

【数学科目マップ】

グローバル・エデュケーション・センター (GEC) **数学** 学習マップ
 ～「数学的思考力」を身につけよう～

社会に出て必要な **数学的知識・論理的思考力** を在学中に身につけたい
 → GECでは以下の数学科目を用意しています

◆ 数学を基礎から学びたい (フルオンデマンド授業)

科目名: **数学基礎プラス**○○○

レベル分け問題は →



レベル	金利・解析学系統	最適化・線形代数学系統	
初級	α (金利編) 単利・複利・数列・指数・対数	α (最適化編) 行列・線形計画問題	α (線形システム編) 連立1次方程式・行列式
中級	β (金利編) 貯蓄・ローン・漸化式・極限	β (最適化編) 逆行列・双対問題	β (線形システム編) 線形空間・線形変換
上級	γ (解析学編) 微分・偏微分・効用最大化	シラバス検索で詳細をチェック → キーワード: 数学 学部: グローバル で検索	
最上級	δ (解析学編) 積分・微分方程式・経済モデル		



◆ 数学的構造を知りたい (「曲線の微分幾何学」は対面/他はフルオンデマンド)

科目名	概要
素数の魅力と暗号理論	RSA 暗号の仕組みについて 整数や素数の性質を使って調べる
視覚的に捉える群論入門	群について あみだくじやルービックキューブなどを使って調べる
結び目で見る数学の世界	結び目がほどけるかどうか 3種類の変形や多項式を使って調べる
曲線の微分幾何学	身の回りの曲線の形や仕組みについて 微積分などを使って調べる

◆ ことばと数学を学びたい (対面授業)

科目名	概要
英語と数学の読み方	数学ゲームなど実際にプレイしながら 英語の文献を読むためのコツと数学の論理展開の両方を身につける
ロジカルシンキング入門	やさしい数学の題材を使って 論理的な話し方・書き方を身につける

3. データ科学科目

膨大な量のデータが溢れている現代において、データ科学の知識は文理系問わず、必要なものとなっています。

GEC では、学部や学年に関わらず履修できるデータ科学科目を、基礎から応用まで一通り学べるよう提供しています。ノウハウだけではないデータ科学の考え方をしっかり学び、実際に自らの手でデータ解析を行えるようになることを目的としています。

GEC で提供しているデータ科学関連の科目は、オンデマンド科目（一部科目を除く）であり、これまでにデータ科学を学んだことのない学生や文系の学生でも学べるように作成されています。興味を持った人は是非「データ科学入門シリーズ」から学んでみてください。統計学をより深く学びたい人は「統計リテラシーシリーズ」や「R による統計解析」を履修してください。

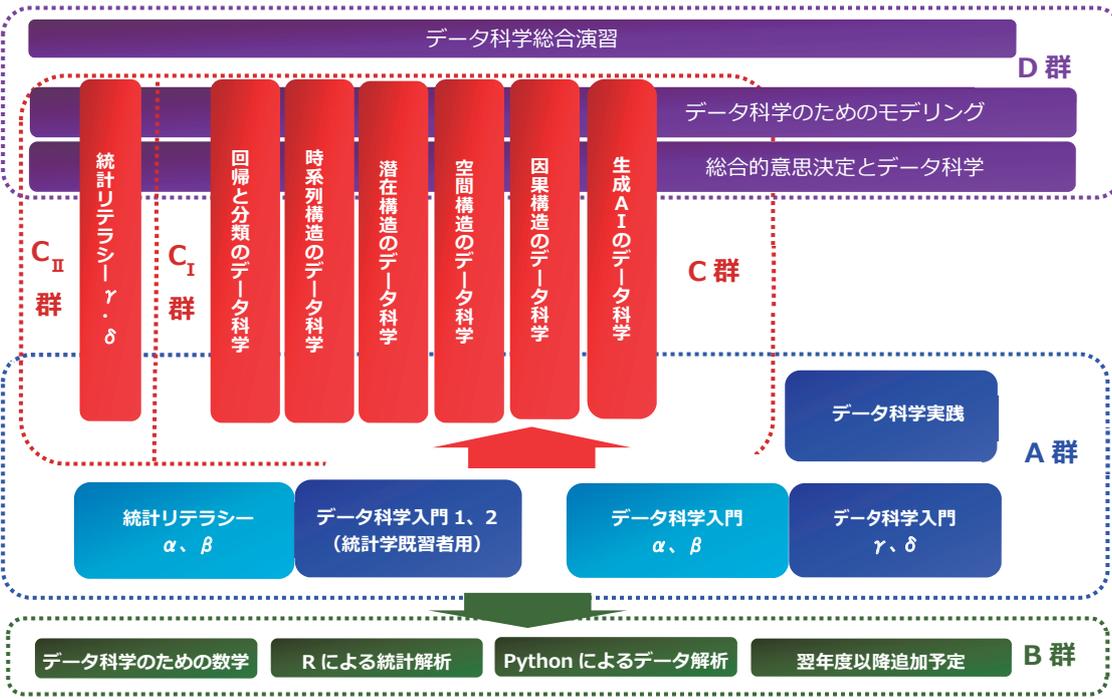
また、GEC のデータ科学科目の内容に限らず、データ科学に関連した疑問や分からない点がある場合、早稲田キャンパス3号館2階にある「Math and Stat Center (MSC)」でラーニングアシスタントによる個別指導を受けることが可能です。積極的に活用してください。

【データ科学科目マップ】

データ科学はデータの種類や活用する目的が大切な学問です。はじめてデータ科学を学ぶ方は、まず A 群科目から学ぶことをお勧めします。統計学や機械学習を含むデータ科学の考え方から学びたい方は、まず「データ科学入門 α 、 β 、 γ 、 δ 」の順に学ぶことをお勧めします。一方で統計学を中心に学びたい方は、まず「統計リテラシー α 、 β 」を学ぶことをお勧めします。「データ科学入門 1、2（統計学既習者用）」は、統計学の基礎を学んだ人を対象に「データ科学入門 $\alpha \sim \delta$ 」の内容をまとめた科目ですので「統計リテラシー α 、 β 」の後に学ぶと良いでしょう。「データ科学実践」は、データ科学の考え方とスキルを用いて、得られたデータを実践的に活用することを目的とした科目ですのでお勧めです。

本学では、「データ科学認定制度」を設置しています。対象科目を履修し、各級の定める要件を満たした学生に対して、認定証明書を発行します。「データ科学認定制度」の詳しい内容は、147 ページをご確認ください。

カリキュラムマップ



A 群	★データ科学入門シリーズ ～データ科学の考え方を基礎から身につける～
Step 1	◆ データ科学入門 α データ解析の考え方の基礎を学ぶ キーワード：基本統計量、確率分布、データ解析の考え方
Step 2	◆ データ科学入門 β 帰帰問題・分類問題の問題設定と基本的な考え方を学習する キーワード：帰帰分析、最小二乗法、分類問題、判別分析、ロジスティック帰帰
Step 3	◆ データ科学入門 γ 帰帰問題・分類問題において適切なモデルを設定する方法について学習する キーワード：変数選択、交互作用、モデル選択、クロスバリデーション、正則化
Step 4	◆ データ科学入門 δ データ解析の一連の流れを実践的に学ぶ キーワード：クラスタリング、データの取り扱い、データの前処理、解析結果の考察
Step 5	◆ データ科学実践 データを活用する目的の設定、分析、検証、考察の一連の流れを実践的に学ぶ

A 群	★統計学を中心に学びたい方 ～統計学の基礎から積み上げ式で学ぶ～
Step 1	◆ 統計リテラシー α データを視覚的・数値的に要約する「記述統計学」を学ぶ キーワード：グラフ、ヒストグラム、基本統計量、散布図、相関係数、分割表
Step 2	◆ 統計リテラシー β 推測統計学を学ぶために必要な「確率論」を学ぶ キーワード：確率変数、確率分布、正規分布、期待値、分散
Step 3, 4	◆ データ科学入門 1・2 (統計学既習者用) 統計学の基礎を学んだ人を対象に「データ科学入門 α～δ」の内容を2科目で体系的に学ぶ
Step 5	◆ データ科学実践 データを活用する目的の設定、分析、検証、考察の一連の流れを実践的に学ぶ

B 群	★統計・データ科学をより深く理解し活用するための基礎
	<p>◆データ科学のための数学</p> <p>データ科学を深く理解するために必要な数学の基礎を学ぶ キーワード：線形代数、微分積分、確率</p>
	<p>◆R による統計解析</p> <p>統計解析ソフト R を利用し、記述統計から推測統計及びデータ解析法を学ぶ</p>
	<p>◆Python によるデータ解析</p> <p>プログラミング言語 Python を基礎から学びつつ、データ分析に特化した豊富なライブラリを活用したデータ分析について学ぶ</p>

C 群	★自身の持つ専門性に対してデータ科学を活用するための科目を選択
C_I 群	<p>◆回帰と分類のデータ科学</p> <p>様々な分野で重要となる回帰と分類の考え方を深める キーワード：重回帰分析の統計的性質、一般化線形モデル、木モデル、カーネル法、ニューラルネットワーク、ディープラーニング、集団学習</p>
	<p>◆時系列構造のデータ科学</p> <p>時間に変化する系列に対するデータ科学を学ぶ キーワード：時系列構造とは、トレンド、自己回帰モデル、マルコフモデル、状態空間モデル</p>
	<p>◆潜在構造のデータ科学</p> <p>データの背後にある潜在的な変数及び数理構造に対するデータ科学の考え方を学ぶ 潜在構造とは、因子分析、グラフィカルモデル、階層ベイズ、潜在クラス分析、構造方程式モデリング</p>
	<p>◆空間構造のデータ科学</p> <p>空間的な変数あるいは関係を持つ変数からなるデータに対するデータ科学の考え方を学ぶ キーワード：データと空間構造、空間データと関係データ、有向グラフモデル、無向グラフモデル、様々な基底によるデータの表現、畳み込みニューラルネットワーク</p>
	<p>◆因果構造のデータ科学</p> <p>データから背後に存在する因果構造を明らかにするデータ科学の考え方を学ぶ キーワード：相関と因果、ランダム化比較実験、統計的因果推論、傾向スコア、因果ダイアグラム</p>
	<p>◆生成 AI のデータ科学</p> <p>テキスト生成 AI や画像生成 AI など、生成 AI の考え方や原理について、データ科学及び意思決定画像の観点から学ぶ キーワード：深層学習、画像の生成 AI、テキストの生成 AI、問題点と対策、生成 AI の応用</p>
C_{II} 群	<p>◆統計リテラシー γ</p> <p>データから母集団の性質を確率的に推測する「推測統計学の基礎」を学ぶ キーワード：サンプリング、大数の法則、中心極限定理、点推定、区間推定、仮説検定</p>
	<p>◆統計リテラシー δ</p> <p>卒業研究などで必要となる「実践的な推測統計学」を学ぶ キーワード：母集団の比較、適合度検定、相関係数の検定、分散分析</p>

D 群	★自身の専門領域以外においてもデータ科学を活用できるようにする
	<p>◆データ科学のためのモニタリング</p> <p>データ科学で重要な数理モデルの考え方について学ぶ キーワード：数理モデル、確率変数、データの構造、潜在変数</p>
	<p>◆データ科学総合演習</p> <p>データ科学で重要な数理モデルをどのように設定するかについて学ぶ キーワード：データの特徴の把握、数理モデルの設定・説明、分析とまとめ</p>
	<p>◆総合的意思決定とデータ科学</p> <p>学術研究、企業活動等における複雑かつ階層的な意思決定のデータ科学を学ぶ キーワード：意思決定、問題発見、問題解決、PDCA サイクル</p>

4. 情報科目

日常生活だけでなく、あらゆる場面で情報環境が活用されている現代社会では、専門分野を問わず、情報学の知識と技術が必要になっています。情報学として今のうちにしっかりとこれらの基礎を身につけておけば、今後の情報化社会において情報技術を活用し、そして自分自身の「強み」を支える土台となるでしょう。

GEC では、大学生としての素養、そして卒業後に社会人として不可欠となるこれらの知識と技術を、多面的に修得できる情報科目を提供しています。

GEC の情報科目は、以下の3つのカテゴリに分かれています。

ア：情報技術の概念・利用

情報リテラシー、情報の原理、情報社会の動向を学び、それらを組み合わせて情報の概念や処理方法、人間社会での役割や重要性を修得する

イ：情報技術の仕組・実装

ハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、マルチメディアの構造や動作を学び、それらを組み合わせて目的を具現化する方法を修得する

ウ：情報技術の設計・運用

情報基盤、情報セキュリティ、情報デザインを学び、それらを組み合わせて信頼性と使いやすさを備えた情報システムの管理方法を修得する

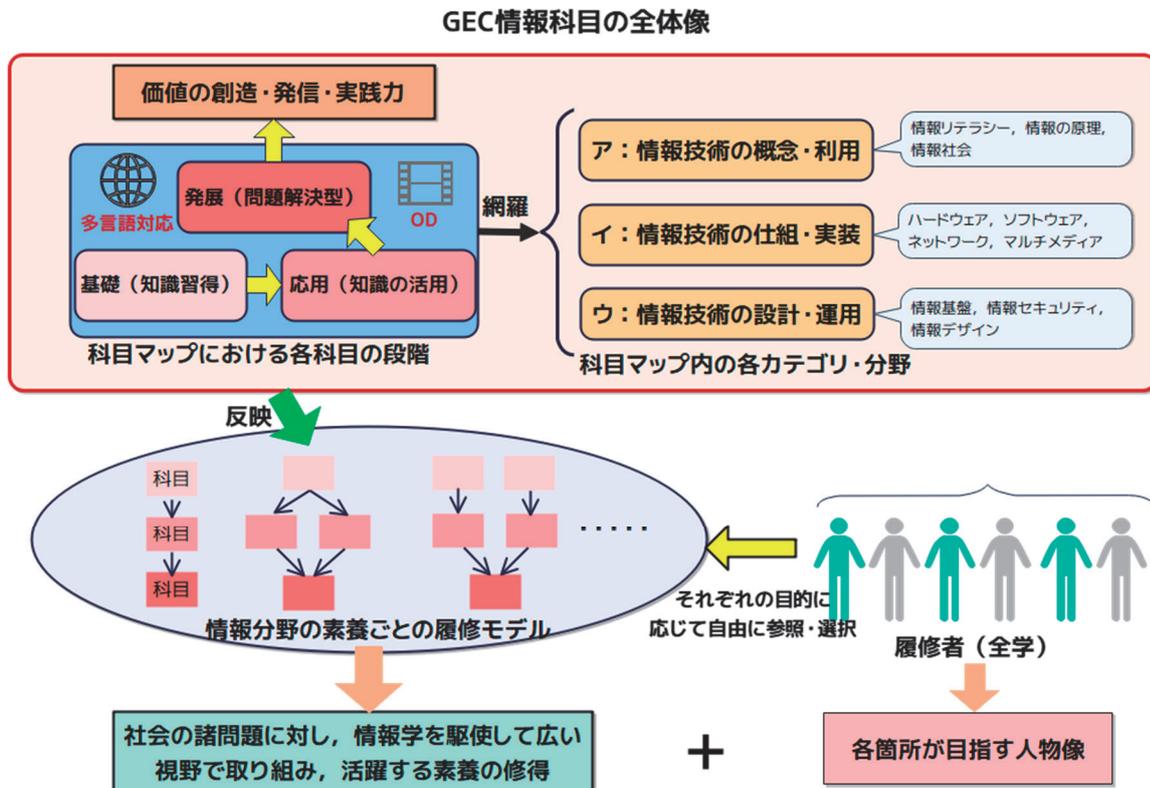
各カテゴリにはさらに分野や段階が用意されているため、皆さんの目的、技量、時間設定に合わせた科目選択ができるように考慮されています。詳しくは「**情報科目マップ**」を参照してください(25・26 ページを参照)。また、情報分野における主要な素養を身に付けるために、ア、イ、ウの科目をどのように組み合わせて履修すべきかを示した「**履修モデル**」が用意されています(27・28 ページを参照。ただしあくまで参考として提示しているものであり、該当する職業や、履修モデルに相当する資格等の取得を保証するものではありません)。

必要とされる情報学の知識と技術を体系的に修得し、今後のキャリアパスに役立ててください。

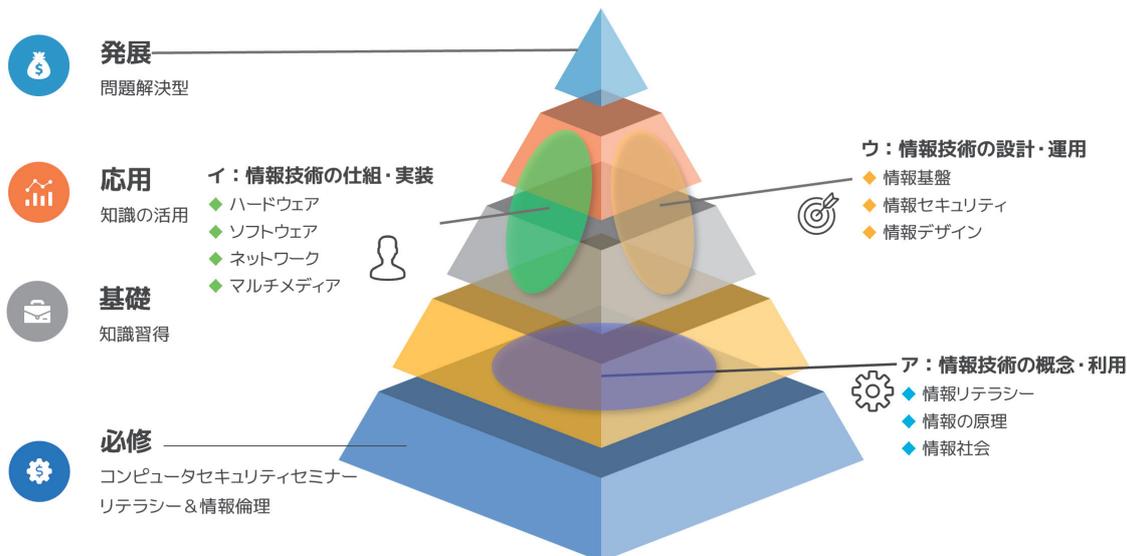
オンデマンドの授業(一部を除く)で不明点があれば、ビデオチャットツールやメールのほか、早稲田キャンパス3号館2階にある「情報対面指導室」でラーニングアシスタントによる個別指導を受けることも可能です。積極的に活用してください。

【情報科目マップ】

情報科目は大きく3つのカテゴリに分類されます。さらに各カテゴリにおいて、段階や分野があり、自分の目的に応じて参照・選択してください。



カテゴリ間の関係



○情報科目マップ

ア：情報技術の概念・利用			
段階/分野	情報リテラシー	情報の原理	情報社会
発展	※2027年度以降に設置予定		
応用	※2027年度以降に設置予定	アルゴリズムとデータ構 α, β	※2027年度以降に設置予定
基礎	情報科学の基礎 プログラミング入門 Introduction to Programming データ分析の基礎	AIプログラミング基礎 コントラクトブリッジで学ぶ数理学入門	オープン・ソース・ソフトウェア概論 未来社会を創るセキュリティ最前線

イ：情報技術の仕組・実装				
段階/分野	ハードウェア	ソフトウェア	ネットワーク	マルチメディア
発展	※2027年度以降に設置予定			
応用	※2027年度以降に設置予定	ソフトウェア開発技術 α, β クライアントサイド Web プログラミング中級 サーバサイド Web プログラミング中級 プログラミング中級 (C/C++, Java, Python) データベース (管理と運用)	ネットワーク技術準中級	【サウンド】 ミュージック・プログラミング 【グラフィック】 マルチメディア中級 (画像処理とアニメーション) α, β
基礎	※2027年度以降に設置予定	クライアントサイド Web プログラミング初級 サーバサイド Web プログラミング初級 プログラミング初級 (C/C++, Java, Python) データベース (SQL 入門)	ネットワーク技術初級	【グラフィック】 CG エンジニア入門 マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) α, β

ウ：情報技術の設計・運用			
段階/分野	情報基盤	情報セキュリティ	情報デザイン
発展	※2027年度以降に設置予定		
応用	サーバマネジメント α, β	情報セキュリティ技術	※2027年度以降に設置予定
基礎	UNIX 入門	情報ネットワークセキュリティ	Web デザイン実践

GEC情報系科目の履修モデル

- ・情報学における主要な素養ごとに、どの科目をどのような順序で履修したらよいかを示したものです。各履修モデルのうち、太文字の科目は是非とも履修してほしい科目、それ以外は履修したほうが良い科目を示しています。
- ・各履修モデルは参考として提示しているものであり、該当する職業や、履修モデルに相当する資格等の取得を保証するものではありません。
- ・いずれの履修モデルも最初に「情報科学の基礎」「プログラミング入門」の履修を推奨しますが、前提知識があれば履修しなくても構いません。また、前提知識がある人は、必ずしも基礎、応用の順に履修する必要はありません。
- ・「発展科目」は、2026年度以降に設置予定です。

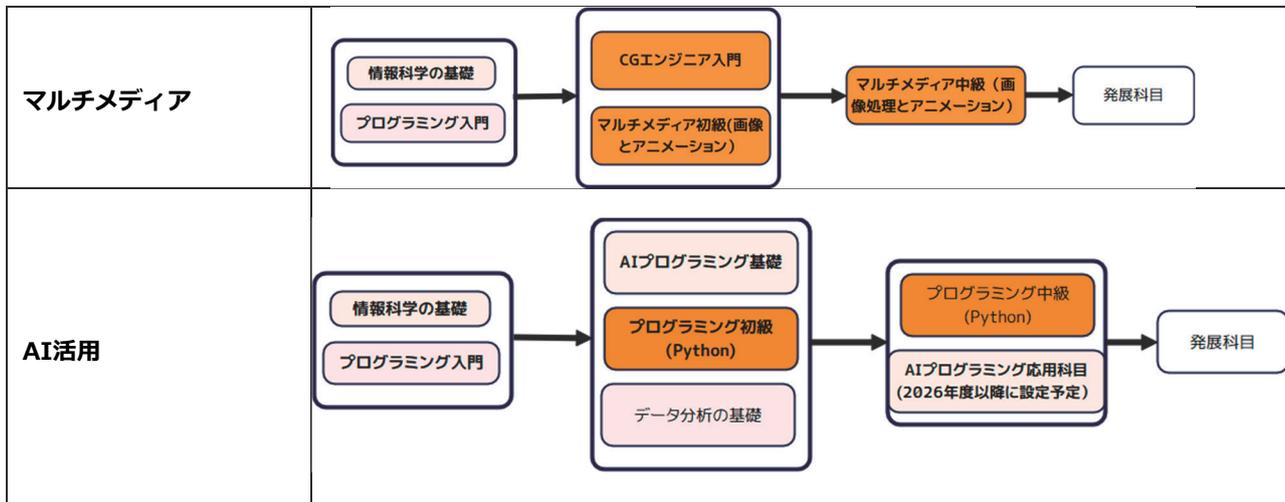
※履修モデルでは、情報科目の全てを表示しているとは限りません。また、年度によっては休講となっている科目も記載されています。各科目の詳細については「4. 情報科目」で確認してください。

ア：情報技術の概念・利用

イ：情報技術の仕組・実装

ウ：情報技術の設計・運用

得られる素養	履修フローモデル
ソフトウェア開発	
情報セキュリティ	
Webデザイン	
サーバサイドWeb	
情報ネットワーク	
情報システム基盤	
情報戦略	



情報科目「プログラミング入門」「Introduction to Programming」について

GEC が提供する情報科目のうち、これまでプログラミングを学習したことのない学生を対象としている「プログラミング入門」およびその英語版科目「Introduction to Programming」は、その科目の難易度に鑑みて、GEC が提供するプログラミング科目のうち、初級・中級レベルの科目の単位をすでに修得している学生は履修申請することができません。

具体的には、以下の科目の単位を修得済みの学生は、「プログラミング入門」および「Introduction to Programming」を過去に受講したことがない場合でも、それらの科目を履修申請し、受講することはできません。



- ・プログラミング初級 ※言語を問わず対象
- ・プログラミング中級 ※言語を問わず対象
- ・サーバサイド Web プログラミング初級
- ・サーバサイド Web プログラミング中級
- ・クライアントサイド Web プログラミング初級
- ・クライアントサイド Web プログラミング中級
- ・ミュージック・プログラミング
- ・AI プログラミング基礎

なお、「プログラミング入門」または「Introduction to Programming」の単位を修得したのちに、これらの初級・中級レベルの科目を履修申請し、受講することは可能です。

5. 英語科目

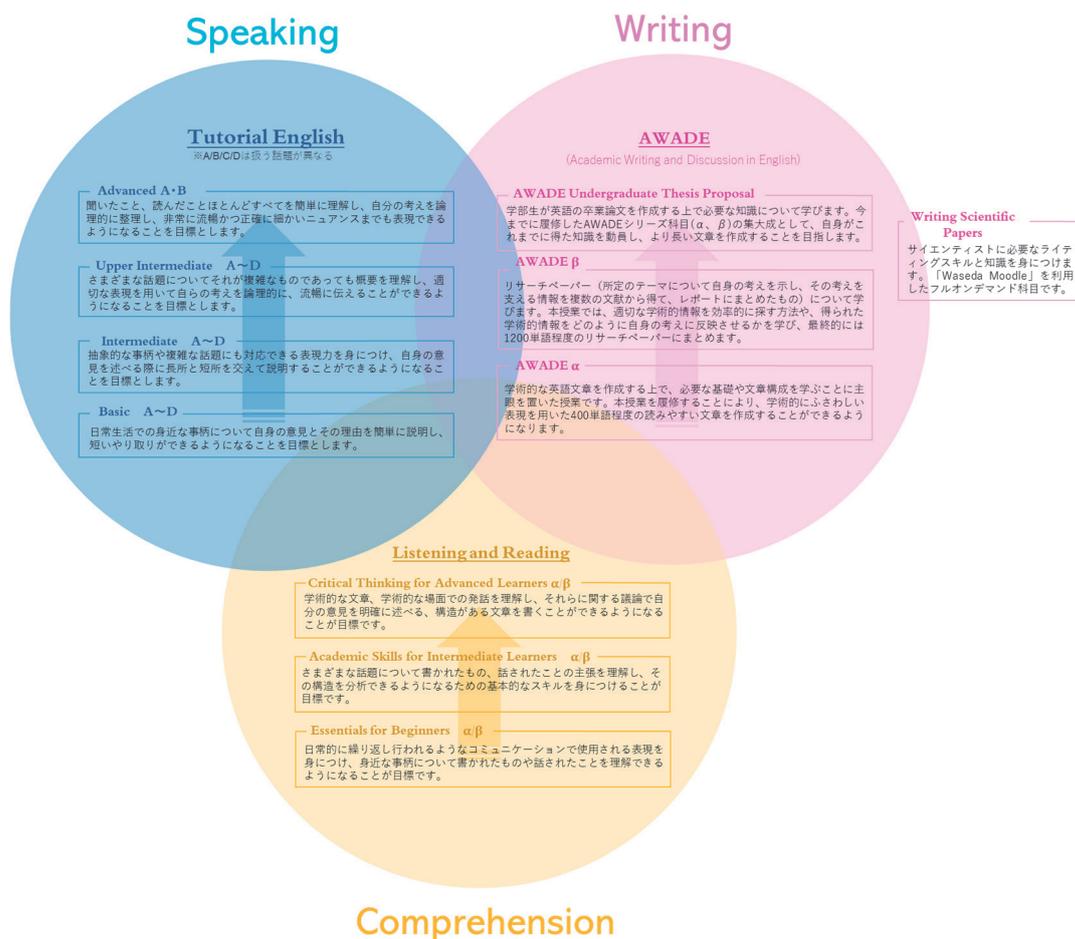
GEC 提供の英語科目は実践重視の参加型授業であり、学生の自己実現および国際人としての資質の育成を目的とし、英語の技能を「Speaking」「Writing」「Comprehension」に分け、それぞれの技能に焦点を当てた3種類の英語科目を提供しています。「Speaking」に焦点を当てた Tutorial English、「Writing」に焦点を当てた Academic Writing and Discussion in English (AWADE)、「Comprehension」に焦点を当てた Listening and Reading の3種の科目から、弱点克服のため、あるいは得意なところを伸ばすため、自身のレベルにあったクラスを選び、目的に合わせて英語の能力を伸ばしていくことができます。

- ・Speaking 科目 (英語による口頭コミュニケーション能力の向上を目的とする)
- ・Writing 科目 (英語で学術的文章を書けるようになることを目的とする)
- ・Comprehension 科目 (英語を聴く・読む能力の育成を目的とする)



GEC 提供の英語科目の授業内容、授業レベルが一目で確認できる、29 ページの**英語科目マップ**を参照し、科目選択時の参考にしてください。

【英語科目マップ】



Tutorial English および Listening and Reading の問い合わせ先 について

問い合わせの前に（履修ガイドについて）

Tutorial English および Listening and Reading の授業出席方法や成績評価について、各科目の履修ガイドに記載しています。履修する前に必ず内容をよく確認してください。

- ◆ Tutorial English 履修ガイド (A～D) <クォーター科目> の入手方法
 - ・ Web ページからダウンロード : <https://led.w-as.jp/guide.html>
 - ・ 早稲田ポータルオフィス・所属学部事務所
- ◆ Listening and Reading 履修ガイドの入手方法
 - ・ Web ページからダウンロード : <https://led.w-as.jp/guide.html>

問い合わせ先

Tutorial English および Listening and Reading の履修方法について不明点がある場合は、以下までお問い合わせください。なお、「よくある質問」を必ずご確認の上で、お問い合わせください。

<問い合わせ先> 早稲田大学アカデミックソリューション事務所 (29-2 号館 2 階)

電話 : 03-5286-8030 (月～金 9 : 00～17 : 30)

※土曜日・日曜日・祝日に問い合わせる場合は、問い合わせフォームをご利用ください。

問い合わせフォーム : <https://led.w-as.jp/faq.html>

<参考>

よくある質問 : <https://led.w-as.jp/faq.html>

科目詳細 : <https://led.w-as.jp>

※問い合わせフォームからの回答は、翌平日以降になります。LANGX の受験期間の最終日に質問や問い合わせをフォームから行う場合、受験期間内に回答が間に合わない場合がありますので注意してください。

Tutorial English の科目登録・履修について

1. 概要

Tutorial English では、日常的に使える英語表現からアカデミックな内容に至るまで、スピーキング力強化を主眼とし、実践的な英会話を学びます。

■ Tutorial English の特徴

- ・履修者最大4名に対して、チューター（講師）1人の少人数教育：
 - チューターが個々の学生の理解度・弱点を把握するため、きめ細やかな指導を受けることができます。
 - また、大人数でのレッスンに比べて、質問や発言がしやすく、能動的に学ぶことができます。
- ・4つのレベル（Basic/Intermediate/Upper Intermediate/Advanced）・4つの内容（A/B/C/D）：
 - 各自の英語力にあったレベルを履修し、ステップアップを図ることができます。※Advanced は A・B のみ
- ・LANGX を活用したレッスングループ分け・成果測定（成績評価）：
 - LANGX（双方向的なやり取りの能力を中心とした英語スピーキング能力を測るテスト）により、同一レベル内において履修者の英語力に最も適したレッスングループ分けを実施します。
 - また同テストを使用した成果測定を実施します。（成績評価項目の一つ）
- ・すべての学期で履修可能
 - 春/夏/秋/冬クォーター：週2回×5週＝計10回（1単位）
 - ※土曜集中クラスのみ、1日2時限授業×5週＝計10回（1単位）

■ レベルについて

Tutorial English は4レベルが設置されています。
 科目登録の際は、レベル目安と到達目標を確認し、自分に合ったレベルを選択してください。
 適切なレベルがわからない方は、「履修相談・レベルチェック」にご参加ください。レベルチェックを受けることが可能です。「履修相談・レベルチェック」については、<https://led.w-as.jp> を確認してください。
 また、各レベルにA～Dの4種類（AdvancedのみA～Bの2種類）の科目を用意しています。
 A～Dのレベルは同じですが、各科目の内容の違いは、Web シラバスで確認してください。A～Dのいずれか1つのみでも履修することが可能ですが、学習効果の面から、A～Dをすべて履修することを推奨します。

レベル	レベル目安			授業の到達目標
	TOEFL iBT (スピーキング)		TOEIC S&W (スピーキング)	
	2026/1/20 まで	2026/1/21 以降		
Advanced	25 以上	5 以上	180 以上	見聞きした内容のほとんどを容易に理解し、論理的に整理しながら、些細な言葉のニュアンスの違いを使い分け、非常に流暢かつ正確に伝えることができる。
Upper Intermediate	20-24	4-4.5	160-179	広範で複雑な話題についても内容を正しく理解し、目的に合った適切な言葉を使用し、流暢かつ論理的に自分の考えを述べることができる。
Intermediate	16-19	3-3.5	120-159	抽象的な事柄や複雑な話題にも対応できるような表現力を身につけ、自身の意見を述べる際に、長所と短所を交えて説明することができる。
Basic	15 以下	2.5 以下	119 以下	日常生活での身近な事柄について、自身の意見とその理由を簡単に説明し、短いやりとりができる。



科目登録上のルールがあります。
必ず、32 ページを確認したうえで、履修する科目（レベル）を決めてください。

■ 履修キャンパス・曜日時限について

- キャンパス・曜日・時限の組み合わせを次ページの表で確認し、登録する科目クラスを決めてください。
- ※週2回の曜日時限の組み合わせは固定されています。科目登録時に当リストまたは Web シラバスをよく確認し、履修を希望する曜日時限、キャンパスのクラスを登録してください。
- ※必修履修者については、次ページの曜日時限の組み合わせと異なる場合があります。

■ Tutorial English A・B・C・D : 各キャンパスのクラス名および開講曜日時限組み合わせ

早稲田キャンパス

レベル				Basic/Intermediate/ Upper Intermediate	Advanced	
週前半		週後半		A・B・C・D 全クォーター共通	A (春クォーター) B (夏クォーター)	A (秋クォーター) B (冬クォーター)
曜日	時限	曜日	時限	クラス名称	クラス名称	
月	1	木	1	A1	A1	M1
月	1	木	2	A2	A2	M2
月	1	木	3	A3	A3	M3
月	1	木	4	A4	A4	M4
月	1	木	5	A5	A5	M5
月	2	木	1	A6	A6	M6
月	2	木	2	A7	A7	M7
月	2	木	3	A8	A8	M8
月	2	木	4	A9	A9	M9
月	2	木	5	B1	B1	N1
月	3	木	1	B2	B2	N2
月	3	木	2	B3	B3	N3
月	3	木	3	B4	B4	N4
月	3	木	4	B5	B5	N5
月	3	木	5	B6	B6	N6
月	4	木	1	B7	B7	N7
月	4	木	2	B8	B8	N8
月	4	木	3	B9	B9	N9
月	4	木	4	C1	C1	O1
月	4	木	5	C2	C2	O2
月	5	木	1	C3	C3	O3
月	5	木	2	C4	C4	O4
月	5	木	3	C5	C5	O5
月	5	木	4	C6	C6	O6
月	5	木	5	C7	C7	O7
火	1	金	1	C8	C8	O8
火	1	金	2	C9	C9	O9
火	1	金	3	D1	D1	P1
火	1	金	4	D2	D2	P2
火	1	金	5	D3	D3	P3
火	2	金	1	D4	D4	P4
火	2	金	2	D5	D5	P5
火	2	金	3	D6	D6	P6
火	2	金	4	D7	D7	P7
火	2	金	5	D8	D8	P8

レベル				Basic/Intermediate/ Upper Intermediate	Advanced	
週前半		週後半		A・B・C・D 全クォーター共通	A (春クォーター) B (夏クォーター)	A (秋クォーター) B (冬クォーター)
曜日	時限	曜日	時限	クラス名称	クラス名称	
火	3	金	1	D9	D9	P9
火	3	金	2	E1	E1	Q1
火	3	金	3	E2	E2	Q2
火	3	金	4	E3	E3	Q3
火	3	金	5	E4	E4	Q4
火	4	金	1	E5	E5	Q5
火	4	金	2	E6	E6	Q6
火	4	金	3	E7	E7	Q7
火	4	金	4	E8	E8	Q8
火	4	金	5	E9	E9	Q9
火	5	金	1	F1	F1	R1
火	5	金	2	F2	F2	R2
火	5	金	3	F3	F3	R3
火	5	金	4	F4	F4	R4
火	5	金	5	F5	F5	R5
水	1	土	1	F6	F6	R6
水	1	土	2	F7	F7	R7
水	1	土	3	F8	F8	R8
水	1	土	4	F9	F9	R9
水	2	土	1	G1	G1	S1
水	2	土	2	G2	G2	S2
水	2	土	3	G3	G3	S3
水	2	土	4	G4	G4	S4
水	3	土	1	G5	G5	S5
水	3	土	2	G6	G6	S6
水	3	土	3	G7	G7	S7
水	3	土	4	G8	G8	S8
水	4	土	1	G9	G9	S9
水	4	土	2	H1	H1	T1
水	4	土	3	H2	H2	T2
水	4	土	4	H3	H3	T3
水	5	土	1	H6	H6	T6
水	5	土	2	H7	H7	T7
土	1	土	2	H8	H8	T8
土	3	土	4	H9	H9	T9

西早稲田キャンパス

レベル				Basic/Intermediate/ Upper Intermediate	Advanced	
週前半		週後半		A・B・C・D 全クォーター共通	A (春クォーター) B (夏クォーター)	A (秋クォーター) B (冬クォーター)
曜日	時限	曜日	時限	クラス名称	クラス名称	
火	1	金	1	K3	-	-
火	2	金	2	K4	-	-
火	3	金	3	K5	-	-
火	4	金	4	K6	-	-
水	1	木	1	K7	-	-
水	2	木	2	K8	-	-
水	3	木	3	K9	-	-
水	4	木	4	L1	-	-

所沢キャンパス

レベル				Basic/Intermediate/ Upper Intermediate	Advanced	
週前半		週後半		A・B・C・D 全クォーター共通	A (春クォーター) B (夏クォーター)	A (秋クォーター) B (冬クォーター)
曜日	時限	曜日	時限	クラス名称	クラス名称	
月	1	木	1	I1	I1	U1
月	2	木	2	I2	I2	U2
月	3	木	3	I3	I3	U3
月	4	木	4	I4	I4	U4
月	5	木	5	I5	I5	U5
水	1	金	1	J7	J7	V7
水	2	金	2	J8	J8	V8
水	3	金	3	J9	J9	V9
水	4	金	4	K1	K1	W1
水	5	金	5	K2	K2	W2

※西早稲田キャンパスでの Basic・Upper Intermediate の開講クラスは以下のみとなります。

Basic : K3・K4・K5・K6

Upper Intermediate : K7・K8・K9・L1

2. 科目登録とレッスン開始までの流れ

チェック☑

(1) レベル、履修キャンパス、曜日時限を決め、
科目登録

※科目登録のルールについては、以下を確認してください。

(2) 【必須】LANGX 受験
(科目登録期間中)

※LANGX 受験期間に関する注意事項は、
34 ページを確認してください。

(3) 登録結果の確認・実験実習料の納入

※35 ページを確認してください。

(4) 「Tutorial English 履修ガイド (A~D)
<クォーター科目>」の確認

※29 ページを確認してください。

(5) クラス発表

※35 ページを確認してください。

(6) テキストの購入

※「Tutorial English 履修ガイド」で確認してください。

(7) レッスンカレンダーの確認・レッスン開始

※36 ページを確認してください。

(1) レベル、履修キャンパス、曜日時限を決め、科目登録

科目登録上の注意事項

- ・レベル・キャンパス・曜日時限の選択についてお間違いのないよう登録してください。
- ・登録決定後の科目取消・変更（レベル・キャンパス・曜日時限）は認められていません。
- ・同じクォーターに、同一科目を複数のレベルで並行して履修することはできません。
複数のレベルを履修したい場合は、異なるクォーターに開講される科目を登録してください。
- ・2021 年度以降に Tutorial English を履修した場合は、必ず、以前に単位を修得したレベルと同じかそれ以上のレベルを履修してください。
- ・Tutorial English A・C（春/秋クォーター）は、レッスングループ編成の都合上、1 次登録期間のみ登録が可能です。

また、春・夏クォーター、または、秋・冬クォーターに連続して履修する場合は、1 次登録期間中に、春/秋クォーターと併せて夏/冬クォーターの科目登録を行ってください。

<組み合わせ例> ※TE : Tutorial English

登録可否	組み合わせ例
○	春クォーター「TE (Basic) A」+夏クォーター「TE (Basic) B」
○	春クォーター「TE (Basic) A」+冬クォーター「TE (Basic) D」
○	春クォーター「TE (Basic) A」+夏クォーター「TE (Intermediate) B」
○	夏クォーター「TE (Basic) B」+秋クォーター「TE (Basic) C」
×	春クォーター「TE (Basic) A」+春クォーター「TE (Intermediate) A」 →同一クォーターに複数レベルを登録することはできません。
×	春クォーター「TE (Advanced) A」+秋クォーター「TE (Advanced) A」



2020 年度以前に、旧 : General Tutorial English の単位を修得した場合でも、Tutorial English (全レベル) を履修することが可能です。



必修履修者について

- ・必修履修者は、2 クォーター同じレベルが連続して自動登録されています。取消・変更はできません。
- ・必修履修者は、LANGX スコアをもとに履修レベルが決定されます。ご自身でレベルを選択することはできません。決定したレベルの確認方法および発表日は 35 ページにて確認してください。

科目検索の方法

「Tutorial English」は、以下の条件で検索してください。

1. 科目の開講学部を選択して[確定]ボタンを押してください。

グローバル

2. 科目群を選択してください。

英語科目

3. 検索条件(1項目以上)を指定して[科目検索]ボタンを押してください。

科目名

科目名は先頭2、3文字を指定してください。

学期

曜日

時限

①「グローバル」を選択
②「確定」をクリック

③「英語科目」を選択

④科目名:「Tutorial」
⑤学期・曜日・時限まで指定

以上5つの条件を全て入力して検索してください！

なお、科目検索は検索結果が100件を超えるとエラーが表示され結果が表示されません。
エラーになった場合は、希望する科目の科目名・学期・曜日・時限が、上記のように詳細に指定できているかご確認ください。

検索結果画面

【科目名の見方】
Tutorial English (レベル) クラス名称
⇒ 選択履修者は、スコアに関わらず、選択したレベルでの履修となります。希望するレベルを選択してください。

選択	学期	曜日	時限	開講学部	備考	科目名	キャンパス
<input type="checkbox"/>	春クォーター	月木	1 1	グローバル	¥(要聴講料等) <input type="button" value="関連URL"/>	Tutorial English (Basic) A A1	早稲田

履修希望レベルが正しいか確認

選択中のキャンパスが正しいか確認

(2) 【必須】LANGX 受験（科目登録期間中）

選択履修者は、**登録期間中に、LANGX（双方向なやり取りの能力を中心とした英語スピーキング能力を測るテスト）を必ず受験してください（必修履修者のLANGX受験期間と異なります）。**選択履修者の場合、自身で科目登録したレベル内で、LANGXの結果を基にレッスングループ分けを行います。LANGXを受験した結果を見て履修するレベルを変更する場合は、必ず自身で科目登録した登録期間中に行うようにしてください。

<クォーター科目>

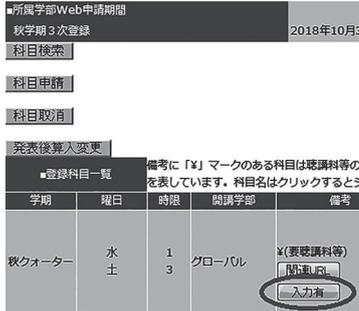
LANGX（事前測定）の受験期間は、**Tutorial Englishの科目登録を行った登録期間**です。

例えば、1次登録でTutorial Englishを登録した場合、LANGXは1次登録期間中に受験する必要があります。

なお、LANGXを未受験のまま登録期間が終了した場合でも、科目の取消にはなりません。

【LANGX 受験方法】※選択履修者のみ

1. 「成績照会・科目登録専用メニュー」画面からログインし、Web 科目登録を行います。
2. 履修を希望する科目を検索・選択し、登録科目一覧画面で科目申請ボタンを押してください。
3. 申請完了後、登録科目一覧画面の「備考欄」に表示される「入力有」ボタンを押します（図1）。
4. MyWaseda 上の「申請」ボタンをクリックします（図2）。
5. 受験案内画面の URL が表示されますので、その URL をクリックします。
6. 表示されたページの案内をよく読み、ページ下部にある「LANGX ログイン」をクリックします（図3）。
7. 利用チケット入力画面（図4）が開きますので、チケットコードと受験者ID（学籍番号。ただしハイフン（-）以下は不要）とパスワード（生年月日の月日4ケタ）でログインし、画面の指示にしたがって受験を進めます。



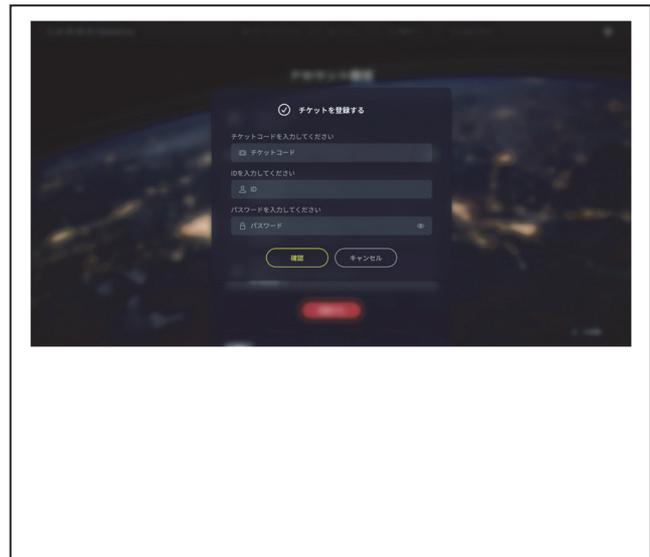
【(図1) Web 科目登録画面】



【(図2) MyWaseda 画面】



【(図3) 受験案内画面】



【(図4) 利用チケット入力画面】

図3と4は一部デザインが変更になる場合があります。

(3) 登録結果の確認・実験実習料の納入（選択履修者及び法学部選択必修履修者）

所属学部の登録結果発表の日に、登録結果を確認してください。

すべての Tutorial English 科目の履修には、実験実習料が必要となります。所定の期間内に必ず納入してください。

<選択履修者>

登録学期	納入対象科目	納入期間
春学期 登録	1次登録で決定したTutorial English（春・夏クォーター）	4月8日（水）～4月14日（火） 23：59
	・上記以外の登録決定科目 ・法学部の外国語B英語選択者（1年生自動登録）	4月23日（木）～4月27日（月） 23：59
秋学期 登録	1次登録で決定したTutorial English（秋・冬クォーター）	9月25日（金）～10月1日（木） 23：59
	上記以外の登録決定科目	10月14日（水）～10月19日（月） 23：59

<法学部の外国語 B 英語選択者（1年生自動登録）>

法学部発行の履修ガイドにて納入期間を確認してください。



実験実習料の納入方法やルールなどの詳細は、14ページを確認してください。

(4) 「Tutorial English 履修ガイド」の確認

授業の出席方法等について、確認してください。なお、「Tutorial English 履修ガイド（A～D）<クォーター科目>」の入手方法は、29ページで確認してください。

(5) クラス発表

担当チューター、教室を以下の日程で発表します。

クラス発表日以降 MyWaseda より Tutorial Canvas にて確認してください。

開講学期	履修クラス発表日	開講学期	履修クラス発表日
春クォーター	2026年4月15日（水） 夕刻	秋クォーター	2026年10月1日（木） 夕刻
夏クォーター	2026年6月1日（月） 夕刻	冬クォーター	2026年11月16日（月） 夕刻

Tutorial Canvas アクセス方法

1. MyWaseda にログインし、「授業」タブ内左メニュー「授業関連」—「Tutorial Canvas」を選択。
2. 週2回の各レッスンのブースは画面右「クラス発表」をクリックすると表示される。

※一度お知らせを参照すると既読になり「To Do」に表示されなくなります。履修レベルを再度確認する際は、Dashboard 上でレベルの書かれたカードをクリックし、画面遷移した後、「Announcements」をクリックし、確認してください。
「Announcements」は、パソコン以外のデバイスでは表示されません。必ずパソコンで確認をしてください。
 ※パソコン以外のデバイスで「To Do」のお知らせを閲覧した場合、「Announcements」に再表示されません。初回確認時に必ず控えをとるようにしてください。なお、パソコン利用の場合は「Announcements」からの再確認が可能です。

<参考：必修履修者のレベルについて>

必修履修者のレベル、教室、担当チューターは、上記履修クラス発表日に Tutorial Canvas にて発表します。なお、履修クラス発表日までは、科目名は「Tutorial English (Compulsory)」と表示されます。

(6) テキストの購入

Tutorial English オリジナルテキスト「Talk」を使用します。

レッスン開始までに履修レベルのテキストを購入してください。同じレベルであっても、A・B・C・Dの4種類あり、内容が異なります(※AdvancedはA・Bのみ)。また、2022年にSecond Editionが刊行されているため、購入の際はご注意ください。

テキストの購入については、「Tutorial English 履修ガイド (A~D) <クォーター科目>」で確認してください。

(7) レッスン開始 (Tutorial English Lesson Calendar 2026)

★ 履修クラス発表日 Class announcement

Unit 1 春・秋クォーター Spring/Fall Quarter

Unit 1 夏・冬クォーター Summer/Winter Quarter

春クォーター・夏クォーター Spring Quarter / Summer Quarter

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

Unit	1-2	3-4	5-6	7-8	9-10
春クォーター Spring quarter	4/25	5/9	5/16	5/23	5/30
夏クォーター Summer quarter	6/13	6/20	6/27	7/4	7/11

注) 土曜集中クラスは、土曜日1, 2期または3, 4期に、連続2時間履修するものです。
* Saturday intensive courses are offered during 1st & 2nd periods and 3rd & 4th periods.

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	



秋クォーター・冬クォーター Fall Quarter / Winter Quarter

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
1	2	3	4	5	6	7
8	9	10	11	12	13	14
15	16	17	18	19	20	21
22	23	24	25	26	27	28
29	30					

Unit	1-2	3-4	5-6	7-8	9-10
秋クォーター Fall quarter	10/10	10/17	10/24	10/31	11/14
冬クォーター Winter quarter	11/28	12/5	12/12	1/9	1/16

注) 土曜集中クラスは、土曜日1, 2期または3, 4期に、連続2時間履修するものです。
* Saturday intensive courses are offered during 1st & 2nd periods and 3rd & 4th periods.

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	

Sun	Mon	Tue	Wed	Thu	Fri	Sat
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

レベルとクォーターの組み合わせ (Level and Quarter)	2027			
	Spring	Summer	Fall	Winter
Basic				
Intermediate	A	B	C	D
Upper Intermediate				
Advanced	A	B	A	B

Listening and Reading の科目登録・履修について

1. 概要

「読む・聴く」ことに焦点を当てた 1 クラス約 20 名の比較的少人数の科目です。3 つのレベルが提供されています。

- ・ Essentials for Beginners
- ・ Academic Skills for Intermediate Learners
- ・ Critical Thinking for Advanced Learners

日常的な表現を読んだり聴いたりすることから始め、徐々に語彙を増やし、最上位のレベルでは、学術的な場面でのスピーチや文章を理解し、自分の意見を明確に表現できるようになることを目標とします。

■履修レベルと到達目標

履修者が自身の英語力に合わせて履修できるよう、全 3 レベルが設置されています。

必修履修者：学部でレベル分けして自動登録されます。ご自身のレベルは科目登録画面で確認してください。

選択履修者：ご自身で履修するレベルを選択します。下表および Web シラバスを確認の上、レベルを選択してください。

レベル名	レベル目安						各レベルの到達目標/ 特にお勧めの対象者
	TOEIC L&R (Listening)	TOEIC L&R (Reading)	TOEFL iBT (Listening)	TOEFL iBT (Listening)	TOEFL iBT (Reading)	TOEFL iBT (Reading)	
			2026/1/20 まで	2026/1/21 以降	2026/1/20 まで	2026/1/21 以降	
Essentials for Beginners	275未満	275未満	9未満	3未満	4未満	2.5未満	日常的に繰り返し行われるようなコミュニケーションで使用される表現を身につけ、身近な事柄について書かれたもの、話されたことを理解できるようになる 【特にお勧めの対象者】英語は得意ではないが、英文や英語の音声に慣れたい方
Academic Skills for Intermediate Learners	275～485	275～450	9～21	3～4.5	4～23	2.5～4.5	さまざまな話題について書かれたもの、話されたことの主張を理解し、その構造を分析できるようになるための基本的なスキルを身につける 【特にお勧めの対象者】ある程度、英文への抵抗はないが、大学の授業を英語で受けるためのスキルを身につけたい方
Critical Thinking for Advanced Learners	400以上	385以上	17以上	4以上	18以上	4以上	学術的な文章、学術的な場面での発話を理解し、それらに関する議論で自分の意見を明確に述べる、構造がある文章を書くことができるようになる 【特にお勧めの対象者】自分の専門分野の情報を英語で理解できるようになりたい方

各レベルに α ・ β の科目を用意しています。 α ・ β のレベルはほぼ同じですが、内容の違いは Web シラバスで確認してください。 α ・ β いずれか 1 つのみでも履修することが可能ですが、学習効果の面から、 α ・ β を続けて履修することを推奨します。

■曜日時限について

曜日・時限の組み合わせを GEC Web ページに掲載されている科目一覧で確認し、登録する科目クラスを決めてください。

※週 2 回の曜日時限の組み合わせは固定されています。科目登録時によく確認して登録してください。

科目の詳細や履修ガイドについては、下記 URL からご確認ください。

(早稲田大学グローバル・エデュケーション・センター英語科目：<https://led.w-as.jp/gogaku/lr.html>)

2. 授業方法

履修するレベルやクラスによって授業方法が異なります。授業方法は、シラバスの「科目名」および「授業方法区分」を確認してください。

※必修科目として履修する場合は、授業方法を選択することはできません。
自動登録されたレベル・クラスの授業方法を確認してください。

※選択履修による本科目の履修には、実験実習料の納入が必要となります。
実験実習料の納入方法やルールなどの詳細は、14 ページ以降を確認してください。

履修区分	Essentials for Beginners	Academic Skills for Intermediate Learners	Critical Thinking for Advanced Learners
選択	リアルタイム配信	対面 or リアルタイム配信	対面
必修 (国際教養学部)	開講なし	対面	対面
必修 (スポーツ科学部)	リアルタイム配信	リアルタイム配信	開講なし

6. 言語科目

GEC には、英語以外に 20 を超える言語科目が設置されています。リーディング、ライティング等を総合的に学ぶ科目の他、コミュニケーション能力を高めることを目的とした GEC 独自の教育プログラム（「ドイツ語コミュニケーション」「中国語コミュニケーション」）もあります。



GEC 提供の言語科目に設定されているレベルは、以下の順に難易度が上がります。

入門→初級→準中級→中級→準上級→上級

ある言語を初めて学ぶ場合は、「入門」を履修してください。過去に学習歴がある場合は、シラバスや学習機会マップを参照のうえ、自分に合ったレベルを登録してください。



複数のレベルが設置されている科目は、同じ期間に複数のレベルを並行して履修することはできません。複数のレベルを履修したい場合は、別の期間に登録してください。なお、同じ期間に複数のレベルを登録した場合、無作為に選ばれた 1 つのレベルのみが決定となり、他のレベルは不可となります。



科目の授業内容、授業レベルが一目で確認できる学習機会マップを作成しました。科目選択時の参考にしてください（対象言語はドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、ロシア語、朝鮮語です）。

2026年度 ドイツ語 全学オープン科目マップ

到達目標 (共通レベル)	学期	総合	文法	ドイツ語コミュニケーション (少人数グループでの授業)	プレゼンテーション と ディスカッション	授業内容			時事ドイツ語 (ドイツ語圏の人々が 日々の出来事などをどのよう に考えているかを知る)	読 解 (ドイツ語圏の文学・文 化などの特長を知る)	読解法 (テキストの読 解力をスキルア ップする)
						口頭表現 (口頭コミュニケーションの 能力を向上させる)	文章表現 (初級独立作文から ドイツ語でのレポ ートの書き方まで を習得する)	ドイツ語圏の社会と言語 I <文>			
A1-1	春学期	ドイツ語総合基礎 A1-1<GEC>				ドイツ語で表現する1 (初歩の会話) <文>					
	秋学期	ドイツ語総合基礎 A1-2<GEC>									
A1-2	春学期	ドイツ語総合基礎 A1-2<GEC>									
	秋学期	ドイツ語総合基礎 A1-2<GEC>									
A1	春学期	Intensive German I 01 <国際教養>	春クォーター：ドイツ語文法 (入門)<GEC> 夏クォーター：ドイツ語文法 (初級)<GEC>								
	秋学期	Intensive German I 01 <国際教養>									
A2-1	春学期	ドイツ語総合基礎 A2-1<GEC>									
	秋学期	German III 51 <国際教養>									
A2-2	春学期	German IV 01 <国際教養>									
	秋学期	ドイツ語総合基礎 A2-2<GEC>									
A2	春学期			ドイツ語コミュニケーション (基礎) <GEC>			ドイツ語で表現する5 (中級の会話・作文) <文> ドイツ語で表現する7 (中級の会話・作文) <文> ドイツ語で表現する9 (中級の会話・作文) <文> ドイツ語コミュニケーションI <人科> ツールとしてのドイツ語V<教養>	ドイツ語圏の社会と言語 I <人科>	テーマで読むドイツ語1 <文> テーマで読むドイツ語5 <文> テーマで読むドイツ語7 <文> テーマで読むドイツ語8 <文>		
	秋学期	Intensive German II 51 <国際教養>				ドイツ語で表現する6 (中級の会話・作文) <文> ドイツ語で表現する8 (中級の会話・作文) <文> ドイツ語で表現する10 (中級の会話・作文) <文> ドイツ語コミュニケーションII <人科>		テーマで読む ドイツ語9 <文>	テーマで読むドイツ語2 <文> テーマで読むドイツ語3 <文> テーマで読むドイツ語4 <文> テーマで読むドイツ語6 <文>		
A2→B1	春学期							ドイツ語選択：時事 ドイツ語 (上級) A1 <商>	ドイツ語圏文化A <人科> ドイツ語をじっくり読む1 <文> ドイツ語をじっくり読む5 <文> ドイツ語をじっくり読む7 <文>	ドイツ語選択：ドイツ文化研究 (上級) A1 <商>	
	秋学期			ドイツ語コミュニケーション (基礎) <GEC>				ドイツ語選択：時事 ドイツ語 (上級) B1 <商>	ドイツ語圏文化B <人科> ドイツ語をじっくり読む2 <文> ドイツ語をじっくり読む3 <文> ドイツ語をじっくり読む4 <文> ドイツ語をじっくり読む6 <文> ドイツ語をじっくり読む8 <文>	ドイツ語選択：ドイツ文化研究 (上級) B1 <商>	
B1→B2	春学期	独語実践演習 I (政経) 独語上級 (留学準備) 1 (法)		ドイツ語コミュニケーション (応用) <GEC>	アカデミックリテラ シー演習 (ドイツ語 で学ぶ) コソボの 現代社会) 01 <政経>				独語上級I <基礎理工>		
	秋学期	独語実践演習 II (政経) 独語上級 (留学準備) 1 (法)			アカデミックリテラ シー演習 (独語で学ぶ 社会文化) 01 <政経>				独語上級II <基礎理工> ドイツ文化(研究・基礎理工)		
B2	春学期	独語上級 (総合) 1 (法)		ドイツ語コミュニケーション (上級) <GEC>							
	秋学期	独語上級 (総合) 1 (法)			ドイツ語テレビス 会議 (言語・文化) <GEC> ドイツ語テレビス 会議 (生活・社会) <GEC>						
B2→C1	春学期	独語実践演習 III A (政経)									
	秋学期	独語実践演習 III B (政経)									
C1	春学期										
	秋学期										

ドイツ語到達目標の互換
ドイツ語を学習するにあたって、学生が明確な目標を設定し、自分の能力をその程度位置づけることができるようにするため、到達目標は欧州評議会制定の共通参照レベルに準拠しています。以下、大学でドイツ語の学習を開始する場合のおおむねの目安を記します。

A1：一年次春学期および一年次秋学期

A2：二年次春学期および二年次秋学期

B1：三年以上、B1のレベルに到達し「Goethe-Zertifikat B1/ ÖSD Zertifikat B1」に相当する実力を得た者は、提携校への交換留学が可能になる。

※一部の科目は2025年度休講になっていきます。

2026年度 フランス語 全学オープン科目マップ

レベル	学期	総合（資格試験対策を含む）				文章読解	口頭表現・作文	授 業 内 容										
		フランス語 総合基礎 A1-1_01 (A1前半) (GEC)	フランス語 総合基礎 A1-2 (A1後半) (GEC)	フランス語 総合基礎 A2-1 (A2前半) (GEC)	フランス語 総合基礎 A2-2 (A2後半) (GEC)			文化、社会、歴史、文学	文化、社会、歴史、文学	文化、社会、歴史、文学	文化、社会、歴史、文学							
A-1 (初級： おおむね1年 次に該当)	春学期		仏語（初級） I入門 (政経)	フランス語で 表現する1 (会話初級) A B (文)														
	秋学期		仏語（初級） II入門 (政経)	フランス語で 表現する3 (作文初級) A B (文)			フランス語 の社会と 言語 I 01 (人科)											
A-2 (準中級： おおむね2年 次から2年次 に該当)	春学期		フランス語 コミュニケーション I 01 (人科)	フランス語で 表現する6 (会話初級) A B (文)			フランス語 の社会と 言語 II 01 (人科)											
	秋学期		フランス語 コミュニケーション II 01 (人科)	フランス語で 表現する8 (作文初級) A B (文)			フランス語 の社会と 文化論A01 (人科)											
B-1 (中級： おおむね2年 次から3年次 に該当)	春学期		フランス語 の資格を めざす2 (中級) (文)	フランス語で 表現する2 (会話中級) A B (文)			フランス語 の社会と 文化論A01 (人科)											
	秋学期		フランス語 の資格を めざす4 (中級) (文)	フランス語で 表現する4 (作文中級) (文)			フランス語 の社会と 文化論B01 (人科)											
B-2 (上級)	春学期		仏語上級 I (基礎理工)	フランス語で 表現する5 (会話・作文総合) (文)			フランス語 の資格を めざす5 (高度な読 解力の養 成) (文)											
	秋学期		仏語上級 II (基礎理工)	フランス語で 表現する10 (会話・作文総合) (文)			フランス語 の資格を めざす10 (高度な読 解力の養 成) (文)											

* 文学部設置科目は、本マップに掲載されていないオープン科目も数ありますので、各学部提供科目一覧のページもご参照ください。
 ** 左側のA-1、A-2、B-1、B-2は欧州連合による共通参照レベル。A-基礎段階の言語使用者 B-自立した言語使用者 C-熟達した言語使用者を参照のこと。
 * 以下は、各レベルについて、主に会話能力を中心にした説明。書く能力、読解能力については会話能力の説明に準じる。詳しくは、ネットなどで欧州連合の言語共通参照枠を参照のこと。
 A-1: 日常の具体的な必要性を満足させるための基本的な表現を理解し、用いることができる。
 A-2: ごく基本的な個人や家族の話題、あるいは買い物、仕事など直接自分に関わりのある身近な話題について、標準的な話し方であれば概ね理解し、用いることができる。
 B-1: 仕事、学校、娯楽に関する取り上げられる身近な話題について、標準的な話し方であれば母語話者より取りがりができるくらい流暢かつ自然に話せる。
 B-2: 自分の専門分野の議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題が理解できる。「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」能力を総合的に学習。日本人講師がフランス人講師が組んで、文法や表現を学ぶためだけでなく、話す・書くためのスキルとして教える。
 ** グローバル・コミュニケーション・センター開設科目「総合」では、「読む」、「聞く」、「話す」、「書く」能力を総合的に学習。（ただし履修についてはシラバスを参照のこと）
 [注1] これらは教職課程科目としてもおこなわれているが、普通に変講可能（ただし履修についてはシラバスを参照のこと）
 [注2] レベルが複数にまたがるので、上記のように表示されている。
 [注3] 2026年度は休講。

2026年度 中国語 オープン科目マップ

レベル	学期	授業内容										検定試験対策 科目															
		チュートリアル	リスニング、スピーキング、プレゼンテーション	会話	プレゼンテーション	ヒアリング	スタンダード	総合的インテンシブ	リーディング、ライティング、翻訳	中国語による講義科目	PC使用による自学科目																
初級	初級1 (中国語を初めて学ぶ人)																										
	初級2 (週2コマ 半年程度 学んだ人)																										
準中級	準中級1 (週2コマ 1年程度学んだ人)																										
	準中級2 (週2コマ 1年半程度学んだ人)																										
中級	中級1 (週2コマ 2年程度学んだ人)																										
	中級2 (週2コマ 2年半程度学んだ人)																										
中上級	中上級1 (週2コマ 3年程度学んだ人)																										
	中上級2 (週2コマ 3年半程度学んだ人)																										
上級	上級1 (中国語で自己表現できる人)																										
	上級2 (中国語で自己表現できる人)																										

注記：「通年」は1年間の科目、「春学期」「秋学期」は春学期科目、「秋学期」は秋学期科目、「春学期」は春学期と秋学期にそれぞれ同一内容の科目が開講されることを示す。

2026年度 スペイン語 全学オープン科目マップ

学部	学期	科目名	レベル			授業内容												
			初級	中級	上級1	上級2	導入	基礎力養成	文章表現	口頭表現	ヒアリング	時事	文学・芸術・歴史	文庫語解	文化地誌	読解法		
政治経済学部	春	西語実践演習Ⅰ 01			○													
		西語実践演習ⅢA 01																
	秋	西語(初級)Ⅰ 入門	○															
		西語実践演習Ⅱ 01																
文学部	春	西語実践演習ⅢB 01																
		政治学スペイン語文献研究																
		アカデミックリテラシー演習(スペイン語で学ぶ政治経済)																
		スペイン語中級(コミュニケーションカアップ)Ⅰ	○															
		スペイン語中上級(ニュースで学ぶ)Ⅰ	○															
	秋	スペイン語で学ぶスペイン語圏の世界(上級スペイン語)Ⅰ	○															
		スペイン語中級(会話)Ⅰ	○															
		スペイン語中上級(検定試験をめざす)Ⅰ	○															
		Intermediate Spanish (Integrated Skills) 1	○															
		Advanced Spanish: Language in context 1	○															
教育学部	春	スペイン語中級(文化を知る)Ⅰ	○															
		スペイン語中上級(ニュースで学ぶ)Ⅱ	○															
		スペイン語で学ぶスペイン語圏の世界(上級スペイン語)Ⅱ	○															
		スペイン語中級(会話)Ⅱ	○															
		スペイン語中上級(検定試験をめざす)Ⅱ	○															
	秋	Intermediate Spanish (Integrated Skills) 2	○															
		Advanced Spanish: Language in context 2	○															
		スペイン語中級(文化を知る)Ⅱ	○															
		ツールとしてのスペイン語V																
		時事スペイン語Ⅰ																
社会科学部	春	スペイン語コミュニケーションAⅠ																
		スペイン語圏の文化と言葉Ⅰ																
	秋	スペイン語コミュニケーションBⅠ																
		スペイン語・地域研究演習Ⅰ																
人間科学部	春	スペイン語・地域研究演習Ⅱ																
		スペイン語コミュニケーションⅠ 01																
		スペイン語コミュニケーションⅠ 02																
		スペイン語コミュニケーションⅠ 03																
	秋	スペイン語圏の社会と言語Ⅰ 01																
		スペイン語圏社会文化論A 01																
		スペイン語コミュニケーションⅡ 01																
		スペイン語コミュニケーションⅡ 02																
国際教養学部	春	スペイン語コミュニケーションⅡ 03																
		スペイン語圏の社会と言語Ⅱ 01																
		スペイン語圏社会文化論B 01																
	秋	Intensive Spanish I																
		Intensive Spanish II																
		Spanish III																
基幹理工学部	秋	Intensive Spanish I																
		Intensive Spanish II																

【レベル】 初級：1年生相当 中級：2年次以上相当 上級1：2年次以上相当 上級2：3年次以上相当

2026年度 ロシア語 全学オープン科目マップ

レベル	学期	授 業 内 容				視聴覚	留学/大学院 進学準備	
		文字・ 発音	文 法	作 文	会 話			
初級： (おおむね、 1年生に 該当)	春学期	入門ロシア語 1 (文)						
		露語初級 I 入門 (政経)			Russian I 51 (国際教養)			
	秋学期	入門ロシア語 2 (文)						
		Russian I 51 (国際教養)						
通年	ロシア語の基礎 A・B (教育)			ロシア語のコミュニケーションの 基礎 A・B (教育)				
中級： (おおむね、 2年生に 該当)	春学期	練習問題で マスターする ロシア語 1 (文)		ロシア語で 表現する 1 (文)	ロシア語を 読む 1 (文)			
		Russian II 01 (国際教養)		ロシア語で 表現する 7 (文)	Russian II 01 (国際教養)			
	秋学期	練習問題で マスターする ロシア語 2 (文)		ロシア語で 表現する 4 (文)	ロシア語を 読む 2 (文)		ロシア語で 鑑賞する 1 (文)	
通年								
中・上級： (おおむね、 3年生に 該当)	春学期			ロシア語力を 磨く 2 (文)	ツールとして のロシア語 III (教育)	ロシア語演習 III (教育)	アカデミックリテ ラシー演習 (現代ロシア論) 01 (政経)	ロシア語を 読む 3 (文)
						露語実践演習 I (政経)	政治学 ロシア語文献 研究 01 (政経)	ロシア語力を 磨く 6 (文)
	秋学期			ツールとして のロシア語 V (教育)	ロシア語力を 磨く 4 (文)	ロシア語演習 IV (教育)	露語実践演習 II (政経)	ロシア語を 読む 4 (文)
						ロシア語演習 V (教育)		
通年								

2026年度 朝鮮語 全学オープン科目マップ

レベル	学期	総合（発音・文法・表現・読解など）		会話		その他		海外研修
		GEC	文学部 文化構想学部	国際教養学部	GEC	文学部 文化構想学部	文学部 文化構想学部	
入門 初級	春学期	朝鮮語（入門）	#1年朝鮮語 (Step 1・2) (週4コマ、1年間で中級 前半レベルまで履修)	Korean I Korean II	GEC	#第三外国語としての 朝鮮語 初級1	文学部 文化構想学部	海外研修
				Intensive Korean (週3コマ、1学期で 入門・初級を履修)				
進中級 中級	秋学期	朝鮮語（初級）	#朝鮮語 中級 (中級後半レベル)	Korean I Korean II	GEC	#第三外国語としての 朝鮮語 初級2	文学部 文化構想学部	海外研修
	春学期	朝鮮語（準中級）		Intensive Korean (週3コマ、1学期で 入門・初級を履修)				
中上級	秋学期	朝鮮語（中級）	#朝鮮語 中級 (中級後半レベル)	Korean III Korean IV	GEC	朝鮮語会話 (中級後半レベル)	文学部 文化構想学部	海外研修
	春学期	朝鮮語（中級）		Korean III Korean IV				
上級	秋学期	現代韓国を理解する 朝鮮語 読解 (中上級)	#朝鮮語 中上級 (中上級前半レベル)	現代韓国を理解する 朝鮮語会話 (中上級)	GEC	朝鮮語会話 中上級2	文学部 文化構想学部	海外研修
	春学期	朝鮮語 (上級) (最上級レベル)						
上級	秋学期	朝鮮語 (上級) (最上級レベル)	※朝鮮語 上級2	朝鮮語会話 上級2	GEC	朝鮮語会話 上級2	文学部 文化構想学部	海外研修
	春学期	朝鮮語 (上級) (最上級レベル)						

1. #印は全学オープン科目ではないため、科目を設置している学部の学生のみ履修可能です。ただし、「1年朝鮮語」を除き、定員に余裕がある場合に限り他学部生の3次登録が可能です。

2. 国際教養学部の「KOREAN」Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・ⅣはそれぞれGEC（グローバル・エデュケーション・センター）の「入門」「初級」「準中級」「中級」レベルに相当します。なお、国際教養学部は春学期/秋学期の区別にかかわらず毎学期「KOREAN」ⅠからⅣまでの授業が開設されます。

3. ※印の上級科目のうち、GECの「朝鮮語（上級）」は、1年間の韓国交換留学経験者およびそれに相当するレベルの学生を対象とする最上級科目です。また、文学部・文化構想学部の「朝鮮語上級1、2」は学内中級・中上級履修済みの方、短期語学研修経験者レベルの学生を対象としています。

4. *印のAPM科目は授業は朝鮮語（韓国語）で行われますが、英語資料が用いられることがあります。

5. 毎年12月には朝鮮語の講師の方々と協力して2006年から「朝鮮語スピーチコンテスト」を行っています。大勢の学生の参加を期待しています。

GECでは言語レベルに沿った履修のため、入門・初級・進中級・中級レベルにおいて、授業開始後に担当教員がレベルに合っていないと判断した場合に、授業開始後であっても、中上級・上級クラスへの変更を指示する場合があります。

7. 保健体育科目

GEC では、健康スポーツを体系的に学び、スポーツの実践、チームワークやルールの遵守、対人コミュニケーション能力の向上を通じて、心身の健康を増進させ豊かな人間性を滋養する以下の「保健体育科目」を開講しています。

科目区分		学期	備考
スポーツ実習 I または II	保健体育実技科目 (1 単位)	春学期 秋学期	週 1 回の 100 分授業を 14 回、各体育施設で行います。
	シーズン実技科目 (1 単位)	夏シーズン 冬シーズン	学期中の「基礎授業」および夏季・春季休業期間の「合宿(日帰り)授業」を学外施設で行います。
	体育各部科目 (2 単位)	通年	部員として登録した年度の部活動への取り組みを評価します。体育各部の部員以外は登録できません。
スポーツ理論 (1 単位)		春・夏・秋・冬 クォーター	週 1 回の 100 分授業を 7 回、各教室またはオンラインで行います。

【1】実験実習料の納入について

スポーツ実習科目は科目登録決定後に実験実習費を納入する必要があります。納入がない場合、履修が認められません。

登録学期	納入対象科目	納入期間
春学期登録	保健体育科目 (1 次～3 次登録科目)	4 月 23 日 (木) ～4 月 27 日 (月) 23 : 59
秋学期登録	保健体育科目 (1 次～3 次登録科目)	10 月 14 日 (水) ～10 月 19 日 (月) 23 : 59



- ・上記期間外の納入は一切受け付けられません。未納の場合、決定科目の履修が認められないばかりか、その後の科目登録において抽選の順位が下がることがあります。
- ・聴講料・実験実習料は納入案内メールに記載された合計金額をすべて納入してください。一部の科目の聴講料・実験実習料のみの納入や分納はできません。詳細は 14 ページを参照してください。

【2】履修希望者僅少を理由とする休講について

スポーツ実習科目は 1 次登録の履修希望者が 2 名以下の場合、休講となります。登録結果通知では「希望者僅少科目となつたため登録不可」と表示されます。

【3】教場について

科目一覧のキャンパス欄、Web シラバスの教場、移動時間等も確認した上で科目登録をしてください。

(保健体育科目(東伏見・上石神井など)の前後に科目登録をしていると遠距離エラー(9 ページを参照)となる場合があります。)

【4】健康診断受診について

「水泳」の授業を受けるには、科目登録をした年度の「**学生定期健康診断結果(当年度)**」(MyWaseda から出力)と「**心電図検査結果**」を担当教員に提出することが必要です。大学では、学校保健安全法に基づき毎年 4 月に「学生定期健康診断」を実施しています。保健管理室から案内がありますので、**必ず受診**してください。

「心電図検査」(有料)は保健管理室で受診することが可能です。

詳細は、早稲田大学保健管理室の HP [保健管理室\(健康診断・感染症\)](#) 一早稲田大学 [保健センター\(waseda.jp\)](#) から確認してください。

授業開始までに検査結果が間に合わない場合でも、健康診断と心電図検査を受診のうえ、受講上支障がなければ授業に参加可能です。検査結果が出次第、担当教員に提出してください。

ただし、**両検査を未受診と確認できた場合には、その時点で授業参加を不可とします。**

また、他の医療機関による健康診断等で代用する場合は、担当教員から「所定用紙」を受け取り、医療機関で証明を受けたものを提出してください。

(参考) 学生早健会の健康診断補助費給付について [健康診断補助費給付一早稲田大学 学生生活課\(waseda.jp\)](#)

【5】体育各部科目について

体育各部の部員のみ登録が可能です。「**科目登録した年度の部活動**」が評価の対象となります。登録は「体育各部 1 年目(〇〇部)」、「体育各部 2 年目(〇〇部)」の順に行ってください。本科目は通年科目ですので春学期の科目登録期間中に登録をしてください(秋学期には科目登録できません)。また、留学や休学をする場合、履修保留・継続履修することが可能です。詳細は 11 ページを参照してください。

【6】教育職員免許状取得を希望する方へ

「教育職員免許状取得」に必要な「体育（実技）」の単位は、「スポーツ実習Ⅰ」または「スポーツ実習Ⅱ」に該当する科目を合計で2単位以上修得する必要があります。（「スポーツ実習Ⅰ」を2科目履修し、合計2単位修得でも可。）疾病または障がい等によりスポーツ実習の履修が困難な方は、必ず履修予定学期の1次科目登録期間の前までに余裕をもって、GEC Web ページの「お問い合わせ」からご連絡ください。

【7】シーズン実技科目について

科目登録について

※「基礎授業」・「合宿授業（日帰り授業）」は全て出席することが必要です。

・登録前に自身の授業日程・都合、学部行事等との重複がないか十分確認してください。

・シーズン実技科目の単位を卒業・教育職員免許状取得に必要な単位として予定している方は、他の科目も併せて履修する等取得単位に余裕を持った計画を立ててください。



「基礎授業」

シーズン実技の安全対策を学ぶ重要な授業です。

欠席した場合→「合宿授業（日帰り授業）」の参加が認められず、成績も原則不可（F）となります。

※シーズン実技を複数登録し、基礎授業日時が重なる場合は、GEC ホームページ「お問い合わせ」からご連絡ください。

「合宿授業（日帰り授業）」

実技を履修する授業です。

費用について

・実験実習料

45 ページに記載の所定の日程で納入する必要があります。納入後は、基礎授業への出席の有無に関わらず、返金することはできません。



・合宿参加費

基礎授業実施後に納入する必要があります。なお、下表の記載は予定額であり、金額は変動する可能性がありますので、予めご了承ください。金額に変更がある場合には、基礎授業時にご案内します。

その他について

・現地の天候・災害・感染症蔓延状況等により、休講とする場合があります。

・慢性疾患等、健康に注意を要する方は主治医と相談の上、慎重に科目登録を検討してください。



★シーズン実技（夏）「基礎授業」の教室は決定次第、登録決定者にご連絡します。

科目クラス名	担当	授業日程		教場/宿舎	実験実習料	合宿参加費(予定額)
		基礎授業	合宿/日帰り授業			
ワンダーフォーゲル	渡辺	6/20 (土) 10:40~12:20 早稲田キャンパス教室	8/31 (月)、9/1 (火) 9/3 (木)、9/4 (金)	東京近郊 (日帰り) ※詳細はシラバスで確認	4,000	10,990
ヨット	風間	6/20 (土) 10:40~12:20 早稲田キャンパス教室	7/31 (金)、8/3 (月)、 8/4 (火)、8/5 (水)	葉山教場 (日帰り)	45,000	0
ゴルフ (コース) 基礎	土屋	6/20 (土) 10:40~12:20 早稲田キャンパス教室	7/30 (木)、7/31 (金) 8/4 (火)、8/5 (水)	高坂カントリークラブ (日帰り)	4,000	22,000 昼食付
馬術 (集中実技)	倉田	6/20 (土) 10:40~12:20 早稲田キャンパス教室	(4限・5限) 8/1 (土)、8/18 (火) 8/20 (木)、8/22 (土) (3限・4限・5限) 8/25 (火) 8/28 (金)	東伏見馬場 (日帰り)	35,000	0
自動車 01	草鹿	2026年度休講				
自動車 02	中島	2026年度休講				
山岳 基礎	中山	2026年度休講				

★シーズン実技（冬）

科目クラス名	担当	授業日程		教場/宿舎	実験実習料	合宿参加費(予定額)
		基礎授業	合宿授業			
スキー 01	倉田	2026年度休講				
スキー 02	岡田	2026年度休講				
スケート	吉野	2026年度休講				

スポーツ実習科目の教場

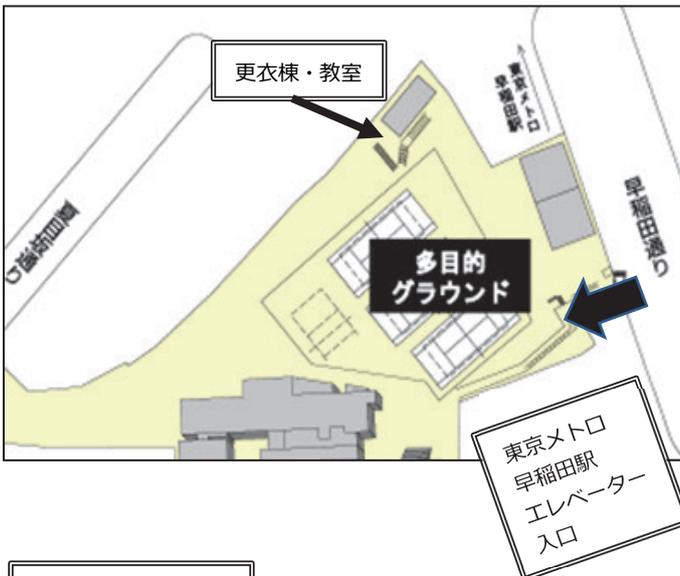
早稲田キャンパス



スポーツ実習科目

柔道、剣道、合気道、空手、卓球、
 ヨガ、ピラティス、フェンシング、
 ウェイトトレーニング、エアロビック、
 ストレッチング、ダンス、バレエ、
 フィットネス、レスリング、
 複合スポーツなど

喜久井町キャンパス（東京メトロ早稲田駅至近）



スポーツ実習科目

ソフトボール、ソフトテニスなど

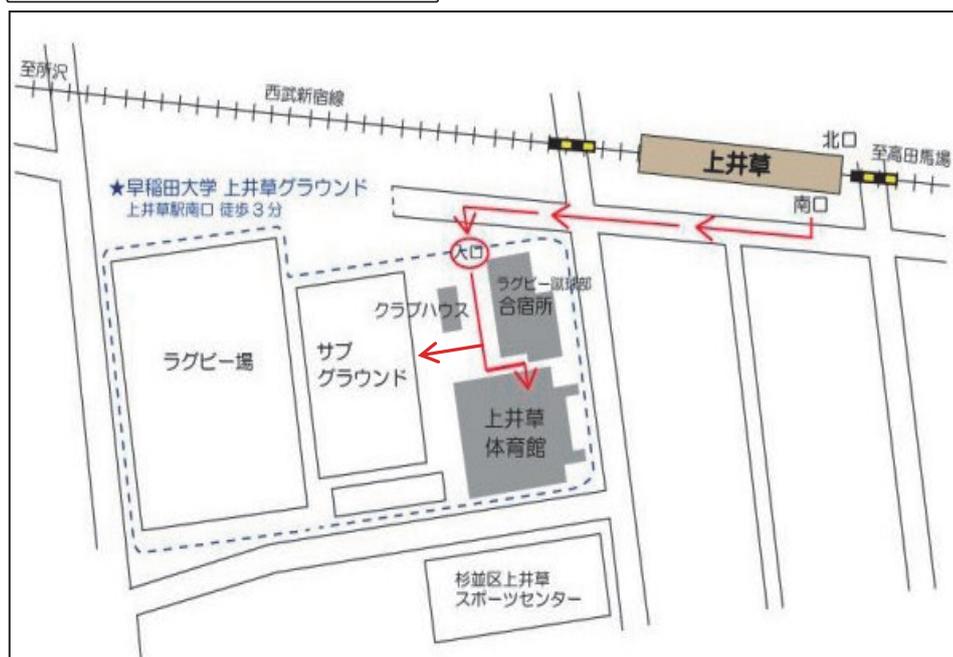
戸山キャンパス



スポーツ実習科目

【早稲田アリーナ】
 バスケットボール、バレーボール、
 バドミントン、カバディ
 【高石記念プール】
 水泳

上井草キャンパス（ラグビー）



8. 自然科学科目

自然における諸現象を扱い、その原理や法則性を解明する物理・化学系、生物系、地球科学系、複合系、自然地理系、医療・健康系といったカテゴリに属する科目を提供しています。

授業形態も講義だけでなく、実験や実習（フィールド調査など）を行う科目もあり、文理系の枠にとらわれずに、自然科学の素養を身につけ、実際に触れることができるようになっています。

「自然科学系科目マップ」

2026年度 自然科学系 全学オープン科目マップ

自然科学系科目は、大きく6つの領域に分類されます。

領域 分野コード (大分類)	物理・化学系		生物系		地球科学系		複合系		自然地理系		医療・健康系	
	科目名称	設置 箇所	科目名称	BIO, ENV, HUM	科目名称	設置 箇所	科目名称	PLN, ENV, HUM, ANT, GEN	科目名称	設置 箇所	科目名称	設置 箇所
入門・初級	○身近な化学への招待 (導入) 01, 02	GEC	生命科学概論01, 02	GEC	カーボンニュートラル技術概論 α, β (学部生用)	GEC	環境科学基礎講座 1, 2	GEC	自然地理学 1	文学	地域医療学概論 (2026年度：隔年休講)	GEC
	○身近な物理 (入門)	GEC	○生物と環境	GEC	地球生命史	教育	宇宙を考える1-自然科学、社会科学 学を結びつける宇宙への視点-	GEC	自然地理学 2	文学	先端ロボティクスと医療 (2026年度：隔年開講)	GEC
	○身近な物理	GEC			化石の科学	教育	学術・研究公正概論01, 02 (生命・理工系) (学部生用)	GEC	地誌 1	文学		
	○物理学 I	法学			太陽系の起源と地球の テクトニクス	教育	自然人類学 IA, IB	教育	地誌 2	文学		
	宇宙の物理学	教育			岩石から読み解く地球の活動	教育	自然人類学 IIA, IIB	教育	地理学 III (自然環境と風土)	教育		
	物理学 I-1, I-2	教育			地球の起源	教育			地理学 IV (風景の科学)	教育		
	○生活の化学	教育			地球システムと環境問題	教育						
	化学 II	教育										
	○身近な化学への招待 (発展) 01, 02	GEC	環境の生物学	教育			科学史・科学哲学	人科				
			動物の機能 I (神経系、循環系)	教育			バイオエシックス	人科				
中級			動物の機能 II (生態、行動)	教育								
			細胞機能の生物学	教育								
			脳の間脳科学	人科								
			現代の生命科学	人科								
			生命科学のための体のしくみと働き	人科								
			Human Biology 51	国教								

- は実験・実習を伴う科目。
- 分野コードは Web シラバスの検索画面で選択できます。
- 領域、分野コードはあくまでも目安となります。授業内容の詳細は、必ずシラバスをよく読んで、確認してください。

9. 人文・社会科学科目

人文科学や社会科学に分類される多種多様な分野をカバーしており、200以上の科目が開講されています。学部や学年に関係なく、自分の専門分野以外の学びに触れて考え方に幅を持たせたり、将来の進路や興味や関心にあわせて科目を履修したりして、社会で役立つ「真の教養」を身につけましょう。

10. 日本語教育科目

日本語教育学を幅広く体系的に学びつつ、日本語を教えるとはどのようなことなのかを学ぶことができる科目を開講しています。これらの科目を通じて、自分自身が日本語と日本語が使用されるコミュニティに関してより深く考えるきっかけとなるでしょう。

海外留学、異文化コミュニケーション、国際交流、ことば、日本語、日本語教育に関心があれば、はじめに日本語教育学を幅広くわかりやすく学習できる「日本語教育学入門」を履修することを推奨します。

11. 人間的力量科目

人間的力量とは、どの分野であっても、周囲の人々の幸福の実現を目指す強い意思を持ち、多様な価値観や文化的背景を持つ人々を一つにまとめ上げ、そこにいる人々の心を動かし、リードしていく力です。地球上のどの地域に行っても、そこに溶け込みサバイヴし、その地域社会の価値観を学び、その結果自分の故郷や行った先の地域社会や国、さらに国際機関・企業を通して国際社会に貢献することでもあります。大隈重信の言葉である「一身一家一国のためのみならず、進んで世界に貢献する抱負が無ければならぬ」に象徴されるような高い視座のもと、多種多様な形で活躍できる人材の育成を目指し、GECでは、「キャリアデザイン入門」（フルオンデマンド）を2026年度より新設するなど、人間的力量を伸ばす多様なプログラムを、理論と実践を組み合わせ提供しています。

「人間的力量育成マップ」

「人間的力量育成マップ」は、あなたがより効果的に成長できるよう、科目選択をサポートします。このマップでは、基礎から発展まで、あなたの成長段階や興味に合わせて科目を選ぶことができるよう、主な人間的力量育成科目の狙いをわかりやすく可視化しました。さらに、GECの科目群に加えて、関連する主な課外教育プログラムもマッピングし、理論と実践を行き来しながら自己成長を実感できる学びの道筋を提供しています。

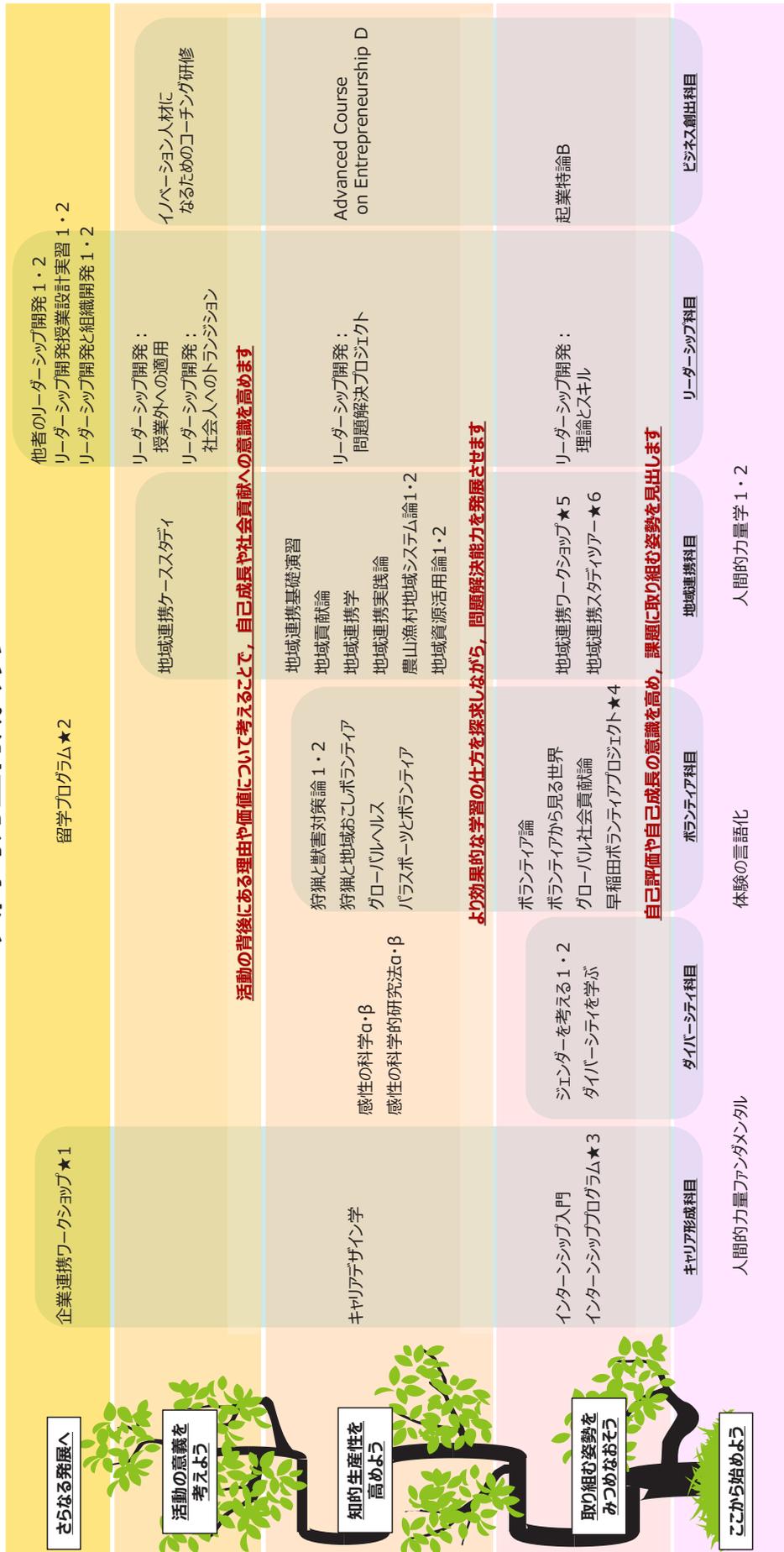
このマップ（次頁）では、主要な「人間的力量育成科目」と「課外教育プログラム」が可視化されています。科目名の右に★印がついているものは、課外教育プログラムです。学生の自主性を尊重しつつ安心安全に実践的アプローチのできる場を提供し、学生の成長を目的とした大学（教職員）が深く運営に関わる課外活動です。脚注にある各箇所のURLから詳細を確認してください。

まずは、興味を引く科目を見つけ、その科目がどのような成長を促す狙いを持っているのかを確認しましょう。それが今のあなたに必要な成長を支えるものであれば、その科目から始めてみることをおすすめします。必ずしも下段に位置している科目から始める必要はありません。興味のあるところから始めましょう。ただし、履修登録の際には必ずシラバスで履修条件を確認してください。もし、すでに履修した科目があれば、同じ狙いに位置する他の科目や、その上下にある基礎・発展的な科目にも注目しましょう。より深い学びを追求することも、基礎を固めることも、あなた自身の成長に応じて自由に選択できます。また、同じ狙いに位置する他のテーマの科目も履修することで、さらに広い視野を持った学びが得られます。

「人間的力量育成マップ」を活用し、あなたの成長ストーリーを描きながら、未来の自分を創り上げていきましょう。

人間的力量育成マップ

※2025年夏時点の情報です。



注：★印は課外教育プログラムです。学生の自主性を尊重しつつ安心安全に実践的アプローチの成長を目的とした大学（教職員）が深く運営に関わる課外活動です。単位は付与されません。
 ★1 GCCオフィス <https://www.waseda.jp/inst/sr/students/propro/> ★2 留学センター <https://www.waseda.jp/inst/cie/from-waseda/abroad>
 ★3 キャリアセンター <https://www.waseda.jp/inst/career/students/programlist/> ★4 WAVOC <https://www.waseda.jp/inst/wavoc/project/wavopro/>
 ★5 GCCオフィス <https://www.waseda.jp/inst/sr/students/region/> ★6 GCCオフィス <https://www.waseda.jp/inst/sr/news/2025/05/01/5887/>

※2025年度夏編

II. 留学センター科目概要・注意事項

留学センター提供科目は、大きく分けて以下の科目群に分類されます。

1. グローバル科目 (Global Courses)
2. 海外研修科目 (Short Study Abroad Courses)

ここでは、科目群の概要や注意事項を紹介します。科目登録の前によく確認し、自分の興味ある科目を選ぶようにしましょう。科目の内容など詳細は、Web シラバスで確認できます。



留学センター提供科目の最新情報は、**留学センターWeb ページ (<http://www.waseda.jp/inst/cie/course/class>) に随時掲載します。**科目登録期間中は定期的に確認しましょう。

※留学センター提供科目の履修対象者は、学部生（科目等履修生を除く）のみとなります。

1. グローバル科目

グローバル社会で活躍できる力を身につけることを目的とし、海外の学生とともに授業を本学で履修するサマーセッション科目、海外大学からの教員を招へいして実施する「International Japanese Studies」の科目など、独自の科目を学部生に提供しています。講義は主に英語で行われます。

2. 海外研修科目

語学研修、テーマ研究、異文化体験を中心とした「海外研修科目」は、早稲田大学の海外協定大学等の機関において、言語・文化・社会などについて短期集中的に学習する内容となっています。実際に海外に身を置き、プログラム所定の課題に取り組むことを通じて異文化や国際社会の多様化に触れ、実践的なコミュニケーションのスキルと適応力を習得すること、そして、これらの能力をもって自らの視野と可能性を国際的に広げることを目標とした科目です。

【海外語学・文化研修プログラムの注意事項】

「海外語学・文化研修プログラム」は、留学センターが実施する「夏季・春季短期留学プログラム」への参加が決定した学部生が、プログラム修了に加えて所定の課題を提出し単位修得を希望する場合に登録する科目です。

1) 2026 年度プログラム申込受付について

- ・申込みにあたっては、申込方法説明動画（夏季短期プログラムは 2026 年 4 月末公開予定、春季短期プログラムは 2026 年 10 月末公開予定）を視聴してください。詳細は留学センターWeb ページにてご案内します。
- ・2026 年度のプログラムガイド、日程、研修費、参加制限などの詳細情報は、留学センターWeb ページにて、夏季短期プログラムについては 4 月中旬、春季短期プログラムについては 10 月上旬より公開予定です。

2) 科目登録について

- ・「学部学生」のみ登録可能です。（科目登録をせず、プログラムとしてのみ参加することも可能です。）ただし、以下の場合は「学部学生」の場合でも、登録を受け付けることはできません。
夏季短期プログラム：①2026 年 9 月卒業を予定している方、②2026 年度秋学期から休学する方
春季短期プログラム：①2027 年 3 月卒業を予定している方、②2027 年度春学期から休学する方
- ・登録は、下記のとおり履修申請を行ってください。
夏季短期プログラム参加者：2026 年 6 月中旬に MyWaseda の申請フォームより履修申請
春季短期プログラム参加者：2026 年 12 月中旬～2027 年 1 月下旬に MyWaseda の申請フォームより履修申請
- ・登録後のキャンセルは原則として認められません。
- ・登録単位と成績については以下のとおりです。単位の取扱いの詳細は所属学部にご確認ください。
夏季短期プログラム：「夏秋期」科目であるため、登録単位は 2026 年度秋学期の登録制限単位数に含まれ、成績は 2026 年度秋学期末に発表されます。
春季短期プログラム：「春学期」科目であるため、登録単位は 2027 年度春学期の登録制限単位数に含まれ、成績は 2027 年度春学期末に発表されます。

III. The Center for International Education Courses/Precautions

The Center for International Education's courses are categorized into two courses groups.

1. Global Courses

2. Short Study Abroad Courses

We will be introducing the synopsis and precautions for course groups. Please check thoroughly before registering for the courses, so that you can choose the course that matches your interests. For further information on the courses, please check the Syllabus System.



For the latest information on the Center for International Education courses, updates will be posted on the Center for International Education web site (<http://www.waseda.jp/inst/cie/en/course/class>). It is recommended that you check the site regularly during the course registration period.

※Only undergraduates are permitted to take the Center for International Education courses (non-degree students excluded).

1. Global Courses

The purpose of the courses is to acquire the skills that are necessary to play an important role in the globalizing society. There are unique courses to be offered for undergraduate students such as "Summer Session", which Waseda students take courses at Waseda University together with students from overseas universities as well as "International Japanese Studies", which courses are conducted by faculty from overseas universities. Most of courses are conducted in English.

2. Short Study Abroad Courses

"Short Study Abroad Courses" focuses on language training, theme research, and cross-cultural experiences. It is a part of Waseda University's overseas partner university system, and is an intensive short-term study of language, culture, society, etc. One purpose of this course is to touch upon the diversity of foreign cultures and the international society through physically being overseas, and engaging in subjects specified by the program. Another purpose is to acquire practical communication and adaptability skills, widening perception and possibilities internationally.
[Foreign Language and Cultural Training Program]

"Foreign Language and Cultural Training Program" is a course for students confirmed to enroll in Center for International Education's "Summer or Spring Short-term Study Abroad Program." This course is to be registered when you desire to acquire credits by submitting assignments, in addition to completing the program.

1) School year 2026 program recruitment

-Please watch the Summer Short-term Study Abroad Program recruitment briefing video (released in April, 2026), and Spring Short-term Study Abroad Program recruitment briefing video (released in October, 2026).

-Information on the school year 2026's recruitment requirements, dates, training expenses, etc, will be posted on the website of the Center for International Education in the middle of April for Summer program and at the beginning of October for Spring program.

2) Course registration

-Only Undergraduates may take this course (Participation in only the program, without course registration, is possible). You may not take the course, however, if the following applies:

Summer Short-term Study Abroad program

[1] You plan to graduate in September, 2026, [2] You plan to take a leave of absence in the fall semester of the 2026 school year

Spring Short-term Study Abroad program

[1] You plan to graduate in March 2027, [2] You plan to take a leave of absence in the spring semester of the 2027 school year

-Please register the course in the following way.

Summer Short-term Study Abroad program:

"MyWaseda registration form" in the middle of June, 2026

Spring Short-term Study Abroad program:

"MyWaseda registration form" from middle of December, 2026 to the end of January, 2027

-Cancellation after the registration is not accepted in principle.

-Registered credits and Grades are treated as follows. Please confirm the detail of how the credits will be counted in your school at your affiliated school's office.

Summer Short-term Study Abroad program:

Since this is a “Summer-Fall Course (treated as fall semester)”, the registered credits are included in the registered credit limit of the fall semester in the 2026 school year. Grades will be announced at the end of the fall semester in the 2026 school year.

Spring Short-term Study Abroad program:

Since this is a “Spring Course”, the registered credits are included in the registered credit limit of the spring semester in the 2027 school year. Grades will be announced at the end of the spring semester in the 2027 school year.

2. 授業について

I. 各センター授業について

1. 教室（全学オープン科目提供箇所共通）

対面で授業を行う科目の授業実施教室は、科目登録時および結果発表時に「未定」となっていますが、授業開始初日の朝までには Web シラバスで公開されます。Web シラバスで各自確認のうえ、初回授業に出席するようにしてください。



教室のある建物は Waseda IT Service Portal で確認してください。また、Tutorial English のブースはレッスングループ・クラス編成決定後「Tutorial Canvas」で発表します。

※オンライン授業の受講用スペースは、Support Anywhere にて確認してください。

2. 休講（全学オープン科目提供箇所共通）

MyWaseda および Waseda Moodle で確認することができます。公共交通機関のストライキや気象状況の悪化にともなう休講は全学統一基準により決定します。

3. 補講（全学オープン科目提供箇所共通）

原則として担当教員が授業内もしくは Waseda Moodle 等で通知します。

4. 授業に関する連絡事項（全学オープン科目提供箇所共通）

原則として担当教員が授業内もしくは Waseda Moodle 等で通知します。

なお、保健体育科目に関する伝達事項は、内容によっては 17 号館体育館、東伏見体育教室棟各事務所設置の所定掲示板に掲出することがあります。

5. 授業の出欠について（全学オープン科目提供箇所共通）

シラバスに記載がない場合も、授業への出席は当然のことであるため、出席は成績評価の前提となります。

以下の事由により授業を欠席する際は、所属学部事務所が発行する文書等を通じて担当教員に配慮を依頼することができます。**手続き方法は所属学部事務所に確認してください。**

- ・忌引きによる欠席（対象：1 親等・2 親等および配偶者）
- ・裁判員に指名され、辞退が認められない場合
- ・学校において予防すべき感染症により授業を欠席する場合

ただし、配慮依頼を受けて、欠席をどのように取扱うかは、担当教員の判断に一任されます。

※Tutorial English と Listening and Reading の欠席の特別配慮については、別途書類の提出期限を設けています。

詳細については、「Tutorial English 履修ガイド」「Listening and Reading 履修ガイド」を確認してください。

※Academic Writing and Discussion in English の欠席配慮依頼は所定フォームにて行います。詳細は授業内の案内をご確認ください。

※教育実習等で授業への出席が難しくなる期間のクォーター科目（授業期間が7週間）の履修は、配慮することが難しいので、登録しないでください。なお、教育実習期間中のクォーター科目以外の授業の欠席の取扱いについては「教職課程履修の手引き」をご確認ください。

※「忌引き」「裁判員制度」「感染症による病欠」を理由に、夏季集中・春季集中開講科目の授業に出席できない場合は、上記手続きに加えてグローバル・エデュケーション・センター事務所（gec-help@list.waseda.jp）にもご連絡ください。なお、当センターまで連絡する際には、詳細な状況の説明と根拠書類の添付もお願いいたします。

6. 教員への問い合わせについて（全学オープン科目提供箇所共通）

教員の連絡先は個人情報保護の観点からお伝えできません。教員への連絡事項、問い合わせ事項がある場合には、Waseda Moodle の Message My Teacher で直接教員に問い合わせてください。教員と連絡をとることができない場合は、以下のメールアドレスに連絡してください。なお、メールを送付する際には該当の**担当教員氏名、科目名、自身の氏名、学籍番号、連絡先、具体的な問い合わせ内容等を必ず明記してください。ただし、授業の欠席連絡は受付けていませんので直接教員に連絡してください。**

【問い合わせ先】

GEC 提供科目： gec-help@list.waseda.jp

留学センター提供科目： cie-class@list.waseda.jp

学部提供全学オープン科目： 科目を提供している学部にお問い合わせください。



Waseda メールアドレス以外からの問い合わせには、回答ができない場合があります。
必ず Waseda メールアドレスから発信してください。

7. 授業時の負傷事故等について（保健体育科目）

保健体育科目の授業中に負傷事故等が発生した場合は、その場で担当教員に届け出てください。負傷事故の届け出があった場合、医療費の補償を受けられる場合があります。

8. 科目の開講が取りやめとなった場合について

教員の体調不良や天災等の不可抗力により、GEC 設置科目の開講が取りやめとなった場合、科目の追加登録等の救済措置は行いません。

9. レポート課題について（全学オープン科目提供箇所共通）

課題提出については、指定された方法で提出してください。

※レポート課題の提出場所等については、担当教員より指示があります。

※GEC 提供科目については指定の表紙をつける必要がある場合があります。課題の表紙は、早稲田ポータルオフィスにあります。また、GEC Web ページからもダウンロードすることが可能です。

10. 試験

各センター提供科目は、原則として定期試験はなく、平常点、授業中の理解度の確認、レポート等により評価されます。理解度の確認・レポートについては、担当教員が授業中もしくは Waseda Moodle にて指示します。不明な点は担当教員に直接確認してください。また、**各センター提供科目は、未済試験や再試験を行いません。**



所属学部の試験と各センターの授業が重なった場合、原則として各センターの授業を受けてください。この場合、学部の未済試験を受験するために各センターで授業の受講証明書を発行します。

11. 成績（全学オープン科目提供箇所共通）

全学オープン科目の成績は所属学部の成績発表日に併せて発表されます。成績発表時期は所属学部事務所に問い合わせてください。なお、**卒業可否に関わらず、救済措置は行いません。**

GEC 提供科目の成績評価に関する問い合わせ期間は、以下のとおりです。**期間外の問い合わせについては一切対応できませんので、必ず期間内に自身の成績評価の確認を行ってください。**問い合わせ方法の詳細については、GEC Web ページを確認してください。

対象科目	問い合わせ期間	
春学期・春クォーター・夏クォーター・集中講義（春学期）科目	所属学部の成績発表日～	9月11日（金）
夏季集中・夏シーズン科目、春夏期		9月24日（木）
秋学期・秋クォーター・冬クォーター・通年・夏秋期・冬シーズン・春季集中・集中講義（秋学期）・集中（春・秋学期）科目		2027年3月12日（金）

GEC では成績変更・卒業等への懇願^{*}と見受けられる文言が含まれている問い合わせは一切対応しません。

※＜懇願と見受けられる文言の例＞

「この科目が合格すれば卒業（進級）できるので・・・」「どのような追加課題でも取り組みますので・・・」

なお、GEC 以外の学部・センター提供科目については、科目を設置している箇所に確認してください。

12. 不正行為等の取扱いについて（GEC 提供科目）

GEC では、センター提供科目における試験、課題等に関して不正行為等を行った学生の取扱いを以下のように定めています。**不正行為等に該当すると判断された場合、成績評価に大きな影響を及ぼしますので、必ず熟読したうえで試験や課題等に取り組んでください。**

不正行為の定義

1. 試験^{※1}における不正行為

試験において、次のいずれかに該当する行為は不正行為とする。ただし、科目担当教員が特に許可した場合を除く。

- (1) 他人の代わりとなって受験すること、または他人を自己の代わりとして受験させること。
- (2) 不正使用の目的をもって作成された文書または電子ファイルもしくはその閲覧に使用する機器を試験場に持ち込むこと。
- (3) 使用が許可されていない書籍、ノート、メモその他の印刷物または機器を使用または参照すること。
- (4) 使用が許可されている物品の貸借
- (5) 身体、衣類、所持品または机、椅子その他試験場内の備品に試験に関連した内容を書き込むこと。
- (6) 答案の交換または他人の答案の利用（覗き見を含む）。
- (7) 他人の答案を写すこと、または自己の答案を他人に写させること。
- (8) 言語、暗号、動作または機器その他の情報伝達手段によって他人と連絡を試みることを、または不正に情報を取得すること。
- (9) 偽名の記入、故意による無記名、答案用紙の破棄または許可されていない答案用紙の持ち出し等により、答案整理を混乱させようとする。
- (10) 試験終了後、答案に加筆修正などの変更を加えること。
- (11) 試験監督員の指示に従わないこと。
- (12) その他試験の公正を害すると認められる行為
- (13) 上記の行為を行ったものと疑われる行為をすること。
- (14) 上記の行為を行うことを幫助すること。

2. 課題等^{※2}における不正行為

課題等において、次のいずれかに該当する行為は、不正行為とする。ただし、科目担当教員が特に認めた場合を除く。

- (1) 他人の代わりとなって課題等に取り組むこと、または他人を自己の代わりとして課題等に取り組ませること。
- (2) 他人が取り組みもしくは取り組んだ課題等を筆写もしくは引き写し、または自己のものとして表示すること。
- (3) 自己が取り組みもしくは取り組んだ課題等を他人に筆写もしくは引き写させ、または他人のものとして表示させること。
- (4) 他人のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文、用語または知見を適切な表示なく流用すること。
- (5) 他人と共同で課題等に取り組むこと。

3. オンライン試験^{※3}における不正行為

オンライン試験において、次のいずれかに該当する行為は、不正行為とする。

- (1) 他人の代わりとなってオンライン試験を受験すること、または他人を自己の代わりとして受験させること。
- (2) 他人と共同でオンライン試験を受験すること。
- (3) 科目担当教員および試験監督員の指示に従わないこと。

不正行為を行った者の成績評価

当該不正行為が行われた科目の成績評価を不合格評価とし、所属学部・研究科に報告する。

不適切な行為

次のいずれかに該当する行為は、不適切な行為とする。

- (1) 課題等またはオンライン試験に関し、上記に定める不正行為のうち、情状に酌量すべき事情が認められるもの。
- (2) その他成績評価手段^{※4}に関し、科目担当教員の指示に反する行為
- (3) 科目担当教員による公正な成績評価を阻害するすべての行為

不適切な行為を行った者の成績評価

不適切な行為が行われた科目の成績評価の取扱いは、科目担当教員および GEC の判断による。なお、**不適切な行為が当該科目の成績評価の公平性を著しく害する場合には、不正行為者と同等の対応を受けることがある。**

- ※ 1 「試験」とは、科目担当教員による監督下で実施される理解度の確認ならびにそれらと同等であると位置づけられるものをいう。ただし、当該科目において主たる成績評価手段として周知されるものに限る。
- ※ 2 「課題等」とは、レポート、発表、実演、実習、専門教育科目演習論文その他一定の成果の提出または提示を求めるものをいう。
- ※ 3 「オンライン試験」とは、インターネット等のネットワークを利用して任意の場所で受験することが認められるものをいう。
- ※ 4 「その他成績評価手段」とは、小テスト、感想文、出席票等をはじめとする、上記に定めるもの以外の成績評価手段をいう。

13. Waseda Moodle について（全学オープン科目提供箇所共通）

Waseda Moodle を使用して課題提出、休講連絡などを行う科目があります。必ず定期的に Waseda Moodle を確認してください。

3. 全学オープン科目一覧



学期・曜日・時限、集中講義の日程など科目情報は変更が生じることがあります。科目登録の際は必ず最新情報を確認するようにしてください。

最新情報は、当ガイド、Webシラバスおよび各センターや各学部のWebページの内容を確認してください。

◆ Web シラバス

<https://www.wsl.waseda.jp/syllabus/JAA101.php>



2026年度より、全学オープン科目一覧の掲載先が履修ガイド内（PDF）からGEC Web ページへ変更になりました。

各科目一覧の掲載先は次のページから確認してください。

I. グローバル・エデュケーション・センター提供科目一覧

グローバル・エデュケーション・センター提供科目は、GEC Web ページで確認してください。

	GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/) →学部学生の方へ →→科目登録ガイド →→→目次 →→→→3. 全学オープン科目一覧 →→→→→I. グローバル・エデュケーション・センター提供科目一覧
---	---

II. 留学センター提供科目一覧

留学センター提供科目は、GEC Web ページで確認してください。

	GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/) →学部学生の方へ →→科目登録ガイド →→→目次 →→→→3. 全学オープン科目一覧 →→→→→II. 留学センター提供科目一覧
---	---

III. 学部提供全学オープン科目一覧

学部提供全学オープン科目は、GEC Web ページで確認してください。

	GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/) →学部学生の方へ →→科目登録ガイド →→→目次 →→→→3. 全学オープン科目一覧 →→→→→III. 学部提供全学オープン科目一覧
---	--

IV. 他大学提供科目一覧

各大学の提供科目は、GEC Web ページで確認してください。

	GEC Web ページ (https://www.waseda.jp/inst/gec/) →学部学生の方へ →→他大学提供科目
---	--

※授業に関する最新情報は、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

**4. 全学副専攻
実践型教育プログラム
データ科学認定制度**

もくじ

第1章 全学副専攻を知る

I. 全学副専攻について	71
1. 全学副専攻とは	71
2. 副専攻とは	71
3. 指定科目とは	71
4. 修了必要単位数とは	71
5. コーディネーターとは	71
II. 全学副専攻履修方法について	72
1. 基本ルール	72
2. 修了までの流れ	72
3. 科目登録について	72
4. 単位の修得・算入について	72
5. 修了希望申請について	73
6. 修了の条件について	73
III. Q&A	74

第2章 全学副専攻 各副専攻 紹介

〈学術的副専攻〉

1. 政治学	78
2. 経済学	80
3. 人権と法	82
4. アジアの歴史と伝統文化	84
5. 東洋の思想と宗教	86
6. 会計学	88
7. ソフトウェア学	90
8. 社会イノベーション	94
9. 日本語教育学	96

〈学際的副専攻〉

1. アーカイブズ学	98
2.アントレプレナーシップ	100
3. 映画・映像	106
4. 演劇・舞台芸術	108
5. 開発学	110
6. カーボンニュートラルリーダー	112
7. 健康・医療	114
8. ことばの科学	116
9. コリア研究	118
10. ジェンダー研究	120
11. 社会貢献とボランティア	122
12. ジャーナリズムとメディア表現	126
13. 台湾研究	128
14. 地域連携・地域貢献	130
15. ドイツ研究	134
16. 都市・地域研究	136
17. Conflict Resolution: From Asia's Perspective	138

第3章 実践型教育プログラムを知る

I. 実践型教育プログラムについて	142
1. 実践型教育プログラムとは	142
2. 実践型教育プログラムの修了について	142
II. Q&A	143

第4章 実践型教育プログラム 各コース 紹介

1. ビジネス・クリエーション	144
-----------------	-----

第5章 データ科学認定制度

I. 全学データ科学教育プログラムについて	147
II. データ科学認定制度について	149
1. データ科学認定制度とは	149
2. データ科学認定制度の各級について	150
III. データ科学認定制度の認定方法について	154
1. 基本ルール	154
2. 指定科目とは	154
3. 認定必要単位数とは	154
4. 認定までの流れ	154
5. 科目登録について	154
6. 単位の修得・算入について	154
7. 認定希望申請について	155
8. 認定条件について	155
9. 認定および認定証明書の発行について	156
IV. Q&A	156

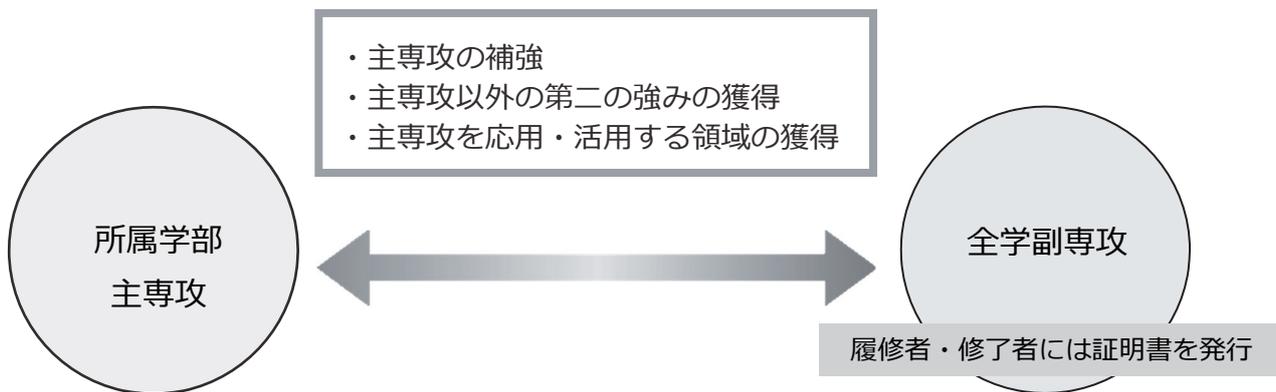
第1章 全学副専攻を知る

I. 全学副専攻について

1. 全学副専攻とは

全学副専攻とは、学部生であれば学部や学年を問わず誰でもチャレンジすることのできる制度で、所属する学部で主専攻の学問を学びながら、同時にその他の学問分野を体系的に学ぶことが出来ます。全学副専攻の制度を利用することで①主専攻の補強②主専攻以外の第二の強みの獲得③主専攻を応用・活用する領域の獲得などを可能とし、同時に独自の専門性の開拓を後押しする機会ともなります。全学副専攻履修者・修了者には証明書が発行されるため、対外的・社会的にも自分の取り組みを証明することも出来ます。また、他学部の学生と相互に刺激し合うことで広い視野の獲得や人的ネットワークの形成にも役立ちます。

GEC は、全学副専攻を上手に活用することで、みなさん一人ひとりが能力を最大限に発揮し、個性溢れる人材として社会で活躍できることを期待しています。



2. 副専攻とは

全学副専攻で用意されているさまざまな学問領域を「副専攻」と呼びます。副専攻はさらに「学術的副専攻」「学際的副専攻」に区別されており、各学部のプログラムを全学部生向けに開放したものを学術的副専攻、時代や社会の変化に即した視点に基づく分野、今後重要性を増す分野など学生の多様な関心に合わせて設置したものを学際的副専攻と言います。各副専攻の紹介は 78 ページ以降に記載してありますので、興味・関心に合うテーマの副専攻を選択してみましょう。

3. 指定科目とは

副専攻にはテーマに即した科目のラインナップが用意されています。みなさんが修了を目指して履修する科目を「指定科目」と呼びます。学術的副専攻では指定科目がさらに「基礎科目」と「発展科目」に区別されており、基礎科目は副専攻を学ぶ上で礎となる科目、発展科目は副専攻をより深く学ぶ上で必要となる科目となります。全学副専攻制度は全学部生がチャレンジできる制度であるため、指定科目は GEC 提供科目や、学部等提供オープン科目で構成されています。

4. 修了必要単位数とは

各副専攻では、修了のために必要な単位数が定められています。その単位数を取得しないと、副専攻修了とは認定されません。修了必要単位数は副専攻によって異なり、なかには履修必須科目を設けている副専攻もありますので、よく確認し、履修計画を立てるようにしてください。

5. コーディネーターとは

各副専攻にはコーディネーターと呼ばれる教員がいます。コーディネーターは副専攻の運営、指定科目の選定を行うほか、学生のみなさんの相談を受けたり、指導を行う存在です。全学副専攻の修了を目指す中で困ったことがあった場合には、コーディネーターに相談をしましょう。各副専攻のコーディネーターは 75～76 ページの一覧で確認してください。

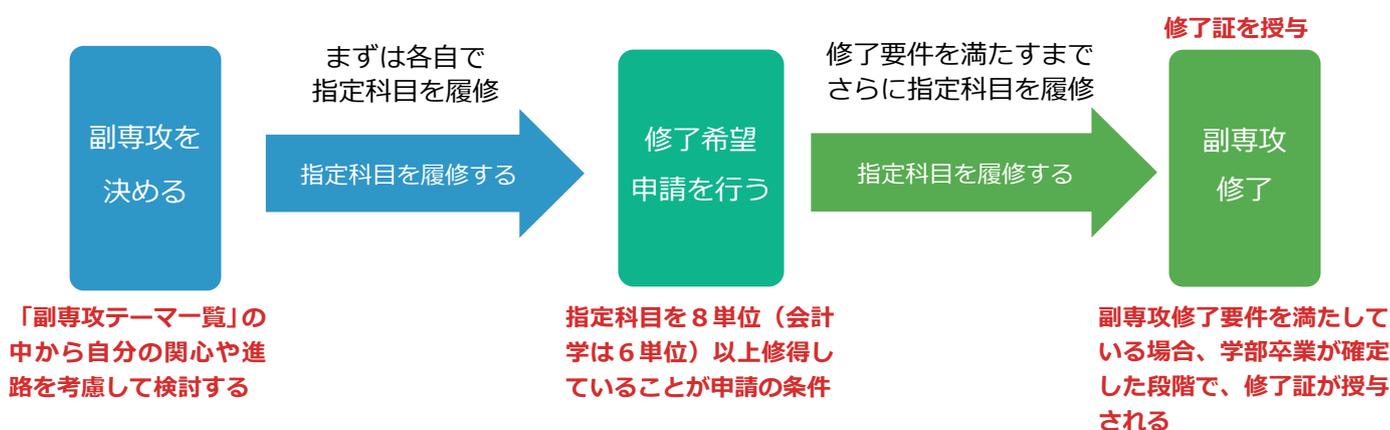
II. 全学副専攻履修方法について

1. 基本ルール

まず確認しましょう！

1. 科目登録時に修了希望者に対する優遇措置はありません。
2. 修了必要単位は、卒業単位への「算入」・「非算入」は関係ありません。
3. 修了には定められた期間内の「修了希望申請」が必要です。
4. 「修了希望申請」を行うためには該当副専攻の単位を8単位以上修得済であることが条件です。
※ただし、「会計学」については、積み上げ式履修条件が厳しいため、6単位以上で可とします。
5. 複数の全学副専攻を修了することができます。
6. 全学副専攻の対象は、学部学生のみです。大学院進学後や科目等履修生として、修了を目指すことはできません。
7. 2006年度以前に修得した単位は一律で無効です。

2. 修了までの流れ



3. 科目登録について

科目登録は、**すべて学部やセンターで決められた登録期間、登録方法にしたがいます**。全学副専攻の指定科目だからといって特別な登録期間、登録方法はありませぬ。ただし、指定科目にはさまざまな科目が含まれています。科目の設置箇所によって登録期間、登録方法が異なる場合がありますので、よく確認するようにしてください。



科目登録において全学副専攻履修者が**優先的に登録されることは一切ありません**。選外になることもありますので、余裕を持った履修計画を立てるようにしましょう。

4. 単位の修得・算入について

履修後、単位が修得できた指定科目については、修了必要単位に算入されます。修得できた単位を確認し、不足分を再度次の科目登録時に登録するようにしてください。



修了必要単位は、**卒業単位への「算入」・「非算入」は関係ありません**。単位が修得できれば修了必要単位として認定されます。（卒業単位への算入可否は、所属学部に確認してください。）



2006年度以前に修得した単位は一律で認定されませぬ。2007年4月1日以降に修得した単位から有効になります。



高校生特別聴講制度により大学入学前に修得した指定科目の単位は、修了必要単位として算入できません。



クラス番号が指定されている科目については、対象外のクラスの単位を修得しても修了必要単位として参入できません。

5. 修了希望申請について

■ 修了希望申請期間

春学期	3月17日（火）9：00～4月18日（土）16：00
秋学期	9月14日（月）9：00～10月8日（木）16：00

全学副専攻の修了には**修了希望申請が必須です**。修了希望申請は上記の申請期間内に以下の手順に沿って行います。

【修了希望申請 申請方法】

1. GEC Web ページへアクセスする。
2. 「学部学生の方へ」を押してください。（図1）
3. 「全学副専攻制度」を押してください。
4. 下にスクロールし、スケジュールの中にある【全学副専攻「修了希望申請」申請フォーム】をクリックしてください。（図2）
5. 申請フォームが開きますので、画面中央の【申請】ボタンをクリックしてください。
6. 修了を希望する副専攻を選択し、メールアドレスを入力の上、画面右下の【保存】ボタンをクリックして完了となります。

〔図1〕



「学部学生の方へ」をクリック

〔図2〕

2021年度スケジュール		
科目登録・修了希望申請		
項目	内容	日程
指定科目登録 (1次～3次)	学部提供の全学オープン科目は2次登録以降登録できません。 1次登録で忘れずに登録してください。	【春学期】 【秋学期】 登録期間・発表期間は所属学部で確認してください。
修了希望申請	以下のURLから申請してください。 全学副専攻「修了希望申請」申請フォーム ※副専攻の指定科目を8単位以上修得していることが条件です。ただし、「会計学」については、積み上げ式履修条件が厳しいため、6単位以上で可とします。 ※旧制度の判定をご希望の方は、新制度への修了希望申請はできません。	【春学期】 3月18日（木）9:00～ 4月10日（土）17:00 【秋学期】 9月15日（水）9:00～ 10月1日（金）17:00

全学副専攻「修了希望申請」申請フォーム

申請には該当副専攻の指定科目の中から**8単位（「会計学」は6単位）以上の単位を修得していることが条件**です。



副専攻指定科目の修得状況が8単位（「会計学」は6単位）に満たない場合は**申請は取下げとなります**。8単位（「会計学」は6単位）以上修得できてから再度修了申請を行ってください。

6. 修了の条件について

全学副専攻の修了を認定されるためには以下の3点を満たす必要があります。

- ① 各副専攻で定められた修了要件を満たしていること
- ② 修了希望申請を行っていること
- ③ 所属学部で卒業が認定されること

たとえ副専攻の修了要件を満たしていても、所属学部で卒業ができなければ修了とはなりません。また修了要件を満たし、卒業できたとしても、事前に修了希望申請を提出していない場合には修了として認定されませんので注意してください。



修了者に対しては卒業時に**「修了証明書」**を発行します。また、修了希望申請を行った在学生の方には証明書発行時点での単位修得状況を証明する**「単位修得証明書」**を発行します。「修了証明書」は1号館3階 GEC事務所、「単位修得証明書」は証明書発行機で発行できます。詳細については修了希望申請者へのメールにてお知らせしますのでそちらを確認してください。

Ⅲ. Q&A

Q. 過去に履修した科目の単位は認められますか？

A. 2007年4月1日以降に修得した単位であれば有効となります。

Q. 複数の副専攻を、修了することはできますか？

A. 複数の副専攻を修了することができます。

Q. 複数の副専攻で指定科目となっている科目の単位を修得しました。この場合単位の扱いはどうなりますか？

A. 複数の副専攻の修得単位として認定されます。

Q. 3年生までに修了した時には、すぐに証明書がもらえますか？

A. 修了証明書は、卒業年度の卒業発表以降に発行します。修了希望申請を行った在学生の方には、証明書発行時点での単位修得状況を証明する「単位修得証明書」を発行します。3年生時に就職活動等で証明書が必要な場合は、修了希望申請を済ませておく必要があります。

Q. 全学副専攻の指定科目は、卒業単位数に算入されますか？

A. 所属学部を確認してください。

Q. 修了申請を行ったが、副専攻の修了要件を満たせなかった場合、学部の卒業等に影響がありますか？

A. 学部の卒業等には一切影響ありません。

Q. 履修ガイドの指定科目を確認したところ、昨年度以前に単位を修得した科目の指定区分（基礎/発展1/発展2、領域・分野 a/b/c/d）が、今年から変更になっていました。この場合の単位の取り扱いはどのようになるのでしょうか。

A. 指定科目の区分については、単位を修得した年度に指定されていた区分が適用されます。ただし、「コリア研究」については例外対応がありますので指定科目一覧を確認してください。

Q. 学術的副専攻について、基礎科目と発展科目はどれから履修するのでしょうか。

A. 基礎科目→発展科目1→発展科目2と履修することを推奨しています。

Q. 学際的副専攻について、領域分野 a/b/c/d はどれから履修するのでしょうか。

A. どれから履修しても問題ありませんが、カリキュラムマップにそって履修することを推奨します。

【指定科目一覧確認時の注意事項】

指定科目の一覧にある学期・曜日・時限・集中講義の日程等は2026年2月時点の情報です。変更点が生じる可能性がありますので、科目登録前には必ずWebシラバスや当ガイドで最新の情報を確認するようにしてください。

また、指定科目一覧には、今年度休講科目も載っています。Webシラバスの検索でヒットしない科目は休講科目です。

第2章 全学副専攻 各副専攻 紹介

<学術的副専攻>

No.	副専攻名	コーディネーター（○代表者）	所属
1	政治学	○稲村 一隆 国吉 知樹	政治経済学術院 政治経済学術院
2	経済学	○上田 晃三 玉置 健一郎	政治経済学術院 政治経済学術院
3	人権と法	○江原 勝行 田村 達久 渋谷 謙次郎	法学学術院 法学学術院 法学学術院
4	アジアの歴史と伝統文化	○飯山 知保 柿沼 陽平 植田 喜兵成智	文学学術院 文学学術院 文学学術院
5	東洋の思想と宗教	○渡邊 義浩 山部 能宜 師 茂樹	文学学術院 文学学術院 文学学術院
6	会計学	○大鹿 智基 奥村 雅史 清水 孝	商学学術院 商学学術院 商学学術院
7	ソフトウェア学	○山名 早人 米田 元 金光 永煥	理工学術院 理工学術院 グローバル・エデュケーション・センター
8	社会イノベーション	○棟居 徳子 佐藤 洋一 早田 宰	社会科学総合学術院 社会科学総合学術院 社会科学総合学術院
9	日本語教育学	○舩橋 瑞貴 館岡 洋子 蒲谷 宏	国際学術院 国際学術院 国際学術院

＜学際的副専攻＞

No.	副専攻名	コーディネーター（○代表者）	所属
1	アーカイブズ学	○大橋 幸泰 三村 昌司 遠藤 美奈	教育・総合科学学術院 教育・総合科学学術院 教育・総合科学学術院
2	アントレプレナーシップ	○河村 耕平 井上 達彦 石井 裕之	政治経済学術院 商学学術院 理工学術院
3	映画・映像	○河合 隆史 藤井 仁子 土田 環	理工学術院 文学学術院 理工学術院
4	演劇・舞台芸術	○澤田 敬司 平林 宣和 八木 斉子 高井 詩穂	法学学術院 政治経済学術院 政治経済学術院 文学学術院
5	開発学	○堀 芳枝 金 敬黙 利根川 佳子	社会科学総合学術院 文学学術院 社会科学総合学術院
6	カーボンニュートラルリーダー	○所 千晴 有村 俊秀 赤尾 健一	理工学術院 政治経済学術院 社会科学総合学術院
7	健康・医療	○大島 登志男 野口 晴子	理工学術院 政治経済学術院
8	ことばの科学	○近藤 悠介 乙黒 亮 近藤 眞理子	グローバル・エデュケーション・センター 法学学術院 国際学術院
9	コリア研究	○金 敬黙 植田 喜兵成智 山崎 玲美奈 崔 チョンア	文学学術院 文学学術院 文学学術院 グローバル・エデュケーション・センター
10	ジェンダー研究	○弓削 尚子 村田 晶子 松永 典子	法学学術院 文学学術院 教育・総合科学学術院
11	社会貢献とボランティア	○兵藤 智佳 筒井 久美子 落合 基継	平山郁夫記念ボランティアセンター 平山郁夫記念ボランティアセンター 社会科学総合学術院
12	ジャーナリズムとメディア表現	○澤 康臣 佐藤 洋一	教育・総合科学学術院 社会科学総合学術院
13	台湾研究	○梅森 直之 江 正殷 劉 傑	政治経済学術院 歴史館 社会科学総合学術院
14	地域連携・地域貢献	○加藤 基樹 松居 辰則 早田 宰	グローバル・エデュケーション・センター 人間科学学術院 社会科学総合学術院
15	ドイツ研究	○室井 禎之 生駒 美喜 星井 牧子	政治経済学術院 政治経済学術院 法学学術院
16	都市・地域研究	○矢口 哲也 有賀 隆 佐々木 葉	理工学術院 理工学術院 理工学術院
17	Conflict Resolution: From Asia's Perspective	○小山 淑子 梅森 直之 奥迫 元	社会科学総合学術院 政治経済学術院 社会科学総合学術院

政治学

Political Science

政治経済学術院提供副専攻

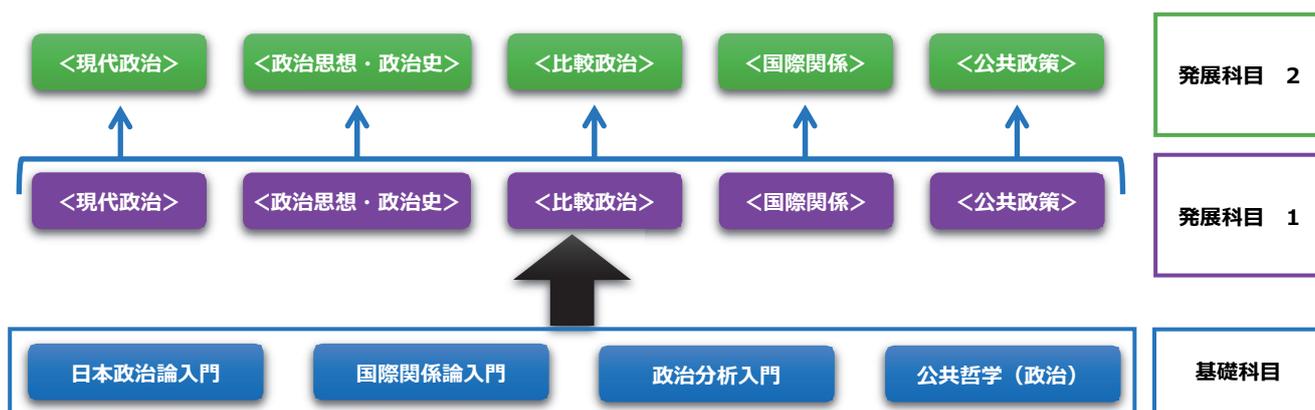
設置概要

政治経済学術院の政治学科目は、現代政治、政治思想・政治史、比較政治、国際関係、公共政策という5コア領域から構成され、研究対象領域も日本、地域、国際などに区分される。このような複数のコア領域と異なる対象領域をもつ政治学を基礎から理解するために、本副専攻は3段階の科目群から構成される。まず基礎科目においては、日本政治と国際関係の歴史・理論・問題点を学び、政治現象を分析し解釈するための理論・方法・概念を学ぶ。次に発展科目1においては、5コア領域の基幹科目が、さらに発展科目2においては、5コア領域の専門科目が配置されている。

到達点（学習成果）

履修学生には、日本政治と国際関係の歴史・理論・問題点、政治現象を分析し解釈するための基礎的な理論・方法・概念をすべて習得することが期待される。その後で、各履修生が自身の関心にしたがい、5コア領域から1つまたは2つの領域を選択し、当該領域の基幹科目・専門科目を履修することを通じて当該領域の政治学の大きな流れと主要な知見を習得することが期待される。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

まず、履修学生には、①日本政治論入門、②国際関係論入門、③政治分析入門、④公共哲学（政治）の基礎科目のすべてを履修することを薦める。それぞれが各分野の基礎知識を提供する。ただし、③と④は方法中心の科目であり、かなり内容が異なっている。③の政治分析入門は、政治現象を分析するための合理的選択理論や統計・計量分析手法を習得する科目であり、④の公共哲学（政治）は、政治現象を意味付けたり解釈するための規範理論や理念を習得する科目である。両科目を等しく履修することが理想的ではあるものの、学生個人の得手不得手があるので、いずれか一方を集中的に習得することも政治学を学習するための近道である。

指定科目一覽

修了必要単位

20 単位（基礎科目 6 単位、発展科目 1 : 8 単位、発展科目 2 : 6 単位）以上

注意事項

政治経済学部生は「政治学」副専攻を修了できません

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	領域	備考
1	政経	日本政治論入門 01	1年以上	2		
2	政経	政治分析入門 01	1年以上	4		自学部優先科目
3	政経	政治分析入門 02	1年以上	4		自学部優先科目
4	政経	国際関係論入門 01	1年以上	2		自学部優先科目
5	政経	公共哲学（政治） 01	1年以上	2		自学部優先科目
6	政経	公共哲学（政治） 02	1年以上	2		自学部優先科目
7	政経	公共哲学（政治） 03	1年以上	2		自学部優先科目

★発展科目 1

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	領域	備考
1	政経	現代政治分析 01	2年以上	4	現代政治	
2	政経	政治理論史 01	2年以上	4	政治思想・政治史	
3	政経	政治コミュニケーション 01	2年以上	2	現代政治	2018年度以前「コミュニケーション論」「政治コミュニケーション論A」「政治コミュニケーション論B」いずれかの単位修得者は履修不可
4	政経	憲法 01	2年以上	4	政治思想・政治史	
5	政経	行政学 01	2年以上	4	公共政策	
6	政経	公共政策 01	2年以上	4	公共政策	
7	政経	国際政治学 01	2年以上	4	国際関係	
8	政経	比較政治学 01	2年以上	4	比較政治	
9	政経	国際関係学 I 01	2年以上	2	国際関係	2018年度以前「国際政治史」単位修得者は履修不可
10	政経	日本政治史 01	2年以上	4	政治思想・政治史	
11	政経	国際社会関係論 01	2年以上	2	国際関係	2018年度以前「国際社会関係論」単位修得者は履修不可
12	政経	東アジアの比較政治 01	2年以上	2	比較政治	

★発展科目 2

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	領域	備考
1	政経	西洋政治史 01	2年以上	4	政治思想・政治史	
2	政経	政治心理学 01	2年以上	2	現代政治	
3	政経	現代政治理論 I 01	2年以上	2	政治思想・政治史	
4	政経	現代政治理論 II 01	2年以上	2	政治思想・政治史	2018年度以前「現代政治理論」単位修得者は履修不可
5	政経	日本政治思想史 01	2年以上	4	政治思想・政治史	
6	政経	比較憲法論 01	2年以上	2	政治思想・政治史	
7	政経	自治体政策 01	2年以上	2	公共政策	
8	政経	国際機構論 01	2年以上	2	国際関係	2018年度以前「国際機構論」「国際機構論 I」いずれかの単位修得者は履修不可
9	政経	西欧諸国の比較政治 01	2年以上	2	比較政治	
10	政経	福祉行政 01	2年以上	2	公共政策	
11	政経	日本外交論 01	2年以上	2	国際関係	
12	政経	比較政治経済分析 01	2年以上	2	現代政治	
13	政経	国際政治経済学 01	2年以上	2	国際関係	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

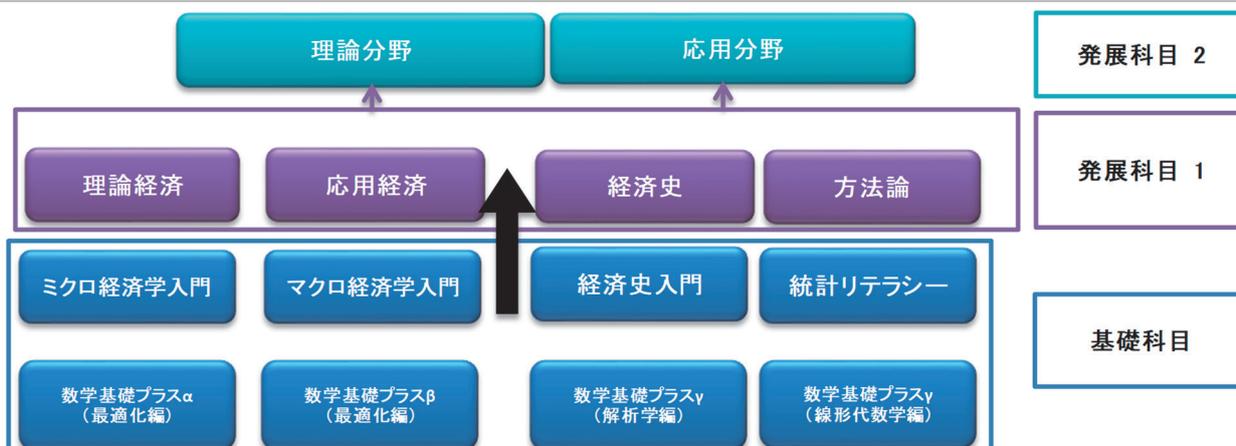
経済学を学ぶには、経済現象を多面的に理解するために基礎知識が必要である。これを提供するのが基礎科目であり、それにはミクロ経済学入門【必修】、マクロ経済学入門【必修】、経済史、統計リテラシー α 、数学基礎プラス α （最適化編）【選択必修】、数学基礎プラス β （最適化編）【選択必修】、数学基礎プラス γ （解析学編）【選択必修】、数学基礎プラス γ （線形代数学編）が含まれる。

基礎知識を獲得した上で取り組むのが、現在の経済現象の個別的な学問的知見を網羅する科目である。これが発展科目である。発展科目1は、理論経済（ミクロ経済学I、マクロ経済学I、ゲーム理論入門）、応用経済（財政学）、経済史（日本経済史、グローバル経済史、経済学史）、方法論（統計リテラシー β ）から構成される。発展科目2は、経済学で現在もっとも注目されている個別的な研究領域であり、それには理論分野（ゲーム理論、計量経済学）、応用分野（産業組織論、環境経済学、医療経済学）が含まれている。

到達点（学習成果）

理論モデルに基づいて経済現象を考察する思考力を養うことが期待できる。理論モデルを実際の問題に適用するには、種々の現象を整理し、ありうる因果関係を仮定した上で、その仮定のもとでどのような結論が得られるのかを注意深く考察する必要がある。対象が人間集団であることから、当該集団がどのような歴史を経て現在にいたったかも、理論モデル適用のために考慮しなければならない。そのように、理論的・歴史的な視点から社会現象を考察できるようになることが期待される。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

履修学生には、①ミクロ経済学入門、②マクロ経済学入門、③経済史入門、④統計リテラシー α という基礎科目をすべて履修することを薦める。それぞれが経済学を理解するために必要な基礎知識を提供する。ただし、③と④は内容において異なる。③の経済史入門は、経済現象や経済学の発展の歴史的知見を習得する科目であり、④の統計リテラシー α は、経済現象を学生自身で分析するための統計・数量分析の方法を習得する科目である。学生個人の選好にしたがい、いずれか一方を集中的に習得することも可能であるものの、経済学の理解のためにはいずれの方法の理解も必要である。また、統計リテラシー β は、環境経済学や計量経済学の学習に必要である。さらに、発展科目2には、理論・応用両面において高度な知識が必要とされる。経済学科目の中でも難しい部類に属するので、十分な準備をしてから履修することを勧める。

指定科目一覧

修了必要単位

22 単位（基礎科目：8 単位、発展科目 1：8 単位、発展科目 2：6 単位）以上

注意事項

政治経済学部生は「経済学」副専攻を修了できません

★基礎科目

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	経済史入門 A 01	1年以上	2	
2	政経	経済史入門 A 02	1年以上	2	
3	政経	経済史入門 B 01	1年以上	2	
4	政経	経済史入門 B 02	1年以上	2	
5	政経	ミクロ経済学入門 01	1年以上	2	
6	政経	ミクロ経済学入門 02	1年以上	2	いずれか 1 科目を履修必須 / 自学部優先科目
7	政経	マクロ経済学入門 01	1年以上	2	
8	政経	マクロ経済学入門 02	1年以上	2	いずれか 1 科目を履修必須 / 自学部優先科目
9	グローバル	数学基礎プラスα (最適化編) 01	1年以上	1	
10	グローバル	数学基礎プラスα (最適化編) 02	1年以上	1	
11	グローバル	数学基礎プラスα (最適化編) 03	1年以上	1	
12	グローバル	数学基礎プラスβ (最適化編) 01	1年以上	1	
13	グローバル	数学基礎プラスβ (最適化編) 02	1年以上	1	
14	グローバル	数学基礎プラスβ (最適化編) 03	1年以上	1	
15	グローバル	数学基礎プラスγ (解析学編) 01	1年以上	1	
16	グローバル	数学基礎プラスγ (解析学編) 02	1年以上	1	
17	グローバル	数学基礎プラスγ (解析学編) 03	1年以上	1	
18	グローバル	数学基礎プラスγ (線形代数学編) 01	1年以上	1	
19	グローバル	統計リテラシーα 01	1年以上	1	
20	グローバル	統計リテラシーα 02	1年以上	1	
21	グローバル	統計リテラシーα 03	1年以上	1	
22	グローバル	統計リテラシーα 04	1年以上	1	
23	グローバル	統計リテラシーα (商学部) 01	1年以上	1	商学部生のみ履修可
24	グローバル	統計リテラシーα (商学部) 02	1年以上	1	商学部生のみ履修可
25	グローバル	統計リテラシーα (商学部) 03	1年以上	1	商学部生のみ履修可
26	グローバル	統計リテラシーα (商学部) 04	1年以上	1	商学部生のみ履修可

★発展科目 1

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	ミクロ経済学 I 01	2年以上	2	
2	政経	ミクロ経済学 I 02	2年以上	2	自学部優先科目 / 2023 年度以前「ミクロ経済学 A」の単位修得者は履修不可
3	政経	ミクロ経済学 I 03	2年以上	2	
4	政経	マクロ経済学 I 01	2年以上	2	
5	政経	マクロ経済学 I 02	2年以上	2	自学部優先科目 / 2023 年度以前「マクロ経済学 A」の単位修得者は履修不可
6	政経	マクロ経済学 I 03	2年以上	2	
7	政経	経済学史 I 01	2年以上	2	
8	政経	日本経済史 01	2年以上	4	
9	政経	グローバル経済史 01	2年以上	4	2022 年度以前「西洋経済史」「アジア経済史」単位修得者は履修不可
10	政経	財政学 A 01	2年以上	2	2022 年度以前「財政学」単位修得者は履修不可
11	政経	財政学 B 01	2年以上	2	2022 年度以前「財政学」単位修得者は履修不可
12	政経	ゲーム理論入門 01	1年以上	2	
13	政経	ゲーム理論入門 02	1年以上	2	
14	政経	ゲーム理論入門 03	1年以上	2	
15	グローバル	統計リテラシーβ 01	1年以上	1	
16	グローバル	統計リテラシーβ 02	1年以上	1	
17	グローバル	統計リテラシーβ 03	1年以上	1	
18	グローバル	統計リテラシーβ 04	1年以上	1	
19	グローバル	統計リテラシーβ (商学部) 01	1年以上	1	商学部生のみ履修可
20	グローバル	統計リテラシーβ (商学部) 02	1年以上	1	商学部生のみ履修可
21	グローバル	統計リテラシーβ (商学部) 03	1年以上	1	商学部生のみ履修可
22	グローバル	統計リテラシーβ (商学部) 04	1年以上	1	商学部生のみ履修可

★発展科目 2

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	計量経済学 I 01	2年以上	2	2022 年度以前「計量経済学」の単位修得者は履修不可
2	政経	計量経済学 II 01	2年以上	2	2022 年度以前「計量経済学」の単位修得者は履修不可
3	政経	産業組織論 01	2年以上	2	
4	政経	ゲーム理論 01	2年以上	4	
5	政経	環境経済学 01	3年以上	2	
6	政経	医療経済学 01	3年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせをご確認ください。

人権と法

Human rights and Law

法学学術院提供副専攻

設置概要

法学部は、法律の専門知識を体系的に学び、法的思考力を養成することを主たる目的としています。法とは何か。この問い自体が大変難しいのですが、とりあえず、人間社会の営みを律する規範の一つとしておきましょう。もう少し具体的に、人と人との間の権利義務関係を調整するルールといってもよいです。そして、副専攻「人権と法」は、法の中でも、特に人権を保障する法の仕組みに焦点を当てるものです。

さて、皆さんは「人権」という言葉にどのようなイメージを持っているのでしょうか。巷には、人権問題、人権擁護、人権侵害、といった表現があふれています。そもそも「人権」とは一体何でしょうか。「権利」と同じものでしょうか。あるいは、皆さんは日常生活を送る中で、自分には人権が保障されていると強く意識することがあるのでしょうか。あるとすれば、それはどのような場合でしょうか。また仮にないとすれば、それはなぜでしょうか。

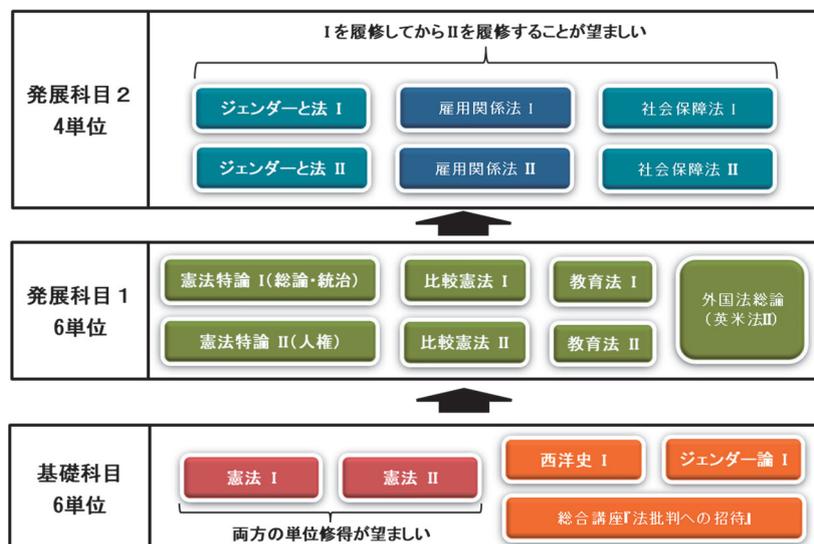
この副専攻では、憲法を中心に、幅広い分野での「人権の現在」を学んでいくことになります。最初は、基礎科目において、憲法による人権保障のあり方や、人権の歴史を概観することで、「法の支配」という考え方を身につけてもらいます。次いで、発展科目①では、外国の状況とも適宜比較しつつ、知見を深める、おそらくこの段階で、皆さんは人権保障についての大まかな見取り図を得ることになるでしょう。発展科目②は、ここまで学んだことを基礎として、個別具体的な場面で、現代ではいかなる人権問題が存在し、法はどのように対処しているのかを、つぶさに見ていくことになります。例えば、性差別やLGBTQをめぐる状況、過労死やブラックバイト、年金・生活保護、移民・難民の問題といったテーマは、皆さんにも馴染みのあるものはずです。

法と権利は表裏一体のものだと喝破したのはイェーリングという法学者でした(彼の『権利のための闘争』は一度読んでみてください)。また「権利の上に眠るものは保護に値せず」という有名な法格言もあります。つまり、人権保障の仕組みは、長きにわたる闘いの成果に他ならず、しかも、闘いは果てることなく続くものなのです。皆さん一人ひとりが人権享有主体なのですから、他の誰でもない、まさに自分の問題として、「人権と法」を考えてみませんか。

到達点 (学習成果)

一般に、法律の学習は語学のそれに似ているといわれます。法律の用語や考え方は、単語や文法・構文にあたるものであり、そうした基礎的な知識を習得することから始めて、一步一步、積み上げてゆかねばなりません。したがって、副専攻に設置されている法律科目をつまみ食いの履修しても、真の意味で理解することは難しいでしょうし、また得るものも少ないでしょう。副専攻とはいえ、体系的に履修することが求められるゆえんです。最初は雲をつかむようで全く手応えがないかもしれません。けれども、知識量や理解度が一定レベルまで蓄積されると、突如として視界が開ける瞬間が訪れるはず。このとき皆さんはリーガルマインド(法を通じて社会現象を捉える目)を獲得したといってもよいでしょう。法学の履修を通じて、皆さんは、それまでとはモノの見え方が、がらりと違ってくるという経験ができるはず。です。

カリキュラムマップ



指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：6 単位、発展科目 1：6 単位、発展科目 2：4 単位）以上

注意事項

法学部生は「人権と法」副専攻を修了できません

本副専攻の修了を目指さない他学部学生は、指定科目を履修しないこと

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	総合講座「法批判への招待」	1年以上	2	
2	法学	西洋史Ⅰ A（竹下）	1年以上	2	
3	法学	ジェンダー論Ⅰ A（弓削）	1年以上	2	
4	法学	憲法Ⅰ A	1年以上	2	
5	法学	憲法Ⅰ B	1年以上	2	
6	法学	憲法Ⅰ C	1年以上	2	
7	法学	憲法Ⅱ A	1年以上	2	
8	法学	憲法Ⅱ B	1年以上	2	
9	法学	憲法Ⅱ C	1年以上	2	

★発展科目 1

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	外国法総論（英米法Ⅱ） A	2年以上	2	
2	法学	比較憲法Ⅰ	3年以上	2	
3	法学	比較憲法Ⅱ	3年以上	2	
4	法学	憲法特論Ⅰ（総論・統治）	2年以上	2	
5	法学	憲法特論Ⅱ（人権）	2年以上	2	
6	法学	教育法Ⅰ	2年以上	2	
7	法学	教育法Ⅱ	2年以上	2	

★発展科目 2

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	ジェンダーと法Ⅰ	3年以上	2	
2	法学	ジェンダーと法Ⅱ	3年以上	2	
3	法学	雇用関係法Ⅰ	3年以上	2	
4	法学	雇用関係法Ⅱ	3年以上	2	
5	法学	社会保険法Ⅰ	3年以上	2	
6	法学	社会保険法Ⅱ	3年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

他学部の方の中には、法律という専門科目は、自分の専攻分野とは全く関係のないものだと考えている方もおられるかもしれません。まずは是非、皆さん自身の専攻分野の知識を活かしつつ、共通点・類似点・相違点は何であろうかと、想像力を働かせながら学んでみてください。一見するとかけ離れているように見えても存外繋がっていたりするものです。それは、法律は人間が人間のために定めた法（これを実定法と言います）であり、皆さんの専攻分野も、つまるところ何らかの形で人間の営みに関するものだからです。さすがに理系の分野は違うのではないかという声が聞こえてきそうですが、法律学が優れて論理的な学問だというのは耳にしたことがあるでしょう。また、科学技術の急速な発展が、法の役割を益々拡大させているというのも事実です。皆さん自身の主専攻分野と有機的に関連させることで、思いがけない相乗効果が生まれることを、我々は密かに期待しています。

アジアの歴史と伝統文化

History and Traditional Cultures of Asia

文学学術院提供副専攻

設置概要

アジアの歴史と伝統文化では、中国を中心として、朝鮮半島、さらには周辺地域も含めた「東アジア地域」の歴史と文化を専門的に学習します。

中国や朝鮮半島を中心とする東アジアと日本とのかかわりは、ますますその重要性を高めています。アジアの歴史と伝統文化では、史料にもとづいて歴史的に物事を見る眼を養い、日本と東アジア世界との間に現実に起こっていることを正しく把握し、考える力を持った学生を育てることを目指しています。中国・朝鮮の古代史においては、これまでに伝わる文献史料のほか新たに出土した木簡・竹簡・石碑などの文字資料を組み合わせ、考古学的な視点をも導入した新領域の開拓に力を注いでいます。指定科目に設置されている「フィールド歴史学」がそれにあたります。

後期伝統中国史（前近代史）においては、東アジア全体を視野に入れ、社会史・文化史など多様な観点を取り入れて新しい歴史像を追究します。辛亥革命後の中国やアジア地域の近現代史をも考察の対象としています。他方、朝鮮史では、中国大陸や日本列島との関連を重視した東アジア史における展開とその位置づけに注目します。

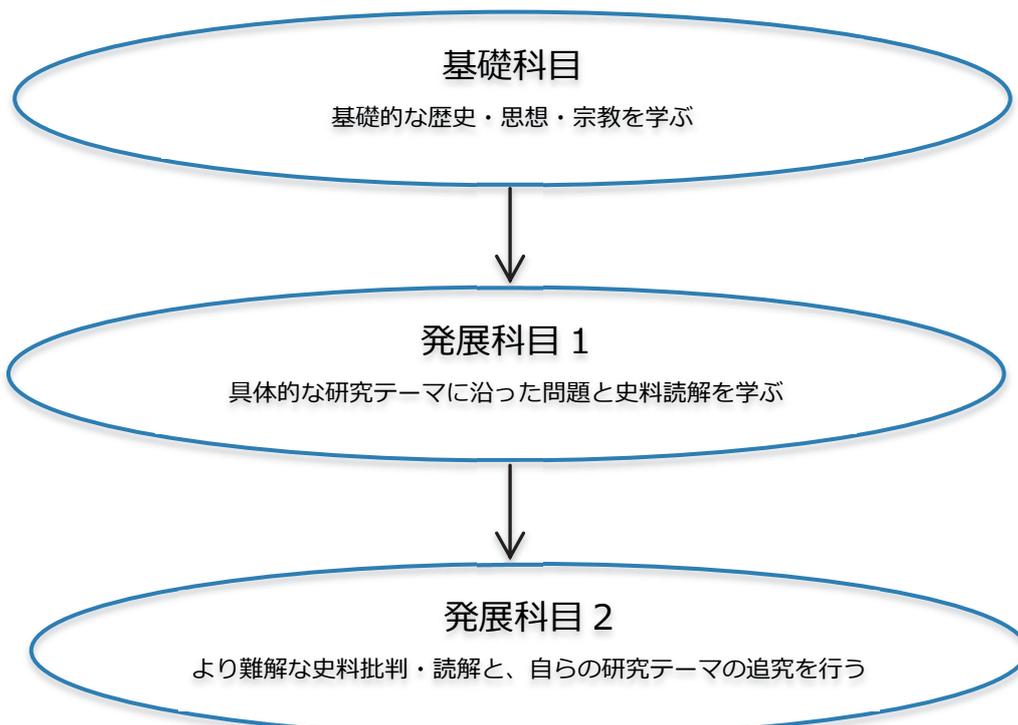
アジアの歴史と伝統文化では、これまで新しいアジア学の創生や資料のデジタル化などのプロジェクトを通じ、新たな歴史学の構築に向けて積極的に取り組んできました。アジアの歴史と伝統文化のカリキュラムには、上記のような基本方針を踏まえつつ、そうした学術成果が最大限に盛り込まれています。さらに長い伝統を有する東洋史学の蓄積を反映させ、東アジアの歴史を風土や地理とのかかわりから構造的・立体的に捉えることができる構成となっています。

到達点（学習成果）

中国や朝鮮半島を中心とする東アジアと日本とのかかわりは、ますますその重要性を高めています。本副専攻は、史料にもとづいて歴史的に物事を見る眼を養い、日本と東アジア世界との間に現実に起こっていることを正しく把握し、考える力を持った学生を育てることを目指しています。中国・朝鮮の歴史研究においては、これまでに伝わる文献史料のほか新たに出土した木簡・竹簡・石碑などの文字資料を組み合わせ、考古学的な視点をも導入した新領域の開拓に力を注いでいます。一例として、「フィールド歴史学」がそれにあたります。

後期伝統中国史（前近代史）においては、東アジア全体を視野に入れ、社会史・文化史など多様な観点を取り入れて新しい歴史像を追究します。辛亥革命後の中国やアジア地域の近現代史をも考察の対象としています。他方、朝鮮史では、中国大陸や日本列島との関連を重視した東アジア史における展開とその位置づけに注目します。

カリキュラムマップ



指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：8 単位、発展科目 1：4 単位、発展科目 2：4 単位）以上

注意事項

2017 年度以降文化構想学部・文学部入学生は、文化構想学部・文学部副専攻（「アジアの歴史と伝統文化」）を履修してください。

2016 年度以前文化構想学部・文学部入学生（2017 年度入学の転部入学者、2017 年度・2018 年度入学の学士入学者を含む）は、本副専攻（GEC 設置）を履修してください。

再入学者は、2016 年度以前要項適用の場合は本副専攻（GEC 設置）を履修し、2017 年度以降要項適用の場合は文化構想学部・文学部副専攻を履修してください。要項適用年度について不明な場合は、文学学術院事務所までお問い合わせください。

★基礎科目

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	地域文化研究（東アジア） 01	2 年以上	2	
2	社会学	漢字文化圏論 1	1 年以上	2	
3	社会学	漢字文化圏論 2	1 年以上	2	
4	文	仏教概論	2 年以上	2	
5	文	儒教概論	2 年以上	2	
6	文	道教概論	2 年以上	2	
7	文	アジア史概論 1	2 年以上	2	自学部優先科目
8	文	アジア史概論 2	2 年以上	2	自学部優先科目
9	文	サブカルでよむ東洋史入門	1 年以上	2	
10	文	アジア考古学交流	2 年以上	2	
11	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（入門） 1	1 年以上	1	
12	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（入門） 2	1 年以上	1	
13	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（応用） 1	1 年以上	1	
14	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（応用） 2	1 年以上	1	

★発展科目 1

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	文構	アジア地域社会論	2 年以上	2	自学部優先科目
2	文	フィールド歴史学（東アジア）	2 年以上	2	自学部優先科目
3	文	朝鮮近現代史	2 年以上	2	自学部優先科目
4	文	東南アジア史	2 年以上	2	自学部優先科目

★発展科目 2

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	文	アジア史特殊講義 1（中国古代史）	2 年以上	2	自学部優先科目
2	文	アジア史特殊講義 2（朝鮮前近代史）	2 年以上	2	自学部優先科目
3	文	アジア史特殊講義 3（中国前近代史）	2 年以上	2	自学部優先科目
4	文	アジア史特殊講義 4（東アジア近現代史）	2 年以上	2	自学部優先科目

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

東アジア地域に横たわるさまざまな問題について、それがなぜ起こったのかという問題意識を持ってアジアの歴史と伝統文化を学んでください。歴史学は、過去と現在をつなぐ非常に面白い学問です。単に過去の失われたものをいつくしむのが歴史学ではありません。また、過去の止まった一点だけをじっと見る学問でもありません。われわれが目指すのは、過去が現在にどう結びつくのか、その接点を見出し、それを現代の問題を理解し、解決するための糧とする学問です。たとえば、前近代の史料に記されていることが、実は脈々と現在にまで受け継がれている、それを知ること、現今の問題を立体的に捉えることができるのです。

日本と中国や朝鮮半島との間で現在起こっている問題についても、単純に、感情的に見ているだけでは偏狭なナショナリズムしか生み出しません。また、中国・台湾や韓国といった、東アジア地域の諸国家の現状を理解し、自らの考えをもってそれらの将来的な動向を捉えてゆくためには、歴史的な分析能力が不可欠です。歴史学を通して、物事を複合的な視点から解釈する方法を学びましょう。

また、本副専攻の母体であるアジア史コースでは、これまで新しいアジア学の創生や資料のデジタル化などのプロジェクトを通じ、新たな歴史学の構築に向けて積極的に取り組んできました。本副専攻のカリキュラムには、上記のような基本方針を踏まえつつ、そうした学術成果が最大限に盛り込まれています。さらに長い伝統を有する東洋史学の蓄積を反映させ、東アジアの歴史を風土や地理とのかかわりから構造的・立体的に捉えることができる構成となっています。

東洋の思想と宗教

Thought and Religion of Asia

文学学院提供副専攻

設置概要

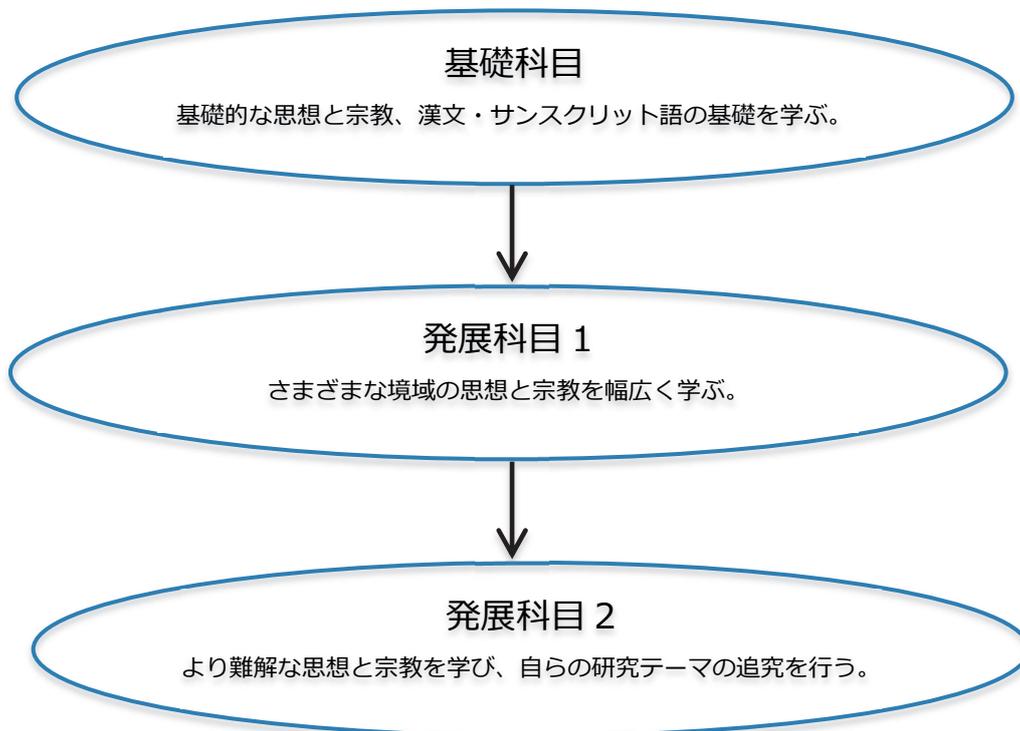
「東洋の思想と宗教」副専攻では、中国・インド・日本という三国を中心とした思想と宗教を広く体系的に学習します。その中心となるものは、中国です。「三国志」や「キングダム」でおなじみの中国古代の歴史も、中国古典の理解に基づいて成立しています。本副専攻では、そうした古典中国の基本となっている中国古典、中国思想が古代から中世（朱子学）へと展開する契機となった仏教、その故郷であるインドとそれが展開した日本の思想と宗教を正しく理解し、考える力を持った学生を育てることを目指しています。

思想と宗教の研究は、資料の解読が必須となります。本副専攻が対象とする領域の関係資料は、漢文、サンスクリット語が中心となります。本副専攻は、東洋の多くの地域に関し、もっとも豊富に資料を残している漢文テキストを主として、資料講読を訓練します。もちろん、インドを深く勉強したい場合には、サンスクリット語の習得が必要となります。資料を講読していく訓練は、思想と宗教を理解していくための修練となります。その結果、体得した読解力によって、各自の個別研究を深め、それによって新しい世界をひらいて行くことを、本副専攻の教育方針としています。

到達点（学習成果）

本副専攻は、中国・インド・日本における思想と宗教について、広い知識と深い洞察力を涵養することを目標とします。それをさらなる高みに導くためには、資料の読解力が必要となりますが、その基本を身につけることも目標としています。

カリキュラムマップ



指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：6 単位、発展科目 1：6 単位、発展科目 2：4 単位）以上

注意事項

2017 年度以降文化構想学部・文学部入学生は、文化構想学部・文学部副専攻（「東洋哲学」）を履修してください。

2016 年度以前文化構想学部・文学部入学生（2017 年度入学の転部入学者、2017 年度・2018 年度入学の学士入学者を含む）は、本副専攻（GEC 設置）を履修してください。

再入学者は、2016 年度以前要項適用の場合は本副専攻（GEC 設置）を履修し、2017 年度以降要項適用の場合は文化構想学部・文学部副専攻副専攻を履修してください。要項適用年度について不明な場合は、文学学術院事務局までお問い合わせください。

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	文構	チベット文化論	1年以上	2	
2	文構	神道概論	1年以上	2	
3	文	サンスクリットの世界1	1年以上	2	
4	文	サンスクリットの世界2	1年以上	2	
5	文	漢文講読1	1年以上	2	
6	文	漢文講読2	1年以上	2	

★発展科目 1

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	東洋思想 01	1年以上	2	
2	国際教養	APM- The Analects of Confucius: a Seminar of Close Reading (in Chinese) 01	3年以上	2	
3	文	インド思想史	2年以上	2	
4	文	中国思想の世界	2年以上	2	
5	文	仏教漢文の世界	2年以上	2	
6	文	仏教概論	2年以上	2	
7	文	儒教概論	2年以上	2	
8	文	道教概論	2年以上	2	
9	文	日本思想概論	2年以上	2	
10	文	日本中世思想	2年以上	2	
11	文	日本近世思想	2年以上	2	

★発展科目 2

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	文	インド哲学特論	2年以上	2	自学部優先科目
2	文	中国哲学特論	2年以上	2	自学部優先科目
3	文	日本思想特論	2年以上	2	自学部優先科目
4	文	東洋思想特論	2年以上	2	自学部優先科目

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

中国・インド・日本における思想と宗教について、幅広く学んでいきます。入り口は、「キングダム」や「三国志」への興味で大丈夫です。そうした関心を元に知識を得て、さらなる展開を目指せば、漢文やサンスクリットの基礎を学ぶこともできます。東洋思想は今や世界の思想でもあり、海外の人々も多く勉学にいそんでいます。また、日本を理解するためにも、東洋の思想と宗教を知ることが不可欠です。国際人として東洋の思想と宗教を履修してみませんか。

会計学

Accounting

商学学院提供副専攻

設置概要

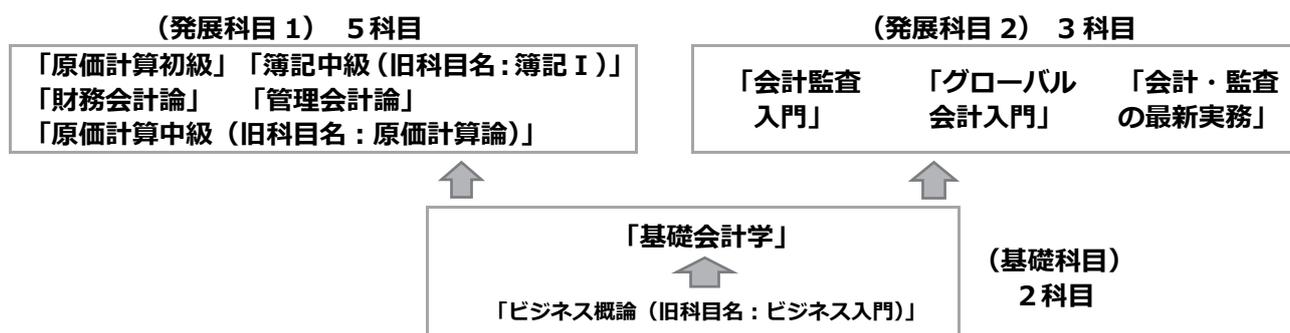
会計は、しばしば「ビジネスの言語」といわれる。これは、会計が企業と外部世界、すなわち利害関係者（株主、債権者、徴税当局など）とを繋げる必須の情報であり、また企業経営の場面においても経済活動の実態を理解するうえで欠かせない知識を提供するからに他ならない。いうまでもなく、本学の学生の多くは卒業後企業に就職する。このことを考えれば、自らの専門分野とは別に、会計に関する基本的なものの見方・考え方を身につけ、複眼的な視点を養うことが社会的にも要請されるであろうし、商学部はこれを支援できる環境を提供することができる学部であるといえる。事実、商学部はこれまでも、政治経済学部および法学部との合併科目として「基礎会計学」を設置してきたが、両学部においては公認会計士試験を意識した優秀な学生が多数存在する。今後、学術的副専攻という形でさらに体制を拡大・発展させることにより、そうした学生のニーズに幅広く応えられる環境を整備することができる。さらに、商学部にあっては会計研究科との連携も可能であることから、発展科目2により実践的な内容を有する科目も加えている。

到達点（学習成果）

副専攻「会計学」の修了要件を充たした学生は、社会における会計の役割とその貢献に関する体系的な理解が得られるとともに、簿記に限らずこれを活用するための基本および実践的な技術に関して相応の学習効果が見込まれる。具体的には、その想定される学習効果は、商学部内の会計トラックに所属する学生と比べても決して見劣りしないレベルとなることを想定している。正直なところ、公認会計士試験を受験するために必要とされる高度な知識の習得を期待できるレベルには及ばないものの、当該試験の受験に対する動機付けおよび今後の進路決定には大いに役立つものとなるにちがいない。この点に関しては、中小企業診断士や税理士試験に関しても同様である。

カリキュラムマップ

- ・基礎科目として「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」と「基礎会計学」を置き、副専攻の必修科目とする。
- ・「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」を履修し A 評価以上を修得した者は、全学副専攻の対象科目として「基礎会計学 10」の履修申請を可能とする。
- ・「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」を履修し A 評価以上を修得し、かつ「基礎会計学」を履修し A 評価以上を修得した者は、全学副専攻の対象科目として「発展科目 1」および「発展科目 2」の履修申請を可能とする。



履修を希望する学生へのメッセージ

会計について深く知ることは、経済社会の動きをリアルタイムで把握し、的確な行動を選択することにつながる。会計は俗に「ビジネスの言語」と称されるが、同時に世界共通のグローバルな言語でもあることを知ってもらいたい。すなわち、世界経済を動かす人々は異なる言語を用いていても、彼らの行動やビジネスの在り方を律するルールは共通している。会計はまさにそうしたルールを代表する存在といえるであろう。社会の中には会計という仕組みがあり、これを通じて生み出された情報によって世界は動いているのである。外国語を学ぶことだけが世界につながる道では決していない。世界経済を動かしている共通な枠組みを学習し、これを理解することによってこそ、世界で活躍できるグローバルな人材が育つと考える。

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（基礎科目：6 単位 発展科目 1：8 単位 発展科目 2：2 単位）以上

注意事項

商学部生は「会計学」副専攻を修了できません。

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	基礎会計学 01	1 年以上	4	・「基礎会計学」は基礎科目 No.1～4 のうちからいずれか 1 科目を履修必須 ・政治経済学部生のみ履修可
2	政経	基礎会計学 02	1 年以上	4	
3	法学	基礎会計学（河内山）	1 年以上	4	・「基礎会計学」は基礎科目 No.1～4 のうちからいずれか 1 科目を履修必須 ・法学部生のみ履修可
4	商学	基礎会計学 10	1 年以上	4	・「基礎会計学」は基礎科目 No.1～4 のうちからいずれか 1 科目を履修必須 ・「基礎会計学 10」の履修には特別な条件がありますので、科目登録の際には十分注意してください。 【条件】 「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」で A 評価以上を修得していること。 【科目登録方法】 各所属学部の一次登録期間中に、Web 科目登録を行い、かつ上記の履修条件を満たしている旨を商学部事務所に申請してください（成績証明書は不要です）。申請方法は商学部 Web ページ/科目登録に掲載します。 (https://www.waseda.jp/fcom/soc/students/registration)
5	商学	ビジネス概論 1	1 年以上	2	履修必須（旧科目名：ビジネス入門 1）

★発展科目 1

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	商学	簿記中級 1	2 年以上	4	・「原価計算初級」は「原価計算中級（旧科目名：原価計算論）」の合格者は履修不可
2	商学	簿記中級 2	2 年以上	4	
3	商学	財務会計論 1	2 年以上	4	
4	商学	財務会計論 2	2 年以上	4	・「発展科目 1」のすべての科目の履修には特別な条件がありますので、科目登録の際には十分注意してください。
5	商学	財務会計論 3	2 年以上	4	
6	商学	管理会計論 1	2 年以上	4	【条件】 「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」 「基礎会計学」で A 評価以上を修得していること。
7	商学	管理会計論 2	2 年以上	4	
8	商学	管理会計論 3	2 年以上	4	
9	商学	原価計算初級 1	1 年以上	2	【科目登録方法】 各所属学部の一次登録期間中に、Web 科目登録を行い、かつ上記の履修条件を満たしている旨を商学部事務所に申請してください（成績証明書が必要な場合があります）。申請方法は商学部 Web ページ/科目登録に掲載します。 (https://www.waseda.jp/fcom/soc/students/registration)
10	商学	原価計算初級 2	1 年以上	2	
11	商学	原価計算初級 3	1 年以上	2	
12	商学	原価計算初級 4	1 年以上	2	
13	商学	原価計算中級 1	2 年以上	4	
14	商学	原価計算中級 2	2 年以上	4	
15	商学	原価計算中級 3	2 年以上	4	

★発展科目 2

修了必要単位：2 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	商学	グローバル会計入門 1	3 年以上	2	・「グローバル会計入門 1」「会計・監査の最新実務 1」の履修には特別な条件がありますので、科目登録の際には十分注意してください。 【条件】 「ビジネス概論 1（旧科目名：ビジネス入門 1）」 「基礎会計学」で A 評価以上を修得していること。
2	商学	会計・監査の最新実務 1	3 年以上	2	【科目登録方法】 各所属学部の一次登録期間中に、Web 科目登録を行い、かつ上記の履修条件を満たしている旨を商学部事務所に申請してください（成績証明書が必要な場合があります）。申請方法は商学部 Web ページ/科目登録に掲載します。 (https://www.waseda.jp/fcom/soc/students/registration)
3	グローバル	会計監査入門	3 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

ソフトウェア学

Software Study

理工学術院・グローバル・エデュケーション・センター共同提供副専攻

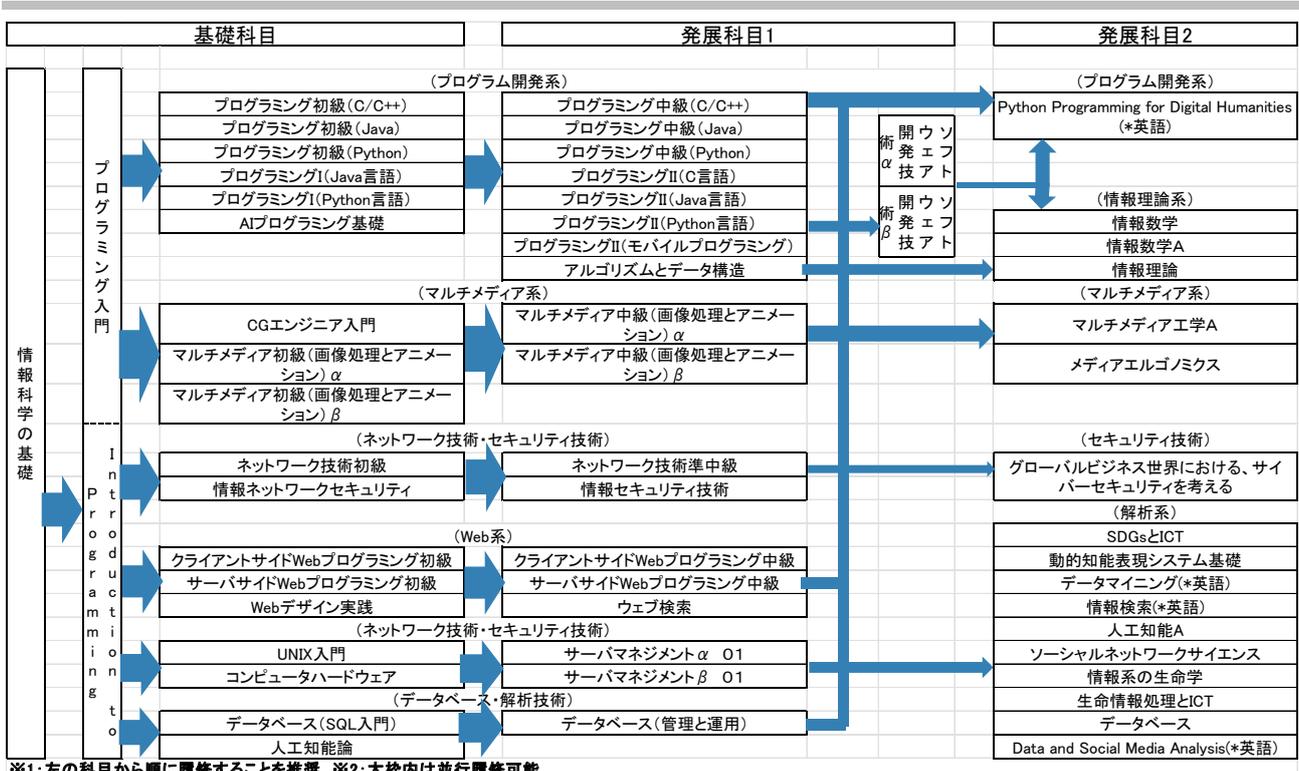
設置概要

ソフトウェア学は、様々なプログラミング言語を用いて「目的に応じたプログラムを構築できる能力」と「応用力」を身につけることを目的とした学術的副専攻である。本副専攻では、論理的思考力はもとより、ソフトウェア構築において必要となる、要件定義、設計、コーディング、テスト、運用といったソフトウェアのライフサイクルを総合的に学ぶ。特徴は、グローバル・エデュケーション・センターが提供する初級・中級の基盤科目に加え、学術院が提供する応用科目をセットで履修できる点にある。履修者はグローバル・エデュケーション・センターの科目でソフトウェア学の基礎を、学術院提供科目にてその応用を学ぶことができ、プログラミングの知識やスキルの修得に留まらず、総合的にソフトウェア学を学ぶことができる。

到達点 (学習成果)

本副専攻 (ソフトウェア学) では修了要件を満たした学生の到達点として、国家試験である「基本情報技術者試験」午後の試験に合格可能なレベルと同等な能力を持つことを想定している。そのため、本副専攻の履修者には是非、上記国家試験にチャレンジしていただきたい。将来システムエンジニアを目指す諸君は本レベルに達することが必須と考える。また社会における昨今のプログラミングスキルの重要性を勘案すると、本副専攻の内容はシステムエンジニアを目指すない諸君にとっても大いに役立つものと確信している。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

プログラミングスキルは、人文社会系、理工系を問わず、社会のあらゆる場面で必要とされる基礎能力の一つとなっている。身近な例では、各種業務におけるオフィスワークでのちょっとしたプログラムから、Webページ構築、RPA (ロボティック・プロセス・オートメーション)、AI (人工知能) 等、様々な場面でプログラミングが必要とされている。今やプログラムを内包しないWebページは皆無と言ってもよく、また、様々な業務プロセスを自動化するRPAは、破壊的技術として注目されている。このRPAのブレインであるAIを使う上でもプログラミングは必要不可欠となっている。本副専攻は、グローバル・エデュケーション・センターが提供する初級・中級の科目 (基盤科目、発展科目1) と学術院が提供する応用科目 (発展科目2) から構成されている。まず、グローバル・エデュケーション・センター提供の科目で学んだ後、自身が応用を目指す分野の科目を学術院提供科目の中から履修し、単にプログラミングに留まらないソフトウェア学 (ソフトウェアのライフサイクル) を身につけてほしい。そして、この副専攻を通じてシステムエンジニアを目指す諸君のみならず、多くの学生諸君にソフトウェア学を一般教養の一つとして身につけてほしい。

指定科目一覽

修了必要単位

24 単位（基礎科目：12 単位、発展科目 1：8 単位、発展科目 2：4 単位）以上

★基礎科目

修了必要単位：12 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	人科	人工知能論	1年以上	2	
2	人科	コンピュータハードウェア	1年以上	2	
3	人科	プログラミング I (Java 言語)	1年以上	2	
4	人科	プログラミング I (Python 言語) 01	1年以上	2	
5	人科	プログラミング I (Python 言語) 02	1年以上	2	
6	人科	プログラミング I (Python 言語) 03	1年以上	2	
7	人科	プログラミング I (Perl 言語)	1年以上	2	
8	グローバル	情報科学の基礎 01	1年以上	2	
9	グローバル	情報科学の基礎 02	1年以上	2	
10	グローバル	情報科学の基礎 03	1年以上	2	
11	グローバル	情報科学の基礎 04	1年以上	2	
12	グローバル	プログラミング入門 01	1年以上	1	
13	グローバル	プログラミング入門 02	1年以上	1	
14	グローバル	プログラミング入門 03	1年以上	1	
15	グローバル	プログラミング入門 04	1年以上	1	
16	グローバル	Introduction to Programming 01	1年以上	1	
17	グローバル	Introduction to Programming 02	1年以上	1	
18	グローバル	Introduction to Programming 03	1年以上	1	
19	グローバル	Introduction to Programming 04	1年以上	1	
20	グローバル	プログラミング初級 (C/C++) 01	1年以上	2	
21	グローバル	プログラミング初級 (C/C++) 02	1年以上	2	
22	グローバル	プログラミング初級 (C/C++) 03	1年以上	2	
23	グローバル	プログラミング初級 (C/C++) 04	1年以上	2	
24	グローバル	プログラミング初級 (Java) 01	1年以上	2	
25	グローバル	プログラミング初級 (Java) 02	1年以上	2	
26	グローバル	プログラミング初級 (Java) 03	1年以上	2	
27	グローバル	プログラミング初級 (Java) 04	1年以上	2	
28	グローバル	UNIX 入門 01	1年以上	2	
29	グローバル	UNIX 入門 02	1年以上	2	
30	グローバル	ネットワーク技術初級 01	1年以上	2	
31	グローバル	ネットワーク技術初級 02	1年以上	2	
32	グローバル	ネットワーク技術初級 03	1年以上	2	
33	グローバル	情報ネットワークセキュリティ 01	1年以上	2	
34	グローバル	情報ネットワークセキュリティ 02	1年以上	2	
35	グローバル	サーバサイド Web プログラミング初級 01	1年以上	2	
36	グローバル	サーバサイド Web プログラミング初級 02	1年以上	2	
37	グローバル	サーバサイド Web プログラミング初級 03	1年以上	2	
38	グローバル	サーバサイド Web プログラミング初級 04	1年以上	2	
39	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 01	1年以上	2	
40	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 02	1年以上	2	
41	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 03	1年以上	2	
42	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 04	1年以上	2	
43	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 05	1年以上	2	
44	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング初級 06	1年以上	2	
45	グローバル	CG エンジニア入門 01	1年以上	2	
46	グローバル	マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) α 01	1年以上	1	
47	グローバル	マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) α 02	1年以上	1	
48	グローバル	マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) β 01	1年以上	1	
49	グローバル	マルチメディア初級 (画像処理とアニメーション) β 02	1年以上	1	
50	グローバル	Web デザイン実践 01	1年以上	2	
51	グローバル	Web デザイン実践 02	1年以上	2	
52	グローバル	Web デザイン実践 03	1年以上	2	
53	グローバル	Web デザイン実践 04	1年以上	2	
54	グローバル	Web デザイン実践 05	1年以上	2	
55	グローバル	Web デザイン実践 06	1年以上	2	
56	グローバル	データベース (SQL 入門) 01	1年以上	2	
57	グローバル	データベース (SQL 入門) 02	1年以上	2	
58	グローバル	データベース (SQL 入門) 03	1年以上	2	
59	グローバル	プログラミング初級 (Python) 01	1年以上	2	
60	グローバル	プログラミング初級 (Python) 02	1年以上	2	
61	グローバル	プログラミング初級 (Python) 03	1年以上	2	
62	グローバル	プログラミング初級 (Python) 04	1年以上	2	
63	グローバル	プログラミング初級 (Python) 05	1年以上	2	
64	グローバル	プログラミング初級 (Python) 06	1年以上	2	
65	グローバル	プログラミング初級 (Python) 07	1年以上	2	
66	グローバル	プログラミング初級 (Python) 08	1年以上	2	
67	グローバル	AI プログラミング基礎 01	1年以上	2	
68	グローバル	AI プログラミング基礎 02	1年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

★発展科目 1

修了必要単位：8単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	人科	アルゴリズムとデータ構造	1年以上	2	
2	人科	プログラミングⅡ (Java 言語)	1年以上	2	
3	人科	プログラミングⅡ (C 言語)	1年以上	2	
4	人科	プログラミングⅡ (モバイルプログラミング)	1年以上	2	
5	人科	プログラミングⅡ (Python 言語)	1年以上	2	
6	人科	ウェブ検索	1年以上	2	
7	グローバル	ネットワーク技術準中級 01	1年以上	2	
8	グローバル	ネットワーク技術準中級 02	1年以上	2	
9	グローバル	情報セキュリティ技術 01	1年以上	2	
10	グローバル	情報セキュリティ技術 02	1年以上	2	
11	グローバル	サーバマネジメントα 01	1年以上	1	
12	グローバル	サーバマネジメントα 02	1年以上	1	
13	グローバル	サーバマネジメントβ 01	1年以上	1	
14	グローバル	サーバマネジメントβ 02	1年以上	1	
15	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 01	1年以上	2	
16	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 02	1年以上	2	
17	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 03	1年以上	2	
18	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 04	1年以上	2	
19	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 05	1年以上	2	
20	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 06	1年以上	2	
21	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 07	1年以上	2	
22	グローバル	プログラミング中級 (C/C++) 08	1年以上	2	
23	グローバル	プログラミング中級 (Java) 01	1年以上	2	
24	グローバル	プログラミング中級 (Java) 02	1年以上	2	
25	グローバル	プログラミング中級 (Java) 03	1年以上	2	
26	グローバル	プログラミング中級 (Java) 04	1年以上	2	
27	グローバル	プログラミング中級 (Java) 05	1年以上	2	
28	グローバル	プログラミング中級 (Java) 06	1年以上	2	
29	グローバル	サーバサイド Web プログラミング中級 01	1年以上	2	
30	グローバル	クライアントサイド Web プログラミング中級 01	1年以上	2	
31	グローバル	データベース (管理と運用) 01	1年以上	2	
32	グローバル	データベース (管理と運用) 02	1年以上	2	
33	グローバル	アルゴリズムとデータ構造α 01	1年以上	1	
34	グローバル	アルゴリズムとデータ構造α 02	1年以上	1	
35	グローバル	アルゴリズムとデータ構造β 01	1年以上	1	
36	グローバル	アルゴリズムとデータ構造β 02	1年以上	1	
37	グローバル	マルチメディア中級 (画像処理とアニメーション) α 01	1年以上	1	
38	グローバル	マルチメディア中級 (画像処理とアニメーション) β 01	1年以上	1	
39	グローバル	プログラミング中級 (Python) 01	1年以上	2	
40	グローバル	プログラミング中級 (Python) 02	1年以上	2	
41	グローバル	プログラミング中級 (Python) 03	1年以上	2	
42	グローバル	プログラミング中級 (Python) 04	1年以上	2	
43	グローバル	プログラミング中級 (Python) 05	1年以上	2	
44	グローバル	プログラミング中級 (Python) 06	1年以上	2	
45	グローバル	プログラミング中級 (Python) 07	1年以上	2	
46	グローバル	プログラミング中級 (Python) 08	1年以上	2	
47	グローバル	ソフトウェア開発技術α 01	1年以上	2	
48	グローバル	ソフトウェア開発技術β 01	1年以上	2	

★発展科目 2

修了必要単位：4単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	教育	情報数学3	2年以上	2	
2	教育	情報数学4	2年以上	2	
3	教育	情報数学5	2年以上	2	
4	教育	情報数学6	2年以上	2	
5	国際教養	Python Programming for Digital Humanities 01	2年以上	4	
6	国際教養	Data and Social Media Analysis 51	3年以上	4	
7	基幹	情報数学A	2年以上	2	
8	基幹	情報系の生命学	2年以上	2	
9	基幹	生命情報処理とICT	3年以上	2	
10	基幹	データマイニング	3年以上	2	
11	基幹	情報検索	4年以上	2	
12	基幹	人工知能	3年以上	2	
13	基幹	グローバルビジネス世界における、サイバーセキュリティを考える	3年以上	2	
14	基幹	メディアエルゴノミクス	3年以上	2	
15	基幹	情報理論	2年以上	2	表現工学科設置科目
16	基幹	動的知能表現システム基礎	3年以上	2	
17	基幹	マルチメディア工学A	3年以上	2	
18	基幹	データベース	3年以上	2	
19	基幹	ソーシャルネットワークサイエンス	4年以上	2	
20	基幹	SDGs と ICT	4年以上	2	
21	基幹	Information Retrieval	4年以上	2	基幹、創造、先進理工学部の英語学位プログラム学生のみ履修可
22	基幹	Databases	3年以上	2	基幹、創造、先進理工学部の英語学位プログラム学生のみ履修可

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

MEMO

社会イノベーション

Social Innovation

社会科学総合学院提供副専攻

設置概要

グローバル課題の解決に向けて社会を変革する「ソーシャルイノベーター」が備えるべき、具体的な問題解決の提案力を学ぶ。

基礎として、学際的な理解を深める。重点課題として、①コミュニティ・社会開発、②平和構築・国際協力、③経済・環境持続可能性、④社会組織・働き方、の4つのテーマを設定する。

発展1として、臨床的なフィールドワークと国際的な理論研究の往還による分析で理解を深め、問題解決の糸口、社会的アクションの意義やそのきっかけのあり方を学ぶ。とくに地球規模のパースペクティブと現代日本からのパースペクティブを重視する。

さらに発展2として、効果的で持続可能な問題解決（社会イノベーション）のための実践知・専門知を養い、社会構想力を発揮するための基礎的な知識、スキル、プロフェッショナルとしての素養を習得する。

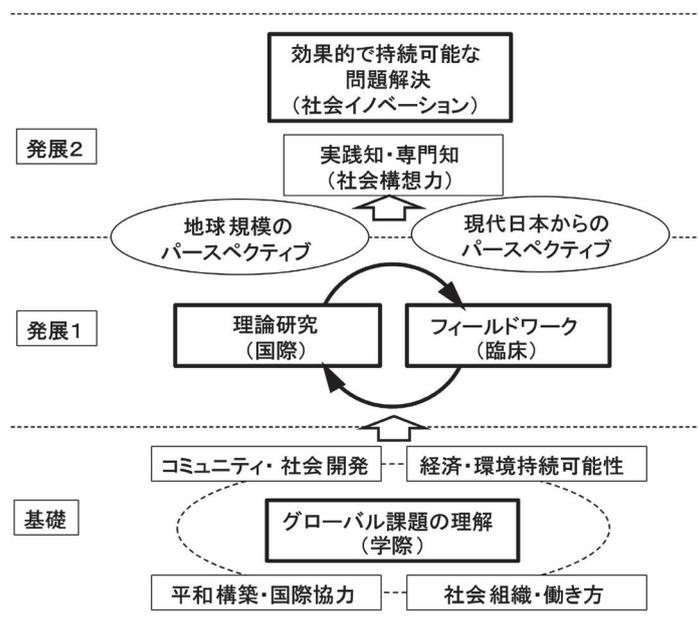
到達点（学習成果）

未知の問題や危機に対して、豊かな人間性とたくましい実践力を育み、豊かで多様な見方、感じ方、考え方を広げ、確かな現実認識と思考により、事物の全体像の中で自らが立てた問題意識を位置づけ、意味、その価値に気づき、社会創造に意識を向かわせることができる。

確かな学術的方法にもとづき社会の本質理解（法則・普遍性・一般性）を深めることができる。

さらに、思考と行動のフィードバック回路を確立し、矛盾（不合理や葛藤）を自らそして多様なステイクホルダーやコミュニティと対話しながら社会的に乗り越えることができる。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

地球規模や地域社会の現実的な課題、未来の危機に対して、社会的な対話を広げながら、現実的な問題解決策を提起できる真に国際社会の転換に貢献できる人材を育成する。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（基礎科目：6 単位、発展科目 1：4 単位、発展科目 2：6 単位）以上

★基礎科目

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	社会学	バイオエシックス	1年以上	2	
2	社会学	歴史学（日中関係史）1	1年以上	2	
3	社会学	漢字文化圏論 1	1年以上	2	
4	社会学	漢字文化圏論 2	1年以上	2	
5	社会学	平和学 I	2年以上	2	
6	社会学	Social Innovation in Global Asia	1年以上	2	

★発展科目 1

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	社会学	地理情報システム論 I	1年以上	2	
2	社会学	地理情報システム論 II	1年以上	2	前学期までに「I」を合格している場合のみ「II」を履修可
3	社会学	コミュニティデザイン	1年以上	2	
4	社会学	国際金融論	2年以上	2	
5	社会学	地域計画システム論 I	2年以上	2	
6	社会学	地域計画システム論 II	2年以上	2	前学期までに「I」を合格している場合のみ「II」を履修可
7	社会学	観光学	2年以上	2	
8	社会学	Synthesis of Conflict Resolution and Social Innovation	1年以上	2	

★発展科目 2

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	社会学	国際政治理論	2年以上	2	
2	社会学	太平洋地域海洋国家研究	2年以上	2	
3	社会学	国際NGO協力論	3年以上	2	
4	社会学	国際開発制度論	3年以上	2	
5	社会学	平和構築論	2年以上	2	
6	社会学	環境法 1〔公害規制法〕	2年以上	2	
7	社会学	環境法 2〔自然保護法〕	2年以上	2	
8	社会学	環境表現論 I	1年以上	2	
9	社会学	環境表現論 II	2年以上	2	前学期までに「I」を合格している場合のみ「II」を履修可
10	社会学	ヴィジュアルイメージ研究	2年以上	4	
11	社会学	紛争解決論実習 1	2年以上	2	
12	社会学	紛争解決論実習 2	2年以上	2	
13	社会学	紛争解決論実習 3	2年以上	2	
14	社会学	平和学 II	2年以上	2	前学期までに「I」を合格している場合のみ「II」を履修可
15	社会学	都市復興デザイン論	2年以上	2	
16	社会学	イタリアの都市づくり	3年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

日本語教育学

Study in Japanese Language Teaching

日本語教育研究科提供副専攻

設置概要

本学は1880年代より外国人留学生を受け入れ、現在、日本最大規模の5,000名超の留学生が学んでいます。そのうち半数の留学生が本学日本語教育研究センターで日本語科目を履修しています。

また、大学院日本語教育研究科は、第二言語として日本語を学ぶ学習者が日本語でコミュニケーションできるようになるための日本語教育のあり方と方法を理論的に研究し、「理論」と「実践」が統合された教育が展開できる日本語教師など日本語教育の専門家を養成しています。日本語教育研究科の修了生は、日本中、あるいは、世界各国の日本語教育機関等で幅広く活躍しています。

本副専攻では、分野としての日本語教育学を体系的に学びます。日本語教育学は「日本語」「教育/学習」「社会」の3本柱からなる分野です。日本語の教育や学習支援には、まず日本語に関する知識が不可欠です。しかし、それだけでは不十分で、日本語の教育や学習に関する知識や技術も必要です。さらに、日本語教育の専門家としては、第二言語として日本語を使って生きる人や彼らを受け入れる社会のあり方も視野に入れる必要があります。

<基礎>の科目群にある「日本語教育学入門」は、本副専攻の要となる科目で3本柱を広くカバーする科目で、その履修によって日本語教育学に関する全体図を得ることができます。「日本語」「教育/学習」「社会」の各柱には、それぞれ<基礎><発展1><発展2>の科目群があって、履修者は各自の専攻や興味・関心に応じて科目を選択しながら、日本語教育学を体系的に学ぶことができます。

到達点 (学習成果)

本副専攻は、「日本語」「教育/学習」「社会」の3本柱からなり、それぞれが次のような到達目標をもっています。「日本語」は、個別言語の1つとして日本語を位置づけ、その体系、構造を理解し、日本語を客観的にとらえられるようになることを到達目標としています。「教育/学習」は、第二言語/母語として日本語を教えたり学んだりする際に必要な知識と技術を身につけることを到達目標としています。「社会」は、社会全体の中に日本語教育を位置づけ、その役割や意義が考えられるようになることを到達目標としています。

履修者は、各自の専攻や興味・関心に応じて本専攻の科目を選択して学習することができます。その到達点は多様で、海外留学先の大学で日本語教育のティーチング・アシスタントをする、日本語教師となって国内外で教える、国内外で日本語学習支援のボランティアをするなど、さまざまケースがあります。

カリキュラムマップ

区分	日本語	教育/学習	社会
到達目標	個別言語の1つとして日本語を位置づけ、その体系、構造を理解し、客観的にとらえられるようになる。	第二言語/母語として日本語を教えたり学んだりする際に必要な知識や技術を身につける。	社会全体の中に日本語教育を位置づけ、その役割や意義を考えられるようになる。
基礎 7科目 (14単位)	日本語教育学入門 この科目では、日本語教育学の基本的な概念を知ることにより、その大まかな全体像を学びます。		
	日本語を知る この科目は日本語という言語の音声や語彙、文法、談話がどのような仕組みになっているかを考えます。	日本語を教える この科目では、日本語を母語としない人にとどのように日本語を教えるかを学びます。	複言語社会を知る この科目は社会や個人において、どのようなことが使用されているかを日本語教育の視点から考えます。
	日本語使用を考える この科目は日本語がどのように使われているかを考える際にどのような捉え方があるかを学びます。	日本語学習を考える この科目では、人々が母語あるいは外国語/日本語として、日本語をどのように学んでいるかを知り、自身の言語学習についても内省する目を養います。	複言語社会を作る この科目は日本語教育がこれからの社会をつくるうえでどのようなことができるのかを考えます。
発展1 6科目 (12単位)	日本語を集める この科目は日本社会でどのような日本語が使われているかを知るために、いろいろな使用例を集めます。	日本語学習者を支援する この科目では、学習者がさまざまな場で日本語を学ぶことをどのように支援することができるかを学びます。	複言語社会を考える この科目は多様な背景をもつ人々が共に暮らす社会の中で、ことばと社会、そしてコミュニケーションに関する事象を日本語教育の視点から考えます。
	日本語を見る この科目は日本語を使ってどのようにコミュニケーションが行われるかを観察し、日本語によるコミュニケーションを見る目を養います。	日本語教師を養成する この科目では、外国語/第二言語としての日本語を教える教師をどのように養成するかを考えます。	複言語社会を生きる この科目は多様な背景をもつ人々が共に暮らす社会の中で、どのように暮らしているのかに関する事象を日本語教育の視点から考えます。
到達目標	「基礎」および「発展1」をふまえ、日本語教育学の広がりについて、さまざまな観点から学びます。		
発展2 9-12科目 (18-24単位)	「敬語コミュニケーション論1」、「敬語コミュニケーション論2」、「言語学入門」、「言語学1A」、「言語学1C」、「現代の日本語」、「ことばの世界」、「非言語行動論」、「心理学概論」、「国際教育論」、「参加のデザイン技術A」		

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（基礎科目：8 単位、発展科目 1：4 単位、発展科目 2：4 単位）以上

★基礎科目

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	グローバル	日本語教育学入門 1 01	1年以上	1	
2	グローバル	日本語教育学入門 1 02	1年以上	1	
3	グローバル	日本語教育学入門 2 01	1年以上	1	
4	グローバル	日本語教育学入門 2 02	1年以上	1	
5	グローバル	日本語を知る 1	1年以上	1	
6	グローバル	日本語を知る 2	1年以上	1	
7	グローバル	日本語使用を考える 1	1年以上	1	
8	グローバル	日本語使用を考える 2	1年以上	1	
9	グローバル	日本語を教える 1	1年以上	1	
10	グローバル	日本語を教える 2	1年以上	1	
11	グローバル	日本語学習を考える 1	1年以上	1	
12	グローバル	日本語学習を考える 2	1年以上	1	
13	グローバル	複言語社会を知る 1	1年以上	1	
14	グローバル	複言語社会を知る 2	1年以上	1	
15	グローバル	複言語社会を作る 1	1年以上	1	
16	グローバル	複言語社会を作る 2	1年以上	1	

★発展科目 1

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	グローバル	日本語を集める 1	1年以上	1	
2	グローバル	日本語を集める 2	1年以上	1	
3	グローバル	日本語を見る 1	1年以上	1	
4	グローバル	日本語を見る 2	1年以上	1	
5	グローバル	日本語学習者を支援する 1	1年以上	1	
6	グローバル	日本語学習者を支援する 2	1年以上	1	
7	グローバル	日本語教師を養成する 1	1年以上	1	
8	グローバル	日本語教師を養成する 2	1年以上	1	
9	グローバル	複言語社会を考える 1	1年以上	1	
10	グローバル	複言語社会を考える 2	1年以上	1	
11	グローバル	複言語社会を生きる 1	1年以上	1	
12	グローバル	複言語社会を生きる 2	1年以上	1	

★発展科目 2

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	言語学 I C (ストックウェル)	1年以上	2	
2	法学	言語学 I A (首藤)	1年以上	2	
3	社会学	社会デザインの思考と技法 4 (参加のデザイン技術)	2年以上	2	
4	人科	非言語行動論	1年以上	2	
5	文構	言語学入門	1年以上	2	
6	文構	グローバル社会と教育	2年以上	2	
7	文	現代の日本語	1年以上	2	
8	グローバル	敬語コミュニケーション論 1 01	1年以上	1	
9	グローバル	敬語コミュニケーション論 1 02	1年以上	1	
10	グローバル	敬語コミュニケーション論 2 01	1年以上	1	
11	グローバル	敬語コミュニケーション論 2 02	1年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

本副専攻では、分野としての日本語教育学を体系的に学びます。日本語教育学は「日本語」「教育／学習」「社会」の 3 本柱からなる分野です。日本語の教育や学習支援には、まず日本語に関する知識が不可欠です。しかし、それだけでは不十分で、日本語の教育や学習に関する知識や技術も必要です。さらに、日本語教育の専門家としては、第二言語として日本語を使って生きる人や彼らを受け入れる社会のあり方も視野に入れる必要があります。

<基礎>には 7 科目あり、「日本語教育学入門」はその 1 つですが、他の 6 科目とは異なり、本副専攻の 3 本柱の要となる科目なので、その履修を強く推奨します。本副専攻では、「日本語教育学入門」のみ春夏クォーター、秋冬クォーターのどちらも開講されます。それ以外の科目のほとんどが、春夏クォーター、または、秋冬クォーターのいずれかのみでの開講ですので、履修の時期にご注意ください。

本副専攻に設置されている科目の幅広い履修は、本副専攻の申請を特に考えていない方にも推奨します。地域や職場で日本語を母語としない人と接することが珍しくない現在、日本語教育学を学び、日本語や日本社会、日本文化を相対化して客観的に捉えられるようになることは、21 世紀を生きるための教養だからです。

アーカイブズ学

Archival Science

設置概要

人類の営みを示す記録やそれを収容する施設をアーカイブズと呼び、そこで働く専門職をアーキビストと称する。民主主義を機能させるには過去の記録を検証することが必要であるとの考えから、ヨーロッパでは早くからアーカイブズの理念を大事にしてきた。日本でも遅ればせながら1987年に「公文書館法」が、2009年に「公文書等の管理に関する法律」がそれぞれ制定され、国・地方公共団体のほか、企業・学校などでも文書館などの名称で様々な記録を保存・管理する施設を持つところが多くなってきている。本学でもミュージアムとしての早稲田大学歴史館とともに、文書館としての東伏見アーカイブズがあり、早稲田大学のアーカイブズを、組織運営上、必要不可欠なものとして位置づけている。

しかし、日本のアーカイブズ学はまだ歴史が浅く、自治体のすべてが公文書館を設置しているわけではない。加えて、公文書の不正・改竄・廃棄など、近年しばしば接する日本の公文書をめぐる問題は、日本ではアーカイブズとアーキビストがいまだ十分に認知されていないことの証左である。過去の記録を検証できる組織は健全であり、アーカイブズとアーキビストがその国の民主主義を支えるのであれば、多くの人がアーカイブズ学を学ぶことが求められる。本副専攻はそのような認識のもと、本学学生が広くアーカイブズ学について学ぶ機会を提供する、本学で初めての試みとして設置されるものである。

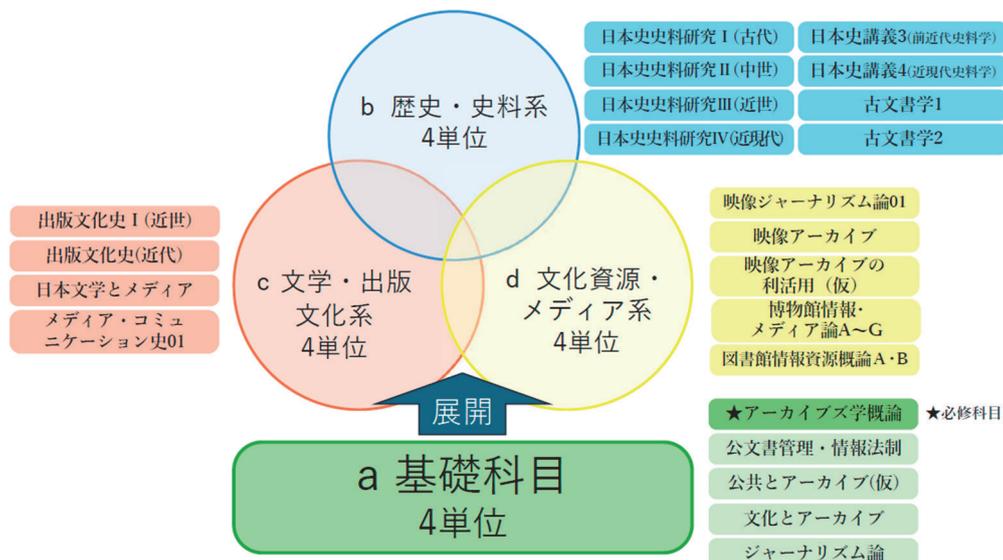
2012年に始まった日本アーカイブズ学会による登録アーキビストの制度を基盤として、2021年に国立公文書館長が認定者となる認証アーキビストの制度が整えられ、日本でもようやくアーキビストが公的なポジションとしての地位を確保できるようになった。日本の国家・社会が健全であり続けるためには、今後、全国各地に公文書館を設置することと、そこで働く認証アーキビストが必要とされるであろうし、企業や学校などにおいてもその専門的知識が求められるようになるであろう。

認証アーキビストの資格を得るためには、大学院修士課程以上のキャリアが必要とされるが、学部の課程においてそうした知識を学ぶことは、本学学生の進路として認証アーキビストの資格取得への道を開くとともに、必ずしも専門職を目指す学生にとっても、民主主義を担う市民としての基礎的素養を身に付けるという重要な意味がある。加えて、本副専攻は、優れたジャーナリストの育成を使命とする早稲田大学に設置されるものとして、ジャーナリズム及びメディアに関係する科目がカリキュラムに含まれるという特徴を持つ。このことを通じて、履修者がアーカイブズとジャーナリズムの関連についての理解を深め、公共的な情報流通の全体像の中でのアーカイブズの意義を了知することもまた、本副専攻の目指すところである。

到達点（学習成果）

アーカイブズが、人間の活動過程で作成される膨大で多様な記録（石板・粘土板・紙から、ポーンデジタルのものまで）のうち、さまざまな価値において長期的・永続的に保存すべきものであることを理解する。そのうえで、さまざまな価値をもつアーカイブズを取り扱うにあたって、適切な評価選別・収集・整理・保存・利用・活用を行うための理論や実践的な方法について学ぶ。また、アーカイブズを保管するさまざまな機関についても知る。さらに、未来を考えよりよい社会をつくるための素材であるアーカイブズが、われわれの社会とどのようにつながりながら存在し役立っているかをさまざまな場・学問分野から学び、人間の活動とアーカイブズの関係性について総合的に理解する。

カリキュラムマップ



指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：4 単位以上、領域・分野 b：4 単位以上、領域・分野 c：4 単位以上、領域・分野 d：4 単位以上）以上

★領域・分野 a 「基礎科目」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	教育	文化とアーカイブ	2 年以上	2	
2	教育	ジャーナリズム論	1 年以上	2	
3	教育	公文書管理・情報法制	2 年以上	1	
4	教育	公共とアーカイブ	2 年以上	1	
5	教育	アーカイブズ学概論	2 年以上	2	履修必須

★領域・分野 b 「歴史・史料系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	教育	日本史料研究 I (古代)	2 年以上	2	
2	教育	日本史料研究 II (中世)	2 年以上	2	
3	教育	日本史料研究 III (近世)	2 年以上	2	
4	教育	日本史料研究 IV (近現代)	2 年以上	2	
5	文	日本史講義 3 (前近代史科学)	2 年以上	2	
6	文	日本史講義 4 (近現代史科学)	2 年以上	2	
7	文	古文書学 1	2 年以上	2	
8	文	古文書学 2	2 年以上	2	

★領域・分野 c 「文学・出版文化系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	メディア・コミュニケーション史 01	2 年以上	2	
2	教育	出版文化史 I (近世)	1 年以上	2	
3	教育	出版文化史 II (近代)	1 年以上	2	
4	教育	日本文学とメディア	2 年以上	2	

★領域・分野 d 「文化資源・メディア系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	映像ジャーナリズム論 01	2 年以上	2	
2	教育	図書館情報資源概論 A	1 年以上	2	
3	教育	図書館情報資源概論 B	1 年以上	2	
4	教育	博物館情報・メディア論 A	2 年以上	2	
5	教育	博物館情報・メディア論 B	2 年以上	2	
6	教育	博物館情報・メディア論 C	2 年以上	2	
7	教育	博物館情報・メディア論 D	2 年以上	2	
8	教育	博物館情報・メディア論 F	2 年以上	2	教育学部生涯教育学専修生のみ履修可
9	教育	博物館情報・メディア論 G	2 年以上	2	教育学部生涯教育学専修生のみ履修可
10	教育	映像アーカイブの利活用	2 年以上	2	
11	文構	映像アーカイブ	2 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

100 年前、人々は何をしていたかをどう調べますか。

政治の論点は帝国議会会議録で分かるかもしれませんが。各省庁の政策は行政文書が残っていたら確認できそうです。世間で何が議論になっていたかは新聞の縮刷版で見えてきます。記事にあった事件は裁判所や警察の記録があるかもしれません。流行の映画や音楽の題名からフィルムやレコードを見つければ当時の感性も判明するでしょう。

1 年前はどうでしょう。紙メディアはほぼ残っているでしょうが映像や音声、そしてネット上の情報はどう残すべきでしょうか。官庁の公文書はさっさと捨てられたりせずきちんと残されているのでしょうか。

官民問わず過去の記録は残されてアーカイブとなり、それを私たちは活用し、事実を知ります。とくに公文書が保存され、活用できるよう整えられていることは、私たちが民主主義の主権者として社会と政治を検証する大切な条件です。メディアや芸術の記録も、社会と文化の実相を知るための財産です。アーカイブは通常、一般市民や学術研究者（あなたです！）に開かれ、自らの手で歴史の生データに触れる喜びを得ることができます。

アーカイブの重要さは 2009 年に公文書管理法が作られて社会の共通認識となり、専門家であるアーキビストが社会の各現場で求められようとしています。この副専攻では、そのための基礎知識を身につけます。将来的にアーキビストを目指すならもちろん、自分の分野で史資料を上手く扱える人になる上でも、力を付けることができるはずです。

アントレプレナーシップ

<日本語版>

設置概要

現代社会は、AIの急激な進化や環境問題、少子高齢化、人権問題といった、単一の専門知識だけでは解決できない、複雑で予測困難な課題に直面しています。本副専攻は、各学部・GECに設置されている起業系科目群とビジネスクリエーション科目群を体系的に構成し、全学の学生が自身の関心や専門性を踏まえて、社会課題解決に向けた新しい価値を創造する精神と力（＝アントレプレナーシップ）を養成する一貫したカリキュラムを提供します。

本副専攻では多様なバックグラウンドを持つ学生が多岐にわたる社会課題に協働して取り組みます。その共通言語として、全ての学生に対して経営・経済の基礎知識と、データに基づいてアイデアを構想し検証するための基礎知識の習得を求めます。こうした早稲田大学ならではの「文理融合」によって、論理的思考力と実践力を兼ね備え、それぞれの特性を活かして社会に変革をもたらすアントレプレナーシップを持った人材を輩出することを目指します。

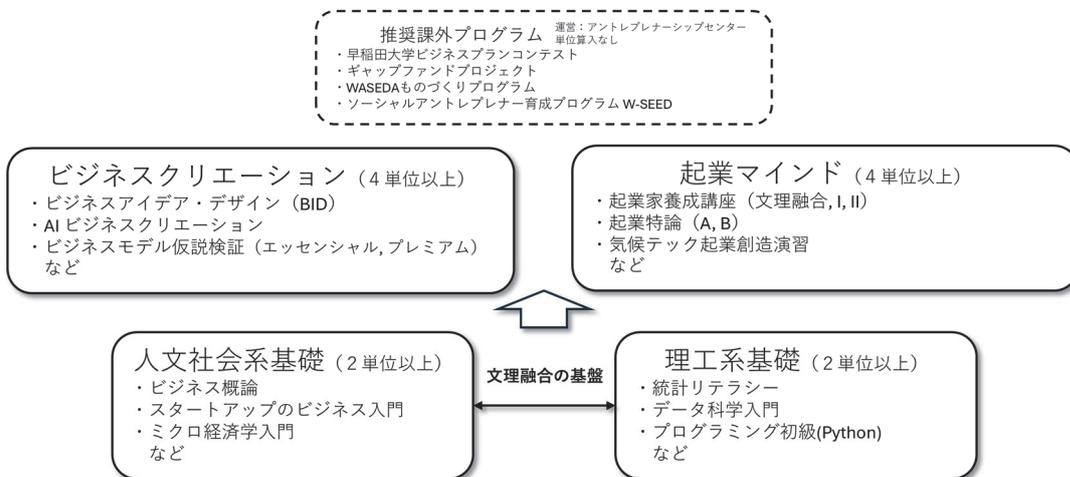
到達点（学習成果）

本副専攻を修了した学生は、自らの専門性を活かして社会課題を発見し、その持続可能な解決に向けた新たな価値創造に挑む力を身につけます。

具体的には、ビジネスや起業に関する体系的知識と、統計・プログラミング等のデータスキルを学び、実現可能性の高い事業計画を論理的に構想する力を養います。また、多様な専門性を持つ仲間と協働し、チームでアイデアを具現化するプロジェクト推進能力も体得します。

さらに、起業家や投資家との交流を通じて社会課題とその解決を「自分ごと」として捉え、起業が将来のキャリアの選択肢になるようなマインドを醸成します。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

「社会課題に主体的に取り組みたい」「社会に新たな価値を作りたい」という思いを持つすべての学生を歓迎します。

本副専攻は、履修生・修了生が起業すること自体を目的とはしません。社会に貢献するため、変革をもたらすため、そして予測困難な現代において充実したキャリアを歩むための手段として、起業が選択肢となり、いかなる組織や環境においてもアントレプレナーシップを発揮できるスキルとマインドを習得することが、本副専攻の真の目的です。

そのためには、それぞれの専門性や強みを活かしつつ、多様な仲間との議論や活動に積極的に参加し、自ら行動する主体性が求められます。そして文理の壁を越えて社会課題を解決していく「化学反応」を早稲田大学から起こしていきましょう！

Entrepreneurship

<English>

Overview

This interdisciplinary minor is designed to address the increasingly complex and unpredictable challenges facing contemporary society, such as rapid advances in artificial intelligence, environmental issues, demographic change, and human rights concerns, which cannot be adequately addressed by a single academic discipline alone.

The program systematically integrates entrepreneurship-related courses and business creation courses that are already offered across various faculties and the Global Education Center (GEC), and provides a coherent curriculum accessible to students from all undergraduate schools. Through this curriculum, students are encouraged to draw on their own academic interests and disciplinary expertise, while cultivating the mindset and capabilities necessary to create new social value and to address societal challenges, namely, entrepreneurship.

Students with diverse academic backgrounds collaboratively engage with a wide range of social challenges. As a shared foundation for such collaboration, all students are required to acquire basic knowledge in social sciences, as well as fundamental skills for designing and testing ideas based on data. By leveraging Waseda's distinctive strength in integrating the humanities and social sciences with science and engineering, the program aims to foster individuals who combine logical thinking with practical competence and who can bring about social transformation by making the most of their respective strengths.

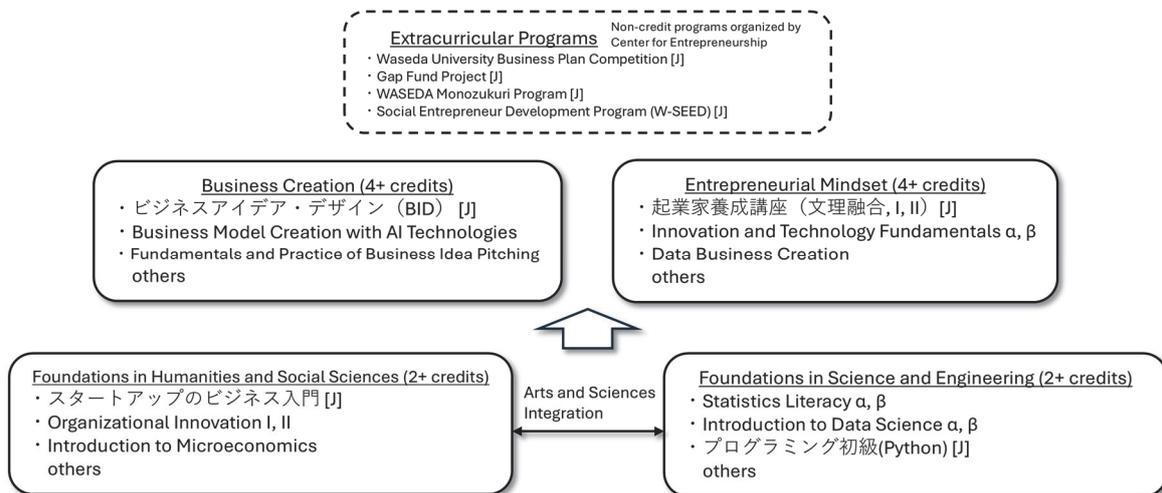
Learning Outcomes

Upon completion of the minor, students will have acquired the ability to identify social challenges by drawing on their own disciplinary expertise and to pursue the creation of new value aimed at sustainable solutions to those challenges.

Specifically, students will develop the capacity to logically design highly feasible business plans through the acquisition of systematic knowledge related to business and entrepreneurship, together with data skills such as statistics and programming. In addition, through collaboration with peers from diverse academic backgrounds, students will gain project management capabilities that enable them to translate ideas into concrete outcomes within a team-based setting.

Furthermore, interactions with entrepreneurs and investors will help students to perceive social challenges and their solutions as personally relevant issues, fostering a mindset in which entrepreneurship becomes a viable option in their future career paths. The learning experience provided by this minor thus equips students with the ability to respond proactively to contemporary and future societal challenges.

Curriculum



Message from Coordinators

This minor welcomes all students who aspire to engage proactively with social challenges and to create new value for society.

The primary objective of the program is not to encourage students to start businesses per se. Rather, its true purpose is to enable students to acquire the skills and mindset through which entrepreneurship becomes one possible means of contributing to society, driving transformation, and building a fulfilling career in an unpredictable world, regardless of the organization or environment in which they may work.

To achieve this, students are expected to actively participate in discussions and activities with peers from diverse backgrounds while making the most of their own disciplinary strengths and taking initiative in their learning. By transcending the arts-science divide, the program seeks to generate the "chemical reactions" that lead to Waseda's innovative solutions to social challenges.

履全
修学
ガ副
イ専
ド攻

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位 (領域・分野 a : 2 単位 領域・分野 b : 2 単位 領域・分野 c : 4 単位 領域・分野 d : 4 単位) 以上

★領域・分野 a 「人文社会系基礎/Fundamentals in Humanities and Social Sciences」 修了必要単位 : 2 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	Introduction to Microeconomics 01	1年以上	2	
2	政経	ミクロ経済学入門 01	1年以上	2	
3	政経	ミクロ経済学入門 02	1年以上	2	
4	法	International Business Law	2年以上	2	
5	商	ビジネス概論 1	1年以上	2	
6	商	ビジネス概論 2	1年以上	2	商学部生のみ履修可
7	商	スタートアップのビジネス入門 1	1年以上	2	
8	社学	International Business	2年以上	2	
9	社学	Organizational Innovation 1	2年以上	2	
10	社学	Organizational Innovation 2	2年以上	2	
11	社学	Social Innovation in Global Asia	1年以上	2	
12	社学	科学技術・イノベーション概論	1年以上	2	
13	国教	Introduction to Microeconomics 01	1年以上	2	
14	国教	Japanese Economy 01	2年以上	2	
15	国教	Monetary & Financial Economics 01	2年以上	2	

★領域・分野 b 「理工系基礎/Fundamentals in Science and Engineering」 修了必要単位 : 2 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	Statistics I 01	1年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
2	政経	Statistics I 02	1年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
3	政経	Statistics I 03	1年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
4	政経	Introduction to Probability and Statistics 01	1年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
5	政経	Introduction to Probability and Statistics 02	1年以上	2	政治経済学部生のみ履修可
6	国際教養	Python Programming for Digital Humanities 01	2年以上	4	
7	基幹	Introduction to Probability and Statistics (1)	1年以上	2	基幹理工学部生のみ履修可
8	基幹	Introduction to Probability and Statistics (2)	1年以上	2	基幹理工学部生のみ履修可
9	創造	Introduction to Probability and Statistics (1)	1年以上	2	創造理工学部生のみ履修可
10	創造	Introduction to Probability and Statistics (2)	1年以上	2	創造理工学部生のみ履修可
11	先進	Introduction to Probability and Statistics (1)	1年以上	2	先進理工学部生のみ履修可
12	先進	Introduction to Probability and Statistics (2)	1年以上	2	先進理工学部生のみ履修可
13	先進	基礎統計学	1年以上	2	先進理工学部生のみ履修可
14	グローバル	統計リテラシー α 01	1年以上	1	
15	グローバル	統計リテラシー α 02	1年以上	1	
16	グローバル	統計リテラシー α 03	1年以上	1	
17	グローバル	統計リテラシー α 04	1年以上	1	
18	グローバル	統計リテラシー α (商学部) 01	1年以上	1	商学部生のみ履修可
19	グローバル	統計リテラシー α (商学部) 02	1年以上	1	商学部生のみ履修可
20	グローバル	統計リテラシー α (商学部) 03	1年以上	1	商学部生のみ履修可
21	グローバル	統計リテラシー α (商学部) 04	1年以上	1	商学部生のみ履修可
22	グローバル	統計リテラシー β 01	1年以上	1	
23	グローバル	統計リテラシー β 02	1年以上	1	
24	グローバル	統計リテラシー β 03	1年以上	1	
25	グローバル	統計リテラシー β 04	1年以上	1	
26	グローバル	統計リテラシー β (商学部) 01	1年以上	1	商学部生のみ履修可
27	グローバル	統計リテラシー β (商学部) 02	1年以上	1	商学部生のみ履修可
28	グローバル	統計リテラシー β (商学部) 03	1年以上	1	商学部生のみ履修可
29	グローバル	統計リテラシー β (商学部) 04	1年以上	1	商学部生のみ履修可
30	グローバル	データ科学入門 α 01	1年以上	1	
31	グローバル	データ科学入門 α 02	1年以上	1	
32	グローバル	データ科学入門 α 03	1年以上	1	
33	グローバル	データ科学入門 α 04	1年以上	1	
34	グローバル	データ科学入門 β 01	1年以上	1	
35	グローバル	データ科学入門 β 02	1年以上	1	
36	グローバル	データ科学入門 β 03	1年以上	1	
37	グローバル	データ科学入門 β 04	1年以上	1	
38	グローバル	Statistics Literacy α 01	1年以上	1	
39	グローバル	Statistics Literacy α 03	1年以上	1	
40	グローバル	Statistics Literacy β 02	1年以上	1	
41	グローバル	Statistics Literacy β 04	1年以上	1	
42	グローバル	Introduction to Data Science α 01	1年以上	1	
43	グローバル	Introduction to Data Science α 03	1年以上	1	
44	グローバル	Introduction to Data Science β 02	1年以上	1	
45	グローバル	Introduction to Data Science β 04	1年以上	1	
46	グローバル	データ科学入門 1 (統計学既習者用) 01	1年以上	1	
47	グローバル	データ科学入門 1 (統計学既習者用) 02	1年以上	1	

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
48	グローバル	データ科学入門1 (統計学既習者用) 03	1年以上	1	
49	グローバル	データ科学入門1 (統計学既習者用) 04	1年以上	1	
50	グローバル	データ科学入門2 (統計学既習者用) 01	1年以上	1	
51	グローバル	データ科学入門2 (統計学既習者用) 02	1年以上	1	
52	グローバル	データ科学入門2 (統計学既習者用) 03	1年以上	1	
53	グローバル	データ科学入門2 (統計学既習者用) 04	1年以上	1	
54	グローバル	Web デザイン実践 01	1年以上	2	
55	グローバル	Web デザイン実践 02	1年以上	2	
56	グローバル	Web デザイン実践 03	1年以上	2	
57	グローバル	Web デザイン実践 04	1年以上	2	
58	グローバル	Web デザイン実践 05	1年以上	2	
59	グローバル	Web デザイン実践 06	1年以上	2	
60	グローバル	プログラミング初級 (Python) 01	1年以上	2	
61	グローバル	プログラミング初級 (Python) 02	1年以上	2	
62	グローバル	プログラミング初級 (Python) 03	1年以上	2	
63	グローバル	プログラミング初級 (Python) 04	1年以上	2	
64	グローバル	プログラミング初級 (Python) 05	1年以上	2	
65	グローバル	プログラミング初級 (Python) 06	1年以上	2	
66	グローバル	プログラミング初級 (Python) 07	1年以上	2	
67	グローバル	プログラミング初級 (Python) 08	1年以上	2	
68	グローバル	AIプログラミング基礎 01	1年以上	2	
69	グローバル	AIプログラミング基礎 02	1年以上	2	

★領域・分野c 「ビジネスクリエーション／Business Creation」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	商	ビジネスアイデア・デザイン (BID) 1	2年以上	2	
2	グローバル	Advanced Course on Entrepreneurship	1年以上	1	
3	グローバル	イノベーション概論 1：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1年以上	1	
4	グローバル	イノベーション概論 2：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1年以上	1	
5	グローバル	人工知能とビジネスモデル創出	1年以上	1	
6	グローバル	Business Model Creation with AI Technologies	1年以上	1	
7	グローバル	実践データ分析ビジネスコンサルティング	1年以上	2	
8	グローバル	デザインシンキング	1年以上	1	
9	グローバル	Design Thinking	1年以上	1	
10	グローバル	ビジネスアイデア・デザイン (BID)	1年以上	2	
11	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 01	1年以上	1	
12	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) 02	1年以上	1	
13	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (プレミアム)	1年以上	2	
14	グローバル	イノベーション人材になるためのコーチング研修 (ベーシック)	1年以上	1	
15	グローバル	AI ビジネスクリエーション	1年以上	1	
16	グローバル	AI Business Creation	1年以上	1	
17	グローバル	Fundamentals and Practice of Business Idea Pitching	1年以上	1	
18	グローバル	イノベーション概論 α：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ (学部生用)	1	1	過年度科目
19	グローバル	イノベーション概論 β：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ (学部生用)	1	1	過年度科目
20	グローバル	Advanced Course on Entrepreneurship D (学部生用)	1	1	過年度科目
21	グローバル	データビジネスクリエーション β (学部生用)	2	2	過年度科目
22	グローバル	デザインシンキング (学部生用) 01	1	1	過年度科目
23	グローバル	デザインシンキング (学部生用) 02	1	1	過年度科目
24	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) (学部生用) 01	1	1	過年度科目
25	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (エッセンシャル) (学部生用) 02	1	1	過年度科目
26	グローバル	ビジネスモデル仮説検証 (プレミアム) (学部生用) 01	2	2	過年度科目
27	グローバル	イノベーション人材になるためのコーチング研修 (ベーシック) (学部生用)	1	1	過年度科目
28	グローバル	AI ビジネスクリエーション α (学部生用)	1	1	過年度科目
29	グローバル	人工知能とビジネスモデル創出 α (学部生用)	1	1	過年度科目
30	グローバル	Business Model Creation with AI Technologies β (for undergraduates)	1	1	過年度科目
31	グローバル	AI Business Creation β (for undergraduates)	1	1	過年度科目

★領域・分野 d 「起業マインド／Entrepreneurial Mindset」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	100年ファンド寄附講座 気候テック起業創造演習 01	2年以上	2	
2	政経	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座(文理融合) 01	1年以上	2	
3	商	株式会社日本M&Aセンター寄附講座 起業家養成講座I	1年以上	2	
4	商	起業家養成講座II 1	1年以上	2	
5	商	ベンチャー企業の成長と証券市場との関わり 1	1年以上	2	
6	商	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座(文理融合) 1	1年以上	2	
7	基幹	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座(文理融合)	1年以上	2	
8	創造	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座(文理融合)	1年以上	2	
9	先進	兼松株式会社寄附講座 起業家養成講座(文理融合)	1年以上	2	
10	グローバル	アントレプレナーシップとインパクト投資	1年以上	1	
11	グローバル	起業特論A：トップリーダーマネジメント	1年以上	1	
12	グローバル	起業特論B：いかに企業内/企業と共に新規事業を立ち上げられる人材になるか	1年以上	1	
13	グローバル	CSR マネジメント実践	1年以上	1	
14	グローバル	Examining Corporate Social Responsibility from a Global Perspective	1年以上	1	
15	グローバル	Data Business Creation	1年以上	1	
16	グローバル	Innovation and Technology Fundamentals α	1年以上	1	
17	グローバル	Innovation and Technology Fundamentals β	1年以上	1	
18	グローバル	Innovation and Technology Practice α	1年以上	1	
19	グローバル	Innovation and Technology Practice β	1年以上	1	
20	グローバル	Innovation and Technology Practice β (for undergraduates)		1	過年度科目
21	グローバル	イノベーションとテクノロジー基礎α：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ(学部生用)		1	過年度科目
22	グローバル	イノベーションとテクノロジー実践α：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践(学部生用)		1	過年度科目
23	グローバル	起業特論A：トップリーダーマネジメント(学部生用)		1	過年度科目
24	グローバル	起業特論B：企業内新規事業開発(学部生用)		1	過年度科目
25	グローバル	データビジネスクリエーションα(学部生用)		1	過年度科目
26	グローバル	CSR マネジメント実践(学部生用)		2	過年度科目
27	グローバル	Innovation and Technology Fundamentals β (for undergraduates)		1	過年度科目

※授業に関する最新情報(授業実施方法等)については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

MEMO

設置概要

早稲田大学は、今村昌平、小栗康平をはじめとして映画・映像の制作者のみならず、映画史・映画美学の研究者や、日々更新される映像技術の研究者を多く輩出してきました。それは、「専門」の枠にとどまらずに、学術的な研究・教育と、実践的な知がたえず融合されるカリキュラムを学生たちが自主的に選択し、創作者や研究者としての道を切り開いてきたことに大きく依るものだと考えています。現在、映画・映像を専門とする教員は、様々な学部にも所属していますが、リベラル・アーツを掲げる GEC においてこそ、複数の学問領域が相関的に織りなす、「総合芸術」としての映画・映像の世界を深く掘り下げることができると思っています。

教育の目標としては、①「何を表現するのか」、②「どのように表現するのか」、③「社会のなかでその表現が果たす役割とは何か」を主眼としたカリキュラムを展開していくことを計画しています。そのためには、学生自身が①映画映像に対する「見方」を創り、②創造行為をとおして、技術のみならず共同作業に必要な議論・交流を行い、③多様な価値観に直面しながら自ら決定することを重視します。副専攻のなかの領域・分野は、この3つの重点目標に対応するものといえます。

教育方法としては、まず、作品に多く触れることにより、様々な表現様式を学ぶと同時に知的好奇心を拓けていくことを目指します。そして、批評意識を育むために授業に対話形式を積極的に取り入れるほか、全学部生が集まる少人数形式の授業を基盤とすることで、他者を知り自らの思考を深めることを目指します。また、実践的な知識や技術を学び、変革期を迎えつつある産業や社会のなかで、映画・映像の果たす役割を検討するために、実務家による指導や受講者によるイベントの運営等を実施していきます。上記のような教育目標・教育方法を実現するために、学際的副専攻「映画・映像」では、別紙に記すような段階に応じたカリキュラムの流れを想定します。

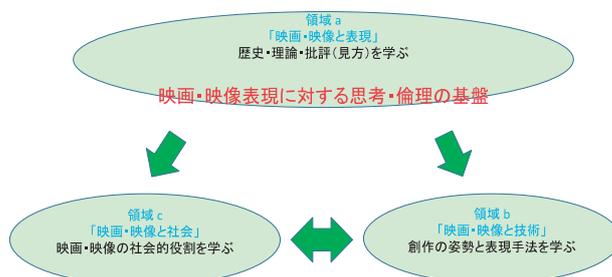
到達点（学習成果）

理修了者が、批評眼を持って映画・映像と向き合うことが、到達点の根幹にあります。作品を語る言葉と思考を自ら持つことなしには、制作者、技術者、研究者へと進む道は、いずれも切り開かれなければならないからです。そのうえで、歴史・文化、表現手法、マネジメントに関する基本的かつ包括的な知識を修得し、多面的に映画・映像の世界を理解することができる人間を育成します。その意味においては、映画・映像に対する批評的な思考、制作する技術、完成したものを人に届けることのできるコミュニケーション能力が身につくことと考えています。

また、映画・映像の領域で活躍する社会人として、必要な知識・技術・姿勢を修得するばかりでなく、他の領域であっても、社会のなかで映像表現を介したコミュニケーションの豊かさや広がりの実現に寄与することのできるような力を養うことも目標＝到達点です。

カリキュラムマップ

GEC 学際的副専攻 <映画・映像> 領域相関図



映画・映像 カリキュラムの流れ

	映像の言語化 何を表現するのか	表現手法 どのように表現するのか	社会との関連性 表現の社会的な役割
基礎	映像論1/映画作家論	マスターズ・オブ・シネマ1, 2 映画監督と学ぶ映像表現	プロデュース概論
習熟	映画から学ぶ映像表現 映画ジャンル論(要検討)	映像制作技術基礎 メディアエルゴノミクス	奇想のテレビドキュメンタリー論 映像・芸術表現
実践	テレビ論	映像制作実習1, 2	制作プロジェクト研究
研究・高度な実践	各大学院等のカリキュラムあるいは映画映像業界でキャリアデザイン		

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「映画・映像と表現」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	映像論 I (谷)	1 年以上	2	
2	文	映画研究入門	1 年以上	2	
3	文	映画作家論	2 年以上	2	
4	文	映画ジャンル論	2 年以上	2	
5	文	女性と映画	1 年以上	2	
6	基幹	映画から学ぶ映像表現	2 年以上	4	
7	グローバル	映画監督と学ぶ映像表現 ※1	1 年以上	2	

※1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

★領域・分野 b 「映画・映像と技術」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	文	大衆映画論	1 年以上	2	
2	基幹	メディアエルゴノミクス	3 年以上	2	
3	基幹	映像制作実習 I	3 年以上	4	
4	基幹	映像制作実習 II	3 年以上	4	
5	グローバル	映画のすべて マスターズ・オブ・シネマ1 ※1	1 年以上	1	
6	グローバル	映画のすべて マスターズ・オブ・シネマ2 ※1	1 年以上	1	
7	グローバル	映像史 (理論) ※1	1 年以上	2	
8	グローバル	映像史 (社会・歴史) ※1	1 年以上	2	

※1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

★領域・分野 c 「映画・映像と社会」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	メディアの世界 01	1 年以上	2	
2	法学	芸術論 I E (谷)	1 年以上	2	
3	社会学	社会デザインの思考と技法3 (社会言語としての写真・映像)	2 年以上	2	
4	基幹	奇想のテレビドキュメンタリー論	2 年以上	2	
5	基幹	Artistic Expression (芸術表現)	2 年以上	2	
6	グローバル	プロデュース概論 ※1	1 年以上	1	
7	グローバル	映像・芸術表現	1 年以上	2	
8	グローバル	制作プロジェクト研究	1 年以上	2	

※1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

履修を希望する学生へのメッセージ

まずは、映画映像に対する関心や好奇心を際限なく拡げていってください。そのなかで出会うさまざまなイメージや表現行為が、どのように私たちと関係を築き上げているのか自らにたえず問い続けてほしいと思います。「教員」と「学生」という一方的な関係のなかで基礎知識が「与えられる」のではなく、講義という出会いを通じて、世界のなかで他者と無数の線を引き続けられることが映画映像を学ぶためには必要です。

演劇・舞台芸術

Theatre・Performing Arts

設置概要

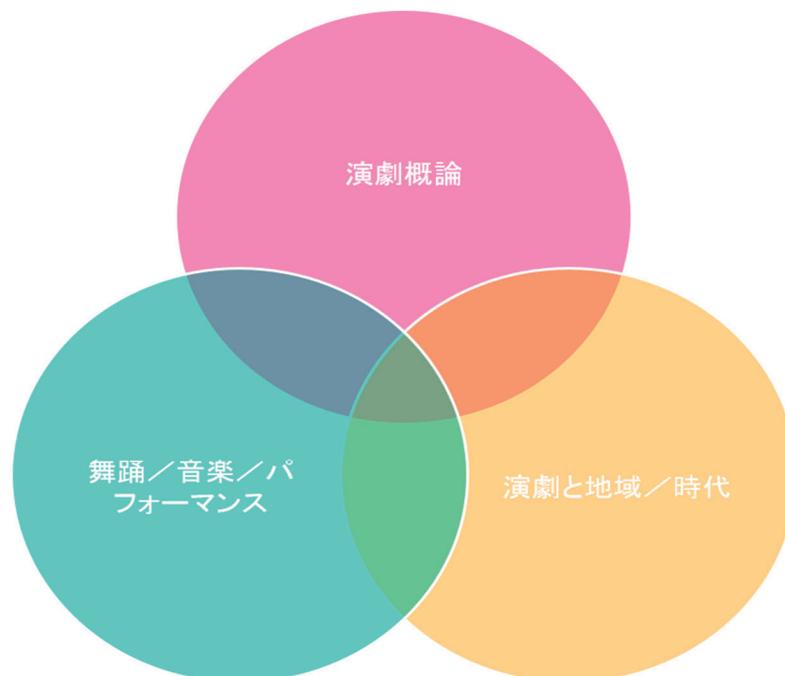
演劇／舞台芸術は、様々なジャンルを派生させながら、人類の歴史を通じて豊かなエンターテインメントや情報、生きる知恵をわれわれに与えてきた。何事にも効率性が重視され、ヴァーチャルな領域へとメディアが「発達」していく現代において、演劇／舞台芸術は、「ライブ」であることの魅力、人間同士の生身のコミュニケーションの重要性を実感できるものとして、むしろこの時代にこそ大きな役割を担っている。本副専攻は、演劇／舞台芸術が今を生きるわれわれにとってどのような意味を持っているのかを、過去から現在、様々な場所・地域で行われてきた実践を概観しながら学ぶ。

早稲田大学は本部キャンパスに演劇／舞台芸術研究の世界的中心である演劇博物館を擁する。本副専攻では、演劇博物館と連携して演博が蓄えてきた豊富な文化資源を学習に活用する。また本学は箇所をまたいで演劇／舞台芸術の研究に従事する教員が充実し、学内には数多くの演劇／舞台芸術を実践する学生サークル・劇団が存在する。GEC 設置と全学にまたがるオープン科目からなる指定科目は、きわめて広範囲の領域をカバーしている。その中には、実践／実技系の科目も多く含まれている点も特徴的である（たとえば能の実践科目では、能楽シテ方公式団体から感謝状が寄せられるなど、伝統演劇の普及にも貢献している）。戸山キャンパスの演劇映像コースとも連携し、演劇の実践と研究に関わる活動を共同で開催する。このように、「副専攻」として演劇／舞台芸術を学ぶコースとしては、早稲田大学以外にはまねの出来ないものである。

到達点（学習成果）

日本を含めた世界の演劇、代表的な作品、様々な舞台芸術ジャンル、演劇の構成要素、文化的背景などについて、幅広い知識・経験、批評眼を持つ。演劇／舞台芸術に関わるマネジメントや政策決定、教育などの分野に進むための十分な素養を身につけている。習得した知識を活かした、演劇／舞台芸術の実践活動を行うことができる。大学院で専門的に演劇／舞台芸術を学ぶための十分な知識を身につけている。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

演劇・舞台芸術は誰でも鑑賞することができ、また自分でやってみるのも決して不可能なことではありません。専門的な知識は鑑賞や実践を豊かなものにしますが、教養・たしなみ・純粹な楽しみ・コミュニケーションの手段として、舞台を学んだり実践したりする人もたくさんいます。つまり演劇・舞台芸術は、教養を身につけることを目標にする「副専攻」として学ぶのがもっともふさわしい分野だと言えます。学部を問わず多くの人たちに開かれた演劇・舞台術副専攻を通して、舞台の楽しさと奥深さを探求してほしいと思います。

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「演劇概論」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	Drama and Society 01	1年以上	2	
2	法学	演劇論 I (澤田)	1年以上	2	
3	教育	舞台芸術入門 I	1年以上	2	
4	教育	舞台芸術入門 II	1年以上	2	
5	文	演劇研究入門	1年以上	2	
6	グローバル	演劇の鑑賞と理解・演習 (入門)	1年以上	2	
7	グローバル	演劇の鑑賞と理解・演習 (発展)	1年以上	2	
8	グローバル	現代演劇と多文化主義 (入門) (学部生用)	1年以上	2	
9	グローバル	現代演劇と多文化主義 (発展) (学部生用)	1年以上	2	

★領域・分野 b 「演劇と地域／時代」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	国際教養	Selected Topics in Irish Studies	3年以上	4	
2	国際教養	Selected Topics in Irish Studies 51	3年以上	4	
3	国際教養	Contemporary Performing Arts 01	2年以上	4	
4	国際教養	Contemporary Performing Arts	2年以上	4	
5	文構	英米演劇の伝統と変容	2年以上	2	
6	文構	英語圏文化研究 2	2年以上	2	
7	文	中国伝統演劇概論	2年以上	2	
8	文	ロシア芸術の現在 1	1年以上	2	
9	文	ロシア芸術の現在 2	1年以上	2	
10	文	日本演劇史 1	2年以上	2	
11	文	日本演劇史 2	2年以上	2	
12	文	西洋演劇 1	2年以上	2	
13	文	西洋演劇 2	2年以上	2	
14	グローバル	シェイクスピアと映像 (学部生用)	1年以上	2	

★領域・分野 c 「舞踊／音楽／パフォーマンス」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	文構	民族音楽論	1年以上	2	
2	文構	パフォーマンス・スタディーズ	1年以上	2	
3	文	舞踊史	2年以上	2	
4	グローバル	アジアのフィジカルエクササイズ (カラリパヤット) 01	1年以上	1	
5	グローバル	アジアのフィジカルエクササイズ (カラリパヤット) 02	1年以上	1	
6	グローバル	ダンス・クリエイション 01	1年以上	1	
7	グローバル	ダンス・パフォーマンス 01	1年以上	1	
8	グローバル	バレエ 基礎 01	1年以上	1	
9	グローバル	バレエ 基礎 02	1年以上	1	
10	グローバル	バレエ 基礎 03	1年以上	1	
11	グローバル	バレエ 基礎 04	1年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

開発学は第二次世界大戦後に独立した途上国の貧困や低開発を克服するため、工業化、近代化論にもとづく経済学から始まった。しかし、グローバル化の進展にともなう都市—農村、貧富の格差、そして紛争やテロ、さらには環境の悪化と経済成長の限界という問題の指摘から、開発のパラダイムも経済だけでなく、学際的なアプローチが求められている。本学の実践に関するカリキュラムを俯瞰してみると、開発に関する数多くの科目が複数の学部にもたがって設置されている。そこで、本副専攻では、本学で開発を学びたい学生が開発の変遷と多様なアクターおよび、開発の今日的課題について多角的に学習できるように、①「開発と NGO」、②「紛争と平和構築」、③「開発と環境」、の3つの領域を設けた。

①「開発と NGO」では政府の開発援助の変遷と経験を学ぶだけでなく、市民社会側からのアプローチとして開発における NGO について学ぶ。②「紛争と平和構築」は冷戦終結後の地域紛争やテロの増加に対して国連を中心に、問題解決を模索する、開発分野の中でも新しい領域である。学生は授業だけでなく「紛争解決実習 I～III」などの実践科目の履修も奨励することで、世界の紛争や難民問題についてより実践的に考える力を身につけることもできる。③「開発と環境」は、今日の国際社会で SDGs が大きなテーマとなっていることからわかるように、開発を考える上で環境を考えることは必要不可欠である。したがって、地球環境というマクロ的視点から、環境人類学や地域・コミュニティや生態系といったミクロレベルの環境について視野を持つことができるように科目設置を工夫した。

到達点 (学習成果)

以下の5点を到達目標とする。

- ① 開発学についての様々なアプローチや問題点を理解できる (テーマやイシューから、開発学のどの領域のどのようなアプローチを中心に論じられているのか、自分で理解・解釈できるようになる)。
- ② 日本の政府開発援助の変遷や国際協力における NGO の役割、開発における国家と市民社会の役割やアプローチの違いを理解できるようになる。
- ③ 今日の途上国における紛争解決に開発がどのように関連しているのか、位置づけ、理解できるようになる。
- ④ 環境問題についてマクロ・ミクロ的視点を養い、開発との関連について理解できるようになる。
- ⑤ 開発についての今日的課題を理解し、実習科目を通して問題解決方法について具体的かつ実践的に考える力を身につける。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

なぜ途上国は貧しいのだろうか？なぜ紛争はなくなるのだろうか？それに対して私たちはどうしたらよいのだろうか？ということに関心がある学生は多くいるのではないのでしょうか。また、将来 JICA や NGO、あるいは UNHCR などの国際機関で働きたいけど、どうしたら良いか、実現可能なことなのだろうか、とモヤモヤしているのではないのでしょうか。開発学はそうしたみなさんのためにある副専攻です。

早稲田では開発に関する学部やコースはありませんが、学部にもたがって開発を学ぶことができる科目があります。本副専攻は学部を越えて学際的かつ総合的に学べるように設置しました。開発は第二次世界大戦後に独立した途上国の近代化 (工業化) を進め、貧困をなくすために始まりました。開発とは国際社会の平和と安定だけでなく、人々の暮らしにかかわる重要なテーマです。その一方で、今日では紛争解決のための平和構築、SDGs や持続可能な開発といった観点から開発をとらえなおすことが求められます。また、開発のアクターも政府、国際機関、NGO と多様です。本副専攻で開発についての様々なアプローチを学び、開発について理解を深め、将来開発にかかわることを人生の選択肢のひとつとして考えるきっかけになってもらえると嬉しいです。ぜひチャレンジしてみてください。

指定科目一覽

修了必要単位

18 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：6 単位）以上

★領域・分野 a 「開発と NGO」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	社会学	国際 NGO 協力論	3 年以上	2	
2	社会学	国際開発制度論	3 年以上	2	
3	社会学	開発社会論	2 年以上	2	
4	社会学	Development Studies	1 年以上	2	
5	社会学	Critical Development Studies	1 年以上	2	
6	人科	NPO / NGO 論	1 年以上	2	
7	人科	国際保健医療協力論	1 年以上	2	
8	文構	市民活動論	1 年以上	2	
9	基幹	開発協力論	1 年以上	2	
10	基幹	開発文化論	2 年以上	2	

★領域・分野 b 「紛争と平和構築」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	地域研究 (アフリカ)	3 年以上	2	
2	社会学	太平洋地域海洋国家研究	2 年以上	2	
3	社会学	国際関係論	2 年以上	2	
4	社会学	平和構築論	2 年以上	2	
5	社会学	紛争解決論実習 1	2 年以上	2	
6	社会学	紛争解決論実習 2	2 年以上	2	
7	社会学	平和学 I	2 年以上	2	
8	社会学	人間の安全保障論	3 年以上	2	
9	社会学	紛争解決論実習 3	2 年以上	2	
10	社会学	国際教育協力論	3 年以上	2	
11	社会学	平和学 II	2 年以上	2	
12	社会学	Japan and Peacebuilding : UN Policies	1 年以上	2	
13	社会学	Education and Development	2 年以上	2	
14	文構	平和・人権論	1 年以上	2	
15	文構	国際協力・人間の安全保障論	1 年以上	2	

★領域・分野 c 「開発と環境」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	社会学	環境社会学 1	2 年以上	2	
2	社会学	環境社会学 2	2 年以上	2	
3	人科	ヒトと陸上生態系	1 年以上	2	
4	人科	地域資源論	1 年以上	2	
5	人科	環境経済学	1 年以上	2	
6	人科	環境人類学	1 年以上	2	
7	文構	環境と人間	2 年以上	2	
8	グローバル	環境問題と持続可能な社会	1 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

カーボンニュートラルリーダー

Net Zero Leader

設置概要

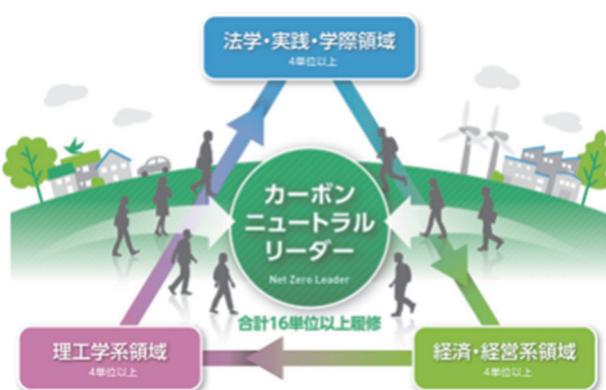
現在、地球温暖化に起因する気候変動は、世界中に大規模水害や熱波などの異常気象をもたらし、生態系に深刻な影響を与え、地球は存続の危機に直面しています。2018年、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、「1.5℃特別報告書」にて、地球温暖化を2℃ではなく1.5℃に抑制することによって、持続可能な開発の達成や貧困の撲滅等、様々な弊害を解決できる可能性を示唆しました。しかし、2021年8月、IPCCは、今後20年以内に気温上昇は1.5度に達する可能性があるとし、温暖化の原因は「人間の活動」によって排出された温室効果ガスであることについて「疑う余地がない」と強く断定しました。

2040年以降の気候変動を決めるのは、今後の脱炭素化が鍵になると言われており、カーボンニュートラルの実現へと力強く導く人材があらゆる業界・業種で求められています。早稲田大学では、2021年11月1日に、「Waseda Carbon Net Zero Challenge (<https://www.waseda.jp/netzero/>)」を宣言しました。この宣言において、とりわけ人材育成は最重要課題としており、本学学生が在学中はもちろん卒業後も、日本全国、世界各国で、またあらゆる業界で活躍しながら世界的な視野でカーボンニュートラルを推進できる人材育成プログラムを提供すべく、文系理系を超えた全学部生を対象とした教育プログラムを学際的副専攻として設置しました。

到達点 (学習成果)

気候変動に関する国際的動向、カーボンニュートラルに寄与する技術の開発と社会実装、国内外のエネルギー事情など、カーボンニュートラルに直結する知識や情報を修得すると共に、環境経済や環境法令、資源循環など、カーボンニュートラルの根底にある「法律」「経済」「社会科学」「理工学」等の環境全般の基礎知識を併せて修得することによって、深度と奥行きのある思考力を備えたカーボンニュートラルリーダーとなることを到達点としています。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

早稲田大学では、人材育成・最先端研究力によるカーボンニュートラルへの貢献と同時に、大学のエネルギー利用やその他の事業活動についても、今後、カーボンニュートラルを達成していくことが求められています。都市型大規模キャンパスにおいて、カーボンニュートラルを達成していくことは容易なことではありません。本副専攻を履修した学生の皆さんには、知識の修得のみで終わらせるのではなく、是非、大学のカーボンニュートラル達成に対しても沢山のご提案をいただき、得られた知識を実践的に活用することを期待しています。皆さんと共に早稲田大学のカーボンニュートラルを達成していくことも本副専攻設置の目的のひとつです。

2024年度より、この副専攻を更に発展させ、大学院修士・博士課程向けの「[大学院分野横断型副専攻](#)」を設置しました。履修者自身の主専攻に加えて、ライフ、国際関係、経済・経営、人文・学際、公共政策といった副専攻での専門知識も修得することで、より幅広い実践的な視点からカーボンニュートラル社会の実現とウェルビーイングの向上に貢献できる高度大学院人材の育成を目指しています。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：4 単位以上、領域・分野 b：4 単位以上、領域・分野 c：4 単位以上）以上

★領域・分野 a 「法学・実践・学際」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	産業エコロジー 01	3 年以上	2	
2	法学	環境法 I	3 年以上	2	自学部優先科目
3	法学	環境法 II	3 年以上	2	自学部優先科目
4	社会学	環境社会学 1	2 年以上	2	
5	人科	環境社会学	1 年以上	2	
6	国際教養	Global Environmental Politics and Policies 51	3 年以上	4	
7	文構	環境変容と地域・都市の社会変動	1 年以上	2	
8	文構	グローバル・イシューとコミュニティ	2 年以上	2	
9	基幹	開発協力論	1 年以上	2	
10	グローバル	環境問題と持続可能な社会	1 年以上	2	
11	グローバル	再生可能エネルギーを地域から考える。	1 年以上	2	
12	グローバル	地域、環境、エネルギーを考える	1 年以上	2	

★領域・分野 b 「経済・経営系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	国際公共政策 01	3 年以上	2	
2	政経	環境経済学 01	3 年以上	2	
3	政経	資源・食料経済学 01	3 年以上	2	
4	商学	Business in the Natural Environment 1	2 年以上	2	
5	社会学	環境の産業連関分析	2 年以上	2	
6	人科	地域資源論	1 年以上	2	
7	創造	環境資源経済論	2 年以上	2	
8	グローバル	EU 科学技術政策	1 年以上	2	
9	グローバル	環境イシューを再編集する	1 年以上	2	
10	グローバル	環境イシューを深く読み解く	1 年以上	2	
11	グローバル	カーボンニュートラルと社会（学部生用）	1 年以上	1	履修必須

★領域・分野 c 「理工学系」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	人科	環境行動学	1 年以上	2	
2	創造	建築環境学	3 年以上	2	
3	創造	広域環境論	3 年以上	2	
4	創造	環境工学	2 年以上	2	
5	創造	循環工学概論	2 年以上	2	
6	先進	電気エネルギーシステムと環境	3 年以上	2	
7	グローバル	環境科学基礎講座 1	1 年以上	1	
8	グローバル	環境科学基礎講座 2	1 年以上	1	
9	グローバル	世界資源エネルギー入門 01	1 年以上	2	
10	グローバル	世界資源エネルギー入門 02	1 年以上	2	
11	グローバル	カーボンニュートラル技術概論 α（学部生用）	1 年以上	1	履修必須
12	グローバル	カーボンニュートラル技術概論 β（学部生用）	1 年以上	1	履修必須

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

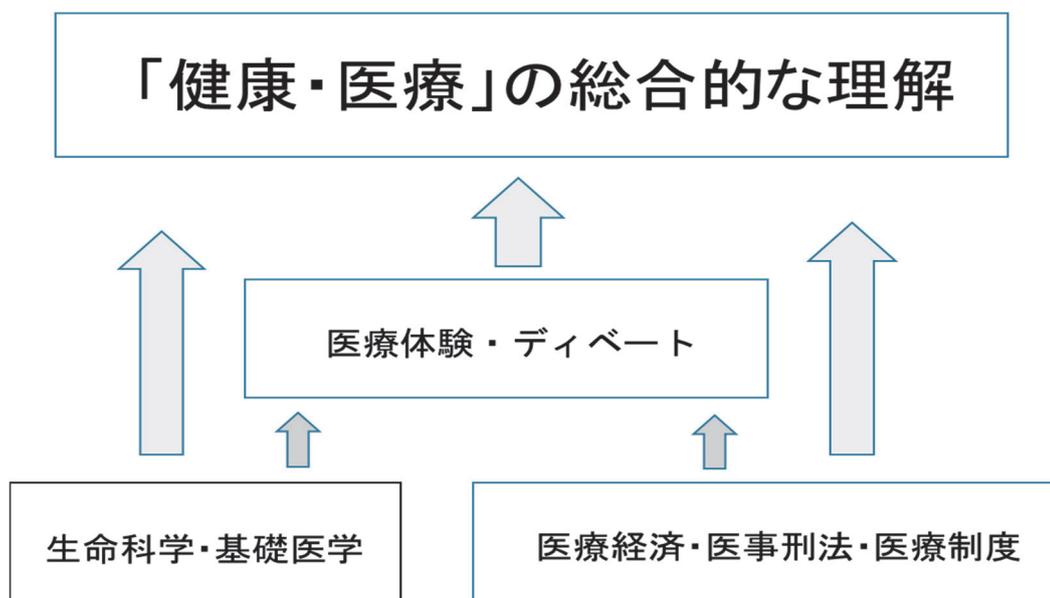
設置概要

健康・医療への人々の関心は高く、関連する業種も拡大している。医学部のない早稲田大学は、医師の育成は出来ないが、健康・医療に関わる行政、法律、経済、経営など人文社会系の人材や研究・開発に関わる医理工系人材の育成を行なうことにより、社会に貢献できる。総合大学として、健康・医療の専門的な教育のみならず、学部横断的に学際的に学生を教育することが、副専攻という制度を用いて実現可能である。これまで全学共通副専攻「健康・医療」でも、多くの学部にも所属する学部生が修了していることから、多くの学部からの履修者や修了生が期待できる。

到達点（学習成果）

学生の所属する学部教育で得られる専門的知識に加え、他学部特に人文・社会系の学生にとっては、健康・医療における生命科学や基礎医学の知識を、理工系の学生には、医療行政や医療経済、医療にかかわる法律、医療倫理などの知識を得ることにより、健康・医療の問題を多面的、俯瞰的に捉えることが出来ることが求められる。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

本副専攻では、健康・医療を理解する上で基礎となる生命科学、基礎医学と医療経済、医事刑法、医療制度などの講義科目を学び、「医療ボランティア実習」で医療を体験し、「ディベート科目」で、討論を交わすことを通じて、健康・医療について学際的、総合的に学べるよう科目を設置しています。将来、健康・医療の分野に就職したい方、この分野に関心を持ち、自身の研究テーマとしたい方などの参加を期待しています。健康・医療を人文社会学、生命科学の両面から学んだ人材は、“医療”の時代といわれる 21 世紀において待望されており、学生諸君にとっては新しいキャリアを形成する機会となります。

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：10 単位、領域・分野 b：4 単位、領域・分野 c：2 単位）以上

★領域・分野 a 「生命科学・基礎医学」

修了必要単位：10 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	教育	環境の生物学	1年以上	2	
2	教育	細胞機能の生物学	1年以上	2	
3	人科	バイオエシックス	1年以上	2	
4	人科	生命科学のための体のしくみと働き	1年以上	2	
5	国際教養	Human Biology 51	2年以上	4	
6	基幹	健康の生態学	2年以上	2	
7	先進	薬理学A	3年以上	1	
8	グローバル	生命科学概論 01 ※1	1年以上	2	
9	グローバル	生命科学概論 02 ※1	1年以上	2	
10	グローバル	メンタルヘルスマネジメント概論	1年以上	2	
11	グローバル	こころとからだの健康 1 01	1年以上	1	
12	グローバル	こころとからだの健康 1 02	1年以上	1	
13	グローバル	こころとからだの健康 2 01	1年以上	1	
14	グローバル	こころとからだの健康 2 02	1年以上	1	
15	グローバル	医学入門（東京女子医科大学）	2年以上	2	

※1 基幹・創造・先進理工学部生は、「生命科学概論 A・B」（理工設置科目）を受講してください。

★領域・分野 b 「医療経済・医事刑法・医療制度」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	医療経済学 01	3年以上	2	
2	法学	医事刑法	2年以上	2	
3	社会学	医事法	1年以上	2	
4	社会学	生命倫理と法 1（生命の始期に関わる諸問題）	3年以上	2	
5	社会学	生命倫理と法 2（生命の終期に関わる諸問題）	3年以上	2	
6	人科	保健福祉制度	1年以上	2	
7	文構	応用倫理学	1年以上	2	
8	文構	生命倫理	1年以上	2	
9	先進	臨床医学概論	3年以上	2	
10	グローバル	医療×AI・ビッグデータ・IoT（早稲田大学校友会支援講座）	1年以上	1	
11	グローバル	医療×ビジネス・経済・経営（早稲田大学校友会支援講座）	1年以上	1	
12	グローバル	医療×超高齢化社会・キャリアデザイン（早稲田大学校友会支援講座）	1年以上	1	
13	グローバル	医療×行政・法・倫理（早稲田大学校友会支援講座）	1年以上	1	

★領域・分野 c 「医療体験・ディベート」

修了必要単位：2 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	グローバル	先端ロボティクスと医療	1年以上	2	
2	グローバル	ディベートで学ぶ現代医療最前線と医療問題	1年以上	2	
3	グローバル	医療ボランティア実習 01	1年以上	2	
4	グローバル	医療ボランティア実習 02	1年以上	2	
5	グローバル	地域医療学概論	1年以上	2	

※新型コロナウイルスの影響で実習等の実施が難しく、休講科目が多くなっております。本副専攻の修了をご希望の方は、科目の開講状況を十分確認してください。

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

早稲田大学において、言語を対象とした研究に関する科目が複数の箇所で開催されており、それらの多くがオープン科目となっている。それらをまとめ、互に関連し合う科目の位置付けを示した上で、ひとつの副専攻として学生に提示する。

工学的な観点から言語を研究対象とした分野は計算言語学・自然言語処理（あるいは音声言語に特化した場合音声工学）と呼ばれ、いわゆる理系の学問として扱われている。一方で言語学は、形態論、統語論、音韻論、語用論、意味論などに細分化され、文系の学問として扱われている。また、自然言語処理、言語学の成果を応用して言語教育における問題を解決しようとする外国語教育という分野は、昨今、英語学習・教育に注目が集まる中、重要な分野となってきている。早稲田大学においては、ここで挙げたそれぞれの分野を単独で学ぶことが可能ではあるが、これらの分野が互に関連していることは学生に明示されていない。個々の科目としては優れた内容の科目がすでに数多くオープン科目として提供されているため、これらの分野を科目群として提示することは、それぞれの分野に興味を持つ学生にとって有益である。例えば、現在の英語教育においては自然言語処理の成果を利用したさまざまな学習システムが利用されているが、外国語教育という分野では、これら学習システムがどのような技術に支えられているかを学ぶ機会はない。また、自然言語処理を学ぶ学生は、その技術が利用される外国語教育においてどのようなニーズがあるかを知らない。さらに、言語学を学ぶ学生は言語学の理論が自然言語処理においてどのように活用されているかを知る機会が少ない。本副専攻は、言語を対象とした研究に関する科目をひとつのまとまりとして学生に提示し、言語に関する研究をまったく知らない学生にとっては言語に関する研究の概要を理解できる学際的副専攻でありながら、計算言語学・自然言語処理、言語学、外国語教育を主専攻として学ぶ学生の視野を広げるという目的がある。

到達点（学習成果）

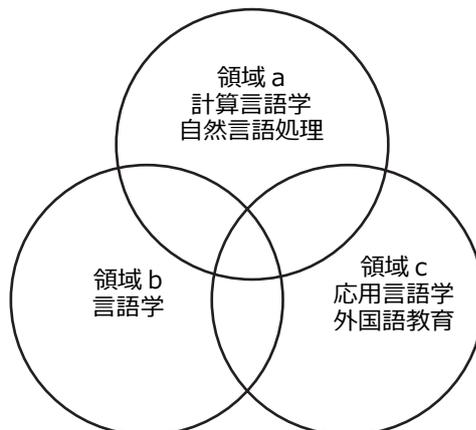
自然言語処理、言語学、応用言語学・外国語教育、それぞれの研究目的を理解し、受講者自らがこれら分野の相互関連性を見出せるような知識を身に付ける。多様な視点から言語を捉えることができる知識を身に付ける。また、自然言語処理、言語学、応用言語学・外国語教育のいずれかを主専攻として学ぶ学生は自らの主専攻を異なる視点から捉えることができるような知識、考え方を身に付ける。

カリキュラムマップ

本副専攻で対象とする言語に関する研究は言うまでもなくそれぞれが独立した分野ではない。計算言語学・自然言語処理における研究は伝統的な言語学の知見に基づいている。外国語教育・学習においては自然言語処理の研究成果が応用されたさまざまな語学支援システムが利用されている。言語学の成果が外国語教育・学習に応用されている例は枚挙にいとまがない。

下図に示すように、本副専攻が提供する科目は相互に関連しあっている。

本副専攻の特徴は、これらの分野の科目を同時に履修することで、単独の分野の科目を履修するだけでは得られない知見を受講者が得ることである。



履修を希望する学生へのメッセージ

自分を表現するため、他者を理解するための手段である「ことば」に関するさまざまな知識を身につけ、それらを自身の学習、研究に役立てて欲しいと思います。また、「ことば」に関する研究はいくつもの学問分野で行われており、「ことば」に対するアプローチがいかに多様であるかを理解することにより、さまざまな考えを取り入れ自ら考える機会を本副専攻が提供できればと思っています。

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「計算言語学・自然言語処理」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	国際教養	Data and Social Media Analysis 51	3年以上	4	
2	国際教養	Introduction to Digital Humanities 01	1年以上	2	
3	国際教養	Python Programming for Digital Humanities 01	2年以上	4	
4	文構	ことばの統計	1年以上	2	
5	グローバル	言語学（形式意味論入門）	1年以上	2	
6	グローバル	初めて学ぶ『言語と情報の脳科学』	1年以上	2	
7	グローバル	初めて学ぶ『自然言語と人工知能』	1年以上	2	
8	グローバル	文法理論入門 1	1年以上	1	
9	グローバル	文法理論入門 2	1年以上	1	
10	グローバル	学習者言語の分析（基礎）1	1年以上	1	
11	グローバル	学習者言語の分析（基礎）2	1年以上	1	
12	グローバル	学習者言語の分析（応用）1	1年以上	1	
13	グローバル	学習者言語の分析（応用）2	1年以上	1	

★領域・分野 b 「言語学」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	言語学 I B（武黒）	1年以上	2	
2	法学	言語学 I A（首藤）	1年以上	2	
3	法学	言語学 I D（乙黒）	1年以上	2	
4	教育	音韻論	2年以上	2	
5	教育	形態論	2年以上	2	
6	教育	認知言語学	2年以上	2	
7	教育	英語史研究 I	3年以上	2	
8	教育	英語史研究 II	3年以上	2	
9	国際教養	Acoustics and Auditory Phonetics	3年以上	4	
10	文構	世界の言語と日本語	1年以上	2	
11	文構	語用論入門	1年以上	2	
12	文構	認知言語学入門	1年以上	2	
13	文構	音から見ることばと文化	1年以上	2	
14	グローバル	言語学（形態論）	1年以上	2	
15	グローバル	言語学（言語類型論）	1年以上	2	
16	グローバル	言語学（統語論・入門）	1年以上	2	
17	グローバル	心理言語実験からみる比喩と思考 1	1年以上	1	
18	グローバル	心理言語実験からみる比喩と思考 2	1年以上	1	
19	グローバル	ことばを科学する 1	1年以上	1	
20	グローバル	ことばを科学する 2	1年以上	1	

★領域・分野 c 「応用言語学・外国語教育」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	言語学 I C（ストックウエル）	1年以上	2	
2	法学	言語学 I E（星井）	1年以上	2	
3	教育	Language and Society	2年以上	2	
4	教育	Content and Language Integrated Learning	2年以上	2	
5	教育	Bilingualism and Bilingual Education	2年以上	2	
6	教育	Language Assessment for Classroom Teachers	2年以上	2	
7	教育	Language, Culture and Cognition	2年以上	2	
8	国際教養	English Phonetics and Phonology 01	2年以上	2	
9	国際教養	Japanese Phonetics and Phonology 51	2年以上	2	
10	文構	日本の英語教育	2年以上	2	
11	文構	言語学入門	1年以上	2	
12	グローバル	ことばのリサーチ	1年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

近年、韓国発のドラマや音楽などが世界的な人気を集め、朝鮮半島の文化や社会、歴史への関心がこれまで以上に高まっています。「코리아研究」は、そうした関心を学問的に深め、韓国・朝鮮を多角的に探究するための副専攻です。

早稲田大学では、多くの学部で朝鮮語を学ぶことができ、多くの学生が日々その習得に励んでいます。しかし、学部によっては코리아に関する専門的な科目が十分に設置されていない場合もあり、せっかく身につけた朝鮮語を活かせる場が限られているのが現状です。

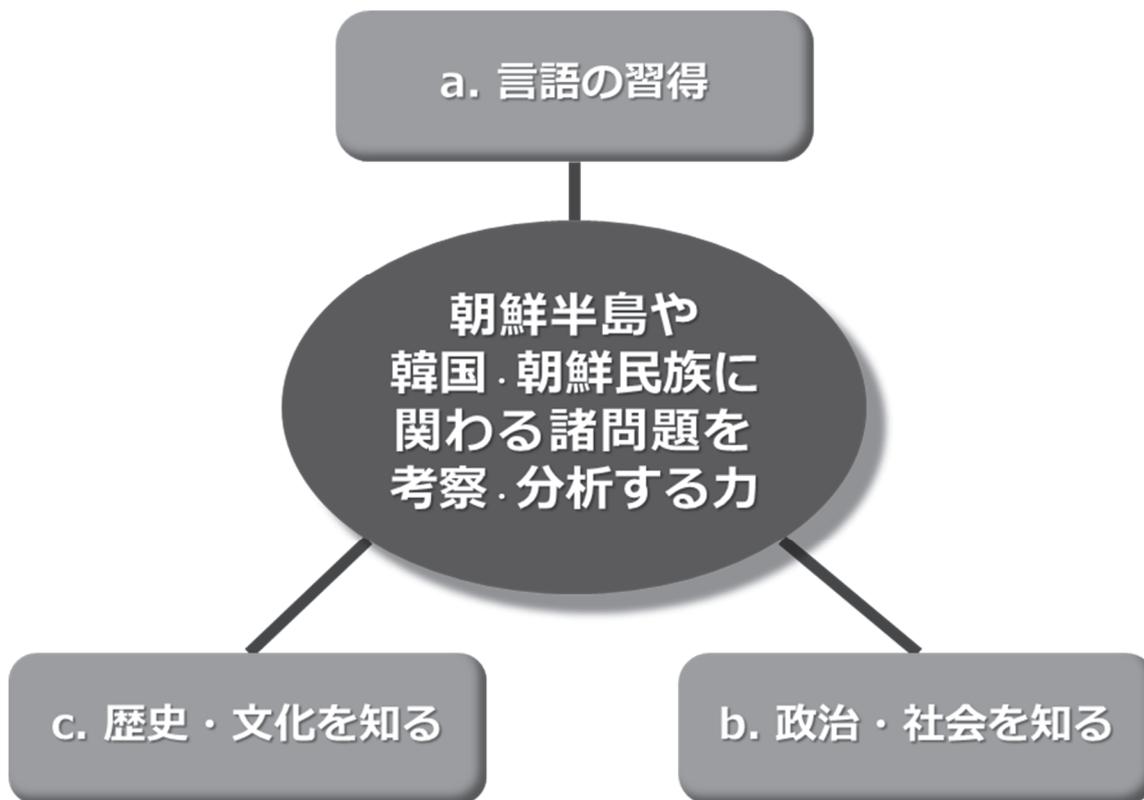
本副専攻では、政治・歴史・文学・言語など、各分野で韓国・朝鮮を研究する教員が最先端の研究成果をもとに授業を提供します。これにより、学生は朝鮮語の知識を活かしながら、韓国・朝鮮に対する専門的かつ包括的な理解を深めることができます。

「코리아研究」を通じて、韓国・朝鮮に対する専門知を習得し、広い視野から多角的に地域研究としての코리아・スタディーズを体系的に学び、アジアと世界をつなぐ広い視野を身につけましょう。

到達点（学習成果）

朝鮮語の文献をもちいて、朝鮮半島および韓国・朝鮮民族の過去と現在に関わる歴史や文化等について、広い視野から多角的に分析し、自分の考えを述べられるようになることを目指します。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

外国語科目で朝鮮語を学んでいる皆さん、グローバル・エデュケーション・センターや学部で設置されている韓国、朝鮮関係の授業や演習で具体的な課題が見つけれられると、確実に朝鮮語を学ぶ意欲や楽しさが増していきます。その逆に、早稲田大学で開講されている韓国、朝鮮を主題にした様々な授業をきっかけに、朝鮮語を学習すると、その世界はますます広がり、深まっていくはずですよ。きっかけはどちらでもかまいません。코리아研究の担当教員は、皆さんの興味や関心を広げたり、深めたりするお手伝いをします。

指定科目一覧

※2026年度以降の判定は、以下の新カリキュラムをもとに行います。

修了必要単位

16単位（領域・分野 a：6単位、領域・分野 b：6単位、領域・分野 c：4単位）以上

★領域・分野 a 「言語の習得」

修了必要単位：6単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	国際教養	国際教養学部提供朝鮮語科目			
2	文構・文	文化構想学部・文学部提供朝鮮語科目			
3	グローバル	グローバル・エデュケーション・センター提供朝鮮語科目			

★領域・分野 b 「政治・社会を知る」

修了必要単位：6単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	地域研究（韓国）	3年以上	2	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
2	国際教養	APM- Realist Literature in Korea(in English) 01	1年以上	2	
3	国際教養	APM- Realist Literature in Korea(in English) 51	1年以上	2	
4	国際教養	APM- Understanding the Korean Democracy Movement (in English and Korean) 01	2年以上	2	
5	国際教養	APM- Understanding the Korean Democracy Movement (in English and Korean) 51	2年以上	2	
6	国際教養	APM- A Critical Understanding of Korean Society through the Lens of Sexuality (in English) 01	2年以上	2	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
7	国際教養	APM- A Critical Understanding of Korean Society through the Lens of Sexuality (in English) 51	2年以上	2	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
8	国際教養	APM- Building Nation States in Two Koreas after Colonialism (In English and Korean) 51	3年以上	2	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
9	文構	エスニシティ・ナショナリズム論	1年以上	2	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
10	文構	トランスナショナル関係論	1年以上	2	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
11	文構	国際協力・人間の安全保障論	1年以上	2	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
12	グローバル	現代韓国・北朝鮮研究入門 1	1年以上	1	
13	グローバル	現代韓国・北朝鮮研究入門 2	1年以上	1	
14	グローバル	近現代朝鮮社会史 1	1年以上	1	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
15	グローバル	近現代朝鮮社会史 2	1年以上	1	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 b として扱います。
16	グローバル	海外・在日コリアンを考える	1年以上	2	

★領域・分野 c 「歴史・文化を知る」

修了必要単位：4単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	国際教養	APM- Recent Approaches to Korean Culture and Society (in Korean) 01	3年以上	2	
2	国際教養	APM- Recent Approaches to Korean Culture and Society (in Korean) 51	3年以上	2	
3	文	近代日本社会論	1年以上	2	
4	文	アジア史特殊講義 2（朝鮮前近代史）	2年以上	2	
5	文	朝鮮近現代史	2年以上	2	
6	文	アジア史概論 1	2年以上	2	
7	グローバル	朝鮮半島の文化と社会（入門）	1年以上	2	
8	グローバル	近現代朝鮮文化史 1	1年以上	1	
9	グローバル	近現代朝鮮文化史 2	1年以上	1	
10	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（入門） 1	1年以上	1	
11	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（入門） 2	1年以上	1	
12	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（応用） 1	1年以上	1	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 c として扱います。
13	グローバル	朝鮮古代の社会と文化（応用） 2	1年以上	1	2025年度以前に単位を修得した場合にも領域・分野 c として扱います。

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

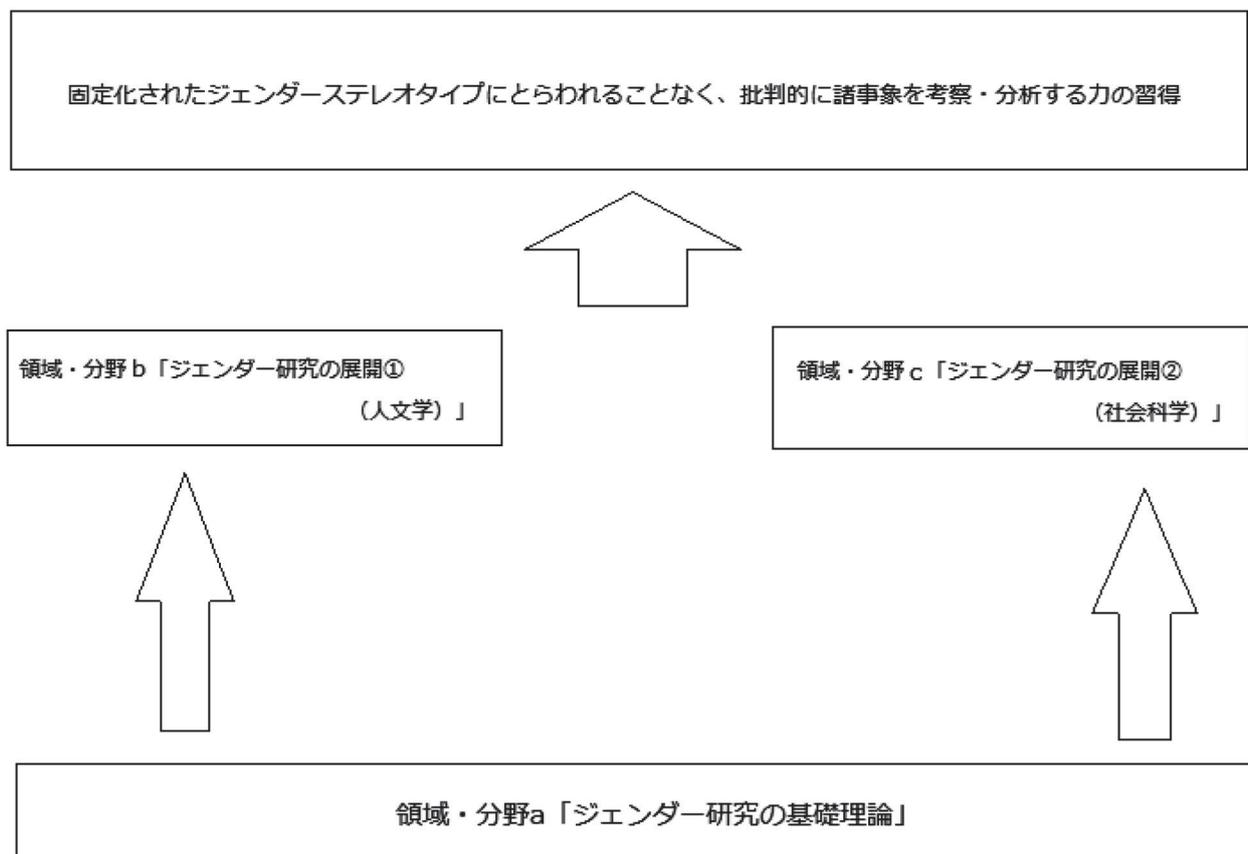
「ジェンダーの主流化」が国際的な共通課題である時代、ジェンダーの視点を備えていることは、国内外で活躍する理性的な市民として不可欠なことである。

早稲田大学は、社会科学、人文科学、理工系の学部を備える総合大学である。学生たちは、各専門領域においてその専門性を高めることはもとより、ジェンダーの分析視点を習得し、ジェンダーに関する課題を深く学ぶことで、質の高い知性と感受性を備え、ダイバーシティや社会的正義を重んじる社会人へと成長する。20年以上、活動を続けている早稲田大学ジェンダー研究所のメンバーを中心として、早稲田大学にはこうした視点から研究・教育を行っている教員が、多様な学部にわたって所属している。学際的副専攻として設置することで、これらの豊かな研究蓄積を学部の垣根にこだわらず広く学生たちに提供し、早稲田大学のジェンダー教育をいっそう充実させることになる。

到達点（学習成果）

ジェンダーやセクシュアリティの問題に関心を持つ学生たちが、法律や文学、社会学、教育学等の多様な学問領域において、伝統的な価値観や固定観念にとらわれることなく、批判的に諸事象を考察・分析する力を習得する。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

これまで、ジェンダーについて学んだことはありますか？

大学だからこそ、ジェンダーについて総合的に学び、とことん議論をすることが可能です。「社会に出る前に知っておくべきこと、考えておくべきこと」が当副専攻にはあふれています。

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：8 単位、領域・分野 b：4 単位、領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「ジェンダー研究の基礎理論」

修了必要単位：8 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	ジェンダー論 I B (金)	1 年以上	2	
2	法学	ジェンダー論 I A (月削)	1 年以上	2	
3	教育	ジェンダー・スタディーズ I (身近なことを視座にして)	1 年以上	2	
4	人科	ジェンダー論	1 年以上	2	
5	文構	クィア・スタディーズ入門	1 年以上	2	
6	文構	グローバルイゼーションと性	1 年以上	2	
7	文構	ジェンダー論	1 年以上	2	
8	文	ダイバーシティ教育実践のデザイン	2 年以上	2	
9	グローバル	ダイバーシティを学ぶ	1 年以上	1	
10	グローバル	ジェンダーを考える 1	1 年以上	1	
11	グローバル	ジェンダーを考える 2	1 年以上	1	
12	グローバル	ウーマン・キャリアクリエイト講座	1 年以上	2	
13	グローバル	女性・しごと・ライフデザイン α	1 年以上	1	
14	グローバル	女性・しごと・ライフデザイン β	1 年以上	1	
15	グローバル	ジェンダーと教育 1	1 年以上	1	
16	グローバル	ジェンダーと教育 2	1 年以上	1	

★領域・分野 b 「ジェンダー研究の展開① (人文学)」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	アカデミックリテラシー演習 (ジェンダーの視点から見たフランス社会) 01	2 年以上	2	
2	法学	English: Advanced 3 (春)	3 年以上	1	
3	教育	ジェンダー・スタディーズ II (文学を視座にして)	1 年以上	2	
4	教育	女性史	1 年以上	2	
5	教育	英語文学講読 V	1 年以上	2	
6	社会学	Women in Modern Japan: Outside Encounters and Early Changes	1 年以上	2	
7	文構	ジェンダーとイメージ	2 年以上	2	文/文構生のみ履修可。
8	文構	文学とジェンダー 1	1 年以上	2	
9	文構	文学とジェンダー 2	1 年以上	2	
10	グローバル	英米文学とジェンダー 1	1 年以上	1	
11	グローバル	英米文学とジェンダー 2	1 年以上	1	

★領域・分野 c 「ジェンダー研究の展開② (社会科学)」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	ジェンダーと法 I	3 年以上	2	
2	法学	ジェンダーと法 II	3 年以上	2	
3	教育	青少年教育論	1 年以上	2	
4	商学	ジェンダー社会学のアプローチ 1	1 年以上	2	
5	商学	文化人類学と文化 1	1 年以上	2	
6	商学	家族社会学のアプローチ 1	1 年以上	2	
7	社会学	社会科学総合研究 (ジェンダーとセクシュアリティ)	3 年以上	2	
8	社会学	ジェンダーの社会学 1	1 年以上	2	社会科学部生のみ履修可。
9	社会学	ジェンダーの社会学 2	2 年以上	2	社会科学部生のみ履修可。
10	文構	アジアのジェンダーとセクシュアリティ	1 年以上	2	
11	文構	セクシュアリティの社会学	1 年以上	2	
12	文構	性暴力の社会学	1 年以上	2	
13	文構	グローバル時代の戦争とジェンダー	2 年以上	2	
14	文	教育とジェンダー	2 年以上	2	
15	グローバル	LGBTQ+をめぐる法と社会	1 年以上	1	

※授業に関する最新情報 (授業実施方法等) については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

社会貢献とボランティア

Social Contribution and Volunteering

設置概要

「ボランティアをやってみたい」「誰かのためになりたい」「世界をもっとよくしたい」、そんな想いをみなさんはもっているのではないのでしょうか。

「でも、どうしたらいいかわからない」「どこからはじめていいかわからない」と思っている人も同様に多いでしょう。

また、「けっきょく偽善じゃないか」「自己満足じゃないか」「自分がやっても社会は変わらない」というためらいを感じている人もいるかもしれません。

本副専攻では、そういったみなさんが、それぞれの興味・関心に応じた分野から社会貢献やボランティアについて学び、実際に社会問題の現場で当事者と接し、よりよい社会への変革に向けて実際に行動する機会を提供します。

みなさんは、科目をおして、これまでの「学校」や「サークル」といった同年代に閉じられた人間関係やコミュニティとは異なる、新しい世界を体験することになるでしょう。それは、海外の現場はもちろんのこと、日本国内の現場でもあります。その中で、自分とは異なる多様な価値観に接し、時にはぶつかりながら、そしてそれを乗り越えて問題解決に取り組み、社会に貢献する力を養います。

本副専攻の特色は、「現場で体験する」だけではなく、その先に必要となる「体験を言語化する力」も同時につちかう点にあります。必修科目である「体験の言語化」をはじめとした領域 a「体験し言語化する実践科目」を受講することで、「体験・思考を言語化し、他者に伝える力」（コミュニケーション力）を身につけます。それは、単に「自分の体験」を伝えるだけではなく、ボランティア活動をつうじて「相手を理解する力」を養った上で可能になる、「相手を想像しながらのコミュニケーション力」となるでしょう。

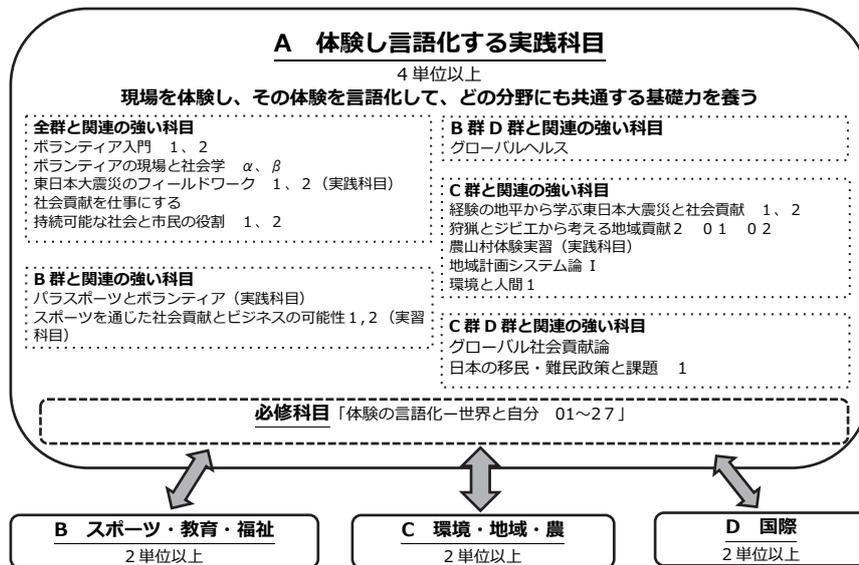
また、領域 b「スポーツ・教育・福祉」、領域 c「環境・地域・農」、領域 d「国際」は、領域 a で体験的に学んだ内容を、より抽象的な学術的理解につなげる科目群です。あるいはその逆で、領域 bcd で知識として学んだ内容を、領域 a の科目の現場で実践を試みてもよいです。社会問題は、多様な分野にまたがった要因が、複雑にからみあって生じています。その根本的な原因を追究し、改善方法を発想するには、学際的な視点が不可欠です。領域 bcd を、「ボランティア」「社会貢献」というキーワードで横断しながら科目を履修することによって、学際的な視点を身につけることができるでしょう。

＜本副専攻は、平山郁夫記念ボランティアセンター（WAVOC）が運営しています＞

到達点（学習成果）

- 1) 社会問題の改善に向けて主体的に行動する力が身につく
- 2) 社会問題を構造的に分析する力が身につく
- 3) 自己満足を越えて、社会とつながるボランティアを構想できる
- 4) 相手（当事者、支援される側）を想像しながらコミュニケーションする力が身につく

カリキュラムマップ



BCDの多様な分野を学ぶことで、ボランティアに必要な「現場を多角的に理解する力」を養う。

履修を希望する学生へのメッセージ

まだボランティアに取り組んでいない人は、「ボランティアって、自己満じゃないか」「意識高い系って思われそう」と思うかもしれません。また、すでに取り組んできた人は、「ボランティアを続けてきたけど、そこで起きている問題を解決できる方法が見つからない」という壁を感じているかもしれません。

そんな「もどかしさ」を抱えているみなさん、本副専攻の中で、自分なりの指針や行動するための方向性を見いだしてください。この副専攻で身につける力は、社会貢献やボランティア活動のみならず、卒業後の社会生活の中でもみなさんを支えることでしよう。

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：4 単位以上、領域・分野 b：2 単位以上、領域・分野 c：2 単位以上、領域・分野 d：2 単位以上）以上

★領域・分野 a 「体験し言語化する実践科目」

修了必要単位：4 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	グローバル	グローバルヘルス	1 年以上	2	
2	グローバル	医療×超高齢化社会・キャリアデザイン（早稲田大学校友会支援講座）	1 年以上	1	
3	グローバル	震災後を考える	1 年以上	1	
4	グローバル	ボランティア入門 1 01	1 年以上	1	
5	グローバル	ボランティア入門 1 02	1 年以上	1	
6	グローバル	ボランティア入門 2	1 年以上	1	
7	グローバル	ボランティアの現場と社会学 α	1 年以上	1	
8	グローバル	ボランティアの現場と社会学 β	1 年以上	1	
9	グローバル	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 1	1 年以上	1	
10	グローバル	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 2	1 年以上	1	
11	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 2 01	1 年以上	2	
12	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 2 02	1 年以上	2	
13	グローバル	農山村体験実習	1 年以上	2	
14	グローバル	バラスポーツとボランティア	1 年以上	2	
15	グローバル	東日本大震災のフィールドワーク 1	1 年以上	1	
16	グローバル	東日本大震災のフィールドワーク 2	1 年以上	3	
17	グローバル	スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性 1	1 年以上	1	
18	グローバル	スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性 2	1 年以上	3	
19	グローバル	体験の言語化—世界と自分 01～27	1 年以上	1	いずれか 1 クラスを履修必須

★領域・分野 b 「スポーツ・教育・福祉」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	ジェンダーと法 I	3 年以上	2	
2	法学	ジェンダーと法 II	3 年以上	2	
3	教育	教育福祉論	1 年以上	2	
4	教育	NPO・NGO論とボランティア	1 年以上	2	
5	人科	NPO/NGO論	1 年以上	2	
6	スポーツ	スポーツボランティア	1 年以上	2	
7	スポーツ	スポーツ心理学	2 年以上	2	
8	スポーツ	スポーツ文化論	1 年以上	2	
9	スポーツ	スポーツ産業論	2 年以上	2	
10	スポーツ	コーチング心理学	2 年以上	2	
12	文構	ソーシャルワーク概論	1 年以上	2	
13	文構	障害と自立生活	1 年以上	2	
14	文構	市民活動論	1 年以上	2	
15	グローバル	持続可能な社会と市民の役割 1	1 年以上	1	
16	グローバル	持続可能な社会と市民の役割 2	1 年以上	1	
17	グローバル	女性・しごと・ライフデザイン α	1 年以上	1	
18	グローバル	女性・しごと・ライフデザイン β	1 年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

★領域・分野c 「環境・地域・農」

修了必要単位：2単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	商学	株式会社日本 M&A センター寄附講座 起業家養成講座 I 1	1年以上	2	
2	社会学	コミュニティデザイン	1年以上	2	
3	社会学	環境表現論 I	1年以上	2	
4	社会学	地域計画システム論 I	2年以上	2	
5	人科	環境社会学	1年以上	2	
6	文構	環境と人間	2年以上	2	
7	文構	環境変容と地域・都市の社会変動	1年以上	2	
8	グローバル	環境問題と持続可能な社会	1年以上	2	
9	グローバル	再生可能エネルギーを地域から考える。	1年以上	2	
10	グローバル	地域、環境、エネルギーを考える	1年以上	2	
11	グローバル	食と経済 講義	1年以上	1	
12	グローバル	協同組合論	1年以上	2	
13	グローバル	食と経済 演習	1年以上	1	
14	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 1	1年以上	1	

★領域・分野d 「国際」

修了必要単位：2単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	国際社会と法	1年以上	2	
2	法学	地域研究（アフリカ）	3年以上	2	
3	社会学	国際NGO協力論	3年以上	2	
4	社会学	平和構築論	2年以上	2	
5	社会学	Politics in Modern Japan	1年以上	2	
6	社会学	Contemporary Japanese Foreign Policy	1年以上	2	
7	人科	アジア地域研究	1年以上	2	
8	国際教養	Introduction to Urban Studies 01	1年以上	2	
9	文構	グローバル社会と教育	2年以上	2	
10	グローバル	グローバル社会貢献論	1年以上	1	
11	グローバル	日本の移民・難民政策と課題 1	1年以上	1	
12	グローバル	日本の移民・難民政策と課題 2	1年以上	1	
13	グローバル	文化遺産と保全 1	1年以上	1	
14	グローバル	文化遺産と保全 2	1年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

MEMO

ジャーナリズムとメディア表現

Journalism and Media Practice

設置概要

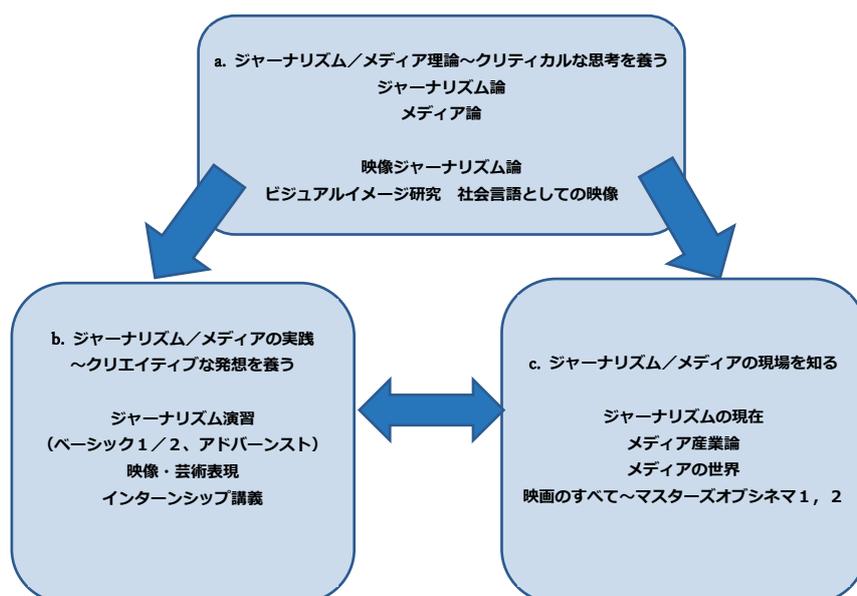
現在、ジャーナリズムは危機の時代を迎えています。権力を掌握する人物が根拠のない発言をする、自己の主張に合わない意見を退ける、多様な価値観を認めないなど閉塞的な状況が世界中で見られ、真実が犠牲になる「ポスト真実」の時代といわれています。マスメディアはこれまで、ニュースのゲート・キーパー（門番）として、出来事を発見し、解釈し、発信してきましたが、テクノロジーが発達し、あらゆる情報がネットを通して入手できる今日、私たちはマスメディアから発信される情報を待つのではなく、それぞれの都合に合った時間に自由に情報を入手します。情報をコントロールする主体がメディアから市民へ移行するパラダイムシフトが起きようとしている今、ジャーナリズムは従来の一方通行的な情報提供から、双方向的な対話型へと変換を迫られています。しかし、テクノロジーが発達し、ジャーナリズムの表現形式が変わろうとしても、「公共性」「公平性」「正確性」などのジャーナリズムの使命には変化はありません。むしろ、フェイクニュースといわれる誤報、ねつ造、誇張、プロパガンダがネット上に流布される時代だからこそ、ジャーナリストを志す人だけでなく、メディアの発信者となり得るすべての人がジャーナリズムについて考え、学ぶことが重要です。カリキュラムは、クリティカルな思考を養う領域（a）、実践活動からクリエイティブな発想を養う領域（b）、新聞記者、テレビディレクター、メディア・プランナーの経験知からメディアの生産、経営、流通、テクノロジーなどの報道の現場を知る領域（c）から構成されています。

到達点（学習成果）

- ・ジャーナリズムとは何か、ジャーナリストの役割や使命はどのようなものか、ジャーナリズムはどのように変わろうとしているかについて十分に考察し、理解できる。
- ・メディアが発信する情報や現実をクリティカルかつ多角的に見ることができる。
- ・取材や映像作品の制作などの実践を体験することで、メディアを主体的に活用できるようになる。
- ・メディア作品の鑑賞やメディア制作のためのディスカッションを通して、コミュニケーション力を養うことができる。

カリキュラムマップ

領域相関図



履修を希望する学生へのメッセージ

将来、ジャーナリストを志す人、メディア産業に関心がある人、メディアを通じて発信を試みたい人、社会で起きていることに関心を持ち、より良い社会を形成したいと考えている人を歓迎します。主体的に授業に参加することを期待します。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：6 単位 領域・分野 b：6 単位 領域・分野 c：4 単位）以上

★領域・分野 a 「ジャーナリズム／メディア理論～クリティカルな思考を養う」 修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	メディア論 01	3 年以上	2	
2	政経	メディア・コミュニケーション史 01	2 年以上	2	
3	政経	映像ジャーナリズム論 01	2 年以上	2	
4	教育	ジャーナリズム論	1 年以上	2	
5	社会学	社会デザインの思考と技法 3（社会言語としての写真・映像）	2 年以上	2	
6	社会学	ヴィジュアルイメージ研究	2 年以上	4	
7	グローバル	映像史（理論） ※1	1 年以上	2	
8	グローバル	映像史（社会・歴史） ※1	1 年以上	2	

※1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

★領域・分野 b 「ジャーナリズム／メディアの実践～クリエイティブな発想を養う」 修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	グローバル	視覚文化研究のための写真入門 1	1 年以上	2	
2	グローバル	視覚文化研究のための写真入門 2	1 年以上	2	
3	グローバル	映像・芸術表現	1 年以上	2	
4	グローバル	ジャーナリズム演習 ベーシック1	1 年以上	2	
5	グローバル	ジャーナリズム演習 ベーシック2	1 年以上	2	
6	グローバル	ジャーナリズム演習 アドバンスド	2 年以上	2	
7	グローバル	インターンシップ入門	1 年以上	1	

★領域・分野 c 「ジャーナリズム／メディアの現場を知る」 修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	メディア産業論 01	3 年以上	2	
2	政経	メディアの世界 01	1 年以上	2	
3	基幹	奇想のテレビドキュメンタリー論	2 年以上	2	
4	グローバル	プロデュース概論 ※1	1 年以上	1	
5	グローバル	ジャーナリズムの現在（石橋湛山記念早稲田ジャーナリズム大賞記念講座）	1 年以上	1	
6	グローバル	スポーツジャーナリズム論 1（大久保建男スポーツジャーナリズム講座）	1 年以上	1	
7	グローバル	スポーツジャーナリズム論 2（大久保建男スポーツジャーナリズム講座）	1 年以上	1	
8	グローバル	映画のすべて マスターズ・オブ・シネマ1 ※1	1 年以上	1	
9	グローバル	映画のすべて マスターズ・オブ・シネマ2 ※1	1 年以上	1	

※1 基幹・創造・先進理工学部生は、理工設置科目を受講してください。

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

「台湾研究」は、「地域研究」という学問領域の一分野である。台湾という地域は、地理的には、日本の沖縄県南方、西太平洋海上交通路の中央に位置し、台湾海峡を挟んで中国大陸と向かい合っている。民族的には、本来、オーストロネシア語族に属する先住民族の居住地であったが、現代に到るまで、オランダ、清朝、日本、中華民国という様々な政権により統治されてきた。そのため政治的・経済的・文化的に多面的な発展を遂げてきたことが、台湾社会の特徴の一つと考えられる。このような地理的・民族的・歴史的事柄は、台湾という地域に、学際的な (interdisciplinary) 地域研究 (area studies) の対象の一つにふさわしい濃厚な個性を付与している。また、現今の国際社会における台湾とは「国家承認されていない国民国家」という特殊性を有している。さらに近年は、アジア初の同性婚法や、「原住民族」のコミュニティや文化の保存発展をめざすプログラムなど、人権・民主主義に関連した先進的取り組みについても注目が集まっている。

このような、日本の身近に存在しつつも複雑で個性的な存在である台湾を考えることは、日本と東アジアとの関係を理解する上でも、従来私たちが慣れ親しんできた国際社会や国家という概念を再考する上でも、日本という国家・社会を反省的に振り返るためにも、きわめて有意義である。上記の趣旨をふまえ、本学では、2003年より、早稲田大学台湾研究所を立ち上げ、様々な研究プロジェクトを実践するほか、日本初の台湾研究のプログラムとして、本学で学ぶ学部学生を対象に「台湾テーマスタディ」を運営するなど、教育面でも積極的に活動してきた。本副専攻は、「台湾テーマスタディ」での経験・内容を継承しつつ、多様な科目群よりなる体系化されたカリキュラムを通じて、「台湾研究」の面白さを受講生に伝えたい。

到達点 (学習成果)

受講生は、本副専攻で提供される多彩な講義・演習科目および中国語学科目および英語で開講される専門科目の履修に加えて、フィールドワークや学生交流、研究会や読書会などの様々な課外活動への参加機会の提供を通じて、台湾に関する幅広い専門知識を身に付けると同時に、中国語および英語についても一定のコミュニケーション力の習得を到達点として設定する。また本副専攻では、通常の学部カリキュラムと異なり「台湾」という研究対象を軸としながら、文学、歴史学、経済学、政治学、国際関係論、地域研究、語学など、多岐にわたるディシプリンを学際的に学び、多言語運用力を涵養しながら、グローバルな視点に立った台湾研究の在り方・学問の奥深さ、面白さを理解してもらうことを目指す。

カリキュラムマップ

「東アジア地域から見た台湾」を幅広く学ぶため、本学際副専攻では、学内で開講している台湾をはじめとする関連の科目を有機的に連動させ、受講生が自身のレベルにあわせて、台湾および東アジア地域に対する理解を深めることを目指している。そのために通常の講義科目に加え、語学の学習プログラムや台湾研究所の協力の下、講演会、シンポジウム、現地調査などへの参加も一部可能にし、受講生の理解を促進していきたい。具体的な科目配置及び相関図は下記の通りである。

<領域・分野 a「社会・文化」(旧:「複合領域」) 科目群>

東アジア論 01、台湾を知る (入門/発展)、中国総合講座 (入門/発展)、

台湾現代文化研究 (1/2)、文学 ID、グローバルイゼーションと性、エスニシティ論、早稲田大学と近代台湾

<領域・分野 b「歴史」(旧:「歴史学」) 科目群>

帝国思想と台湾 (1/2)、台湾通史 (近世) (1/2)、台湾通史 (近現代) (1/2)、日本政治思想史 01、

歴史学 (日中関係史) (1/2)、Japanese Political Thought A 01/B 01、東洋史 I

<領域・分野 c「現代政治経済・国際関係」(旧:「国際関係」) 科目群>

台湾政治研究 (1/2)、台湾をめぐる戦後東アジア国際関係史、東アジアの比較政治 01、

国際協力・人間の安全保障、台湾経済概論 (1/2)、Introduction to Taiwanese History、

国際関係論入門 01、Introduction to International Relations 01、Japanese Political History 01

地域研究としての台湾 (01/02)

<領域分野 d「中国語」(旧:「語学」) 科目群>

海外語学・文化研修プログラム (春季/夏季)、中国の社会 α/β

各学部・グローバル・エデュケーション・センター提供中国語科目/外国書 (中国語) 購読科目



指定科目一覧

修了必要単位

18 単位（領域・分野 a：6 単位 領域・分野 b：6 単位 領域・分野 c：4 単位 領域・分野 d：2 単位）以上

★領域・分野 a 「社会・文化」(旧：「複合領域」)

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	東アジア論 01	3 年以上	2	
2	文構	グローバルゼーションと性	1 年以上	2	
3	文構	エスニシティ論	1 年以上	2	
4	グローバル	台湾を知る(入門)	1 年以上	2	
5	グローバル	台湾を知る(発展)	1 年以上	2	
6	グローバル	中国総合講座(入門)	1 年以上	2	
7	グローバル	中国総合講座(発展)	1 年以上	2	
8	グローバル	早稲田大学と近代中国	1 年以上	2	

★領域・分野 b 「歴史」(旧：「歴史学」)

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	日本政治思想史 01	2 年以上	4	
2	政経	Japanese Political Thought A 01	2 年以上	2	
3	政経	Japanese Political Thought B 01	2 年以上	2	
4	法学	東洋史 I (張)	1 年以上	2	
5	社会学	歴史学(日中関係史) 1	1 年以上	2	
6	社会学	歴史学(日中関係史) 2	2 年以上	2	
7	グローバル	台湾通史(近世) 1	1 年以上	1	
8	グローバル	台湾通史(近世) 2	1 年以上	1	
9	グローバル	台湾通史(近現代) 1	1 年以上	1	
10	グローバル	台湾通史(近現代) 2	1 年以上	1	
11	グローバル	帝国思想と台湾 1	1 年以上	1	
12	グローバル	帝国思想と台湾 2	1 年以上	1	

★領域・分野 c 「現代政治経済・国際関係」(旧：「国際関係」)

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	東アジアの比較政治 01	2 年以上	2	
2	政経	国際関係論入門 01	1 年以上	2	
3	政経	Japanese Political History 01	2 年以上	2	
4	政経	Introduction to International Relations 01	1 年以上	2	
5	文構	国際協力・人間の安全保障論	1 年以上	2	
6	グローバル	Introduction to Taiwanese History	1 年以上	2	
7	グローバル	台湾をめぐる戦後東アジア国際関係史	1 年以上	2	
8	グローバル	台湾政治研究 1	1 年以上	1	
9	グローバル	台湾政治研究 2	1 年以上	1	
10	グローバル	地域研究としての台湾 1	1 年以上	1	
11	グローバル	地域研究としての台湾 2	1 年以上	1	

★領域・分野 d 「中国語」(旧：「語学」)

修了必要単位：2 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	各学部・グローバル	各学部・グローバル・エデュケーション・センター提供中国語科目/外国書(中国語)講読科目			
2	留学	海外語学・文化研修プログラム(夏季) A 01	1 年以上	2	
3	留学	海外語学・文化研修プログラム(春季) A 01	1 年以上	2	
4	留学	海外語学・文化研修プログラム(春季) B 01	1 年以上	4	
5	留学	海外語学・文化研修プログラム(夏季) B 01	1 年以上	4	

※授業に関する最新情報(授業実施方法等)については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

地域連携・地域貢献

Regional Collaboration/Regional Contribution

設置概要

学際的副専攻「地域連携・地域貢献」は、地域社会との連携と地域への貢献のための学びを認定するもので、学際的なアプローチを取り入れながら、学生が地域の課題を理解し、さらに、地域の諸課題に対する解決策を提案する能力を養うことを目指しています。

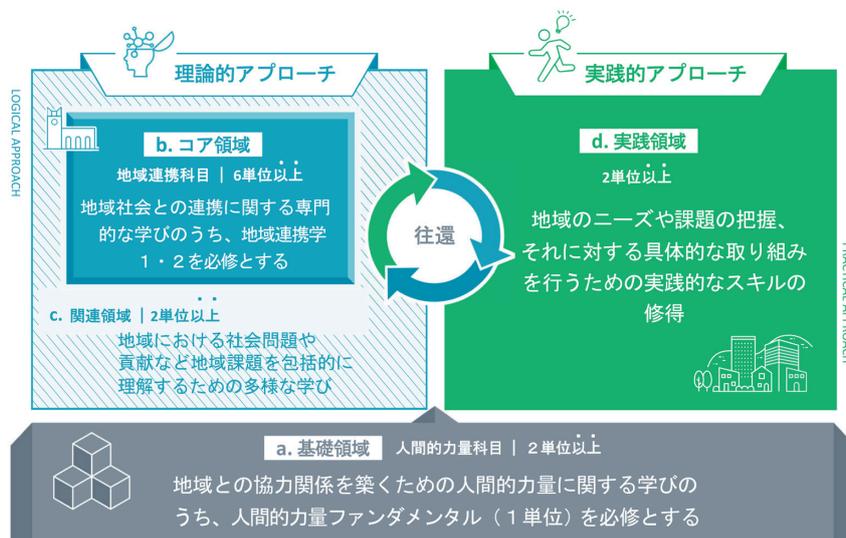
特徴としては、人間的力量科目を基礎領域、地域連携科目をコア領域として、地域研究、ボランティアに関わる科目など、さまざまな学問分野から学ぶことで、地域連携と地域貢献を理解することがあります。また、専門的な知識と実践的なスキルを組み合わせることで、地域の問題解決に取り組む能力を育成します。

この副専攻の設置趣旨は、地域への貢献と、それを目的とした地域社会との連携について体系的に、また、実践的に学ぶことです。早稲田大学は、地域社会との関わりを重視しており、地域の発展に貢献することを使命としています。そこで、この副専攻では、実習科目や指定の課外活動を実践することを認定の要件とします。これらによって地域のニーズや課題を把握し、それに対して具体的な取り組みを行うための知識やスキルを学んでもらいます。また、地域との協力関係を築くためのコミュニケーション能力やリーダーシップも重要な要素として扱われます。これにより、学生は地域社会の現実に直面することで、課題を解決するための創造的なアイデアや提案を生み出す能力を身につけることができます。

到達点（学習成果）

- ・基礎領域、コア領域、関連領域の学びによって、地域の諸問題を学際的に分析し、地域の課題を的確に発見することができるようになります。
- ・発見した課題に対して、どのようにすれば解決、克服に近づけることができるか。そのアプローチについて考えることができるようになります。具体的には、地域連携を通じて、地域の資源を最大限に活用し、地域の特産品や文化を活かしたビジネスモデルやイノベーションを創出することが可能です。これにより、地域ブランドの向上や少子高齢化など、地域の諸課題に対するアプローチが可能になります。
- ・コミュニケーション能力の向上も目指します。地域において、多様なステークホルダーと円滑な対話を行いながら、共通の目標に向けて協働することで、より豊かな地域連携・地域貢献が可能になります。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

学際的アプローチ：本副専攻では、複数の学問分野から統合的に学ぶことで、文化、経済、社会など多角的な視点から地域の実態と課題に対する深い理解が得られます。

地域との連携：実践的な経験を通じて、地域のニーズや課題を把握し、解決に向けた提案を学びます。実践型授業や課外活動を通じて、現地の課題に取り組む機会を大いに活用してください。

地域貢献：地域との連携を通じて、学んだ知識やスキルを実際の地域課題の解決に活かすことができます。社会に貢献することで自分の成長を実感することができます。

ネットワーク構築：多様なバックグラウンドを持つ学生と一緒に取り組むことで、新たな視点やアイデアを得ることができます。

このように、本副専攻を修了するメリットは多岐にわたります。このカリキュラムのなかで、地域社会の実態や課題を知り、そのアプローチを学ぶことは、将来のキャリアにおいても、地域の発展に貢献できるだけでなく、問題解決能力やその考え方を身につけることにもつながります。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：2 単位以上、領域・分野 b：6 単位以上、領域・分野 c：2 単位以上、領域・分野 d：2 単位以上）以上

★領域・分野 a 「基礎領域（地域連携・地域貢献を学ぶための基礎力を養う）」 修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	グローバル	人間的力量ファンダメンタル 01	1 年以上	1	いずれか 1 クラスを履修必須
2	グローバル	人間的力量ファンダメンタル 02	1 年以上	1	
3	グローバル	人間的力量ファンダメンタル 03	1 年以上	1	
4	グローバル	人間的力量ファンダメンタル 04	1 年以上	1	
5	グローバル	ダイバーシティを学ぶ	1 年以上	1	
6	グローバル	人間的力量子学 1 01	1 年以上	1	
7	グローバル	人間的力量子学 1 02	1 年以上	1	
8	グローバル	人間的力量子学 2 01	1 年以上	1	
9	グローバル	人間的力量子学 2 02	1 年以上	1	
10	グローバル	体験の言語化—世界と自分 01~29	1 年以上	1	
11	グローバル	リーダーシップ開発：理論とスキル 01~08	1 年以上	2	
12	グローバル	リーダーシップ開発：問題解決プロジェクト 01~08	1 年以上	2	
13	グローバル	リーダーシップ開発：社会人へのトランジション 01	1 年以上	2	
14	グローバル	リーダーシップ開発：社会人へのトランジション 02	1 年以上	2	

★領域・分野 b 「コア領域（地域連携・地域貢献を学ぶ）」 修了必要単位：6 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	グローバル	地域連携学 1	1 年以上	1	履修必須
2	グローバル	地域連携学 2	1 年以上	1	履修必須
3	グローバル	地域貢献論	1 年以上	1	
4	グローバル	地域資源活用論 1	1 年以上	1	
5	グローバル	地域資源活用論 2	1 年以上	1	
6	グローバル	地域連携実践論	1 年以上	1	領域・分野 d「実践領域」より前の履修を推奨
7	グローバル	農山漁村地域システム論 1	1 年以上	1	
8	グローバル	農山漁村地域システム論 2	1 年以上	1	
9	グローバル	地域連携基礎演習	1 年のみ	2	
10	グローバル	地域連携ケーススタディ 1	2 年以上	1	
11	グローバル	地域連携ケーススタディ 2	2 年以上	1	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

★領域・分野 c 「関連領域（地域連携・地域貢献に関連する領域を学ぶ）」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	公共政策 01	2年以上	4	
2	政経	自治体政策 01	2年以上	2	
3	政経	地方自治制度 01	3年以上	2	
4	教育	経済地理学 I	2年以上	2	
5	教育	経済地理学 II	2年以上	2	
6	社会学	地域計画システム論 I	2年以上	2	
7	社会学	地域計画システム論 II	2年以上	2	
8	社会学	観光学	2年以上	2	
9	人科	地域資源論	1年以上	2	
10	人科	人口社会学	1年以上	2	
11	人科	都市社会学	1年以上	2	
12	創造	現代都市・地域論 A	2年以上	2	
13	創造	現代都市・地域論 B	2年以上	2	
14	創造	交通まちづくり	3年以上	2	
15	グローバル	再生可能エネルギーを地域から考える。	1年以上	2	
16	グローバル	地域、環境、エネルギーを考える	1年以上	2	
17	グローバル	協同組合論	1年以上	2	
18	グローバル	文化遺産と保全 1	1年以上	1	
19	グローバル	文化遺産と保全 2	1年以上	1	
20	グローバル	ボランティア入門 1 01	1年以上	1	
21	グローバル	ボランティア入門 1 02	1年以上	1	
22	グローバル	ボランティア入門 2	1年以上	1	
23	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 1	1年以上	1	
24	グローバル	ボランティアの現場と社会学 α	1年以上	1	
25	グローバル	ボランティアの現場と社会学 β	1年以上	1	
26	グローバル	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 1	1年以上	1	
27	グローバル	経験の地平から学ぶ東日本大震災と社会貢献 2	1年以上	1	
28	グローバル	社会貢献を仕事にする	1年以上	1	
29	グローバル	スポーツを通じた社会貢献とビジネスの可能性 1	1年以上	1	

★領域・分野 d 「実践領域（地域連携・地域貢献を実践する）」

修了必要単位：2 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 2 01	1年以上	2	
2	グローバル	狩猟とジビエから考える地域貢献 2 02	1年以上	2	
3	グローバル	農山村体験実習	1年以上	2	
4	グローバル	東日本大震災のフィールドワーク 1	1年以上	1	
5	グローバル	東日本大震災のフィールドワーク 2	1年以上	3	
6	GCC	【課外活動】地域連携ワークショップ		2 単位相当	< 3 月卒業予定で副専攻修了を目指される方 > 卒業直前の 3 月までかかる課外活動は、認定手続きの都合上、副専攻の単位相当にはなりません。
7	GCC	【課外活動】地域連携スタディツアー		1 単位相当	
8	GCC	【課外活動】企業連携ワークショップのうち、地域と関わる活動		2 単位相当	< 9 月卒業予定で副専攻修了を目指される方 > 卒業直前の 9 月までかかる課外活動は、認定手続きの都合上、副専攻の単位相当にはなりません。
9	WAVOC	【課外活動】ボランティアスタディツアー		1 単位相当	
10	WAVOC	【課外活動】早稲田ボランティアプロジェクトのうち、地域と関わる活動		1 単位相当	課外活動（本学指定）

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

※（領域・分野 d）9,10 の対象の活動についてはボランティアセンター（WAVOC）にお問い合わせください。

MEMO

設置概要

グローバル化が時代のキーワードである。世界の人・物・情報の動きは拡大の一途をたどり、地域ごとの差違は見過ごされがちになってきているが、まさにそのためにこそ、複雑に絡まる現代社会の諸問題を解明しようと試みるときに、地域を足掛かりとした多角的な視点を持つことが重要となる。

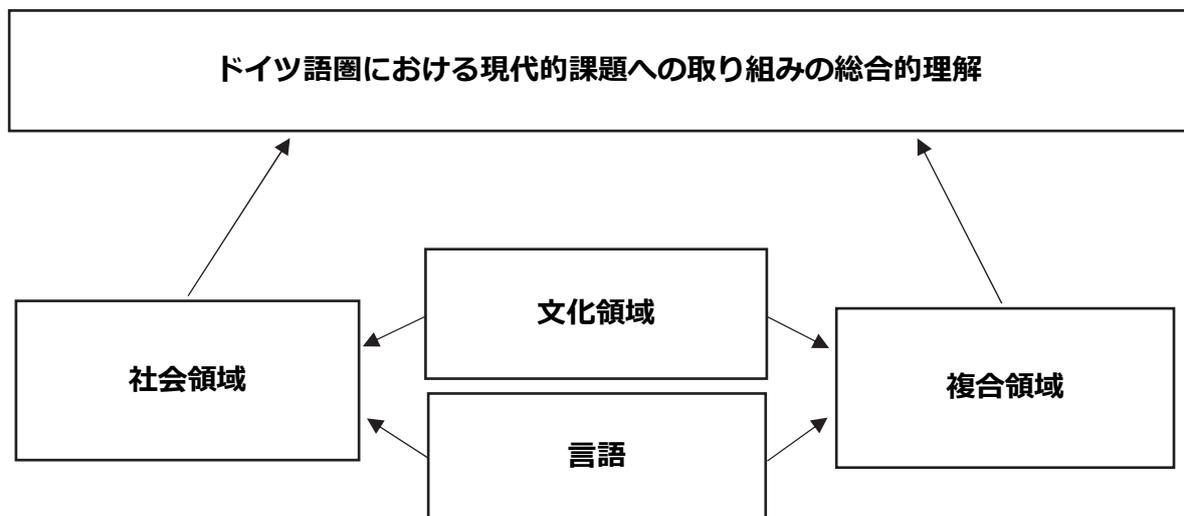
ドイツ語圏はかつて学術の中心地として知られ、また今日でも現代社会が突きつけるさまざまな課題に対して、それらを正面から受け止め、独自の道を歩みつつ解決への努力を行っている地域として注目されている。その姿を知ることが、グローバル化の中における日本の位置を知るための手がかりとなり、将来の日本を背負う学生は多くの示唆を得ることができる。

ドイツの社会や文化について、幅広い分野からの専門家を集め、多彩なテーマについての科目を配置し、多角的・学際的な視点から議論を深める。日本では残念ながら、ドイツ文化圏の上記のような取り組みについて十分知られているとはいえず、この副専攻ではそれを深く学ぶことができる。

到達点（学習成果）

ドイツ語圏の文化・社会の諸相に触れることで、より広い視野のもとで世界を見ることができる。他文化との取り組みは、知の組み換えをももたらす高度な知的作業である。知ると同時にその知を得るすべ、活かすすべを学ぶことは変革の激しい現代社会を生きる上で大いに役立つこととなる。ドイツ語で行われる科目も開講するので、ドイツ語圏への留学を考えている学生にもその準備のために履修することができる。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

本副専攻の科目を体系的に履修することで、ドイツ語圏社会を広範に深く理解することができるでしょう。また、それぞれのテーマはドイツ語圏に固有なものではなく、世界に共通する問題も扱います。したがって、ドイツ語圏に直接関心を持たない学生でも、自らの問題を探求する場としてこの副専攻を利用することができます。

ほとんどの指定科目はドイツ語の知識なしに履修できますが、もちろんドイツ語を知っていれば理解がさらに深まりますし、最低限のドイツ語の知識は不可欠です。また、ドイツ語で行われる科目も用意していますので、ドイツ語圏への留学を考えている学生にもぜひ履修を勧めたいと思います。

指定科目一覽

修了必要単位

16 単位 (領域・分野 a : 2 単位以上、領域・分野 b : 2 単位以上、領域・分野 c : 2 単位以上、
領域・分野 d : 2 ~ 4 単位)以上

★領域・分野 a 「社会領域」

修了必要単位 : 2 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	アカデミックリテラシー演習 (ドイツ語で学ぶヨーロッパの現代社会) 01	2 年以上	2	
2	政経	独語実践演習 I 01	3 年以上	3	
3	政経	独語実践演習 I 02	3 年以上	3	
4	政経	独語実践演習 II 01	3 年以上	3	
5	政経	独語実践演習 III A 01	3 年以上	3	
6	政経	独語実践演習 III B 01	3 年以上	3	
7	法学	社会学 I B (井関)	1 年以上	2	
8	法学	外国法総論 (ドイツ法 II)	2 年以上	2	

★領域・分野 b 「文化領域」

修了必要単位 : 2 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	アカデミックリテラシー演習 (ドイツの文化) 01	2 年以上	2	
2	教育	ドイツ語圏の文学	2 年以上	2	
3	文	ドイツ文学概論 1	2 年以上	2	
4	文	ドイツ文学概論 2	2 年以上	2	
5	文	ドイツ言語文化論	2 年以上	2	
6	文	ドイツ文化特論	2 年以上	2	
7	文	ウィーン文化論	1 年以上	2	
8	文	ドイツ比較文化論	2 年以上	2	
9	文	ドイツ語圏の思想	2 年以上	2	
10	文	ドイツ語圏の文化	2 年以上	2	
11	基幹	ドイツ文化研究	2 年以上	2	

★領域・分野 c 「複合領域」

修了必要単位 : 2 単位以上

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	アカデミックリテラシー演習 (複言語で学ぶ社会文化) 01	2 年以上	2	
2	政経	アカデミックリテラシー演習 (ドイツ語で聞いて読むニュース) 01	2 年以上	2	
3	法学	総合講座「ドイツ語圏を知る」	1 年以上	2	
4	グローバル	ドイツ語テレビ会議 (言語・文化)	1 年以上	2	
5	グローバル	ドイツ語テレビ会議 (生活・社会)	1 年以上	2	
6	グローバル	ドイツ人の環境意識を探る	1 年以上	2	

★領域・分野 d 「言語」

修了必要単位 : 2 ~ 4 単位

※領域・分野 d は 4 単位までしか算入されません。

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	各学部	各学部提供ドイツ語科目			
2	留学	海外語学・文化研修プログラム (夏季) A 01	1 年以上	2	
3	留学	海外語学・文化研修プログラム (春季) A 01	1 年以上	2	
4	留学	海外語学・文化研修プログラム (春季) B 01	1 年以上	4	
5	留学	海外語学・文化研修プログラム (夏季) B 01	1 年以上	4	
6	留学	海外語学・文化研修プログラム (春季) C 01	1 年以上	1	
7	留学	海外語学・文化研修プログラム (夏季) C 01	1 年以上	1	
8	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 1-1 01	1 年以上	2	
9	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 1-1 02	1 年以上	2	
10	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 1-2 01	1 年以上	2	
11	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 1-2 02	1 年以上	2	
12	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 2-1	1 年以上	2	
13	グローバル	ドイツ語総合基礎 A 2-2	1 年以上	2	
14	グローバル	ドイツ語コミュニケーション (基礎)	1 年以上	1	
15	グローバル	ドイツ語コミュニケーション (応用)	1 年以上	1	
16	グローバル	ドイツ語文法 (入門)	1 年以上	1	
17	グローバル	ドイツ語文法 (初級)	1 年以上	1	
18	グローバル	ドイツ語コミュニケーション (上級)	1 年以上	1	
19	グローバル	ドイツ語コミュニケーション (続基礎)	1 年以上	1	

※領域・分野 d については、4 単位を超えて 2 副専攻の修了要件に算入することができません (領域分野 a・b・c の修得単位数を合算して 12 単位以上修得することが必要) ので、注意してください。

※授業に関する最新情報 (授業実施方法等) については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

設置概要

都市とは人間の高度な文明社会を支える器（うつわ）です。2030年、世界人口の2/3以上が都市に住むようになります。グローバル化とともに、社会・政治・経済が変化し、複雑化、ネットワーク化し、アジア・アフリカ地域が台頭し、巨大都市やインフォーマルシティと呼ばれる移動都市が出現しつつあり、一方で西欧や先進国では縮退都市化が進んでいます。都市に期待される役割、意味、かたち、しくみ、表象、課題、政策、計画等も刻々と変わっていきます。

都市・地域研究（Urban and Regional Studies）は、巨大な社会経済システムを理解し、制御するための固有の領域です。成熟社会化、持続可能な都市・地域づくりが大きな課題です。そのための政治・経済・法律・社会・文化の現状理解と政策デザインを学際的・臨床的に学ぶ体系であり、また都市計画、都市社会デザイン等の専攻を目指す学生の専門的・先端的カリキュラムです。

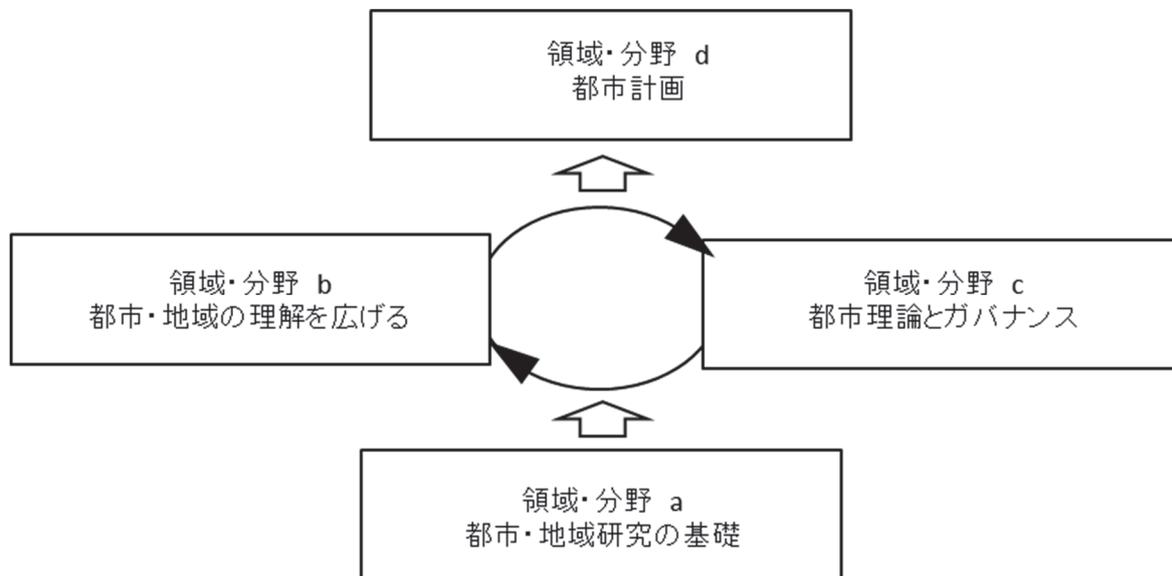
早稲田大学は日本・アジアにおいて都市・地域研究の分野を切り開いた大学であり、学際的な学問的基礎、グローバルな都市の理解の拡大、理論と官民連携など都市ガバナンスの深化、都市計画の応用・実践を体系的に学びます。

到達点（学習成果）

以下の4つの学習成果を目標の到達点とします。

- (1) グローバル社会において典型的な都市・地域の問題・論点を概ね理解できることとします（テーマや 이슈を見て、それぞれについて最低限理解できることを目指します）。
- (2) 世界の多様な都市・地域のあり方を理解し、深めることができることとします。
- (3) 都市・地域の現状と未来の課題を分析・理解し、都市のガバナンスを考察できることとします。
- (4) 都市・地域計画による総合的な課題解決能力の向上を図ります。

カリキュラムマップ



履修を希望する学生へのメッセージ

都市・地域研究は、確立された一つの専門的な学術分野で、海外では専門の学部や大学院も多く存在しますが、日本ではまだ多くありません。早稲田の都市・地域研究の科目や教員は、各学部、大学院などに目下散在していますが、その垣根を越えて総合的に連携する体制を構築しています。都市・地域研究は、伝統ある分野であると同時に、時代や社会の変化に応える視点が重要です。将来重要性を増す社会現象や学問的課題を見つけながら、既存の学問体系にとらわれずに新たな知的考察を加えていくマインドや学習態度が求められます。それだけにやりがいのある分野ですので、チャレンジしてください。

指定科目一覧

修了必要単位

16 単位（領域・分野 a：4 単位 領域・分野 b：4 単位 領域・分野 c：4 単位 領域・分野 d：4 単位）以上

★領域・分野 a 「都市・地域研究の基礎」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	教育	都市地理学	2 年以上	2	
2	社会学	社会デザインの思考と技法 1〔他者と関わりを持つということ〕	2 年以上	2	
3	社会学	社会デザインの思考と技法 2〔フィールドでの技術〕	2 年以上	2	
4	国際教養	Introduction to Urban Studies 01	1 年以上	2	
5	文構	芸術と社会学	1 年以上	2	
6	創造	現代都市・地域論 A	2 年以上	2	2020 年度以前 GEC 設置「都市・地域概論」と同一科目
7	創造	現代都市・地域論 B	2 年以上	2	2020 年度以前 GEC 設置「現代都市・地域論」と同一科目

★領域・分野 b 「都市・地域の理解を広げる」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	法学	地域研究（アフリカ）	3 年以上	2	
2	社会学	環境表現論 I	1 年以上	2	
3	社会学	観光学	2 年以上	2	
4	社会学	都市復興デザイン論	2 年以上	2	
5	社会学	イタリアの都市づくり	3 年以上	2	
6	人科	都市社会学	1 年以上	2	
7	国際教養	Urban Studies	3 年以上	2	

★領域・分野 c 「都市システムのデザイン」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	社会学	地理情報システム論 I	1 年以上	2	
2	社会学	地理情報システム論 II	1 年以上	2	
3	社会学	コミュニティデザイン	1 年以上	2	
4	社会学	地域計画システム論 I	2 年以上	2	
5	社会学	地域計画システム論 II	2 年以上	2	

★領域・分野 d 「都市計画」

修了必要単位：4 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	国際教養	Social Design & Design Thinking for Urban Change 01	2 年以上	2	
2	国際教養	Social Design & Design Thinking for Urban Change 51	2 年以上	2	
3	創造	都市計画	2 年以上	2	
4	創造	景観設計	3 年以上	2	
5	創造	景観工学	2 年以上	2	
6	創造	都市計画	3 年以上	2	
7	創造	交通まちづくり	3 年以上	2	

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

Conflict Resolution: From Asia's Perspective

＜日本語版＞

設置概要

現在そして未来における地球規模の課題解決を担う人材を育成すべく、早稲田大学にて提供されている豊富な科目群を体系的に結び付け、学生の問題解決実践力を養う学びを展開することが、当副専攻の主たる趣旨である。

早稲田大学ではこれまで社会科学部を中心に、理論と実践をつなぐ多くのユニークな科目群を有した平和学副専攻を開設してきた。また、『WASEDA-EDGE 人材育成プログラム～共創館イノベーション・エコシステムの構築～（以下、EDGE プログラム）』においては、科学技術シーズを社会ニーズに適合させたり未来の社会ニーズを発見し解決策を生み出すことのできる、文理融合のアントレプレナー人材を育成してきた。加えて、共に東アジアのリーディングスクールである北京大学と高麗大学校と協力し、『多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム（以下、キャンパス・アジア・プログラム）』を実施し、紛争解決と社会変革に情熱とスキルをもつ次世代アジアのリーダーの育成にも注力してきた。

当副専攻では、これまでの平和学の理念を踏まえ、EDGE プログラム及びキャンパス・アジア・プログラムで醸成されてきた知と実践経験をもとに、自ら主体的に問題解決に携わることのできるグローバルリーダー人材を育成することを目指す。グローバル化が進む世界においてアジアのプレゼンスが高まっていることを受け、当副専攻では課題先端社会である日本を含むアジア地域の諸課題と解決策を重点的に取り上げ、急速に変化するグローバル課題に対応しうる学術的・実践的な力を養う。また、課題発見に重点を置くことで、既存の学問体系にとらわれない学際的な学びを可能とする。こうしたカリキュラム設計により多様な学部から科目を選択することが可能となり、早稲田キャンパス、西早稲田キャンパス、戸山キャンパスをまたいだ交流が加速することで、大学横断的な学びのエコシステムが創造されることも期待される。基本的には日本語および英語での科目履修が望ましいが、英語もしくは日本語のみで修了することも可能である。

到達点（学習成果）

当副専攻を履修する学生は、紛争解決および社会変革について、理念・理論面での理解のみならず、自ら問題解決をする機動力・実践力をつけることを目指す。

当副専攻カリキュラムの学習行程「①基礎レベル：課題を見つける、②発展レベル：課題を深く理解する、③実践レベル：課題解決力をつける」を通じ、履修学生は自ら課題を発掘する力を養い、自身が関心を持つ課題について座学や演習、自由研究などによって理解を深め、実践的な科目を通じて課題解決力を身につける。各レベルにおいて異なる分野にまたがる科目を履修することで、分野横断的な問題に対し学際的な思考を養う。さらに、日本語に加え英語開講科目を数多く設置することで、英語（日本語）での学びを促進することで、「英語（日本語）」を“学ぶ”のではなく、「英語（日本語）”で”学ぶ”体験を重ね、日本語および英語による実践的コミュニケーション能力を習得する。

カリキュラムマップ

修了必要単位：18 単位 / The total number of required credits: 18 credits

 <p>領域・分野a. 課題を見つける/ Exploring Issues 基礎レベル/Basic Level 必要単位：6単位/ Required credits: 6 credits</p>	<ul style="list-style-type: none">現在そして将来の地球、人類が直面する課題を、紛争解決学、平和学、イノベーションなど多角的な視点から発見・検討する Exploring challenges in the world today and in the future various perspectives including peace and conflict studies and innovation. →日本語・英語の科目を最低1つずつ履修することが望ましい / It is desirable to take at least one Japanese AND English course.
 <p>領域・分野b. 課題を深く理解する/ Understanding Issues 発展レベル/Intermediate Level 必要単位：6単位/ Required credits: 6 credits</p>	<ul style="list-style-type: none">分野①/Area 1「政治・経済 / Politics and economy」 →最低1科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.分野②/Area 2「社会・文化・環境 / Society, culture and environment」 →最低1科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.
 <p>領域・分野c. 課題解決力をつける/ Equipping with problem-solving capacities 実践レベル/Advanced Level 必要単位：6単位/ Required credits: 6 credits</p>	<ul style="list-style-type: none">分野①/Area 1「平和構築・開発 / Peacebuilding & Development」 →最低1科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.分野②/Area 2「イノベーション / Innovation」 →最低1科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.

履修を希望する学生へのメッセージ

当副専攻では学習到達度に応じて、基礎・発展・実践レベルの3つのレベルで科目を用意している。履修の際には、学際的に展開している基礎レベル科目を履修し、更に発展、実践レベルにおいてそれぞれ異なる分野の科目を履修することで、より深く高度な学際的な学びが可能となる。

「課題を見つける」：基礎レベル。日本語・英語での提供科目をそれぞれ1科目以上履修することが望ましい。複数言語で思考とコミュニケーションを重ねることで複眼的視野を獲得し、多様な社会において自らを表現し他者を理解する力を養う機会となるためだ。

「課題を深く理解する」：発展レベル。「政治・経済」カテゴリーでは、この副専攻の重要な視座であるアジアに主軸を置きながら、安全保障や国際法を含む多岐にわたる学びを深める。「社会・文化・環境」のカテゴリーでは、アジアおよび世界で重要性が加速的に増している喫緊の問題について、ジェンダー、環境など多角的な視座から学ぶ。既存の学問領域を超えた現実の事象に対する学びを進めるため、履修学生は、2つのサブ・カテゴリー双方から、最低1科目以上を履修することが望ましい。既に関心を持つ分野一方を集中的に履修することも可能だが、より幅広い課題への視座を獲得するために、多岐にわたる科目の履修が望ましい。

「課題解決力をつける」：実践レベル。「平和構築・開発」カテゴリーでは（副専攻テーマ「Conflict Resolution」との関連に触れながら、これまで長きにわたって蓄積された平和構築と開発の分野で蓄積された学び及び実践知を習得する。加えて、地球規模の課題やグローバル化した地域社会における多様な課題の解決には、イノベティブな発想法、実践法を身に付けておくことが不可欠だ。よって、「イノベーション」カテゴリーでは、イノベーションに必要なデザイン思考、起業的発想を実践的に学ぶ。当レベルにおいても、2つのサブ・カテゴリー双方から、最低1科目以上履修することが望ましい。なお、「イノベーション」で提供される科目は集中授業形式が多いため、履修登録の際は十分に注意すること。

Conflict Resolution: From Asia's Perspective

<English>

Overview

This minor provides students with an opportunity to develop their capacities to solve a wide range of problems the world is facing today and in the future. Waseda University has offered a number of programs bridging theory and practice in the field of peace studies, innovation and conflict resolution. The minor "Peace Studies", EDGE Program and CAMPUS Asia ENGAGE Program are among the examples. Being based on these programs, the minor aims to develop global leaders who can take their own initiatives and engage in solving problems that Earth is facing today and in the future. The minor focuses on Asia, the area showcasing some unprecedented challenges as well as potential solutions to these challenges.

This minor is highly interdisciplinary and expose students to a wide range of subjects. Students are required to learn proactively so that they can develop their capacities to explore, identify and find innovative solutions. The minor strongly encourages students to take courses in both English and Japanese, although it is possible to complete the minor by taking courses only in either of the languages.

Learning Outcomes

By completing the minor, students are expected to have not only deepened their understanding of conflict resolution and social innovation theoretically but also developed practical problem-solving capacities. At each level in the learning process, i.e., Basic Level, Intermediate Level and Advanced Level, students choose subjects from various disciplines so that they obtain an interdisciplinary approach to understanding complex, intertwined and cross-cutting challenges. The minor offers courses in English and Japanese.

In this minor, students are encouraged to take courses in Japanese (English) so that they have an opportunity to learn in Japanese (English) and enhance their Japanese (English) communication skills.

Curriculum

修了必要単位: 18 単位 / The total number of required credits: 18 credits

 <p>領域・分野a. 課題を見つける/ Exploring Issues 基礎レベル/Basic Level 必要単位: 6単位/ Required credits: 6 credits</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 現在そして将来の地球、人類が直面する課題を、紛争解決学、平和学、イノベーションなど多角的な視点から発見・検討する Exploring challenges in the world today and in the future various perspectives including peace and conflict studies and innovation. →日本語・英語の科目を最低1 つずつ履修することが望ましい / It is desirable to take at least one Japanese AND English course.
 <p>領域・分野b. 課題を深く理解する/ Understanding Issues 発展レベル/Intermediate Level 必要単位: 6単位/ Required credits: 6 credits</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 分野①/Area 1 「政治・経済 / Politics and economy」 →最低1 科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.・ 分野②/Area 2 「社会・文化・環境 / Society, culture and environment」 →最低1 科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.
 <p>領域・分野c. 課題解決力をつける/ Equipping with problem-solving capacities 実践レベル/Advanced Level 必要単位: 6単位/ Required credits: 6 credits</p>	<ul style="list-style-type: none">・ 分野①/Area 1 「平和構築・開発 / Peacebuilding & Development」 →最低1 科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.・ 分野②/Area 2 「イノベーション / Innovation」 →最低1 科目以上を履修することが望ましい / It is desirable to take at least one course.

Message from Coordinators

The minor consists of three levels: Basic Level, Intermediate Level and Advanced Level.

At Basic Level, students are encouraged to take at least one Japanese course and one English course, so that students can develop a multi-layered approach to understanding complex issues.

At Intermediate Level, it is encouraged that students take at least once course from each of the subject areas: Area 1) Politics and economy and Area 2) Society, culture and environment. Area 1 offers courses including international security and international law, with a special focus on Asia. Area 2 include courses on acute issues in Asia, in particular, gender and environment.

Advanced Level offers courses that enable students to equip with practical knowledge and skills for solving problems. Students are encouraged to take at least once course from each of the areas: Area 1) Peacebuilding and development and Area 2) Innovation. Many courses under Area 2 (Innovation) are intensive programs.

指定科目一覧

修了必要単位

18 単位（領域・分野 a：6 単位、領域・分野 b：6 単位、領域・分野 c：6 単位）以上

★領域・分野 a 「課題を見つける／Exploring Issues」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	アカデミックリテラシー演習（キャンパス・アジアへの誘い：歴史・和解・変革） 01	2 年以上	2	
2	政経	History of Political Thought 01	2 年以上	4	
3	社学	ディーセント・ワーク 1	1 年以上	2	
4	社学	ディーセント・ワーク 2	2 年以上	2	
5	社学	War and Japan	1 年以上	2	
6	社学	Contemporary Social Affairs 1	1 年以上	2	
7	社学	Contemporary Social Affairs 2	1 年以上	2	
8	社学	Foreign Affairs	1 年以上	2	
9	社学	Development Studies	1 年以上	2	
10	国際教養	Introduction to Peace and Conflict Studies 01	1 年以上	2	
11	国際教養	Introduction to Peace and Conflict Studies 51	1 年以上	2	
12	国際教養	Introduction to International Relations 01	1 年以上	2	
13	国際教養	Introduction to International Relations 03	1 年以上	2	
14	国際教養	Introduction to International Relations 51	1 年以上	2	国際教養学部生のみ履修可
15	国際教養	Introduction to International Relations 52	1 年以上	2	国際教養学部生のみ履修可
16	グローバル	イノベーション概論 1：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1 年以上	1	
17	グローバル	イノベーション概論 2：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1 年以上	1	

★領域・分野 b 「課題を深く理解する／Understanding Issues」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	政経	日本政治史 01	2 年以上	4	Area 1
2	政経	国際機構論 01	2 年以上	2	Area 1
3	政経	比較民主化論 01	3 年以上	2	Area 1
4	政経	Japanese Political History 01	2 年以上	2	Area 1
5	政経	Comparative Democratization 01	3 年以上	2	Area 1
6	政経	Japanese Political Thought A 01	2 年以上	2	Area 2
7	政経	Japanese Political Thought B 01	2 年以上	2	Area 2
8	政経	International Organization 01	2 年以上	2	Area 1
9	法学	国際関係法 I A	2 年以上	2	Area 1
10	法学	International Law	3 年以上	2	Area 1
11	教育	ジェンダー・スタディーズ I（身近なことを視座にして）	1 年以上	2	Area 2
12	社学	国際政治理論	2 年以上	2	Area 1
13	社学	Trans-Pacific Perspectives on Race, Ethnicity, and Migration	1 年以上	2	Area 2
14	社学	Contemporary Japanese Foreign Policy	1 年以上	2	Area 1
15	社学	Critical Development Studies	1 年以上	2	Area 1
16	国際教養	Gender Studies 01	2 年以上	4	Area 2
17	国際教養	Gender Studies 02	2 年以上	4	Area 2
18	国際教養	The Pacific in the 21st Century World 51	2 年以上	4	Area 2
19	国際教養	Pacific Perspectives on Empire, War, and Globalization 01	2 年以上	4	Area 2
20	国際教養	Pacific Perspectives on Empire, War, and Globalization 51	2 年以上	4	Area 2
21	国際教養	Introduction to Peace and Human Rights	1 年以上	2	Area 1
22	文構	国際協力・人間の安全保障論	1 年以上	2	Area 1
23	グローバル	環境問題と持続可能な社会	1 年以上	2	Area 2
24	グローバル	海外・在日コリアンを考える	1 年以上	2	Area 2
25	グローバル	国際政治学と平和 1	1 年以上	1	Area 1
26	グローバル	国際政治学と平和 2	1 年以上	1	Area 1

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

★領域・分野 c 「課題解決力をつける／Equipping with Problem-solving Capacities」

修了必要単位：6 単位

No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
1	社会学	紛争解決論実習 1	2 年以上	2	Area 1
2	社会学	Trans-Pacific Perspectives on Work, Culture, and Society	1 年以上	2	Area 2
3	社会学	Japan and Peacebuilding : Asian Policies	1 年以上	2	Area 1
4	社会学	Professionals Innovating Work 1 : Exploring New Work and Life Styles in the Changing World	2 年以上	2	Area 2
5	社会学	Professionals Innovating Work 2 : Getting to Know the World of Work	2 年以上	2	Area 2
6	社会学	Synthesis of Conflict Resolution and Social Innovation	1 年以上	2	Area 1
7	社会学	Social Innovation in Global Asia	1 年以上	2	Area 2
8	国際教養	Culture and Law 51	2 年以上	2	Area 2
9	国際教養	Human Security 51	2 年以上	2	Area 1
10	国際教養	Minorities and the Law in the United States 01	2 年以上	2	Area 2
11	国際教養	Conflict Resolution 01	3 年以上	4	Area 1
12	国際教養	Conflict Resolution 51	3 年以上	4	Area 1
13	国際教養	Peacebuilding and Humanitarian Assistance 01	3 年以上	4	Area 1
14	国際教養	War and Peace	2 年以上	4	Area 1
15	グローバル	国際協力の実践と理論 1	1 年以上	1	Area 1
16	グローバル	国際協力の実践と理論 2	1 年以上	1	Area 1
17	グローバル	インターンシップ入門	1 年以上	1	
18	グローバル	起業特論 A : トップリーダーマネジメント	1 年以上	1	Area 2
19	グローバル	Advanced Course on Entrepreneurship	1 年以上	1	Area 2
20	グローバル	CSR マネジメント実践	1 年以上	1	Area 2
21	グローバル	Examining Corporate Social Responsibility from a Global Perspective	1 年以上	1	Area 2
22	グローバル	デザインシンキング	1 年以上	1	Area 2
23	グローバル	Design Thinking	1 年以上	1	Area 2
24	グローバル	イノベーション人材になるためのコーチング研修 (ベーシック)	1 年以上	1	Area 2

※授業に関する最新情報（授業実施方法等）については、web シラバスや、科目設置箇所および担当教員からのお知らせ等をご確認ください。

第3章 実践型教育プログラムを知る

I. 実践型教育プログラムについて



実践型教育プログラムのうち「ビジネス・クリエーション」コースは、2026年度以降廃止となり、2026年度以降の入学者は当該コースの修了申請は行えません。なお2025年度までの入学者については、経過措置として当該コースの申請は2027年度末まで受付をいたします。また、2026年度より新設された「アントレプレナーシップ」副専攻を並行して修了申請することができます。

1. 実践型教育プログラムとは

学問分野にとらわれず、早稲田大学でしかできない経験や体験を中心とした「特色ある教育プログラム」です。普段ではあまり体験することができない経験を通じ、学んできた知識を実践の視点から捉え直すことで、新たな知識および自ら学ぶ意欲を生み出すことを目的としています。

実践型教育プログラムはコースに分かれており、コース毎の修了要件を満たした修了者は、修了証明書が発行可能となります。

2. 実践型教育プログラムの修了について

実践型教育プログラムを修了するには、以下の2点を満たす必要があります。

①各コースに定められている修了要件（第4章以降を参照）を満たす。

②修了申請を行う。

※修了申請は、各コースの定める修了要件を全て満たした後に、以下の方法で行ってください。

※修了申請を行った方を対象に、春学期末と秋学期末の年2回、修了判定が行われます。修了を希望する方は、下記の修了判定日の前日までに、申請を行ってください。

■実践型教育プログラム 修了申請 方法

1. GEC Web ページへアクセスする。
2. 「学部学生の方へ」をクリックしてください。
3. 「実践型教育プログラム」をクリックしてください。
4. 下にスクロールし、スケジュールの表中にある【実践型教育プログラム】「修了申請」申請フォームをクリックしてください。
5. 申請フォームが開きますので、画面真ん中の【申請】ボタンをクリックしてください。
6. 修了を希望するコースを選択し、画面右下の【保存】ボタンをクリックして完了となります。

■実践型教育プログラム 修了判定日

春学期末	2026年9月15日(火)
秋学期末	2027年3月16日(火)

「修了証明書」は、修了判定の結果、修了となれば、自動証明書発行機で発行が可能となります。詳細は、修了判定結果通知（Waseda メールアドレス宛てに送付）に記載されますので、ご確認ください。



修了判定結果の通知は、Waseda メールアドレス宛てに送付されます。

II. Q&A

Q. 過去に履修した科目単位は認められますか？

A. 2014年以降に修得した単位であれば有効となります。

Q. 複数のコースを、修了することはできますか？

A. 複数のコースを修了することが可能です。

Q. プログラム構成科目を、「非算入」で登録することはできますか？

A. 卒業単位への「算入」・「非算入」は、関係ありません。単位が修得できていれば修了要件として認められます。

Q. 他のコースや副専攻で指定されている科目の単位を修得しました。この場合単位の扱いはどうなりますか？

A. 各コースおよび副専攻の修了要件として認められます。

Q. 修了申請を行ったにも関わらず、修了要件を満たせなかった場合どうなりますか？また、引き続き修了を希望する場合は、もう一度修了申請を行う必要はありますか？

A. 修了判定の結果で、「不可」となりますが、その他の影響（学部の卒業等）はありません。また、一度修了申請を行っていただければ、次回以降（卒業時まで）の修了判定の対象となりますので、再度修了申請を行う必要はありません。

Q. 昨年度以前に単位を修得した科目が廃止となっていました。この場合の単位の取り扱いはどのようになるのでしょうか。

A. 単位を修得した年度に指定されていた区分の単位として修了要件に含まれます。

第4章 実践型教育プログラム 各コース 紹介

No.	コース名称	コースコーディネーター（※代表者）	所属
1	ビジネス・クリエーション	朝日 透 ※ 大野 高裕 井上 達彦 島岡 未来子 大森 峻一 芳賀 和恵 野中 朋美	理工学術院 理工学術院 商学学術院 リサーチイノベーションセンター 理工学術院 理工学術院 理工学術院

【2026年度以降廃止】 ビジネス・クリエーション Business Creation

プログラムの趣旨・概要

本学では、Waseda Vision 150において、あらゆる分野で活躍するグローバルリーダーの育成を目指し、教育体系の柔軟化と全学的な組織化を図っている。この一環として、EDGE、EDGE-NEXT、GTIEのプログラム（※）の成果を活用し、全学へのイノベーション教育の提供によるグローバルビジネスリーダーの育成を目指す。

新しい事業を立ち上げる知識や実践型教育の経験は、起業のみならず、就職後に企業の中で、新規事業を立上げる際に有用となる。

また、新規事業化の知識は、就職を考えている学生だけでなく、研究者を志向する学生にとっても自らの研究成果が社会にどのような価値を提供できるのかを具体的に考えることで適切な研究の方向付けができるようになると期待される。

アイデアで消費者の課題を解決するサービスをカタチにするプロセスは、人類に対するソーシャルイノベーションにもつながることから、学部生・大学院生を問わず、イノベーションを起こすことのできる人材を育成することを目的として、ビジネスクリエーションコースを設置する。

※文部科学省「グローバルアントレプレナー育成促進事業（EDGEプログラム）（平成26年度～平成28年度）」

文部科学省「次世代アントレプレナー育成事業（EDGE-NEXT）（平成29年度～令和3年度）」

科学技術振興機構 START「大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援プロジェクト（令和3年度～令和7年度）」

修了要件

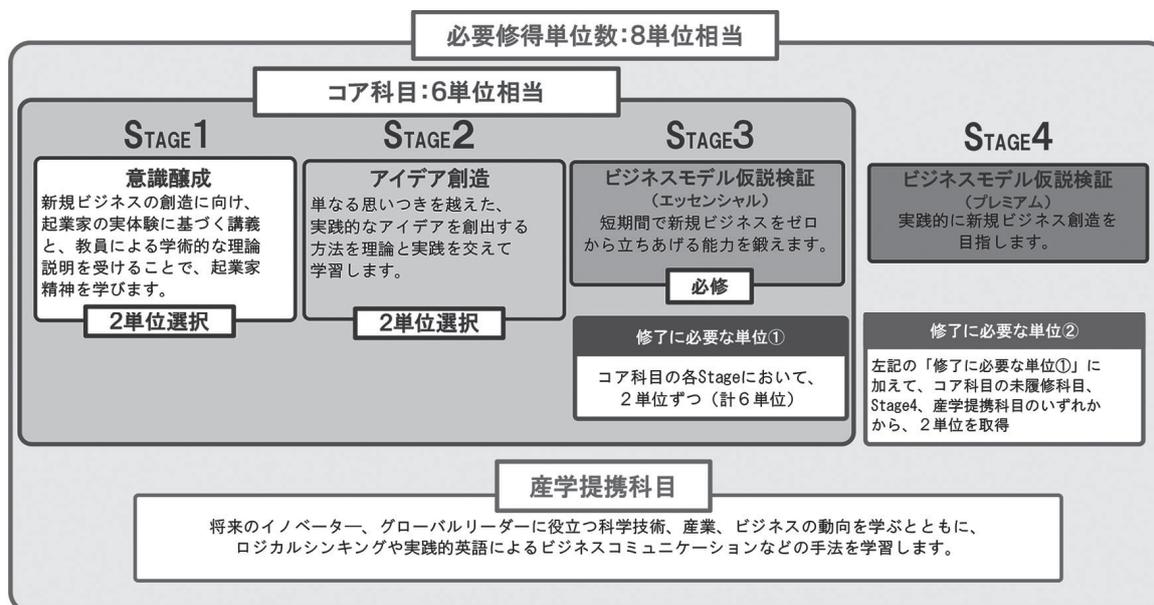
在学中に次ページの「プログラム構成科目」の履修、もしくは「プログラム構成科目」に参加することにより、以下の要件を満たすこと。

1	科目群：「Stage 1.意識醸成」から2単位を修得
2	科目群：「Stage 2.アイデア創造」から2単位を修得
3	科目群：「Stage 3.ビジネスモデル仮説検証」から2単位を修得
4	上記以外に「プログラム構成科目」から2単位の修得 (過年度に『共創館イノベーションプログラム』に参加し、2単位相当以上の活動を行った場合も該当)

※ Web 科目登録において、GEC 設置の「プログラム構成科目」を検索する場合は、以下の方法で検索してください。

1. 学部の選択 : [グローバル] ※学部選択後「確定」ボタンをクリックしてください
2. 科目群 : [イノベーター/アントレプレナー養成科目] を選択してください
3. 科目名 : [希望する科目名を入力] を入力してください

プログラムの構成



◆プログラム構成科目

科目群	No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
Stage1. 意識醸成	1	商学	株式会社日本M&Aセンターホールディングス寄附講座 起業家養成講座Ⅰ	1年以上	2	
	2		起業家養成講座Ⅱ	1年以上	2	
	3		学校法人大原学園寄附講座 ビジネス・プロフェッション	1年以上	2	
	4	GEC	起業特論A：トップリーダーマネジメント（学部生用）	1年以上	1	
	5		起業特論B：企業内新規事業開発（学部生用）	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「起業特論B：いかに企業内／企業と共に新規事業を立ち上げられる人材になるか」
	6		データビジネスクリエーションα（学部生用）	1年以上	1	2018年度以前科目名称：「起業特論C：トップリーダーマネジメント（学部生用）」
	7		Advanced Course on Entrepreneurship D（学部生用）	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「Advanced Course on Entrepreneurship」
	8		イノベーション人材になるためのコーチング研修（ベーシック）（学部生用）	1年以上	1	
	9	先進理工学部	大川ドリーム基金寄附講座 グローバル・ベンチャー企業の創出と経営ー起業家の価値創造戦略ー	1年以上	2	2024年度より先進理工学部生命医科学科設置の学部科目を全学オープン科目。
	廃止	GEC	ビジネス・プロフェッション（行政）α（学部生用）	-	1	過年度に単位修得済みであれば、修了要件として算入可。
			ビジネス・プロフェッション（行政）β（学部生用）	-	1	
			ビジネス・プロフェッション（企業）α（学部生用）	-	1	
			ビジネス・プロフェッション（企業）β（学部生用）	-	1	
ビジネス・プロフェッション（企業）γ（学部生用）			-	1		
ビジネス・プロフェッション（企業）δ（学部生用）			-	1		
Stage2. アイデア創造	10	商学	起業の技術（12 Essentials）	2年以上	2	2025年以降廃止
	11		ビジネスアイデア・デザイン（BID）	2年以上	2	
	12	GEC	イノベーション創出思考法1（学部生用）	1年以上	1	
	13		イノベーション創出思考法2（学部生用）	1年以上	1	
	14		ビジネスアイデア創出法（学部生用）	1年以上	1	
	15		データビジネスクリエーションβ（学部生用）	1年以上	2	2026年度以降科目名称：「実践データ分析ビジネスコンサルティング」
	16		デザインシンキング1（学部生用）	1年以上	1	
17	デザインシンキング2（学部生用）	1年以上	1			
廃止	GEC	イノベーション・プラクティス（学部生用）	-	1	過年度に単位修得済みであれば、修了要件として算入可。	
Stage3. ビジネスモデル 仮説検証	18	商学	ビジネスモデル・デザイン	3年以上	2	Stage2からの移動（2022年度～）
	19		実践・起業インターン（REAL）Ⅰ	2年以上	2	2024年度から廃止。Stage1からの移動（2021年度～）
Stage4. ビジネスモデル 仮説検証（プレミアム）	20	GEC	ビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル）（学部生用）	1年以上	2	
	21	商学	実践・起業インターン（REAL）Ⅱ	3年以上	2	2025年以降廃止
産学連携講座	22	GEC	ビジネスモデル仮説検証（プレミアム）（学部生用）	1年以上	4	
	23	GEC	イノベーション概論α：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ（学部生用）	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「イノベーション概論 1：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ」
	24		イノベーション概論β：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ（学部生用）	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「イノベーション概論 2：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ」
	25		イノベーションとテクノロジー基礎α：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ（学部生用）	1年以上	1	
	26		Innovation and Technology Fundamentals β（for undergraduates）	1年以上	1	2021年度以前科目名称：「イノベーションとテクノロジー基礎β：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ（学部生用）」
	27		イノベーションとテクノロジー実践α：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践（学部生用）	1年以上	1	
	28		Innovation and Technology Practice β（for undergraduates）	1年以上	1	2021年度以前科目名称：「イノベーションとテクノロジー実践β：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践（学部生用）」
	29		CSR マネジメント実践（学部生用）	1年以上	2	
	30		AI ビジネスクリエーションα（学部生用）	1年以上	1	2025年度休講 2026年度以降科目名称：「AI ビジネスクリエーション」
	31		AI Business Creation β（for undergraduates）	1年以上	1	2025年度休講。2021年度以前科目名称：「AI ビジネスクリエーションβ（学部生用）」 2026年度以降科目名称：「AI Business Creation」
	32		人工知能とビジネスモデル創出α（学部生用）	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「人工知能とビジネスモデル創出」
	33		Business Model Creation with AI Technologies β（for undergraduates）	1年以上	1	2021年度以前科目名称：「人工知能とビジネスモデル創出 β」 2026年度以降科目名称：「Business Model Creation with AI Technologies」

※大学院生の方で本コースの修了を目指す場合には、以下の科目の単位を修得してください（学部生と大学院生ではプログラム構成科目が一部異なります）

◆プログラム構成科目（大学院生用）

科目群	No.	設置箇所	科目名	配当年次	単位	備考
Stage1. 意識醸成	1	GEC	起業特論A：トップリーダーマネジメント	1年以上	1	
	2		起業特論B：企業内新規事業開発	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「起業特論B：いかに企業内/企業と共に新規事業を立ち上げられる人材になるか」
	3		データビジネススクリエーションα	1年以上	1	2018年度以前科目名称：「企業特論C：トップリーダーマネジメント」
	4		Advanced Course on Entrepreneurship D	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「Advanced Course on Entrepreneurship」
	5		イノベーション人材になるためのコーチング研修（ベーシック）	1年以上	1	
	6	経営管理研究科	大川ドリーム基金寄附講座 グローバル・ベンチャー企業の創出と経営－起業家の価値創造戦略－	1年以上	2	基幹・創造・先進理工学研究科生は所属研究科の科目を履修し、上記以外の学生は経営管理研究科の科目を履修する事。
	廃止	GEC	ビジネス・プロフェッション（行政）α	-	1	過年度に単位修得済みであれば、修了要件として算入可。
			ビジネス・プロフェッション（行政）β	-	1	
			ビジネス・プロフェッション（企業）α	-	1	
			ビジネス・プロフェッション（企業）β	-	1	
			ビジネス・プロフェッション（企業）γ	-	1	
7	GEC	起業の技術（12 Essentials）	1年以上	2	2025年度以降廃止	
8		ビジネスアイデア・デザイン（BID）	1年以上	2		
9		イノベーション創出思考法1	1年以上	1		
10		イノベーション創出思考法2	1年以上	1		
11		ビジネスアイデア創出法	1年以上	1		
12		データビジネススクリエーションβ	1年以上	2	2026年度以降科目名称：「実践データ分析ビジネスコンサルティング」	
13		デザインシンキング1	1年以上	1		
14		デザインシンキング2	1年以上	1		
15	GEC	イノベーション・プラクティス	-	1	過年度に単位修得済みであれば、修了要件として算入可。	
Stage3. ビジネスモデル 仮説検証	16	GEC	ビジネスモデル・デザイン	1年以上	2	Stage2からの移動（2022年度～）
	17		実践・起業インターン（REAL）I ビジネスモデル仮説検証（エッセンシャル）	1年以上	2	2024年度から廃止。Stage1からの移動（2021年度～）
Stage4. ビジネスモデル仮説検証（フレーム）	18	GEC	実践・起業インターン（REAL）II ビジネスモデル仮説検証（フレーム）	1年以上	2	2025年度以降廃止。
	19		1年以上	4		
産学連携講座	20	GEC	博士実践特論A：イノベーションリーダーシップ	1年以上	2	
	21		博士実践特論B：産業イノベーションとキャリアデザイン	1年以上	1	
	22		博士実践特論S：ロジカルコミュニケーション	1年以上	2	
	23		グローバルビジネスコミュニケーション基礎	1年以上	1	
	24		グローバルビジネスコミュニケーション上級	1年以上	1	2025年度より廃止
	25		CSR マネジメント実践	1年以上	2	
	26		イノベーション概論α：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「イノベーション概論 1：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ」
	27		イノベーション概論β：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「イノベーション概論 2：次世代イノベーターのためのエッセンシャルズ」
	28		イノベーションとテクノロジー基礎α：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ	1年以上	1	
	29		Innovation and Technology Fundamentals β	1年以上	1	2021年度以前科目名称：「イノベーションとテクノロジー基礎 β：人工知能・先端ロボットテクノロジーの基礎とスタートアップを学ぶ」
	30		イノベーションとテクノロジー実践α：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践	1年以上	1	
	31		Innovation and Technology Practice β	1年以上	1	2021年度以前科目名称：イノベーションとテクノロジー実践 β：人工知能・先端ロボットテクノロジー実践
	32		AI ビジネススクリエーションα	1年以上	1	2025年度休講 2026年度以降科目名称：「AI ビジネススクリエーション」
	33		AI Business Creation β	1年以上	1	2025年度休講。2021年度以前科目名称：「AI ビジネススクリエーションβ（学部生用）」 2026年度以降科目名称：「AI Business Creation」
	34		人工知能とビジネスモデル創出α	1年以上	1	2026年度以降科目名称：「人工知能とビジネスモデル創出」
	35		Business Model Creation with AI Technologies β	1年以上	1	2021年度以前科目名称：「人工知能とビジネスモデル創出 β」 2026年度以降科目名称：「Business Model Creation with AI Technologies」

第5章 データ科学認定制度

I. 全学データ科学教育プログラムについて

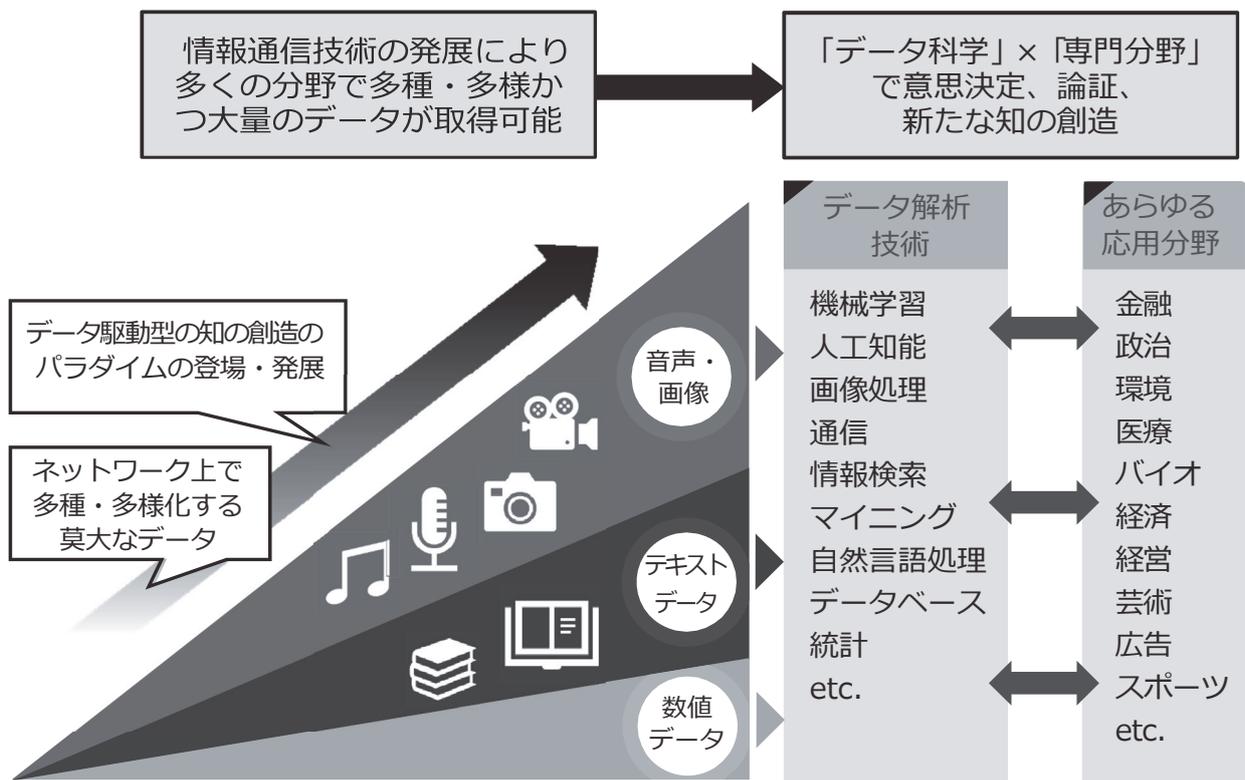
早稲田大学では、全ての学部・研究科の学生が、データサイエンスを基礎から発展まで学ぶことができます。

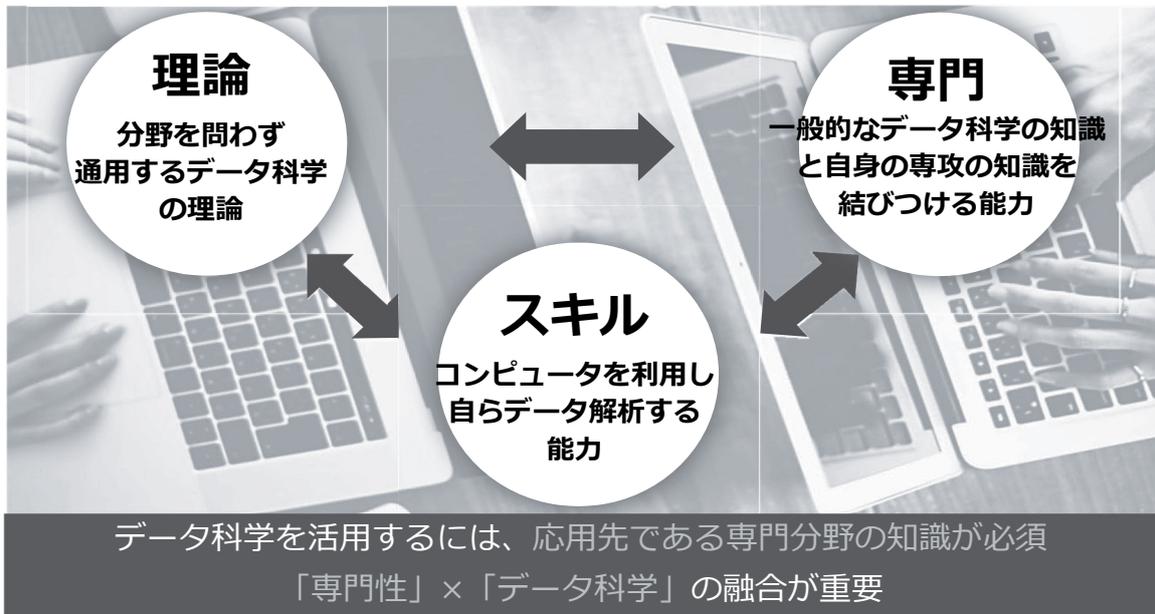
本学では「専門性」×「データサイエンス」の融合による本学のデータサイエンス分野における研究・教育の推進・支援を行っており、全学部・大学院生向けに「全学データ科学教育プログラム」を提供しています。本学の学生であれば、学部・研究科、学年に関係なく、誰でもデータサイエンスを基礎から学ぶことができます。全学部・大学院で年間延べ約15,000名が統計・データ科学の全学オープン科目を履修しています。

データ科学（データサイエンス）とは？

昨今、インターネットやIoTなど情報通信技術の進歩によりテキストデータや音声、動画データに代表される多種多様で大量のデータが得られるようになってきました。これらのデータを活用する「データ科学」は様々な学術領域および社会において強く求められています。「データ科学」とはデータから合理的で明確な意思決定や論証を導くための学問です。データから目的とする意思決定を得るためには、データ及び意思決定の背景となる専門分野の知見が大変重要です。このことから分かるように「データ科学」は自身の「専門分野」と融合することでその力を発揮します。

本学では皆さんが「自身の専門分野でデータ科学を活かす」ことを目的として「全学データ科学教育プログラム」を提供しています。是非「データ科学」を学んでみてください。



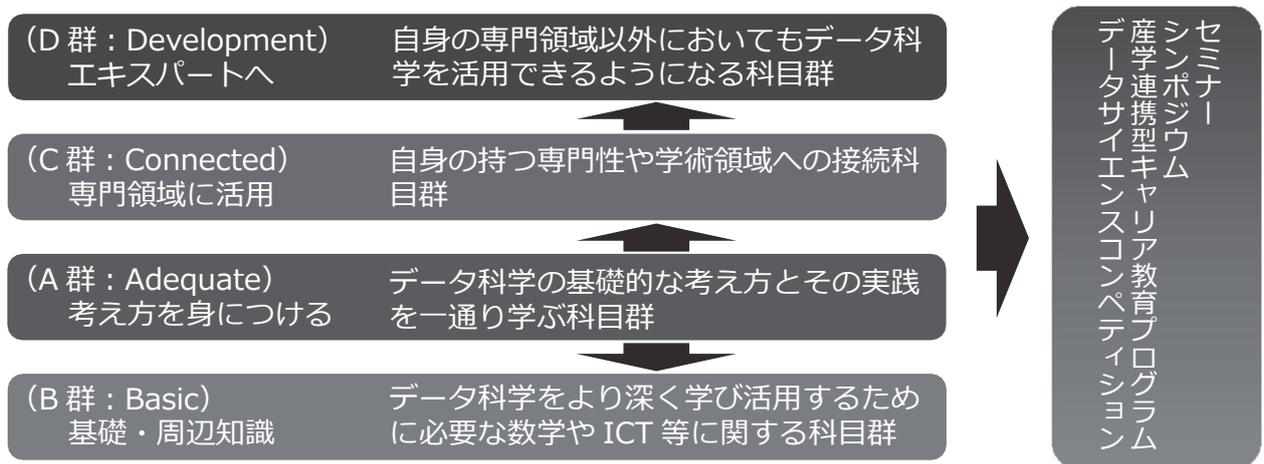


各学部・研究科で学ぶ**専門領域**にて**データ科学を活用**することを目的に
全学データ科学教育プログラムを用意

全学データ科学教育プログラムとは？

本学では全ての学生の皆さんが「データ科学」を学べるように**全学データ科学教育プログラム**を用意しています。このプログラムは**フルオンデマンド科目**（一部科目を除く）として提供され、**場所や時間を選ばずに学ぶ**ことができます。本プログラムは分野を問わず必要となるデータ科学の「**理論**」を学ぶだけでなく、実際のデータを取り扱うための「**スキル**」も同時に学びます。さらに、自身の「**専門**」分野の知識を結びつける考え方を学びます。そのために基礎から発展まで段階的にデータ科学を学習するための体系的なプログラムとしてA・B・C・D群の4つの科目群を用意します。

基礎から発展まで段階的にデータ科学を学修



またデータ科学は実際のデータを活用する経験が大変重要です。そのため本プログラムでは提携企業における産学連携型キャリア教育プログラム（インターンシップ、キャリア教育等）やデータサイエンスコンペティション等、実際のデータを用いて「データ科学を実践する」機会を提供しています。全学データ科学教育プログラムについては、データ科学センターWeb ページ「WASEDA のデータサイエンス」をご参照ください。

【WASEDA のデータサイエンス】

<https://www.waseda.jp/inst/cds/education/wasedads>



II. データ科学認定制度について

1. データ科学認定制度とは

データ科学認定制度の魅力や概要をわかりやすく解説！
デジタルパンフレットはQRコードからご覧ください



制度概要

本学では、データ科学の学びに対する明確な目標を提示するために、データ科学認定制度を設置しています。

この認定制度は、データ科学を基礎から発展まで段階的に学習するために4つの科目群を用意し、履修者のデータ科学に関する能力を保证するために4つの級（「リテラシー級」「初級」「中級」「上級」）を設置しています。級毎に到達目標を明示することで、各学生の興味関心に合わせたデータ科学を学ぶ機会を提供します。

各級の定める要件を満たした学生に対しては、認定証明書を発行します。履修者は学修した成果（認定）を自身の専門研究領域や就職後のキャリア等で活用することができます。

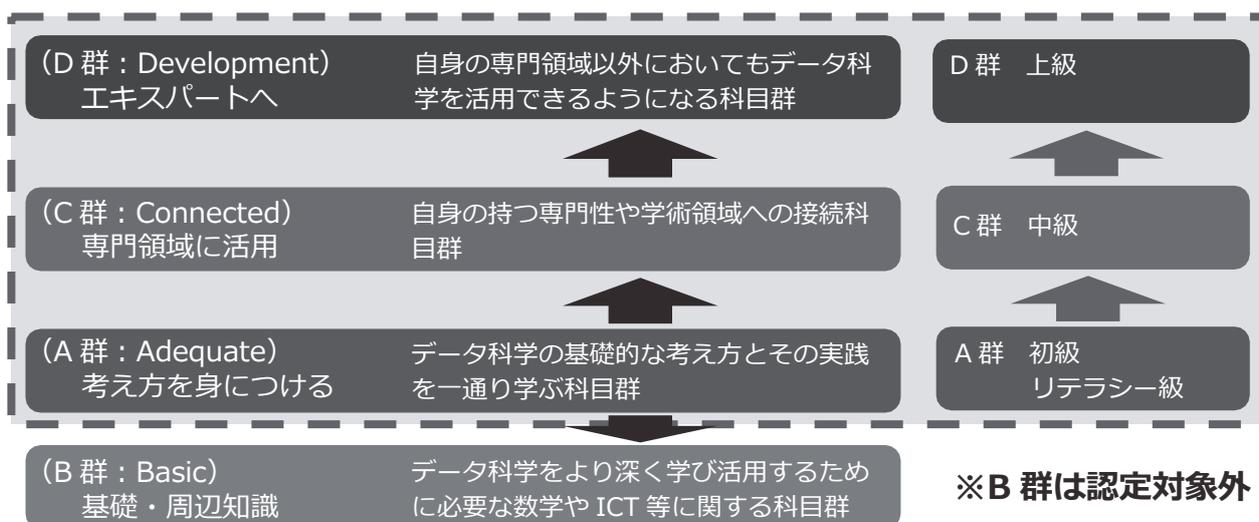
4つの科目群

データ科学を基礎から発展まで学修するための4つの科目群は以下のとおりです。

- A 群：データ科学の基礎的な考え方とその実践を一通り学ぶ科目群
- B 群：データ科学をより深く学び活用するために必要な数学や ICT 等に関する科目群
- C 群：自身の持つ専門性や学術領域への接続科目群
- D 群：自身の専門領域以外においてもデータ科学を活用できるようになる科目群

まず初めに学ぶステップとして A 群があります。A 群は統計学や機械学習などを含むデータ科学の基本的な考え方を統一的に学び、また基本スキルを身につける科目群です。B 群はより深くデータ科学を専門的に学びたい人やデータ科学の周辺知識を学びたい人を対象として、数学や最適化、ICTなどを学ぶ科目群です。C 群は、A 群を学んだ人が、自身の専門領域のデータや問題に対してデータ科学を活用する方法を学ぶ科目群です。データ科学は種々のデータを取り扱い、また活用する目的も様々です。自身の専門性に合わせて学びたい科目を選択すると良いでしょう。D 群は、C 群の科目をいくつか学んだ人が、データ科学をある程度俯瞰する視点を身につけ、自身の専門分野以外のデータに対してもデータ科学を活用する方法を学ぶ科目群です。

科目群と各級の対応

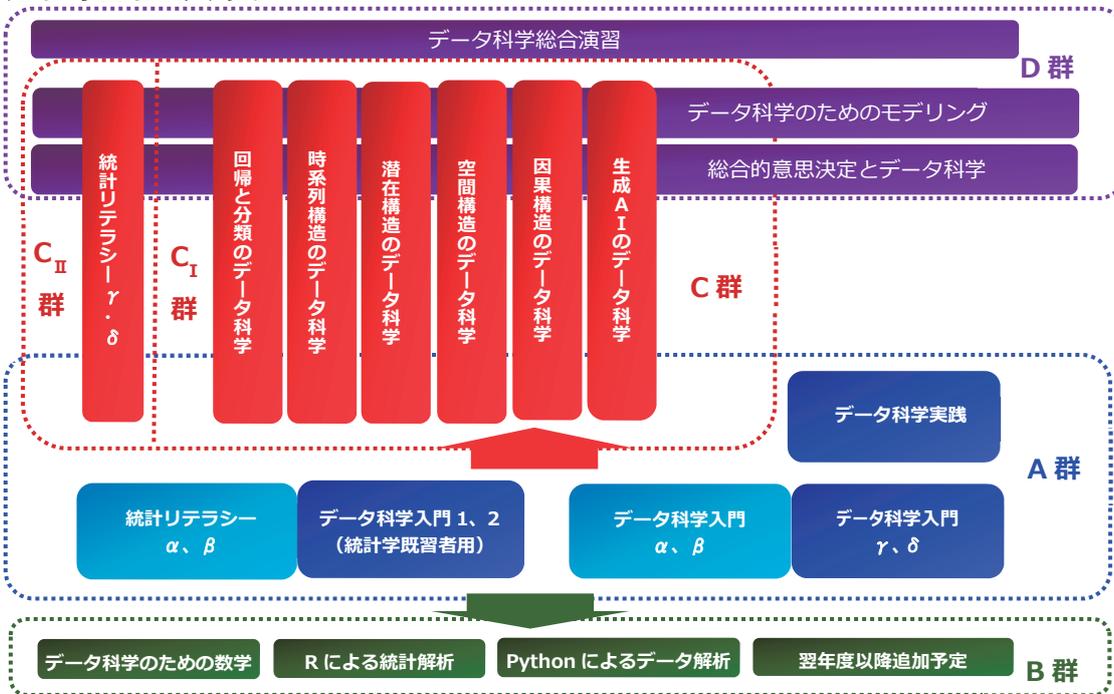


2. データ科学認定制度の各級について

各級の概要・到達点（学習成果）

各級の名称	概要・到達点の目安	認定要件
リテラシー級	教養としてデータサイエンスを知る（データ科学を活用してレポート作成ができる）	以下（1）もしくは（2）のいずれかの単位を修得していること （1）「統計リテラシー $\alpha \cdot \beta$ 」の2科目（2単位） （2）「データ科学入門 $\alpha \cdot \beta$ 」の2科目（2単位）
初級	データサイエンスの基礎や考え方を研究や仕事に利用できる（基礎的なデータの分析を実践することができる）	以下（1）もしくは（2）のいずれかの単位を修得していること （1）「統計リテラシー $\alpha \cdot \beta$ 」、「データ科学入門1・2（統計学既習者用）」、「データ科学実践」の5科目（5単位） （2）「データ科学入門 $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ 」、「データ科学実践」の5科目（5単位）
中級	データサイエンスを自身の専門的な研究や仕事に活用できる（自身の専門分野の研究に活用することができる）	初級認定要件5科目（5単位）に加え、CI群の中から2科目（2単位）かつC群全体で3科目（3単位）の単位を修得していること
上級	データサイエンスを主な仕事にすることもできる（自身の専門以外の分野においてもデータ科学を活用できる）	中級認定要件（8単位）に加え、D群から2科目（2単位）の単位を修得していること

カリキュラムマップ



履修モデル（例）

	春クォーター	夏クォーター	秋クォーター	冬クォーター
1年生	データ科学の考え方を中心に学びたい方			
	データ科学入門 α	データ科学入門 β	データ科学入門 γ	データ科学入門 δ
2通りのルート選択が可能	統計を中心に学びたい方			
	統計リテラシー α	統計リテラシー β	データ科学入門1（統計学既習者用）	データ科学入門2（統計学既習者用）
2年生	データ科学実践	回帰と分類のデータ科学	時系列構造のデータ科学	潜在構造のデータ科学
3年生	データ科学のためのモデリング	データ科学総合演習	総合的意思決定とデータ科学	

- ・1クォーター1科目ずつ積み上げ型の履修を推奨（ただし、同一クォーターで複数科目を履修し、短期間で認定を取得することも可能）
- ・上記の科目履修の例では、最短2年半（3年生の春学期）で上級の認定証明書が発行可能
- ・実際の科目担当は年度毎に異なるため、各年度のGEC履修ガイドを必ず確認してください。

データ科学認定制度指定科目一覧

■リテラシー級

科目名称	担当教員	学期	曜日時限	単位	科目群	備考
統計リテラシーα 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	【リテラシー級 認定要件】 以下(1)もしくは(2)のいずれかの単位を修得していること (1)「統計リテラシーα・β」の2科目(2単位) ※英語科目および商学部専用クラス含む (2)「データ科学入門α・β」の2科目(2単位) ※英語科目含む
統計リテラシーα 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Statistics Literacy α 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Statistics Literacy α 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα(商学部) 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα(商学部) 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα(商学部) 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα(商学部) 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Statistics Literacy β 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Statistics Literacy β 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ(商学部) 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ(商学部) 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ(商学部) 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ(商学部) 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門α 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門α 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門α 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門α 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science α 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science α 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門β 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門β 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門β 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門β 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science β 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science β 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	

■初級

科目名称	担当教員	学期	曜日時限	単位	科目群	備考
統計リテラシーα 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	【初級 認定要件】 以下(1)もしくは(2)のいずれかの単位を修得していること (1)「統計リテラシーα・β」,「データ科学入門1・2(統計学既習者用)」,「データ科学実践」の5科目(5単位) (2)「データ科学入門α・β・γ・δ」,「データ科学実践」の5科目(5単位) ※統計リテラシーα・βは英語科目および商学部専用クラス含む ※データ科学入門α・β・γ・δは英語科目含む ※データ科学実践は英語科目含む
統計リテラシーα 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Statistics Literacy α 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Statistics Literacy α 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα(商学部) 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα(商学部) 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα(商学部) 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーα(商学部) 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Statistics Literacy β 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Statistics Literacy β 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ(商学部) 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ(商学部) 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ(商学部) 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
統計リテラシーβ(商学部) 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門1(統計学既習者用) 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門1(統計学既習者用) 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門1(統計学既習者用) 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門1(統計学既習者用) 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science 1(For Intermediates in Statistics) 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門2(統計学既習者用) 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門2(統計学既習者用) 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門2(統計学既習者用) 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門2(統計学既習者用) 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science 2(For intermediates in Statistics) 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門α 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門α 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門α 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門α 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science α 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	

認定制度学

科目名称	担当教員	学期	曜日時限	単位	科目群	備考
Introduction to Data Science α 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	【初級 認定要件】 以下(1)もしくは(2)のいずれかの単位を修得していること (1)「統計リテラシー $\alpha \cdot \beta$ 」,「データ科学入門1・2(統計学既修者用)」,「データ科学実践」の5科目(5単位) (2)「データ科学入門 $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ 」,「データ科学実践」の5科目(5単位) ※統計リテラシー $\alpha \cdot \beta$ は英語科目および商学部専用クラス含む ※データ科学入門 $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ は英語科目含む ※データ科学実践は英語科目含む
データ科学入門 β 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 β 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 β 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 β 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science β 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science β 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 γ 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 γ 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 γ 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 γ 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science γ 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science γ 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 δ 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 δ 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 δ 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学入門 δ 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science δ 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Introduction to Data Science δ 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学実践 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学実践 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学実践 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
データ科学実践 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Data Science in Practice 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	A群	
Data Science in Practice 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	A群	

■ 中級

科目名称	担当教員	学期	曜日時限	単位	科目群	備考
回帰と分類のデータ科学 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	【中級 認定要件】 初級認定要件5科目(5単位)に加え、CI群の中から2科目(2単位)かつ C群全体で3科目(3単位)の単位を修得していること ※統計リテラシー $\gamma \cdot \delta$ は英語科目含む ※統計リテラシー γ は商学部専用クラス含む
回帰と分類のデータ科学 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
回帰と分類のデータ科学 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
回帰と分類のデータ科学 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
Data Science on Regression and Classification 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
時系列構造のデータ科学 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
時系列構造のデータ科学 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
時系列構造のデータ科学 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
時系列構造のデータ科学 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
潜在構造のデータ科学 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
潜在構造のデータ科学 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
潜在構造のデータ科学 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
潜在構造のデータ科学 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
Data Science on Latent Structure 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
空間構造のデータ科学 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
空間構造のデータ科学 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
空間構造のデータ科学 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
空間構造のデータ科学 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
因果構造のデータ科学 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
因果構造のデータ科学 02	堀井 俊佑 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
因果構造のデータ科学 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
因果構造のデータ科学 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
生成AIのデータ科学 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
生成AIのデータ科学 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
生成AIのデータ科学 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CI群)	
統計リテラシー γ 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー γ 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー γ 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー γ 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
Statistics Literacy γ 01	堀井 俊佑 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
Statistics Literacy γ 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー γ (商学部) 01	小林 学 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー γ (商学部) 02	小林 学 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー γ (商学部) 03	小林 学 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー γ (商学部) 04	小林 学 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー δ 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー δ 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー δ 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
統計リテラシー δ 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
Statistics Literacy δ 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	
Statistics Literacy δ 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	C群(CII群)	

■ 上級

科目名称	担当教員	学期	曜日時限	単位	科目群	備考
データ科学のためのモデリング 01	野村 亮 他	春クォーター	フルオンデマンド	1	D群	【上級 認定要件】 中級認定要件8科目（8単位）に加え、D群の中から2科目（2単位）の単位を修得していること
データ科学のためのモデリング 02	野村 亮 他	夏クォーター	フルオンデマンド	1	D群	
データ科学のためのモデリング 03	野村 亮 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	D群	
データ科学のためのモデリング 04	野村 亮 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	D群	
データ科学総合演習 01	小林 学 他	春クォーター	水2時限	1	D群	
データ科学総合演習 02	中原 悠太 他	夏クォーター	月3時限	1	D群	
データ科学総合演習 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	火5時限	1	D群	
データ科学総合演習 04	望月 泰博 他	冬クォーター	水3時限	1	D群	
データ科学総合演習 05	野村 亮 他	春クォーター	月2時限	1	D群	
データ科学総合演習 06	安田 豪毅 他	秋クォーター	木4時限	1	D群	
総合的意思決定とデータ科学 03	堀井 俊佑 他	秋クォーター	フルオンデマンド	1	D群	
総合的意思決定とデータ科学 04	堀井 俊佑 他	冬クォーター	フルオンデマンド	1	D群	

Ⅲ. データ科学認定制度の認定方法について

1. 基本ルール

まず確認しましょう。

1. 科目登録時に認定希望者に対する優遇措置は一切ありません。
2. 認定必要単位は、卒業単位への「算入」・「非算入」とは関係ありません。
3. 認定には定められた期間内の「認定希望申請」が必要です。
4. 複数の級を認定することができます。
5. データ科学認定制度の対象は、2021年度以降在籍の学部・大学院生です。科目等履修生は除きます。

2. 指定科目とは

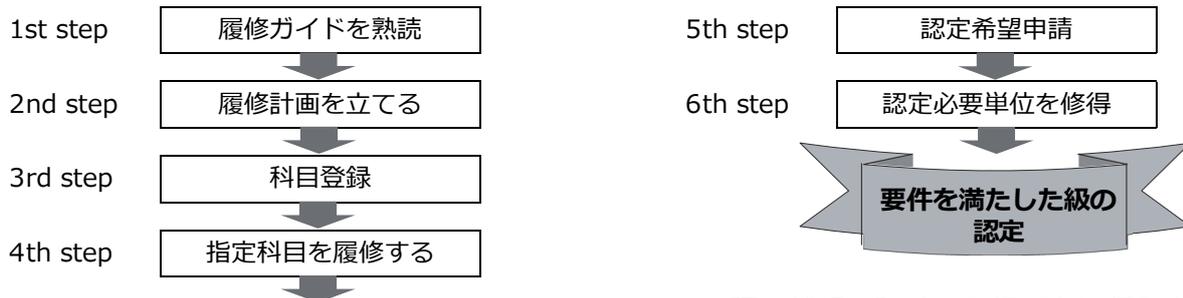
データ科学認定制度には、A・C・D 群の科目のラインナップが用意されています。みなさんが各級の認定を目指して履修する科目を「指定科目」と呼びます（B 群科目は認定制度の対象外ですのでご注意ください）。

データ科学認定制度は、全学部・大学院生がチャレンジできる制度であるため、指定科目は GEC 提供科目で構成されています。2022 年度からは、指定科目（GEC 提供）に対応する各学部・研究科の科目を定め、その科目の単位を修得することで、級を取得できる「学部・研究科科目対応」を開始しました。詳細については、データ科学センター Web ページをご参照ください。

3. 認定必要単位数とは

データ科学認定制度の各級では、認定のために単位修得が必要な科目・単位数が定められています。その科目・単位数を修得しないと、当該級の認定はされません。認定要件は級によって異なり、履修必須科目を設けている場合もありますので、よく確認し、履修計画を立てるようにしてください。

4. 認定までの流れ



※認定希望申請は、各級ごとに行う必要がありますので、ご注意ください。

5. 科目登録について

科目登録は、すべて科目設置箇所で行われた登録期間、登録方法にしたがいます。データ科学認定制度の指定科目だからといって特別な登録期間、登録方法はありせん。ただし、指定科目にはさまざまな科目が含まれています。科目の設置箇所によって登録期間、登録方法が異なる場合がありますので、よく確認するようにしてください。



科目登録においてデータ科学認定制度認定希望者が優先的に登録されることは一切ありません。選外になることもありますので、余裕を持った履修計画を立てるようにしましょう。

6. 単位の修得・算入について

履修後、単位が修得できた指定科目については、認定必要単位に算入されます。修得できた単位を確認し、不足分を再度次の科目登録時に登録するようにしてください。



認定必要単位は、卒業単位への「算入」・「非算入」とは関係ありません。単位が修得できれば認定必要単位として認定されます（卒業単位への算入可否は、所属学部・研究科に確認してください）。



2021 年度以降の在籍者であれば、2014 年度以降に修得した単位は認定対象となります。

7. 認定希望申請について

■ 認定希望申請期間

春学期終了時の認定を希望する場合は7月末まで、秋学期終了時の認定を希望する場合は1月末までに申請ください。
※詳細はデータ科学センターWeb ページをご参照ください。

■ 認定希望申請方法

データ科学認定制度の認定には、各級ごとに認定希望申請が必須です。認定希望申請は上記の申請期間内に以下の手順に沿って行います。

【認定希望申請 申請方法】

1. データ科学センターWeb ページ (<https://www.waseda.jp/inst/cds/>) へアクセスしてください。
2. 「教育」メニューから「データ科学認定制度」を押してください。(図 1)
3. 下にスクロールし、【データ科学認定制度「認定希望申請：こちら」】をクリックしてください。
4. 「認定希望申請」ページ (MyWaseda の申請フォーム) が開きます。
5. 認定を希望する級を選択し、必要な情報を入力の上、画面右下の【保存】ボタンをクリックして完了となります。

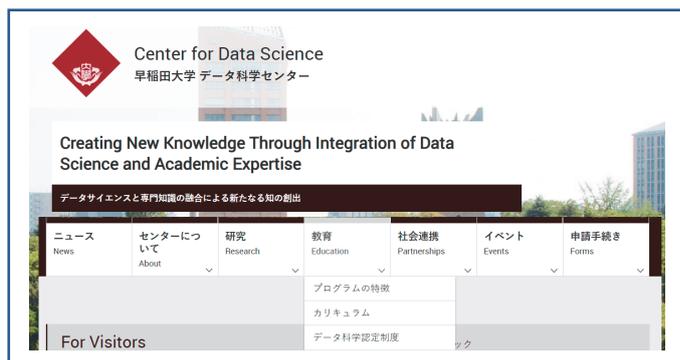


図 1 認定希望申請について



認定制度および全学共通データ科学教育プログラムの詳しい内容は、以下もご確認ください。

データ科学センターWeb ページ <https://www.waseda.jp/inst/cds/>

8. 認定条件について

データ科学認定制度の各級に認定されるためには以下の2点を満たす必要があります。

- ①各認定級で定められた認定要件を満たしていること
- ②認定希望申請を行っていること

たとえデータ科学認定制度の各認定級の認定要件を満たしていても、認定希望申請を提出していない場合には認定されませんので注意してください。

認定を希望する級により以下の要件を満たすこと

	認定対象級 (必要単位数)	認定要件
1	リテラシー級 (計2単位)	以下 (1) もしくは (2) のいずれかの単位を修得していること (1) 「統計リテラシー $\alpha \cdot \beta$ 」の2科目 (2単位) (2) 「データ科学入門 $\alpha \cdot \beta$ 」の2科目 (2単位)
2	初級 (計5単位)	以下 (1) もしくは (2) のいずれかの単位を修得していること (1) 「統計リテラシー $\alpha \cdot \beta$ 」、「データ科学入門1・2 (統計学既修者用)」、「データ科学実践」の5科目 (5単位) (2) 「データ科学入門 $\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ 」、「データ科学実践」の5科目 (5単位)
3	中級 (計8単位)	初級認定要件5科目 (5単位) に加え、CI 群の中から2科目 (2単位) かつC群全体で3科目 (3単位) の単位を修得していること
4	上級 (計10単位)	中級認定要件 (8単位) に加え、D群から2科目 (2単位) の単位を修得していること

※データ科学認定制度における学部・研究科科目対応について

データ科学認定制度では、各学部・研究科においてデータ科学関連の科目を履修している学生が、認定制度の級を取得しやすくするための仕組みとして2022年度より「データ科学認定制度 学部・研究科科目対応」を実施しています。詳しくは、以下のデータ科学認定制度 Web ページをご参照ください。

データ科学認定制度 WEB ページ <https://www.waseda.jp/inst/cds/education/accreditation>

9. 認定および認定証明書の発行について

データ科学認定制度では、希望する級の指定科目の単位を修得し、希望する級の認定希望申請を行い、各級で定められた認定要件を満たすことで当該級を認定します。認定判定完了後に、Waseda メールアドレス宛に送付される通知メールに記載された内容に従い、大学内の証明書発行機等から認定証明書を発行することが可能です。証明書発行手続きに関する詳細は、早稲田ポータルオフィスの Web ページをご参照ください。

早稲田ポータルオフィス WEB ページ <https://www.waseda.jp/inst/wpo/students/certificate>



IV. Q&A

Q. 過去に履修した科目の単位は認められますか？

A. 2014 年度以降に修得した単位であれば有効となります。

Q. 本学において複数の学籍を有する場合（例：学部生+大学院生として在籍）、それぞれの学籍で修得した指定科目の単位を合算して認定希望申請を行うことは可能ですか？

A. 合算することは可能です。ただし、認定希望申請時に、ご自身の学籍番号等を正しく入力いただいた場合に限りませので、ご注意ください（申請された学籍番号で修得した科目の単位に基づき、判定を行います）。

Q. 複数の級の認定はできますか？

A. 複数の級の認定を得ることができます。希望にあわせて、ぜひリテラシー級→初級→中級→上級とステップアップしてください。

Q. 複数の級で指定科目となっている科目の単位を修得しました。この場合単位の扱いはどうなりますか？

A. 複数の級の認定必要単位として認定されます。

Q. 「中級」「上級」の認定においては、それぞれ「初級」「中級」の認定が前提条件となっておりますが、例えば「初級」と「中級」を同じタイミングで認定することは可能でしょうか。

A. 可能です。

「初級」の認定を受けていなくても初級および中級の認定要件を満たしていれば、認定希望申請の際に「中級」を申請することで中級として認定されます（初級の認定も希望する場合は初級と中級を申請）。

同様に「初級」「中級」の認定を受けていなくても初級・中級・上級の認定要件を満たしていれば、認定希望申請の際に「上級」を申請することで上級として認定されます（初級・中級の認定も希望する場合は初級・中級・上級を申請）。

Q. 3年生までに認定を受けた時には、すぐに認定証明書がもらえますか？

A. 認定希望申請を行った在学生の方は、認定判定後、「認定証明書」を発行することが可能です。認定判定完了後、Waseda メールアドレス宛に通知メールをお送りしますので、必ずご確認ください。

Q. データ科学認定制度の指定科目は、卒業単位数に算入されますか？

A. 所属学部・研究科に確認をしてください。

Q. 認定希望申請を行ったが、データ科学認定制度の各級の要件を満たせなかった場合、学部・研究科の卒業等に影響がありますか？

A. 学部・研究科の卒業等には一切影響ありません。

Q. 履修ガイドの指定科目を確認したところ、昨年度以前に単位を修得した科目の科目群（A・B・C・D 群）が、今年から変更になっていました。この場合の単位の取り扱いはどうなるのでしょうか。

A. 指定科目の科目群については、単位を修得した年度に指定されていた科目群が適用されます。

Q. データ科学認定制度については、どれから履修するのがよいでしょうか。

A. A 群→C 群→D 群の順に履修することを推奨しています。

B 群は認定制度の対象外となりますが、興味や必要性に応じて履修してください。

Q. 認定希望申請を行いました、指定科目の単位を修得できませんでした。この場合申請の扱いはどうなりますか？

A. 改めて認定希望申請を行う必要はありません。修得できなかった指定科目について、再度科目登録を行い、単位を修得してください。

【指定科目一覧確認時の注意事項】

指定科目の一覧にある学期・曜日・時限・集中講義の日程等は 2026 年 2 月時点の情報です。変更点が生じる可能性がありますので、科目登録前には必ず Web シラバスや当ガイドで最新の情報を確認するようにしてください。

Support Anywhere サポエニ



Support Anywhere (サポエニ) は、早稲田大学の学生のみなさんの疑問や不安を **いつでも (Anytime) どこでも (Anywhere)** 解決するために開設された在学向けお役立ち Web サイトです。

例えば科目登録については以下のような情報が掲載されています！

科目登録で注意しなければいけないことは何？

Web 科目登録はどうやってやるの？

科目登録でわからないことはどこに問い合わせればいいのか？

全学オープン科目って何？ 他学部提供科目と何が違うの？

科目登録でエラーが出たのはどうして？

資格や副専攻について知りたい！

Etc…

※ 学部・研究科・センターのカリキュラムや科目に関する情報は該当する学部・研究科・センターから配付される科目登録関連書類（学部要項・科目登録の手引き・学科目配当表など）を十分確認してください。

その他にも、

#証明書発行 #学費・奨学金 #教員免許状 #成績 #施設利用 #学生生活

など豊富な学内情報をひとまとめに掲載しています。

分からないことや知りたいことがあれば、辞書で調べるような感覚で

まずは Support Anywhere (サポエニ) を使ってみてください。

そして、それでも問題が解決できない場合は、窓口にお問い合わせください。

トップページ



使いこなし
ガイドブック



ブックマークに登録を！

➤ URL: <https://wnspt.waseda.jp/student/supportanywhere/>

